

社会科指導計画(第五次)

(令和5年11月発行)

下 卷

(第5学年・第6学年)

東京都小学校社会科研究会

目 次（下 巻）

指導計画の改訂にあたって		
	会 長	和田 幹夫…………… 1
本指導計画の活用にあたって		
	委員長	浅野 正道…………… 2
第5学年年間指導計画	……………	5
第5学年の指導のポイント		
単元ごとの展開		
第6学年年間指導計画	……………	89
第6学年の指導のポイント		
単元ごとの展開		
指導計画作成委員会名簿	……………	168

都小社研 社会科指導計画の改訂（第五次）にあたって

東京都小学校社会科研究会会長 和田 幹夫

私たち都小社研では、これまで学習指導要領の改訂にあわせて、全国に先駆けてそれに基づく社会科指導計画を発行してきました。現行の学習指導要領についても、平成29年3月の告示を受け、都小社研では、その年の4月からプロジェクトチーム「指導計画作成委員会」を立ち上げ、平成30年2月「社会科指導計画（第一次）」を配付、その後、平成31年2月「社会科指導計画（第二次）」、令和2年2月に「社会科指導計画（第三次）」と版を重ね、全都、全国に配付してきました。

そして、令和4年2月には、今までの指導計画をベースにしながらも、研究の深まり、実践の成果と課題を踏まえながら2年かけて見直しを行い、「問いの構成の工夫」「評価の工夫」を加えるとともに、学習の展開をより具体的に示すことができるように指導計画を2ページに広げるなど、全面的に充実を図った第四次改訂版を発行しました。

さらに、この度、一つ一つの活動や問い、評価などをもう一度確認しながら、子供たち一人一人が社会的事象の見方・考え方を働かせて自ら問いを見いだし、主体的・協働的に追究することを通して、目指す資質・能力を確実に身に付けていくことができるように、第五次の改訂を行い、第61回全国小学校社会科研究協議会・第22回関東地区小学校社会科研究協議会 東京大会にあわせて、全国の皆様にお渡しすることとなりました。

本指導計画は、現行学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、それを確実に実現することができるよう、子供たちに獲得させたい知識を明確にするとともに、それを子供自らが獲得することができるように、「社会的な見方・考え方」を働かせながら子供たちにもたせたい「問い」を思考の流れに即して構成しています。また、子供の社会的事象の見方・考え方が働くような学習活動、主体的に問いを見いだし追究することができる活動、子供の学びを確かにする評価などについても、できる限りお示しをすることができるようにしています。

しかしながら、これが完全なものとは、考えておりません。あくまでモデルの一つです。各市区町村や各学校におかれましては、この指導計画を参考に子供や学校の実態に合わせた指導計画をつくり、子供が主体的に学習の課題を追究したり解決したりする活動を充実させながら社会の形成者として必要な資質・能力を育む社会科学習の充実に取り組んでいただければ幸いです。

この間、3年半に渡る新型コロナウイルス感染症の流行がありながらも、5回7年間にわたり、地道に指導計画の改訂を積み重ねてきたのは、学習指導要領の趣旨と内容を具現化する社会科授業の具体像を全国に発信していきたいという都小社研関係者の強い使命感と熱意があったからこそだと思います。それを形にして、この度、全国に皆様にお渡しできることはこの上ない喜びです。

結びになりますが、本指導計画の作成に当たって丁寧な指導をいただきました大妻女子大学教授：澤井陽介先生をはじめ、研究授業でご指導をいただきました講師の先生方に心より感謝申し上げます。また、作成委員としてご尽力をいただいた担当副会長（委員長）、調査研究部長・副部長の皆様に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

指導計画の活用にあたって

東京都小学校社会科研究会 社会科指導計画（第五次）改訂委員会委員長 浅野 正道

平成30年2月に東京都小学校社会科研究会は、『社会科指導計画（第一次）』を全国に先がけて発刊しました。そして、次のとおり改訂を重ね、その充実を図ってきました。

- ＜平成29年度（第一次）＞ 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、新しい学習内容にも対応した年間指導計画を全国に先駆けて作成した。
- ＜平成30年度（第二次）＞ 初版について選択事例の追加を図るとともに、新しい内容を中心に実践・資料のページを作成し、授業のさらなる改善を目指した。
- ＜令和元年度（第三次）＞ 第二版について、特に単元の目標や評価規準、評価の観点等について全単元を見直すとともに、事例選択のある単元については、事例をさらに充実した。
- ＜令和3年度（第四次）＞ 令和2年度から2年間をかけて改訂を進め、「問いの構成」を図で分かりやすく示した。また、指導計画を2ページ構成として、評価規準や評価方法を具体的に示し、「つかむ」「まとめる」「つなぐ」段階の内容をより具体的に記述した。

この間、都内各地域はもちろん、全国においても、本指導計画は社会科の授業充実や改善に対し、大きな役割を果たしてきたと自負しています。しかし、改訂を重ねても、実践された先生方や、東京都小学校社会科研究会においてご指導をいただく先生方から、さらなる見直しや改訂の必要性についてご指摘をいただきました。

そこで、今回は、令和4年度、令和5年度の2年間をかけて、以下の点を中心に改訂を進めて参りました。

【見直しと改訂の主なポイント】

- ①誤字・脱字、語句や表記の統一や修正（研究主題「社会とつながり未来を創る子供の育成」に基づき、全て「児童」の表記を「子供」に変えて統一した。）
- ②評価の充実
 - 各時間の評価規準を見直し、小単元の評価規準をそのまま使うのではなく、具体的評価規準とすることにより、評価の充実につなげるようにした。
 - 5、6年において「思考・判断・表現」の観点で評価する時間においては、子供が説明したり議論したりする力を育むような活動を設定し、それを評価につなげることとした。
 - 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、学習調整に関わる力の評価の充実を図った。ただし、必ずしも学習調整の段階をつくるということではなく、友達と考えを交流する場面では、必ず自分の学びを見直すことになるので、その場面で意識的に評価していくようにした。
- ③「まとめる」段階の「問い」の検討
 - 「まとめる」段階では、学習問題と同じではなく、前時までに調べる中で明確になったり深まったりした「問い」を設定することとした。すなわち、「目標の実現に向かう問い」や「深まった問い」を設定する。
 - 第四次までは、主として「学習問題について自分の考えをまとめる。」という簡単な表記をしていたが、今回、何をまとめるのか明確にするためにも、「学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。」という表記の方が適切であると考え、できるだけ揃えるようにした。

今回の改訂にあたり、東京都小学校社会科研究会の社会科指導計画改訂委員が見直しと最終確認を行いました。それでもまだ完全なものではありませんが、この度、『社会科指導計画（第五次）』としてまとめ、CDの形で発刊し、第61回全国小学校社会科研究協議会研究大会東京大会に参加された皆様にお渡しすることができました。本指導計画は、各教室で社会科の授業充実や改善に資することを目的として作成した基本プランです。各地域や子供の実態に合わせて、各校においてさらなる詳細な指導計画を作成することをお願いいたします。

1) 「各学年指導計画作成のポイント」について

ここでは、各学年の目標と改訂のポイントについて、今回の改訂で言われている生きる力に必要な三つの資質・能力（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）の視点でまとめています。

- 社会的事象の見方・考え方を働かせて育成を目指す資質・能力を明確化しています。
- 内容においては、学習指導要領の内容がどのように変わったか明記しています。
- 単元配列案を学年の合計時数に合わせて作成しました。この案を基に、各地域や学校で組み立ててください。
- 学習指導要領の内容ごとの「着目すること」「考えること」「理解すること」を整理してあります。
- 授業を組み立てる上で指導するポイントをまとめています。
- 本指導計画を基に、例えば、3年生においては生活科とのつながりを重視したり、警察・消防のどちらかを重点化したりするなど、学校や地域にあったカリキュラム・マネジメントを行ってください。

2) 各小单元について

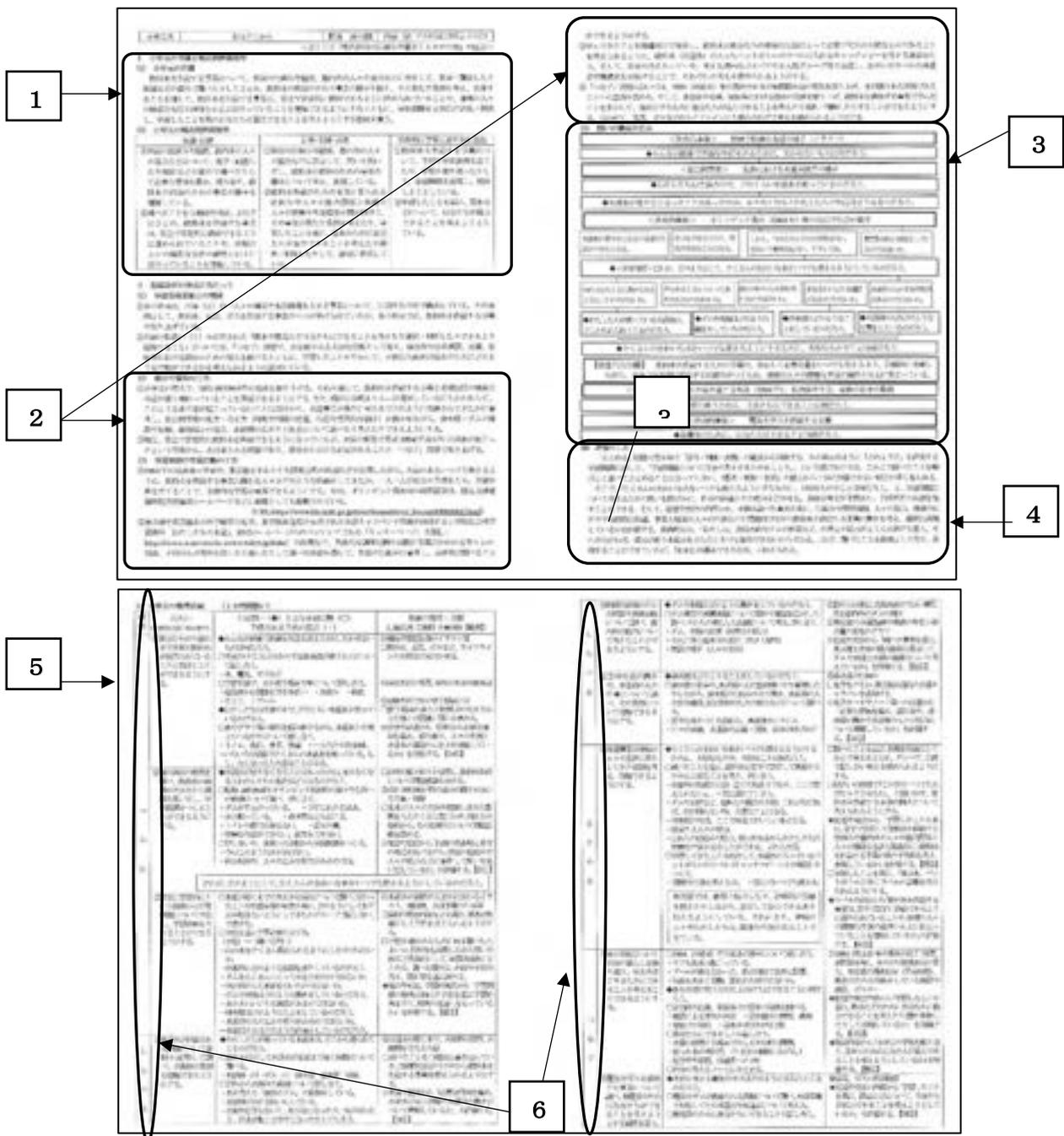
今回の学習指導要領では、社会的事象の見方・考え方を働かせて学習を展開できるように「問い」が重視されています。各学年の内容のイに書かれている「着目すること」に基づいて、子供にもたせたい主な「問い」を設定しています。(※以下1、2等は、本ページの図を参照ください。)

1 目標と評価規準について

育成を目指す資質・能力を統一的に育むことを意図して、目標を一文表記としました。小単元の観点別評価規準も見直すとともに、いつ、どの観点で、どのように評価するのか、具体的な評価規準も含めて指導計画に記しました。

2 教材や資料の工夫、学習展開や学習活動の工夫について

「教材や資料の工夫」では、教材開発等の視点や、取り上げる事例、教材の良さ、白地図、資料の活用等について示しました。また、「学習展開や学習活動の工夫」では、主体的・対話的で深い学びを実現する学習展開や学習活動、指導の工夫について示しています。小学校社会科では、社会的事象を「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすることを、「社会的事象の見方・考え方」と整理しています。これは、社会的事象の特色や意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の視点や方法になります。この見方・考え方を働かせるための学習展開や活動、指導の工夫も示しています。



3 「問いの構成の工夫」について

「問いの構成の工夫」という項目を設け、どのような社会的事象から、どのような問いを見だし、どのような問いをもって追究していくか示しました。特に、問いを見だし学習問題をつくる「つかむ」段階では、予想される子供の反応も加えて、子供の学びと問いを関連付けて示しています。

4 「評価の工夫」について

特に、記録に残す評価に重点を置き、小単元の内容や学習展開に即した評価場面を取り上げ、具体的な作品や記述なども示しながら、評価の実際について示しています。

5 指導計画について

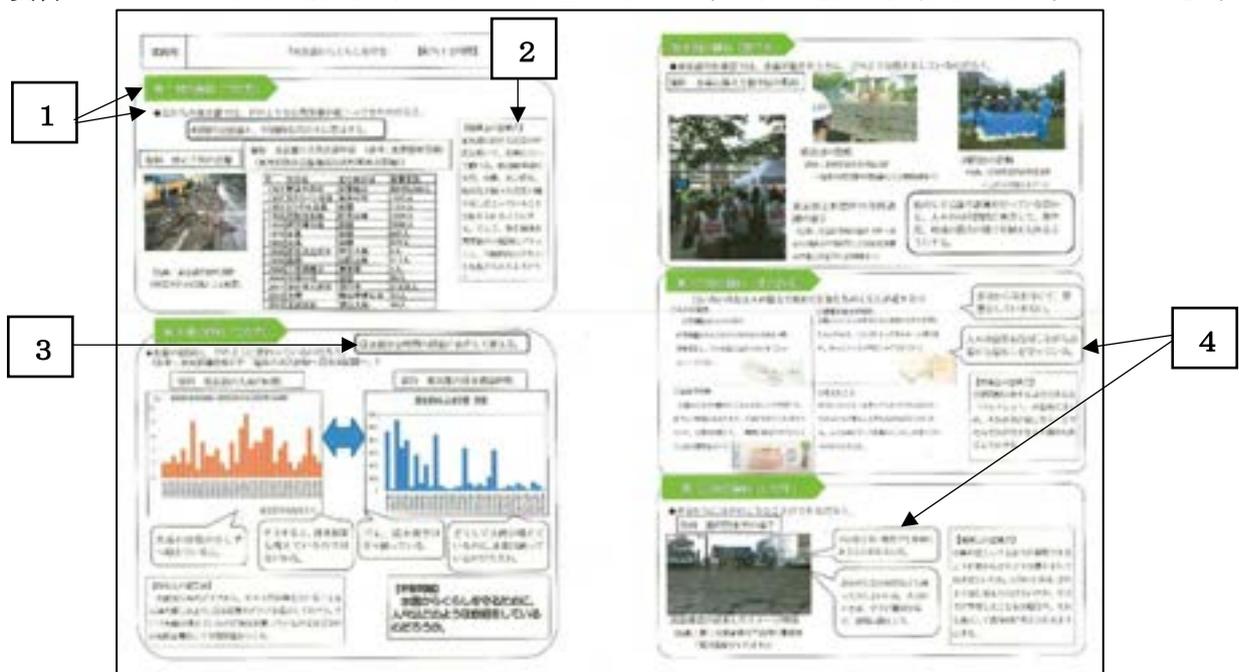
2ページ構成として、毎時間の展開をより具体的に表しています。特に、学習問題をつくり学習計画を立てる「つかむ」段階や、小単元の目標に迫る「まとめる」段階、学びを未来につなげる「つなぐ」段階などは、できる限り具体的に表しました。また、各時間の具体の評価規準、方法及び、指導に生かす評価(☆)を示しました。

6 学習過程について

基本的な学習過程を「つかむ」「しらべる」「まとめる」として学習を進めるようにしました。さらに、内容の取扱いに、社会に見られる課題を把握し、課題の解決について構想したり、自らの関わりを選択・判断したりすることが示されている内容を中心に、「まとめる」段階の後に「つなぐ」段階を設定している小単元もあります。

また、「主体的に学習に取り組む態度」として、自らの学習を振り返り調整する力等も含まれるため、評価規準に「学習を振り返ったり見直したりして」という学習過程を取り入れています。特に、調べる内容が多岐に渡り、「しらべる」段階の長い小単元、内容を選択して調べる活動を取り入れた小単元などに意識して設定しています。

3) 資料ページについて (※掲載内容は、あくまで実践に基づく資料です。指導計画と異なる部分もあります。ご了承ください。)



1 学習過程と「問い」について

指導計画の中の主な学習過程についてまとめています。その時間の「問い」に迫るための資料や指導上の留意点も示しています。

2 指導上の留意点について

どのようなことを重点的に子供が捉えられるとよいか、白地図等の使い方、学習活動、学習問題への迫り方などを示しています。

3 着目する点について

「社会的な見方・考え方」を働かせることができるように、子供が着目する点について明記しました。示したような点に着目して授業を進めることで、より主体的に学習に取り組むことができると考えています。

4 子供の発言について

それぞれの時間に予想される子供の発言を示しました。子供からこのような気付きが出てくるように、具体的に教師の発問や支援を工夫していく必要があります。

第5学年

年間指導計画

第5学年の指導計画作成のポイント

1 目標と改訂のポイント

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ＜知識及び技能＞
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ＜思考力、判断力、表現力等＞
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。 ＜学びに向かう力、人間性等＞

(1) ＜知識及び技能＞の改訂のポイント

- ・「国土の様子」が「国土の地理的環境の特色」に、「産業の様子」が「産業の現状」に文言が変更された。
- ・「国土の環境と国民生活との関連について理解」と「産業と国民生活の関連について理解」が共に「国民生活との関連を踏まえて理解する」ことに改訂されるとともに「社会の情報化と産業との関わり」が追記された。
- ・「社会的事象を具体的に調査」「各種の基礎資料を効果的に活用」をまとめる技能が明記されて「情報を適切に調べまとめる技能」に改訂され、第4学年の目標にない「適切に」という文言を加わってより高い技能を身に付けることが求められている。

(2) ＜思考力、判断力、表現力等＞の改訂のポイント

- ・「社会的事象の意味について考える力」が「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力」に改訂され、第4学年の目標にない「多角的」という文言が加わるとともに、「社会に見られる課題を把握して、その課題に向けて社会への関わり方を選択・判断する力」が追記された。
- ・第4学年目標に示された「表現する力」が「説明したり（中略）議論したりする力」とされ、より高い表現力が求められている。

(3) ＜学びに向かう力、人間性等＞の改訂のポイント

- ・「主体的に学習の問題を解決しよう」「学習したことを社会生活に生かそう」とする態度を養うことが示された。
- ・「関心をもつ」が削除、「国民としての自覚」が明記されて、多角的な思考や理解を通して養うことが求められた。

2 内容の改訂ポイントと単元配列案

○内容（1）「我が国の国土の様子と国民生活」← 旧内容（1）からアとイを独立させて設定。

○内容（5）「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」←旧内容（1）からウとエを独立させ、エを「自然災害の防止」と「森林資源の保全」に分けて設定。

○内容（3）「我が国の工業生産」←旧内容（3）のウを「工業生産に関わる人々の工夫や努力」と「工業生産を支える貿易や運輸などの働き」に分けて設定。

★単元配列案

合計時数 100 時間

学習指導要領の内容		小単元名	配当時数
(1)	我が国の国土の様子と国民生活	世界の中の国土	5 時
		国土の地形と気候の概要	5 時
		特色ある地域	(選択)「低い土地の暮らし」または「高い土地の暮らし」 6 時
		(選択)「あたたかい土地の暮らし」または「寒い土地の暮らし」 6 時	
(2)	我が国の農業や水産業における食料生産	暮らしを支える食料生産	6 時
		米づくりのさかんな地域	8 時
		水産業のさかんな地域	8 時
(3)	我が国の工業生産	日本の工業生産と工業地域の特色	6 時
		自動車をつくる工業	8 時
		工業生産を支える貿易や運輸	6 時
(4)	我が国の産業と情報との関わり	放送などの産業とわたしたちの暮らし	8 時
		情報と産業の関わり（観光業）（販売業）（運輸業）	8 時
(5)	我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	自然災害を防ぐ	6 時
		わたしたちの生活と森林	7 時
		環境を守るわたしたち	7 時

3 学習指導要領の内容構成及び内容の取扱い

	内容構成			内容の取扱い
	着目すること	考えること	理解すること	
内容(1)	(7) 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成など	調べたことを総合して国土の特色を考える。	世界における我が国の国土の位置、我が国の国土の構成と領土の範囲などを大まかに理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国固有の領土であることに触れる。 ・地図帳や地球儀を用いて方位、緯度や経度などによる位置の表し方について取り扱う。
	(4) 地形や気候など	国土の位置と地形や気候を関連付けて国土の特色を考える。 国土の自然環境と国民生活の関連を考える。	国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活から人々は自然環境に適応して生活していることを理解する。	
内容(2)	(7) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなど	情報を総合したり食料生産と国民生活を関連付けたりして国民生活に果たす役割を考える。	我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・(4)については具体的事例を通して調べる。稲作のほか、野菜、果物、畜産物、水産物などの中から一つを取り上げる。生産性や品質を高める工夫を消費者や生産者の立場に立って多角的に考え、これからの農業や水産業における食料生産の発展について、自分の考えをまとめることができるように配慮する。
	(4) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用など	食料生産の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて食料生産に関わる人々の働きを考える。	食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解する。	
内容(3)	(7) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良など	情報を総合したり工業製品の改良と国民生活の向上を関連付けたりして国民生活に果たす役割を考える。	工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・(7)については、工業の盛んな地域の具体事例を通して調べることとし、金属工業、機械工業、化学工業、食料品工業などの中から一つを取り上げること。 ・消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮する。
	(4) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術など	工業生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて工業生産に関する人々の働きを考える。	工業生産に関わる人々は消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解する。	
内容(4)	(7) 情報を集め発信するまでの工夫や努力など	放送局や新聞社などから発信される情報と自分たちの生活を関連付けて国民生活に果たす役割を考える。	放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業における情報活用」の事例については、教育、福祉、医療、防災から教育、防災が削除され、新たに販売、運輸、観光が加わった。 ・産業と国民の立場から多角的に考え、産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるように配慮する。
	(4) 情報の種類、情報の活用の仕方など	情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考える。	産業における情報活用の現状を捉え、大量の情報や情報通信技術の活用は様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解する。	
内容(5)	(7) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策など	自然災害と国土の自然条件を関連付けて自然災害が発生する理由や防災・減災の対策や事業の役割を考える。	自然災害は国土の自然などと関連し発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・(7)については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などを取り上げる。 ・(9)については、大気汚染、水質汚濁などの中から具体事例を選択して取り上げる。 ・森林資源の働きや公害の防止において環境保全について自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるように配慮する。
	(4) 森林資源の分布や働きなど	森林の分布と国土の保全を関連付けて森林資源の果たす役割や保護の大切さを考える。	森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により、国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解する。	
	(9) 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力など	公害防止の取組と環境改善の人々の健康な生活を関連付けて継続性、協力的な取組の大切さを考える。	関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたこと、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解する。	

4 各内容のポイント

- 内容(1)「世界の中の日本」では、海洋に囲まれた多数の島からなる国土の構成に着目して追究することや地図帳や地球儀などを活用して位置や方位を言い表すことができるよう指導することが大切である。また、領土の範囲を指導する際には、竹島や北方領土、尖閣諸島は一度も他の国の領土になっただけで我が国の固有の領土であることなどに触れて説明することが大切である。
- 内容(2)「我が国の食料生産」では、農業法人や海外への輸出、持続可能な漁業を目指した水産資源の保護、6次産業化などの新しい取組を取り上げ、生産性を高める工夫を消費者や生産者の立場に立って多角的に考え食料生産の発展に向けて自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。
- 内容(3)「我が国の工業」では、工業製品の変化や優れた技術に着目して追究するとともに、人々の安全、環境、価格、利便性、バリアフリーなどに対する願いが工業生産により実現されていること、優れた技術の向上が我が国の工業をより発展させることなど工業の発展について自分の考えをまとめることが大切である。
- 内容(4)「情報と産業の関わり」では、販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から、大量の情報（ビッグデータ）や情報通信技術を活用してサービスを向上させたり、複数の産業が相互に結びつくことで新たなサービスを提供したりして国民生活の利便性を大きく向上させている事例を取り上げ、利便性が向上する一方で適切な情報を見極めることなど情報活用の在り方を多角的に考えて、情報化社会のよさや課題について自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。
- 内容(5)「国土の自然環境と国民生活」では、自然災害と自然条件の関連、森林資源が国民生活に果たす役割、公害防止に対する人々の工夫や努力などを基に国土の自然環境と国民生活の関連を考え、国民の一人として、国土の自然環境、国民の健康や生活環境の維持・改善に配慮した行動が求められるなど国民一人一人の協力の必要性に気付くようにするとともに、自分たちに協力できることを考えたり選択・判断したりして国土の環境保全への関心を高めるように配慮することが大切である。

小単元名	世界の中の国土	配当 5時間	内容 (1) アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)
------	---------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の国土の様子について、世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現することを通して、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成、領土の範囲などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、我が国の国土の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを基に、国土の概要や特色について理解している。	①世界の大陸と主な海洋や国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、問いを見だし、我が国の国土の様子について考え、表現している。 ②我が国の国土の位置や形状、面積などを関連付けて、我が国の国土の特色を考え、適切に表現している。	①我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

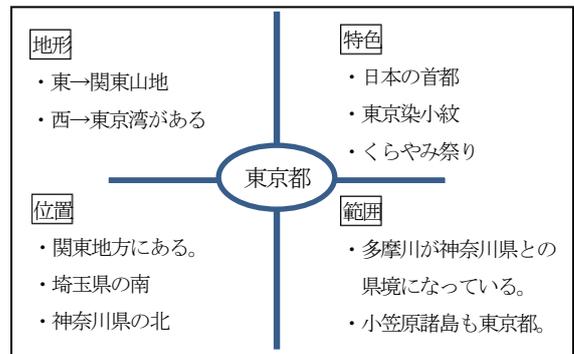
- ①本小単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。島国である我が国の国土の特色を中心に取り上げている。
- ②「領土の範囲」に関して、竹島や北方領土、尖閣諸島は一度も他の国の領土になったことがない領土という意味で、我が国の固有の領土であることなどに触れて説明することが大切である。その際、これら我が国の立場は、歴史的にも国際法上も正当であることを踏まえて指導することが求められている。あわせて、島国であるという特徴を踏まえて、領海や排他的経済水域など、海への広がりについても捉えられるようにしたい。

(2) 教材や資料の工夫

- ①子供が「世界における我が国の国土の位置、国土の編成、領土の範囲など」を大まかに理解できるように、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり)を働かせながら、地図帳や地球儀を用いて、方位、緯度や経度などによる位置の表し方について取り扱う。その際、外国で用いられている世界地図なども提示したい。どこの国から見ると我が国の位置も違って見え、子供が関心を高め、理解を深めることにつながるであろう。
- ②我が国の国土の様子を捉えるために、世界の主な国も扱うようにする。主な国とは、近隣諸国も含めてユーラシア大陸やその周りに位置する国々の中から10か国程度、北アメリカ大陸、南アメリカ大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸やその周りに位置する国々の中からそれぞれ2か国程度選択することが考えられる。その際、それらの国の名称や我が国との位置関係を世界地図や地球儀で確認させ、産業に関する学習などにおける基礎的な情報となるよう指導することが大切である。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

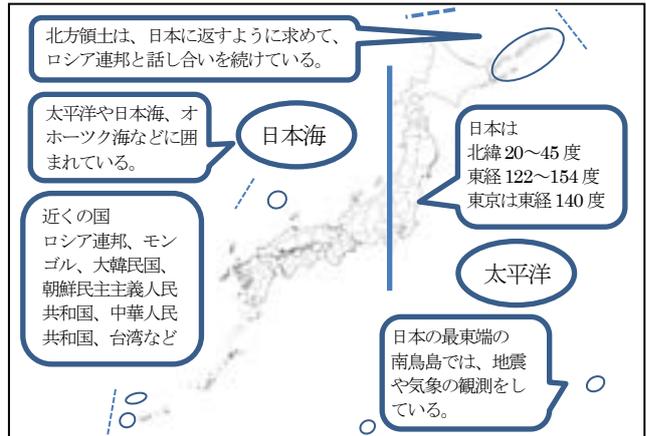
- ①本小単元は、子供が第5学年で初めに学習する小単元である。そこで、本小単元では、子供が第4学年とのつながりを意識できるように、第1時で「私たちが住んでいる東京都の特色を説明すること」を課題として示す。前学年での学習を生かすとともに、第5学年の今後の学習への見通しや関心をもてるようにする。
- ②第1時では、はじめに第4学年で学習した東京都の位置を確認する。東京都は関東地方にあり、「埼玉県から南、神奈川県から北にある」「小笠原諸島や八丈島など多くの島々を有している」などという発言を生かしながら、東京都の位置から日本の位置へと視点を広げる。その際、東京都の特徴について出てきた意見を分類し、「位置・地形」「特色」といったキーワ



(第1時の分類の板書例)

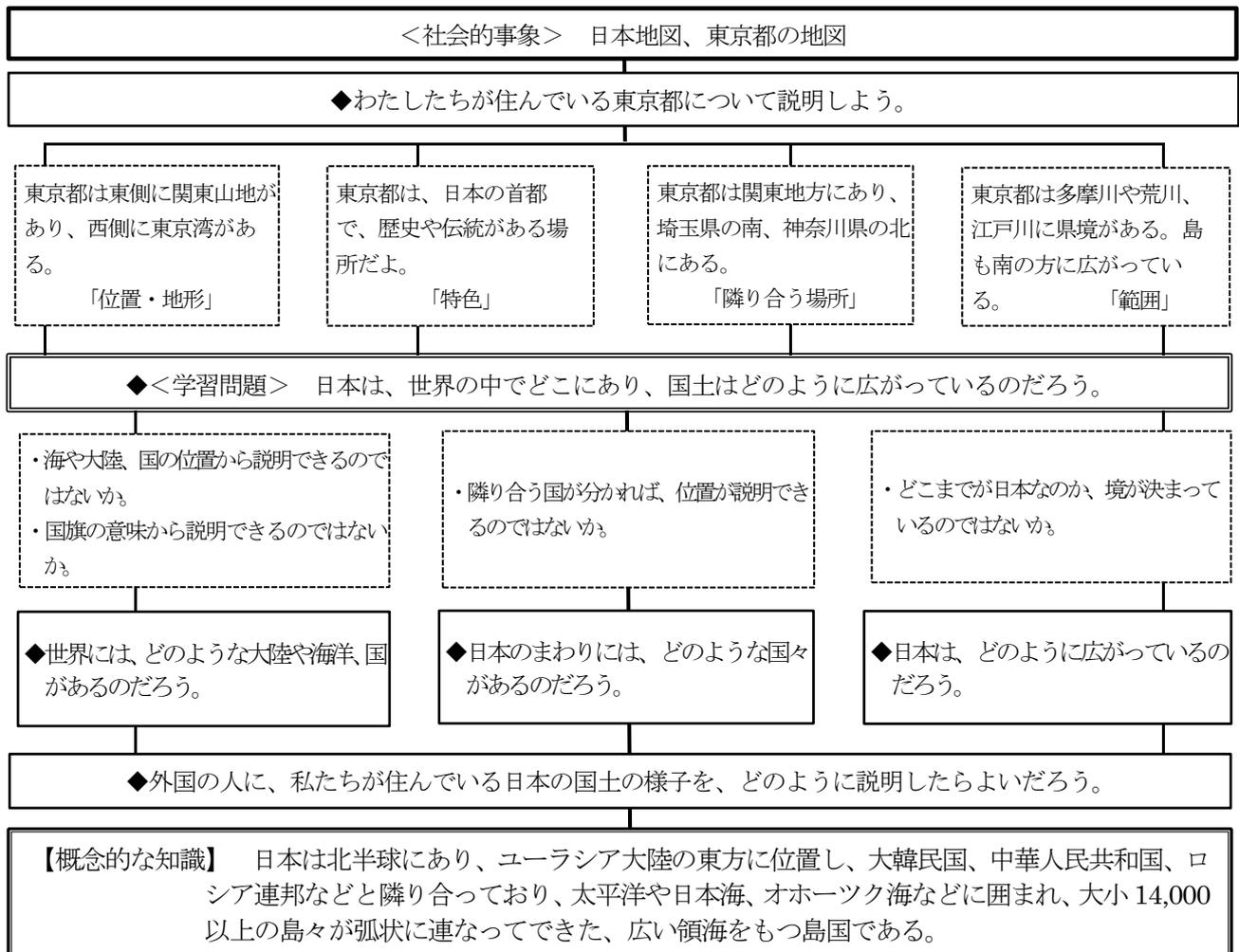
ードでまとめる。そこから我が国の国土の様子や位置を捉える学習問題をつくり、その解決のために、分類する際に出たキーワードを基に、世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多くの島からなる国土の構成に着目する問いを設定し、子供が主体的に追究できるようにする。

- ③北方領土を巡る領土問題や竹島、尖閣諸島のことを扱う際は、まず、日本地図で場所を調べ白地図に表すことで、日本の領土の範囲をつかむようにする。そして、新聞記事などの資料を活用しながら、それらの島は日本の固有の領土であることを調べる活動を行う。
- ④「まとめる」段階では、外国人に説明する学習課題を設定することで、子供一人一人が目的をもって学習問題の結論を総合してまとめ、白地図、地図帳や地球儀を用いて日本の位置や特色を説明できるようにする。白地図にまとめる際は、子供が学習の中で学んだことを、吹き出しなどを使うことで、我が国の国土の特色を自分の言葉で考え、表現できるようにしていく。



(第5時の白地図の作成例)

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、これまで調べてきたことを振り返り、我が国の国土の特色や概要について説明し合う活動を設定し、記述や発言内容から「思考・判断・表現」を評価する。その際、「我が国は島国であるため、広い領海と排他的経済水域をもっている。」など、「世界における我が国の国土の位置」「国土の編成や形状、面積」「領土の範囲」などを関連付けて考えているかを重視する。そして、話し合いを基に外国の人に国土を紹介する文をつくる。その活動において、国土の概要や特色について理解しまとめられているか、「知識・技能」の観点から評価する。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点 ○資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①国土の広がりや世界から見た位置について問いをもち、学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	<p>◆わたしたちが住んでいる東京都について説明しよう。</p> <p>○東京都について他県から見た場合の言い表し方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本州の真ん中あたりにあり、東側に関東山地があり、西側に東京湾がある。→「地形」 ・日本の首都で、歴史や伝統がある場所だ。→「特色」 ・関東地方にあり、埼玉県、神奈川県の北にある。→「位置」 ・多摩川や荒川、江戸川に県境がある。 ・小笠原諸島や八丈島など南に広がる多くの島々も東京都の一部。→「範囲」 <p>○他の国から見て、日本の位置を説明するにはどうすればよいか考え、学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本は、世界の中でどこにあり、国土はどのように広がっているのだろうか。</p> </div> <p>○学習問題に対し予想したことから、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海や大陸、国の位置から説明できるのではないか。 ・他の国との違いから、説明できるのではないか。 ・国旗の意味から説明できるのではないか。→世界にはどのような大陸や海洋、国があるのだろうか。(「国の主な地形」「国の特色」) ・隣り合う国が分かれば、位置が説明できるのではないか。→日本のまわりにはどのような国々があるのだろうか。(「位置」) ・どこまでが日本なのか、境が決まっているのではないか。→日本はどのように広がっているのだろうか。(「範囲」) 	<p>◎日本地図 ◎東京都の地図</p> <p>□東京都から見た方位の捉え方を確認する。</p> <p>□子供から出た東京都に対する意見を「隣り合う県」「地形」「特徴」「範囲」などキーワードに分類して、子供へ示す。</p> <p>□小笠原諸島や沖ノ島も東京都であることを確認する。</p> <p>☆ノートの記述や発言から「世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、問いを見だし、我が国の国土の様子について考え、表現しているか」を評価する。【思①】</p> <p>◎世界地図や地球儀</p> <p>□東京都の説明をする際に活用したキーワードを、日本の説明を考える際にも活用するように声をかける。</p> <p>★ノートの記述や発言から「我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立てて、追究の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
し ら べ る	②世界の主な大陸や海洋、国々や国旗について調べ、理解できるようにする。	<p>◆世界には、どのような大陸や海洋、国があるのだろうか。</p> <p>○資料などから世界の主な大陸や海洋、国々や国旗について読み取り、白地図に調べたことをまとめ、世界の主な大陸や海洋の特徴について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界は海でつながっていて、太平洋を挟んで向かい側にアメリカ合衆国などがある。 ・日本と同じ緯度にイタリアやアメリカ、同じ経度にオーストラリアなどがある。 ・日本はユーラシア大陸の東側に位置している。 ・日本の国旗の赤い丸は太陽を表している。 ・南半球は、日本と季節が逆になっている。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経度・緯度を調べることで、他の国の位置も分かる。 ・世界にはたくさんの国があり、それぞれに国旗がある。 ・どの国の国旗にも意味があり、大切にされている。 	<p>◎地球儀 ◎世界地図 ◎主な国の国旗</p> <p>□地球儀の使い方と緯度、経度による位置の読み取り方を確認する。また、赤道についても確認する。</p> <p>□日本の国旗の意味を確認し、他国の国旗も確かめる。</p> <p>☆白地図への記述や発言から「地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、世界の大陸と主な海洋及び、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島から国土が構成されていることなどを理解しているか」を評価する。【知①】</p>

し ら べ る	<p>③我が国の近隣諸国について調べ、その位置や、名称、大まかな国土の様子を理解できるようにする。</p>	<p>◆日本のまわりには、どのような国々があるのだろう。 ○資料などから近隣諸国の名称や位置、国旗などを読み取り、白地図に調べたことをまとめ、世界の主な大陸や海洋の特徴について話し合う。 ・日本から見て北にはロシア連邦、北西にはモンゴル、西には大韓民国や朝鮮民主主義人民共和国、中華人民共和国、南西には台湾やベトナム、フィリピンがある。 ・中国は人口が世界一多く、世界の工場と呼ばれている。 ・大韓民国は、古くから日本と深いつながりがある。 ・ロシアは、世界で一番面積が広い国だ。 ・フィリピンは赤道に近く温暖でたくさんの島からなる国だ。 ○本時の振り返りをする。</p>	<p>◎地球儀 ◎世界地図 ◎主な国の国旗 □方位に関することや近隣諸国の間に何があるかなど、地図帳や地球儀を使って調べるようにする。 ☆白地図への記述や発言から「地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、近隣諸国の位置や名称、その国土の大まかな様子を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>④我が国の広がりについて調べ、国土の構成や領土の範囲などを理解できるようにする。</p>	<p>◆日本は、どのように広がっているのだろう。 ○資料などから日本の国土の構成や領土の範囲を調べ、白地図に調べたことをまとめ、日本の特色を話し合う。 ・日本は、本州や四国、九州、北海道の4つの大きな島を中心に、およそ14,000以上の島でできている。 ・日本は北緯20度～45度、東経122度～154度までの範囲に広がっている。 ・日本は南北に長く連なっていて、領海や排他的経済水域がとても広い。 ・日本の国土の北の端は択捉島、南の端には沖ノ島島があって、約3000kmも離れている。 ・日本の端にある島が排他的経済水域を支えている。 ○北方領土や竹島、尖閣諸島を白地図に表すとともに、領土の意味や問題になっていることを調べる。 ・北方領土は、日本の領土だけど、ロシアと今も交渉は続いている。 ・竹島も尖閣諸島も日本の領土。</p>	<p>◎地球儀、日本地図、世界の白地図 □日本の東西、南北の距離、緯度と経度を調べる。 □領土、領海、領空、排他的経済水域の意味について確認する。 □世界の白地図に排他的経済水域を表すなどして、日本が海洋国であるあることを実感できるようにする。 □北方領土や竹島、尖閣諸島が我が国固有の領土であることを説明する。 ◎領土問題を扱う新聞記事 ☆白地図への記述や発言から「地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、我が国の国土の構成や領土の範囲を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑤これまで調べたことを関連付けて、国土の概要や特色を考え、説明することを通して、理解できるようにする。</p>	<p>◆外国の人に、私たちが住んでいる日本の国土の様子をどのように説明したらよいただろう。 ○前時までにとまとめた白地図や地図帳、地球儀を使って、我が国の位置について説明し合ったり、領土の範囲を確かめ合ったりする。 ・日本は、東京に首都がある国で、たくさんの島で構成されている国。 ・日本は、中国や韓国の隣にあり、海に囲まれた島国。だから、領海や排他的水域がとても広い海洋国。 ○他の国の人に日本について説明する文章を書く。</p> <div data-bbox="443 1608 1018 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日本は北半球にあり、ユーラシア大陸の東方に位置し、大韓民国、中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合っている。太平洋や日本海、オホーツク海などに囲まれ、大小14,000以上の島々が弧状に連なってきた、広い領海をもつ島国である。</p> </div> <p>○小単元の学習を振り返り、これから調べたいことなどを、ノートにまとめる。 ・気候や地形はどうなっているか。そこに住む人はどのような暮らしをしているのか。 ・海に囲まれ領海が広いから、水産物が豊富だと思う。 ・南北に広い。気候や生活に違いはあるのか。</p>	<p>□前時までで使った白地図や地図帳、地球儀を用いて説明するように声掛けを行う。 □調べたことと、子供が考える日本の特色が混同しないように整理させる。 ★ノートなどの記述や発言から「我が国の国土の位置や形状、面積などを関連付けて、我が国の国土の特色を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】 □友達と説明し合ったことなども生かしながら、文章でまとめさせる。 ★ノートなどの記述や発言から「世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを基に、国土の概要や特色について理解しているか」を評価する。 【知②】 □今後の学習への関心を高め、見通しをもたせる。</p>

小単元名	国土の地形と気候の概要	配当 5時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-------------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の国土の様子について、地形や気候などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然などの様子を捉え、国土の自然環境の特色を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形や気候の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地形や気候などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国の国土の地形や気候の概要を理解している。	①地形や気候などに着目して問いを見だし、国土の自然などの様子について考え、表現している。 ②国土の位置と地形や気候を関連付けて、我が国の国土の自然環境の特色について考え、表現している。	①我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。ここでは、「我が国の国土の地形や気候の概要を理解すること」と記述され、地形や気候を別々ではなく、二つの内容を合わせて、我が国の国土の地形や気候などの自然環境を理解することが求められている。
- ②内容(1)イには「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子(中略)を捉え、国土の自然環境の特色(中略)を考え、表現すること」とある。地形や気候に特色ある地域の人々の生活については、次の小単元で扱い、本小単元では、我が国の地形や気候の様子について調べ自然環境の特色を考えることを通して、地形や気候の概要を理解できるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①子供が国土の地形や気候の概要を理解できるように、本小単元では国土を概観することを意識させるようにする。地形や気候の特色が分かるよう、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせながら「日本各地の特色のある事象に気付かせる。我が国の地形の特色である山が多い様子や気候の特色である四季の変化などは、子供の生活経験を追究に生かしやすい。宿泊行事で訪ねる場所やニュース等になった場所、驚きを感じるような様子などを積極的に取り上げるなど、資料を工夫して関心を高め、追究意欲を引き出していきたい。
- ②地形や気候などに着目して、調べるために、現地の写真資料や衛星写真、統計資料などを準備するとともに、インターネットを活用して情報を収集し、読み取り、調べることができるようにする。
- ③本小単元は、地形や気候に関連する様々な用語や語句が出てくるため、子供が用語や語句の意味をとらえきれないことが予想される。例えば、地形を表す用語であれば、「山地」「山脈」「平野」「火山」といった語句である。休み時間や学級活動などの時間に、ゲーム形式で楽しく語句のイメージを学ぶ機会を設けることも大切である。都小社研ホームページ(www11.schoolweb.ne.jp)の「動画配信」「5年生」の中に、「5年国土の地形について楽しく学べるゲーム」を作成したので紹介する。

○用意するもの:「地形を表す用語」が書かれているカード(班の人数分)

山脈 高地 盆地 台地 平野 丘陵 高原

○ルール:①先頭の人がカードを引く。

②カードに書かれている地形をジェスチャーする。

③ジェスチャーした地形を当てる。

④正解でも間違えていても次の子供へ

※全員が終わったときにかかった時間をはかる。 ※同じ地形がある場合もある。

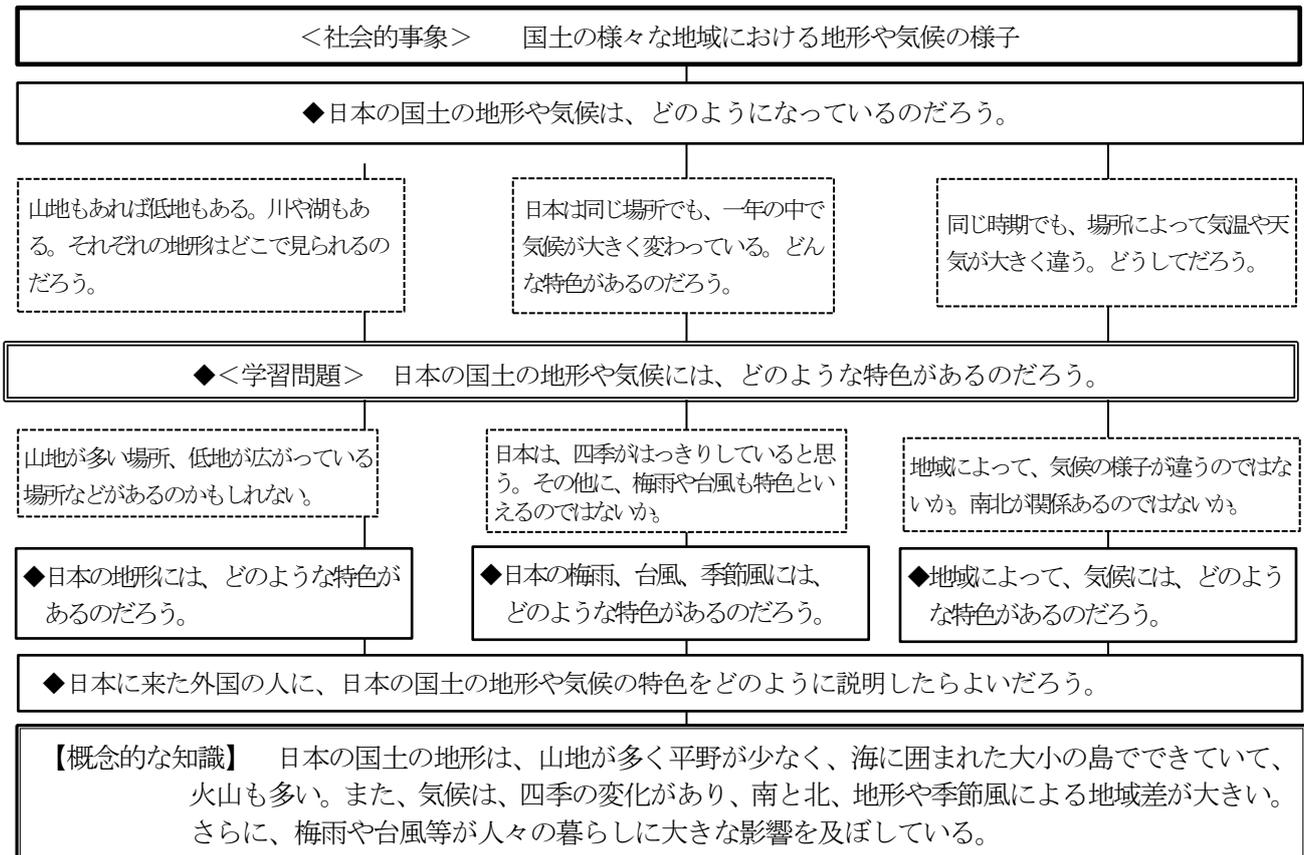
※間違えた場合は、+10秒

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①国土の自然などの様子を捉える学習問題や地形や気候などに着目する問いを分かりやすく設定し、子供が主体的に追究できるようにする。

- ②「しらべる」段階では実態に応じて指導内容に軽重をつけたり、課題選択の場を設けて分担して調べ、分かったことを互いに交流し合ったりするなど、子供の実態やよさを生かしながら活動や展開を工夫し、主体的・協働的に追究できるようにしていく。
- ③日本の気候の特色である、梅雨、台風、季節風を調べる際には、内容別にグループを構成して調べ、調べた情報を学級で共有する活動を設定する。
- ④毎時間、調べたことを白地図にまとめる活動を行っていく。そして、「まとめる」段階において、それらを振り返り、見比べたり重ねたりしながら、これまでの学習で獲得した知識を関連付けて国土の地形や気候の概要を理解できるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「しらべる」段階では、地形の特色、梅雨・台風・季節風の様子、気候の特色について調べたことを白地図にまとめる活動を設定している。「知識・技能」を評価する際には、1単位時間ごとに調べてまとめた内容の中に、地形や気候の特色を表す語句を用いて具体的に記述されていれば、「おおむね満足できる」状況と評価する。また、友達と自分がまとめた白地図の記述内容を交流し合う時間を設定することで、日本の国土の概要についての理解を深められるようにする。

「まとめる」段階では、これまでの学習で獲得した知識を関連付けて、地形や気候など、国土の自然環境の特色を考え、外国の人に説明するという活動を設定して、「思考・判断・表現」を評価する。学習問題に対して自分の考えをまとめるよりも、目的や場面が具体的であり、子供には取り組みやすいと考える。また、実際にALTなどに説明する場を設定すると、意欲もさらに高まると考える。実際の活動では、どのような知識を選択して説明するとよいか、どの知識とどの知識をどのように関連付けると相手がよく分かるか、などがポイントとなる。教室をまわりながら、記述の内容を把握し、助言をしたり問いかけたりして、個に応じた指導の充実を図る。また、子供同士で説明をし合いながら助言し合う場を設定し、考えを深めていくことができるようにする。具体的には「日本列島は背骨のように高い山脈が連なり、それによって、太平洋側は夏に雨が多く、日本海側は冬に雪が多いなど気候にも大きな影響を与えている。」など、地形と気候の特色を関連付けながら説明することができていれば、「おおむね満足できる状況」と捉えられる。そして、最後に学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめ、その記述から「知識・理解」を評価していく。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①国土の様子について空から読み取ったり、地形の違いや日本の四季の変化を調べたりして、学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	<p>◆日本の地形や気候は、どのようになっているのだろうか。</p> <p>○日本列島の航空写真を基に地形上の特色について気付いたことや考えたことなどを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周りを海に囲まれている島国。 ・ 山が多くて、低い土地の方が少ないみたいだ。 ・ 火山があるところもある。 ・ 入り組んだ海岸線がある。 ・ 山がちな土地もあれば、平らな土地が広がっているところもある。 <p>○同じ場所の四季の変化を示す写真を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本には四季の変化が見られる。 ・ 四季によって気温が変化するのは、どんなことが影響しているのだろうか。 <p>○同じ季節の日本各地の風景の写真を読み取り、分かったことや疑問に思ったことを整理して学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">日本の国土の地形や気候には、どのような特色があるのだろうか。</div> <p>○予想を話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山地が多い場所、低地が広がっている場所などがあるのかもしれない。 →地形にはどのような特色があるのだろうか。 ・ 日本は、四季がはっきりしていると思う。その他に梅雨や台風も特色といえるのではないか。 →日本の季節にはどのような特色があるのだろうか。 ・ 地域によって、気候の様子が違うのではないか。南北が関係あるのではないか。 →地域によって日本の気候はどのような特色があるのだろうか。 	<p>◎日本列島 (航空写真)</p> <p>◎特色ある地域の写真</p> <p>□写真を提示するごとに位置を地図帳で確認する。</p> <p>□地形に特色ある地域の航空写真を用意すると、土地の様子を具体的にイメージしやすい(例:リアス式海岸、山地、低地、火山、平野など)。Google earthも活用していくと効果的である。</p> <p>□土地の高低、海や川、南北の広がりや気候の様子などに加えて、山がちであることを扱う際に、火山もあることに着目させる。</p> <p>◎上田市の四季の様子(写真)</p> <p>◎各地の1月の様子(写真)</p> <p>□梅雨(つゆ)、台風、雪、季節風が気候に与える影響に関心をもたせ、調べる活動につなげる。</p> <p>☆ノートの記述や発言から「日本の地形や気候の様子、四季の変化に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p> <p>★ノートの記述等から「気候と人々の暮らしの関連について予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
しらべる	②国土の地形について調べ、その特色について理解できるようにする。	<p>◆日本の地形には、どのような特色があるのだろうか。</p> <p>○平地、山地について捉え、国土の特色を国土の景観の写真資料や川の資料などつなげて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国土の100分の73が山地。 ・ 平地は少なく、山が海の近くまで迫っている。 ・ 日本の川は、山から海までの距離が短いので、流れが急だ。 <p>○日本の地形の資料を使って地形の特色を読み取り、地図帳でさらに詳しく調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い山地や山脈が、四つの島の主に中央にある。 ・ 日本には、リアス式海岸と呼ばれる複雑な海岸線があり、その長さは約6万kmもある。 <p>○日本の火山について資料や地図帳で調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北から南まで山地や山脈の所々に火山がある。 ・ 東京都や九州には、火山のある島もある。 ・ 火山の近くには、温泉があり、日本中に広がっている。 <p>○本時の問いに対する考えを白地図にまとめる。</p>	<p>◎日本地図(地形図)</p> <p>◎国土の主な景観(写真)</p> <p>◎日本の主な川(資料)</p> <p>◎日本の主な地形(資料)</p> <p>□地形の種類や名称、その特色を理解させ、それぞれの特徴的な地形が、国土のどのあたりにあるか白地図にまとめる。</p> <p>◎火山の分布図</p> <p>◎地図帳</p> <p>☆白地図の記述から「必要な情報を集め、読み取り、我が国の国土の地形から見た特色を理解しているか」を評価する。【知①】</p>

し ら べ る	<p>③梅雨、台風、季節風は我が国の気候を特色付ける現象であることを調べ、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしていること理解できるようにする。</p>	<p>◆日本の梅雨、台風、季節風には、どのような特色があるのだろう。</p> <p>○日本の気候の特色である梅雨（つゆ）、台風、季節風（雪）についてグループをつくって調べ、その後、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本列島は6月から7月に梅雨（つゆ）の季節となる。 ・夏から秋にかけて、日本は台風襲われ、災害や農作物の被害が大きい。 ・夏は、太平洋から季節風が吹いて、太平洋側に多くの雨を降らせる。 ・冬の季節風は、日本海側に水分を多く含んでいて、日本海側に雪を降らせる。 <p>○調べたことや発表を聞いて分かったことを白地図にまとめる。</p> <p>○本時の問いに対する自分の考えを白地図にまとめる。</p>	<p>◎梅雨と台風について（資料）</p> <p>◎季節風について（資料）</p> <p>◎冬の太平洋側の地域と日本海側の地域の写真</p> <p>◎7月と1月の平均降水量を示した日本地図</p> <p><input type="checkbox"/>調べたことを白地図にまとめる。</p> <p><input type="checkbox"/>異なる事例を調べた子供でグループをつくり、その中で調べたことを交流し合うようにする。</p> <p>☆白地図の記述から「必要な情報を集め、読み取り、梅雨、台風、季節風が日本の気候の特色に関わる現象であり、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>④国土の気候の様子について調べ、その特色について理解できるようにする。</p>	<p>◆地域によって、気候にはどのような特色があるのだろう。</p> <p>○日本の気候を6つに区分した地図と、各地の気温と降水量のグラフを使って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋側と瀬戸内海の気温に大きな差はないが、瀬戸内海の降水量は太平洋側よりも少ない。 ・日本には様々な気候があり、地形と関係しているようだ。 ・日本は、南北に細長いので、北と南の地域で気候が大きく異なる。 ・太平洋側は雨が多い。日本海側は冬に雪がたくさん降るので降水量が多い。日本列島の中心を走る高い山地・山脈が影響している。 ・瀬戸内海は1年間を通して、他地域よりも降水量が少ない。 <p>○本時の問いに対する自分の考えを白地図にまとめる。</p>	<p>◎日本の気候（資料）</p> <p>◎各地の気候と降水量（グラフ）</p> <p><input type="checkbox"/>任意の二つの地域の気温と降水量を選択して比較しながら、それぞれの地域の特色に気付かせ、主体的な追究を促す。（同緯度にある太平洋側と日本海側、同緯度にある低地と高地など。）</p> <p><input type="checkbox"/>調べたことを白地図にまとめる。</p> <p>☆白地図の記述や発言から「必要な情報を集め、読み取り、日本の各地域の気候の特色について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑤これまでの学習を振り返り、学習問題について話し合うことを通して、国土の自然環境の特色について考え、国土の地形や気候の概要について理解できるようにする。</p>	<p>◆日本に来た外国の人に、日本の国土の地形や気候の特色をどのように説明したらよいただろう。</p> <p>○どのように外国の人に日本の地形や気候を説明するか考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は山地が多く、その地形によって、気候の様子が地域によって大きく違う。 ・日本は島国で南北に広がっていて、南北で気温も大きく違っている。 <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本の国土の地形は、山地が多く平野が少なく、海に囲まれた大小の島できていて、火山も多い。また、気候は、四季の変化があり、南と北、地形や季節風による地域差が大きい。さらに、梅雨や台風等が人々の暮らしに大きな影響を及ぼしている。</p> </div>	<p>◎「しらべる」段階で作成した白地図</p> <p><input type="checkbox"/>これまでにまとめてきた白地図を振り返りながら、外国の人にも分かりやすく日本の地形や気候の概要を説明できるように助言する。</p> <p>★記述や発言から「位置や地形、気候を関連付けて、国土の自然環境の特色について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p><input type="checkbox"/>友達と説明し合ったことも生かすように助言する。</p> <p>★記述や発言から「白地図にまとめたことを基にして国土の地形や気候の概要について理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	低い土地の暮らし	配当 6時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	----------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の国土の様子と国民生活について、地形などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国の国土の様子と国民生活について、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。 ②調べたことを白地図や表、文などにまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	①地形などに着目して、問いを見だし、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。 ②特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	①我が国の国土の様子や国民生活について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。ア(イ)には「(前略)人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること」と示され、具体的には、我が国には地形、気候などの自然条件から見て特色ある地域があること、人々は自然条件の中で工夫しながら生活していること、人々は自然条件を生かし産業を営んでいることを理解できるようにする。特色ある地域の生活の具体を理解するだけでなく、その環境に適応して人々が生活していることを理解できるようにする。
- ②内容(1)イ(イ)には「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること」と示されている。特色ある地域の人々の生活について、「人々は地形条件や気候条件とどのようなつながりがあるか。」などの問いを設けて調べさせるとよい。
- ③内容の取扱い(1)エに「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件(山地や低地など)や気候条件(温暖多雨や寒冷多雪など)から見て特色ある地域の中からそれぞれ一つ取り上げること(※括弧書きは筆者)と示されている。自分たちの地域の自然状況や子供の実態等を考慮して、適切な事例を選択することが大切である。なお、本小単元では、気候条件から見て特色ある地域として「低地」を取り上げている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本小単元では、地形条件から見て特色ある地域を扱う。事例地として、岐阜県海津市を取り上げる。海津市は長良川、揖斐川、木曾川という三つの大きな川に囲まれた低地にあり、江戸時代より水害を防ぐための取組や豊かな水を生かした取組が行われている。
- ②地形の特色と人々の生活を関連付けて捉え、切実感をもって主体的に追究できるように、地図帳や航空写真、ハザードマップ(海津市ホームページ「防災マップ」<https://www.city.kaizu.lg.jp/kurashi/0000000147.html>)を活用する。地形と想定される被害を関連付けながら調べ、海津市が川に囲まれた低地にあること、洪水等により大きな被害を受けやすい地域にあることを実感的に理解し、その生活について問いをもつことができるようにする。
- ③地形に着目して海津市の人々の生活や産業の様子を主体的に調べ、理解することができるようにするために、年表、水屋などの建物の写真、稲作や畑作に適した土地改良をした田畑の写真、統計資料などの資料を準備するとともに、海津市役所のホームページの情報も活用していく。

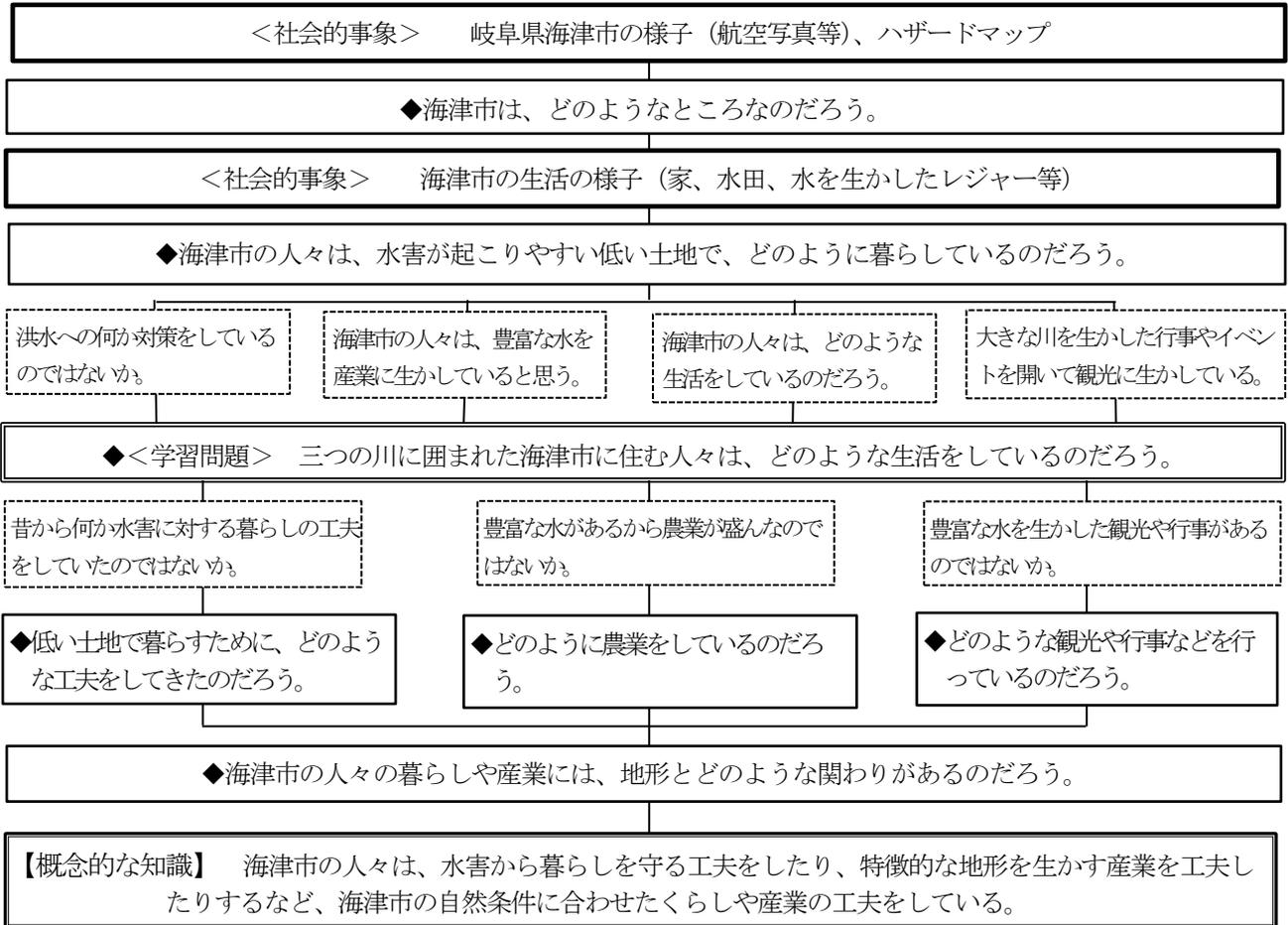
(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①導入で、自然条件から見て特色ある地域に関する、二つの小単元のオリエンテーションを行う。前小単元の日本の地形や気候の特色について振り返り、我が国には地形や気候などの自然条件から見て特色のある地域があることを示すとともに、本小単元では地形について扱うことを確認し、見通しをもって二つの小単元を学べるようにする。
- ②「つかむ」段階では、自分たちの地域の地形や生活の様子と比較したり、航空写真とハザードマップを関連付けたりしながら、地形に着目して人々の生活に対する問いを見だし、学習問題をつくることができるようにする。そして、市の様子の写真なども提示しながら、学習問題に対して予想をし、それを基に、特色ある自然環境の中で生活を成り立たせるための取組や、自然環境を生活に生かすための取組を追究する問いを設定し、子供が主体的に追

究できるようにする。

③「まとめる」段階では、「海津市の生活の工夫」「海津市の農業」「海津市の観光業」について調べたことを振り返り、分かったことをYチャートに整理する。それを基に、調べたことを比較したり関連付けたりして、「低地に暮らす人々が自然環境に適応して生活している」ことを捉えられるようにする。(ページ下段【Yチャートの例】参照)

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、これまで調べてきたことを、水害に備えた暮らしの工夫、農業、観光業の3つの視点でYチャートに整理する学習活動を位置付けた。調べてきたことをYチャートに整理した後、「海津市の人々の暮らしや産業には、地形とどのように関わりがあるのだろう。」と問いかけ、考えたことをチャートに書き込ませ、話し合いを行わせる。その記述や発言の内容から「思考・判断・表現」の観点について評価をする。具体的には、3点を比較して「水を生かす・克服する工夫を昔から続けていること」や、地形と関連付けて「豊かな水を生かした産業を行い、生活をよりよくしようとしていること」などを考えられていれば、「おおむね満足な状況」と捉えることができる。その後、問いに対し分かったことや考えたことをまとめ、その内容から「知識・技能」について評価する。

【Yチャートの例】

水害に備えた工夫

洪水が起きやすい → 江戸時代、千本松原を治水工事でつくる。
明治時代、ヨハネス・デレーケによる25年もの工事。
排水機場 → たまった水を外に出す。
市と市民が協力して水防演習や水防倉庫などの備え。

農作業を行いやすいように、土地の改良工事

→ 水がもともと豊かなので、稲作がもっと盛んになる。野菜や果物の生産も盛んに。
用水機場とパイプラインができて、必要なときに必要な量の水が使える。

農業

海津市の人々の暮らし

カヌーやヨットの練習場
堤防を活用したサイクリングコース
川魚を生かした料理
輪中のくらしや自然について学べる施設

観光業

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①写真や気温と降水量のグラフの読み取りから、海津市の地形の特色を理解し、人々の生活の様子について疑問をもつことができるようにする。	<p>○我が国には「地形」や「気候」に特色のある地域があることを捉え、地形に特色のある地域について学ぶことを確認する。</p> <p>○堤防道路を走る車の写真から、海津市の土地の特徴について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路に比べて家や学校の高さが低い。 <p>◆海津市は、どのようなところなのだろう。</p> <p>○海津市の航空写真から、海津市にはどのような特徴があるのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな川が3つも流れていて堤防に囲まれている。 ・輪中という川に囲まれた土地に住んでいる。 <p>○海津市のハザードマップを航空写真と比較しながら、海津市のような低い土地について気付いたことなどを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどが洪水の危険地域。洪水の対策をしているのではないか。 ・田んぼや畑が多い。何を生産しているのか。 <p>◆海津市の人々は、水害が起こりやすい低い土地で、どのように暮らしているのだろう。</p> <p>○海津市の人々の生活についての疑問や、調べたいことなどを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海や川よりも低い土地で暮らしていて、困ることはないか。 ・川の水を生かしている工夫はないのだろうか。 	<p>□二つの小単元のオリエンテーションを行い、学習に見通しをもてるようにする。</p> <p>◎堤防道路の写真</p> <p>□普通の道路を走る車と比較して写真を提示する。</p> <p>◎海津市の航空写真</p> <p>□地図帳で日本における海津市の位置を確認する。</p> <p>□堤防道路の位置を航空写真で確認し、周辺の土地の様子に気付くことができるようにする。</p> <p>◎海津市のハザードマップ</p> <p>□「このような場所で洪水が起きたらどうなるのか。」などと投げかけることで、「低地の地域」の暮らしの特色について関心をもったり、疑問をもったりできるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言から「海津市の地形や産業の様子などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p>
	②調べたいと思ったことを整理して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	<p>○疑問や調べたいことを分類したりまとめたりして、学習問題をつくる。</p> <p style="text-align: center;">三つの川に囲まれた海津市に住む人々は、どのような生活をしているのだろう。</p> <p>○予想を話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水などを防ぐために何か対策をしているのではないか。 →低い土地で暮らすためにどのような工夫をしてきたのだろうか。 ・豊かな水を生かした産業をしているのではないか。 ・豊富な水を大切に観光にも生かしているのではないか。 →どのように農業をしているのだろう。どのような観光や行事などを行っているのだろう。 	<p>□カードに書かせ、分類したりまとめたりする。</p> <p>□第4学年「県内の特色ある地域」の学習を想起させることで、水害への対策だけでなく、地形の特色を生かしていることについても考えられるようにする。</p> <p>★発言やノートの記述から「海津市の地形と人々の暮らしの関連について予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
し ら べ る	③海津市の水害に対する備えや対策について調べ、海津市に住む人は、水害に備えて様々な対策を行ってきたことを理解できるようにする。	<p>◆海津市では、低い土地で暮らすために、どのような工夫をしてきたのだろうか。</p> <p>○問いについて予想し、調べる見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害から暮らしを守るため、協力して堤防を築いたのではないか。 ・建物なども、洪水に対応したつくりになっているのではないか。 <p>○資料から、海津市のくらしの工夫について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防を造って、水害に備えている。 ・少しでも高い土地に建物を建てたり、水屋を建てたりしている。 ・海津市と市民が協力して水防演習を行っている。 	<p>◎千本松原(写真)</p> <p>◎水屋の様子(写真・イラスト)</p> <p>◎水害発生件数の推移(グラフ)</p> <p>◎水防演習の様子(写真)</p> <p>☆発言やノートの記述から「必要な情報を集め、読み取り、海津市に住む人々は、昔から水害への対策や備えを工夫してきたことや、現在も水害への意識をもって生活していることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>

	<p>④海津市の農業の様子を調べ、海津市の人々は、特徴的な地形を生かし、農業に豊かな水を生かしていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆海津市に住む人々は、どのように農業をしているのだろう。</p> <p>○過去の稲作の様子について気付いたことを話し合い、現在の稲作について変化していそうなことを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は田んぼの中に舟がある。 ・水害が減っているし、水を利用して農作業をしているのではないか。 <p>○資料を基に、過去と現在の海津市の稲作や水田の様子を比較したり、農業の工夫を調べたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田を整備して作業をしやすくした。 ・昔の田んぼは迷路みたいに水路が通っている。 ・現在は、排水機場があるため水はけがよくなり、農業が行いやすくなった。 ・大型の機械を使い、豊かな水を管理している。 	<p>◎海津市の昔の稲作の様子（イラスト）</p> <p>□海津市における昔の農業の様子があるのか、に着目させる。</p> <p>◎海津市の昔と今の水田の様子（写真）</p> <p>◎海津市の用水路と排水路を表す地図</p> <p>☆発言やノートの記述から「必要な情報を集め、読み取り、海津市では、豊かな水を農業に生かしていることについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤海津市の観光の様子を調べ、海津市の人々は特徴的な地形を生かし、観光業を営んでいることを理解できるようにする。</p>	<p>◆海津市では、どのような観光や行事などを行っているのだろう。</p> <p>○資料から海津市の観光業の取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪中の土手を利用したサイクリングコースをつくっている。 ・大きな川を利用したヨットやカヌーの練習場がある。 ・輪中の暮らしや自然について学べる施設がある。 ・川魚を使った料理が名物だ。 <p>○海津市の観光業の特色について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな水や河川敷の自然などを利用した観光業を行っている。 	<p>◎海津市観光マップ</p> <p>◎海津市ぐるっとMAP</p> <p>◎海津市役所の人の話</p> <p>□低地の特色である平らな様子や川、豊かな水とどのように関わっているか、考えられるように助言する。</p> <p>☆発言やノートの記述から「必要な情報を集め、読み取り、海津市では、豊かな水を観光業に生かしていることについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
まとめる	<p>⑥海津市の人々の暮らしや産業の様子について、Yチャートに整理したことを基にして考え、海津市の人々が特色ある地形を生かした生活をしていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆海津市の人々の暮らしや産業は、地形とどのような関わりがあるのだろう。</p> <p>○水害に対する工夫、農業、観光業の3つの観点でYチャートに整理し、海津市に住む人々の暮らしについて共通していることや、地形との関連について考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光業と農業は豊かな水を生かしている。 ・低い土地に合った生活をしている。 <p>○学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・海津市の人々は、「輪中」という堤防を築いたり、川の流れを変えたりしながら暮らしを守ってきた。また、栄養分の多い土や豊かな水を農業や産業に生かしていて、海津市の自然条件に合わせて、それを生かして生活している。</p> </div>	<p>◎調べる時間に作成したノート</p> <p>□「しらべる」段階でまとめたことを付箋紙に書いて、Yチャートに整理し、グループで共通点や地形との関連について話し合うようにする。</p> <p>★記述や発言内容から「低い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★記述や発言内容から「チャートを基に、人々は地形に合わせて、地形を生かした生活をしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	高い土地の暮らし	配当 6時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	----------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の国土の様子と国民生活について、地形などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国の国土の様子と国民生活について、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。 ②調べたことを白地図や表、文などにまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	①地形などに着目して、問いを見だし、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。 ②特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	①我が国の国土の様子や国民生活について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。ア(イ)には「(前略)人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること」と示され、具体的には、我が国には地形、気候などの自然条件から見て特色ある地域があること、人々は自然条件の中で工夫しながら生活していること、人々は自然条件を生かし産業を営んでいることを理解できるようにする。特色ある地域の生活の具体を理解するだけでなく、その環境に適応して人々が生活していることを理解できるようにする。
- ②内容(1)イ(イ)には「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること」と示されている。特色ある地域の人々の生活について、「人々は地形条件や気候条件とどのようなつながりがあるか。」などの問いを設けて調べさせるとよい。
- ③内容の取扱い(1)エに「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件(山地や低地など)や気候条件(温暖多雨や寒冷多雪など)から見て特色ある地域の中からそれぞれ一つ取り上げること(※括弧書きは筆者)と示されている。自分たちの地域の自然状況や子供の実態等を考慮しながら適切な事例を選択することが大切である。なお、本小単元では、地形条件から見て特色ある地域として「低地」を取り上げている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本小単元では地形条件から見て特色ある地域を扱う。事例地として、浅間山等2000m級の山に囲まれ、火山灰が積もった土地を開墾したり改良したりする取組や、豊かな高原の自然を生かした取組が行われている群馬県嬭恋村を取り上げる。
- ②地形の特色と人々の生活を関連付けて捉え、切実感をもって主体的に追究できるように、地図帳や航空写真、土地利用図、気象資料などを活用する。嬭恋村が標高1000m以上ある高地に位置し火山に囲まれており、地形・気候の両面で特色ある地域であることを実感的に捉え、その生活について問いをもつことができるようにする。
- ③地形に着目して高地にある嬭恋村の人々の生活や産業の様子について主体的に追究し、理解することができるようにするために、年表、開墾の様子(写真)、土地利用図、キャベツ畑の写真、統計資料などを準備するとともに、NHK for schoolの動画資料「群馬県嬭恋村のキャベツづくり ～高い土地の農業～」(https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005310883_00000)の動画や嬭恋村観光協会(<https://www.tsumagoi-kankou.jp/>)のホームページの情報も積極的に活用していく。

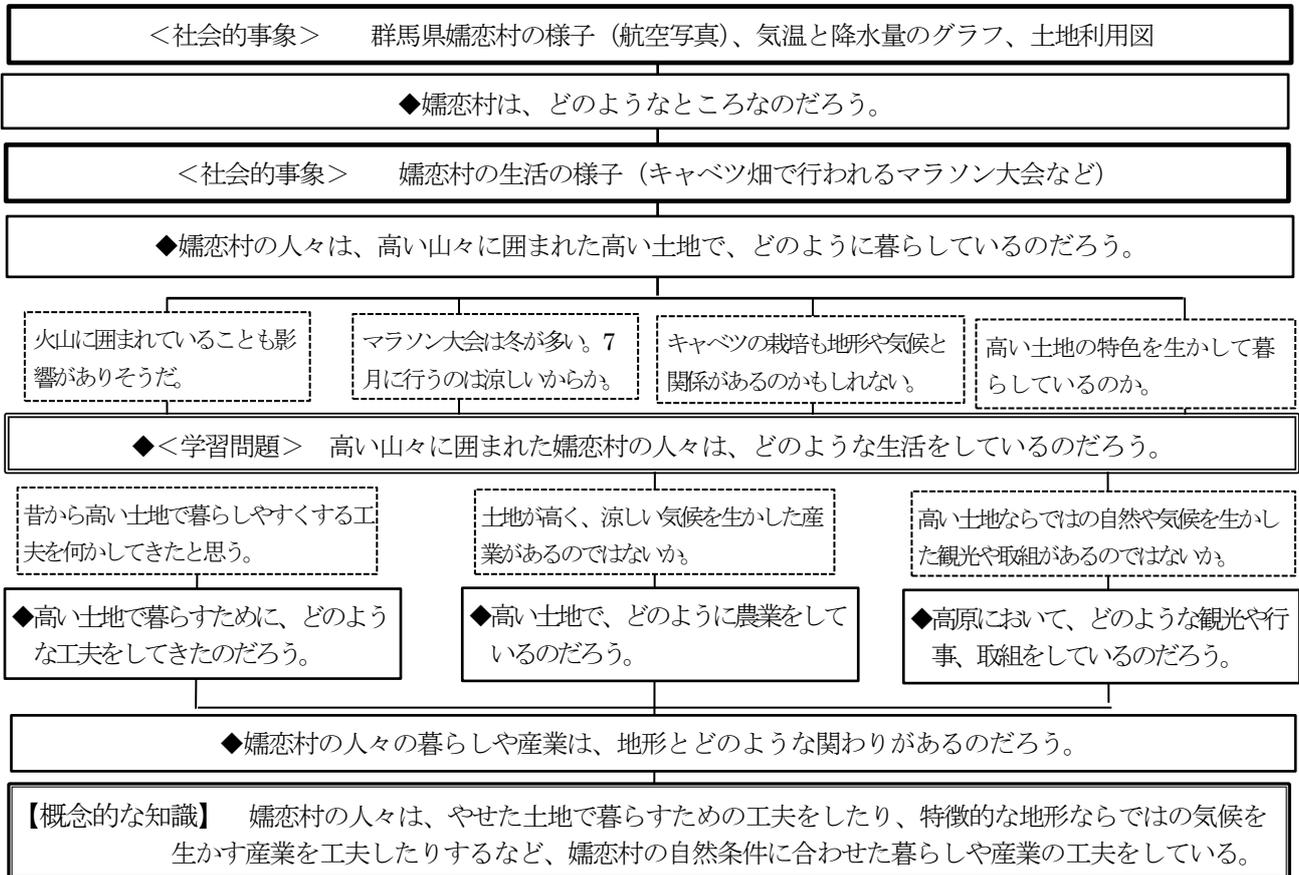
(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①導入で、自然条件から見て特色ある地域に関する二つの小単元のオリエンテーションを行う。前小単元の日本の地形や気候の特色について振り返り、我が国には地形や気候などの自然条件から見て特色のある地域があることを示すとともに、本小単元では地形について扱うことを確認し、見通しをもって二つの小単元を学べるようにする。
- ②「つかむ」段階では、自分たちの地域の地形や生活の様子と比較したり、航空写真と土地利用図などを関連付けたりしながら、地形や気候に着目して人々の生活に対する問いを見だし、学習問題をつくることができるようにす

る。そして、村の様子の写真なども提示しながら、学習問題に対して予想をし、それを基に特色ある自然環境の中で生活を成り立たせるための取組や自然環境を生活に生かすための取組を追究する問いを設定し、子供が主体的に追究できるようにする。

- ③「まとめる」段階では、「孀恋村の生活の工夫」「孀恋村の農業」「孀恋村の自然や気候を生かした観光業や暮らし」について調べたことを振り返り、分かったことをYチャートに整理する。それを基に、調べたことを比較したり関連付けたりして、「高地に暮らす人々が自然環境に適応して生活している」ことを捉えられるようにする。(ページ下【Yチャートの例】参照)

(4) 問いの構成の工夫

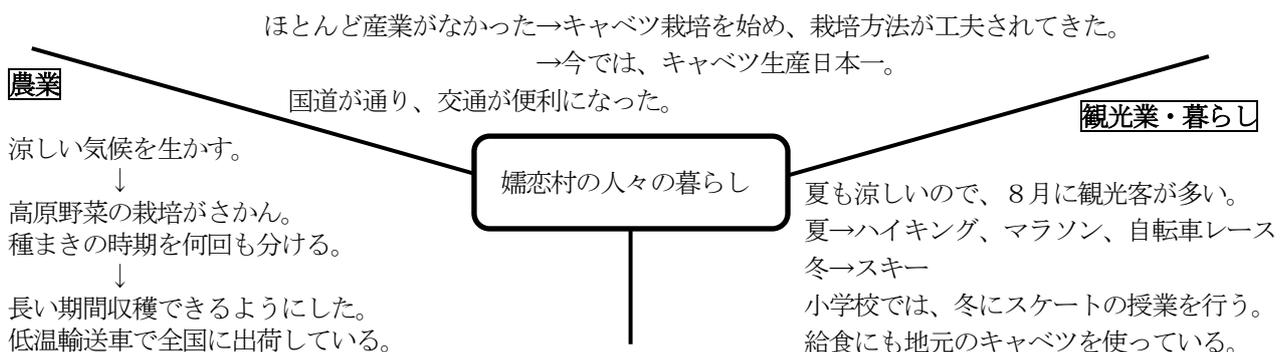


(5) 評価の工夫～「まとめる」段階における「思考・判断・表現」の評価～

「まとめる」段階では、これまで調べてきたことを、火山灰の影響でやせた土地で暮らす工夫、農業、観光業・暮らしの3つの視点でYチャートに整理する学習活動を位置付けた。Yチャートに整理した後、「孀恋村の人々の暮らしや産業は、地形とどのように関わりがあるのだろう。」と問いかけ、考えたことをチャートに書き込ませ、話し合いを行う。その記述や発言の内容から「思考・判断・表現」の観点について評価をする。具体的には、3点を比較して「高原の特色ある自然を生かしたり課題を克服したりしていること」や、地形と関連付けて「涼しい気候や豊かな自然を生かした産業を行い、生活をよりよくしようとしていること」などについて考えられていれば「おおむね満足な状況」と捉えることができる。その後、問いに対する自分の考えをまとめ、その内容から「知識・技能」について評価する。

【Yチャートの例】

火山灰の影響でやせた土地で暮らす工夫



3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①写真や気温と降水量のグラフの読み取りから、嬭恋村の地形などの特色を理解し、人々の生活の様子について疑問をもつことができるようになる。	<p>○我が国には「地形」や「気候」に特色のある地域があることを捉え、地形に特色のある地域について学ぶことを確認する。</p> <p>○航空写真を見て、嬭恋村の土地の様子について分かったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くに高い山が連なっている。 ・たくさん畑が広がっているのが見える。 <p>◆嬭恋村は、どのようなところなのだろう。</p> <p>○嬭恋村の気候と降水量のグラフ、土地利用図を基に、嬭恋村の特徴について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都に比べて、嬭恋村は年間の平均気温が低いのが分かる。 ・冬は気温が0度より低い時期があつてとても寒い。 ・浅間山や四阿山、白根山など2000mを超える山々に囲まれている。 ・土地が低いところでも標高600mもある。 ・キャベツ畑は1000mくらいの場所につくられている。 <p>◆嬭恋村の人々は、高い山々に囲まれた高い土地で、どのように暮らしているのだろう。</p> <p>○嬭恋村の人々の生活について気付いたことや疑問、調べたいことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の地域では、マラソンは冬に行われることが多いけど、嬭恋村では7月上旬に行われている。涼しいからかな。 ・キャベツの栽培は、高い土地や涼しい気候と関係があるのか。 ・高い土地の特色を生かして暮らしているのか。 	<p>□二つの小単元のオリエンテーションを行い、学習に見通しをもてるようにする。</p> <p>◎嬭恋村の航空写真、地図</p> <p>□航空写真で気付いたことを地図で確認をしていく。</p> <p>◎嬭恋村と東京都の月別平均写真</p> <p>◎嬭恋村の土地利用図</p> <p>□自分たちの地域の地形や土地利用と比較しながら理解を深めていけるようにする。</p> <p>□地図帳を活用して、周辺に火山が多いことにも気付くことができるようにする。</p> <p>◎キャベツ畑で開催されているマラソン大会の写真</p> <p>□マラソン大会の写真について、時期や周辺の様子に着目して考えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言から「嬭恋村の地形や産業の様子などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p>
	②調べたいと思ったことを整理して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	<p>○調べたいことを分類したり、まとめたりして学習問題をつくる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">高い山々に囲まれた嬭恋村に住む人々は、どのような生活をしているのだろう。</p> <p>○予想を話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から暮らしやすくするために工夫をしていると思う。 →高い土地で暮らすためにどのような工夫をしてきたのだろう。 ・浅間山の火山灰が積もった土でやせた土地でも育つ野菜を栽培していると思う。 →どのように農業をしているのだろう。 ・標高が高く、涼しい土地を生かした観光や暮らしが行われていると思う。 →高原において、どのような観光や行事、取組をしているのだろう。 	<p>□カードに書かせ、分類したり、まとめたりする。</p> <p>□第4学年「県内の特色ある地域」の学習を想起させることで、自然条件への対策だけでなく、地形の特色を生かしていることについても考えられるようにする。</p> <p>★発言やノートの記述から「嬭恋村の地形と人々の暮らしの関連について予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>

	<p>③ 嬭恋村に住む人々の暮らしの工夫や努力について調べ、嬭恋村では作物を育てやすくするために土地改良の努力や様々な工夫をしてきたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆ 嬭恋村では、高い土地でくらすために、どのような工夫をしてきたのだろう。 ○ 問いについて予想をして、調べる見直しをもつ。 ・ 火山灰が積もった土地でも作物を育てる工夫をしたと思う。 ・ 暮らしやすいように土地をひらいてきたと思う。 ○ 資料から、嬭恋村の暮らしの工夫について調べ、高地の自然や気候との関連について話し合う。 ・ 元々、火山灰が多くて、土地がやせていた。 ・ 明治時代の終わりごろからキャベツづくりが始まった。 ・ 村の中心を通る国道ができ、嬭恋村と都市が結ばれて交通が便利になった。 ・ 夏の涼しい気候を生かした栽培方法を工夫してきた。</p>	<p>◎ 国道となる道をひらいている写真 ◎ NHK for school「嬭恋村のキャベツづくり」 ◎ 嬭恋村の農業の歴史年表 ◎ 嬭恋郷土資料館で働く方の話 ☆ 発言やノートの記述から「必要な情報を集め、読み取り、昔から嬭恋村に住む人々は、火山灰の影響でやせた土地を改良したり国道を通したりして暮らしやすくなるように工夫していることを理解しているか」を評価する。</p>
し ら べ る	<p>④ 嬭恋村の農業の様子を調べ、人々は、特徴的な地形を生かし、土地が高く涼しい気候を生かした農業をしていることを理解できるようにする。</p>	<p>○ 嬭恋村におけるキャベツ栽培の手順から、高原野菜の育て方に関心をもつ。 ◆ 嬭恋村に住む人々は、高い土地でどのように農業をしているのだろう。 ○ 資料から、嬭恋村の高原野菜の栽培の工夫について調べ、高地の自然や気候との関連について話し合う。 ・ 嬭恋村の夏の平均気温は、キャベツがよく育つ温度だ。 ・ 昼と夜の温度差が大きいので、甘くて柔らかいキャベツが育つ。 ・ 時期をずらすことで種まきを何回も分けて、長い期間収穫できるように工夫している。</p>	<p>○ 嬭恋村におけるキャベツ栽培の手順 ◎ 嬭恋村のキャベツ栽培の農事暦 ◎ JAの方の話 □ 気候条件と関連付けながら、キャベツ栽培の工夫について調べさせていくようにする。 ☆ 発言やノートの記述から「必要な情報を集め、読み取り、嬭恋村では、標高が高く、涼しい気候を農業に生かしていることについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤ 嬭恋村の観光などの様子を調べ、人々は特徴的な地形を生かし、観光業を営んだり生活の工夫をしたりしていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆ 嬭恋村では、高原において、どのような観光や行事、取組をしているのだろう。 ○ 資料から、嬭恋村での観光や行事、取組等を調べ、高地の自然や気候との関連について話し合う。 ・ 観光客は8月多いので、涼しい気候が人気だと考えられる。 ・ 夏はハイキングやマラソン、自転車レース、冬はスキーが人気だ。 ・ 火山が多いので、温泉も多い。 ・ 小学校では、冬にスケートの授業がある。 ・ 給食でも、地元のキャベツが使われている。</p>	<p>◎ 嬭恋村を訪れた観光客数 ◎ 嬭恋村観光協会ホームページ ◎ 嬭恋村の小学校の生活 □ 高地の特色である冷涼な気候と豊かな自然の観点から調べるように助言する。 ☆ 発言やノートの記述から「必要な情報を集め、読み取り、嬭恋村では、豊かな高原の自然を観光業に生かしていることについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑥ 嬭恋村の人々や暮らしや産業の様子について、Yチャートに整理したことを基にして考え、嬭恋村の人々が特色ある地形を生かした生活をしていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆ 嬭恋村の人々の暮らしや産業は、地形とどのような関わりがあるのだろう。 ○ 暮らしやすくする工夫、農業、暮らし・観光業の3つの観点でYチャートに整理し、嬭恋村に住む人々の暮らしについて共通していることや、地形との関連について考えたことを話し合う。 ・ 観光業と農業は高原の自然や気候を生かしている。 ・ 高い土地に合った生活をしている。 ○ 学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ 嬭恋村の人々は、標高が高く、火山灰の影響でやせている土地を開き、高原野菜を育てやすくする工夫をして暮らししてきた。また、高い土地ならではの自然や気候を農業や観光にも生かしており、嬭恋村の自然条件に合わせ、それを生かして生活している。</p> </div>	<p>◎ 調べる時間に作成したノート □ 「しらべる」段階でまとめたことを付箋紙に書いて、Yチャートに整理し、グループで共通点について話し合うようにする。 ★ 記述や発言内容から「高い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ 記述や発言内容から「人々は地形に合わせ、地形を生かした生活をしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	あたたかい土地の暮らし	配当 6時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-------------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の国土の様子と国民生活について、気候などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国の国土の様子と国民生活について、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。 ②調べたことを白地図や表、文などにまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	①気候などに着目して、問いを見いだし、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。 ②特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	①我が国の国土の様子と国民生活について予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。ア(イ)には「(前略)人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること」と示され、具体的には、我が国には地形、気候などの自然条件から見て特色ある地域があること、人々は自然条件の中で工夫しながら生活していること、人々は自然条件を生かし産業を営んでいることを理解できるようにする。特色ある地域の生活の具体を理解するだけでなく、その環境に適応して人々が生活していることを理解できるようにする。
- ②内容(1)イ(イ)には「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること」と示されている。特色ある地域の人々の生活について、「人々の生活は、地形条件や気候条件とどのようなつながりがあるか。」などの問いを設けて調べさせるとよい。
- ③内容の取扱い(1)エに「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件(山地や低地など)や気候条件(温暖多雨や寒冷多雪など)から見て特色ある地域の中からそれぞれ一つ取り上げること(※括弧書きは筆者)と示されている。自分たちの地域の自然状況や子供の実態等を考慮しながら適切な事例を選択することが大切である。なお、本小単元では、気候条件から見て特色ある地域として「温暖多雨」の地域を取り上げている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本小単元では事例地として沖縄県を取り上げる。沖縄県は年間の平均気温が20度を超え、日本で唯一亜熱帯地域に属した都道府県である。また、世界の他の亜熱帯地域と比較して雨が多いという特徴も有している。このような気候により、沖縄県には世界的に見ても貴重な生態系が広がっており、県内にはラムサール条約や世界自然遺産に登録されている地域がある。さらに、沖縄県は観光条例を日本で初めて制定した都道府県である。自然環境と産業を結び付けようとして行政と県民が一体となって取り組んでいる様子は、子供が気候条件と人々の生活を関連付けて考える手がかりとなる。なお、本小単元では、沖縄県に15世紀から19世紀に存在した琉球王国の文化も取り上げる。その際は社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせ、沖縄県の人々は昔から自然環境に適応して生活していることにも気付かせたい。

(前略) 本県は、我が国唯一の亜熱帯地域として特有の自然景観に恵まれ、また、近隣諸国との長い交流の歴史によって育まれた独特の文化を有している。これらの優れた資源を活用し、広く国民的更には国際的な観光及び保養の場を整備することは、すなわち本県の特性を生かすみちである。(後略)

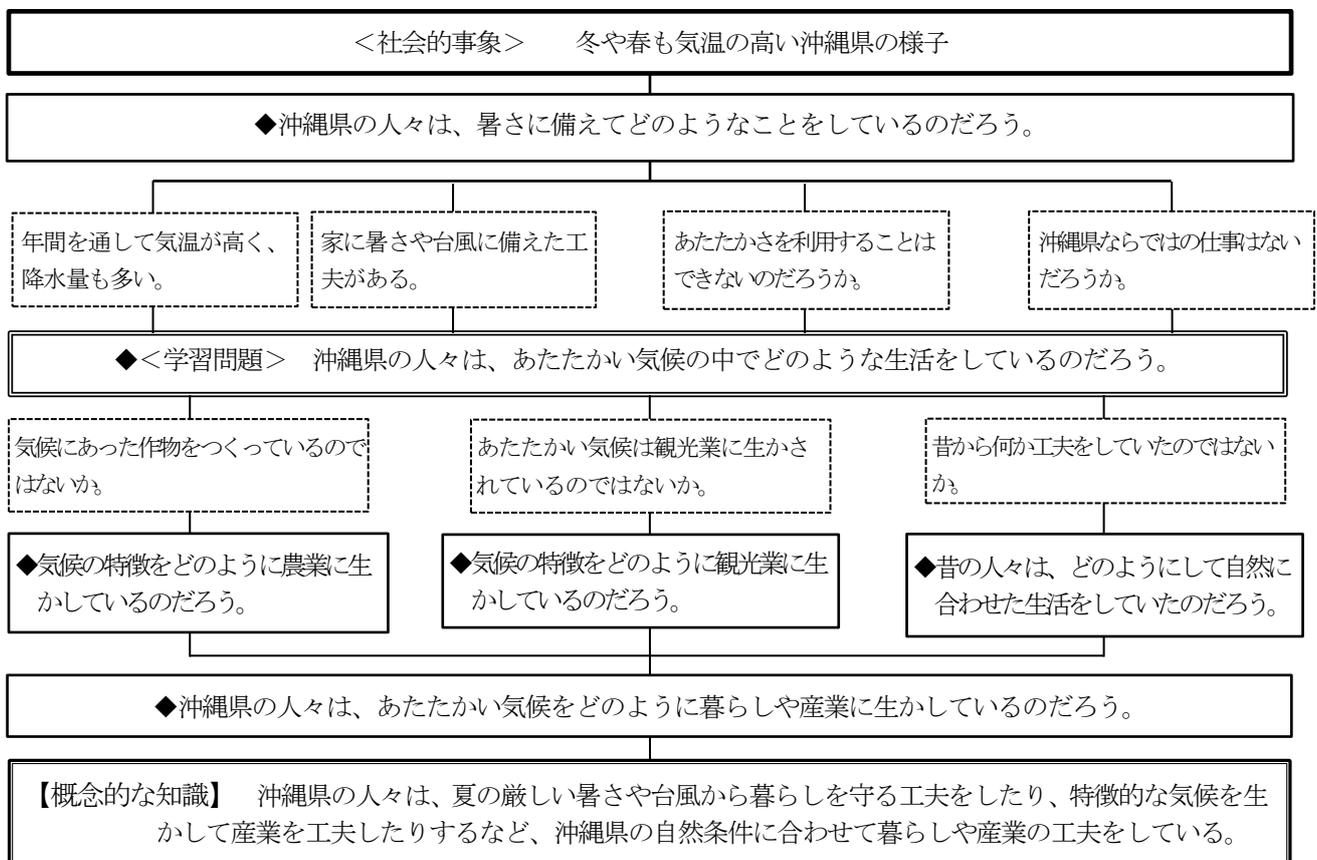
▲「沖縄県観光振興条例」前文より一部抜粋(沖縄県ホームページより) <https://www.pref.okinawa.jp>

- ②気候を生かした産業では農業(サトウキビや菊の栽培)や観光業を取り上げる。社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関連)を働かせることで、サトウキビや菊の栽培が亜熱帯性の気候を生かして行われていることや、温暖多雨という気候の特徴がもたらす独自の自然環境を観光業にも生かしていることに気付くことができるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ① 「つかむ」段階では、沖縄県の気候の特徴を捉え、沖縄県の人々が暑さや台風に備えた工夫をしていることを調べる。その上で、地形の特色と人々の生活には関連があるという前小単元の学習内容を想起させ、子供に沖縄県の気候と人々の生活に着目させて、学習問題をつくる。また、予想や学習計画を立てる場面でも、人々は地形の特色を農業や観光業に生かしているという前小単元の学習を生かすことで、子供が学習に対して見通しをもち、主体的に追究できるようにする。
- ② 「しらべる」段階では、沖縄県で行われている農業や「沖縄県観光振興条例」などの観光に対する取組について、JAおきなわのホームページ (<http://www.ja-okinawa.or.jp>) や沖縄県のホームページ (<https://www.pref.okinawa.jp>) を活用することで、子供自らが資料を探したり選んだりして主体的に調べることができるようにする。
- ③ 「まとめる」段階では、学習問題を解決する際に、自然環境と国民生活との関連について、前小単元の事例地と沖縄県の共通点を話し合う活動を取り入れる。活動を通して、人々は様々な自然環境に適応して生活していることを理解できるようにし、事例地以外の地域に対しても、社会的事象の見方・考え方（事象や人々の相互関連）を働かせて考えられるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫～「つかむ」段階における「思考・判断・表現」の評価～

「つかむ」段階の第1時では、沖縄県の気候に着目をして、沖縄県の人々の生活の様子について疑問を交流し合う活動を行う。その際のノートの記述や発言内容を基に、「思考・判断・表現」の観点から評価を行う。「年間を通してあたたかいから、沖縄県ならではの仕事があるのではないかと」「今のような技術もない昔、暑さや台風に備えて人々はどのように暮らしていたのか。」「冬もあたたかいから、夏だけではなく冬も観光業が盛んではないかと。」「平均気温が高い中、どんな作物をつくっているのか。」など、年間の平均気温が高く、台風などの影響で雨が多いという沖縄県の気候の特色を正しく捉え、自分たちの地域の生活の様子と比べたり、現地の写真などから読み取ったことと関連付けたりして疑問を書くことができていたら、「おおむね満足できる」状況と評価できる。さらに、沖縄県の気候の特色から複数の疑問を記述したり、前小単元の学びを基に、気候を生かすという視点から疑問をもつことができたりしたら、「十分に満足できる」状況と評価できる。そして、それらの疑問を整理して「温暖多雨」な気候の特徴と人々の暮らしを関連付けて追究する学習問題をつくる。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①写真や気温と降水量のグラフの読み取りを通して、沖縄県の人々の生活の様子について疑問をもつことができるようにする。	○沖縄県の様子について写真を読み取る。 ・2月に桜が咲いている。 ・3月は海水浴ができるくらいあたたかい。 ◆沖縄県の人々は、暑さに備えてどのようなことをしているのだろう。 ○気温と降水量のグラフ、家の写真から沖縄県の様子を読み取る。 ・年間を通して気温が高い。 ・梅雨や台風の時期に多くの雨が降る。 ・家に暑さや台風へ備えた工夫がある。 (屋根が低く平ら、屋上のタンク、白い壁) ○疑問に思ったことや調べたいことを出し合う。 ・あたたかさを利用することはできないのだろうか。 ・沖縄県ならではの仕事はないだろうか。	◎沖縄県の2月の桜の様子 沖縄県の3月の海開きの様子(写真) □地図帳を基に沖縄県の位置を確認する。 ◎那覇市と東京都の気温と降水量 ◎屋根の低いコンクリートづくりの家屋上のタンク □東京都との違いを確認する。 ☆ノートの記述や発言から「沖縄県の気候に着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	②調べたいと思ったことを整理して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	○調べたいことを整理して学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">沖縄県の人々は、あたたかい気候の中でどのような生活をしているのだろう。</div> ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・気候に合った作物をつくっているのではないか。 →気候の特徴をどのように農業に生かしているのだろう。 ・あたたかい気候は観光業に生かされているのではないか。 →気候の特徴をどのように観光業に生かしているのだろう。 ・昔から何か工夫をしていたのではなかろうか。 →昔の人々は、どのようにして自然に合わせた生活をしていたのだろう。	□カードに書かせ、整理する。 □前小単元の調べた視点を生かす。 ★ノートの記述や発言から「気候と人々の生活の関連について予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	③沖縄県の農業について調べ、人々は、特徴的な気候を生かして農業を行っていることを理解できるようにする。	◆気候の特徴をどのように農業に生かしているのだろう。 ○沖縄県の特産物について話し合う。 ・野菜や花など、様々な農作物がつけられている。 ・県の田畑の約2分の1がサトウキビ畑だ。 ○資料からサトウキビや菊づくりの仕事について調べる。 ・サトウキビは強い風や日差しに強い農作物だ。 ・電灯で咲く時期を調整して菊を栽培している。 ○農家の方の話から、沖縄県で農業を営む上での工夫や努力をまとめる。 ・気候の特徴を生かして農作物をつくっている。 ・気候の特徴を生かしたり、栽培の仕方を工夫したりすることで、収穫時期をずらすことができる。	◎JA おきなわのホームページ ◎東京都の市場で取引される小菊の数 ◎沖縄県とその周辺の土地利用図 □農業と自然条件を関連付けて考えさせる。 □自然条件だけではなく人々の工夫や努力にも着目させる。 ◎農家の方の話 ☆ノートの記述や発言から「沖縄県の農業について必要な情報を集め、読み取り、人々が気候に合わせた作物をつくっていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	④沖縄県の観光業について調べ、人々は、特徴的な気候を生かして観光業を営んでいることを理解できるようにする。	◆気候の特徴をどのように観光業に生かしているのだろう。 ○沖縄県を訪れる観光客数や訪問理由を調べる。 ・あたたかさを求めて冬に来る観光客も多い。 ・あたたかい気候が作り出す自然で、ダイビングやマングローブでカヤックなどを楽しんでいる。 ○「沖縄県観光振興条例」や沖縄県庁の方の話から、自然環境と観光業との関連について話し合う。 ・豊かな自然を観光業に生かすことで、県の発展を願っている。 ・沖縄県では自然を守るための活動も行っている。	◎沖縄県の月別観光客数 ◎沖縄県のホームページ ◎世界自然遺産の森林の様子 観光客が集まるビーチ(写真) ◎沖縄県観光振興条例 ◎沖縄県庁の方の話 ☆ノートの記述や発言から「沖縄県の観光業や条例について必要や情報を集め、読み取り、人々が気候を生かして観光業を営んでいることを理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑤ 琉球王国時代の暮らしの様子を調べ、沖縄県の昔の人々の生活と気候との関連や、伝統的な文化を引き継ぐ努力について考え表現できるようにする。</p>	<p>◆ 昔の人々は、どのようにして自然に合わせた生活をしていただろう。</p> <p>○ 琉球王国時代の人々の自然に合わせた生活について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県には、約 150 年前まで琉球王国という王国があった。 ・ 琉装と呼ばれる伝統的な服装は、袖が広く涼しいつくりになっている。 ・ 琉球王国時代から残る伝統的な家にも、暑さを防ぐ工夫がある。 ・ 琉球王国時代の人々は、自然のめぐみに感謝しながら生活をしていた。 <p>○ 沖縄 21 世紀ビジョンを基に、沖縄県の人々の願いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県の人々は沖縄県の伝統的な文化を大切に思い、自分たちが受け継いできた文化のよさを多くの人に理解してもらおうと、引き継ぐ努力をしている。 	<p>□ 沖縄県には 1879 年まで琉球王国があったことを確認する。</p> <p>◎ 琉球王国時代の伝統的な服装 琉球建築の伝統的な家 (写真)</p> <p>☆ ノートの記述や発言から「沖縄県の昔の人々の生活と気候を関連付けて考えているか」を評価する。 【思①】</p> <p>◎ 沖縄 21 世紀ビジョン (https://www.21okinawa.com)</p> <p>★ ノートの記述や発言から「これまでの学習を振り返り、追究を深めようとしているか」を評価する。 【態①】</p>
<p>ま と め る</p>	<p>⑥ 沖縄県の人々の生活や産業の様子について、今まで調べてきたことを表にまとめて話し合い、学習問題について考え、気候と生活の関連について理解できるようにする。</p>	<p>◆ 沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのように暮らしや産業に生かしているのだろう。</p> <p>○ 調べたことを表にまとめ、前小単元のまとめの表と比べて気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どちらの地域の人々も、自然環境がもたらす被害に備えて生活をしている。 ・ どちらの地域の人々も、特徴的な自然環境を農業や観光業などの産業に生かしていた。 ・ どちらの地域の人々も、昔から自然環境に合わせて工夫して生活をしていた。 <p>○ 学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ 沖縄県の人々は、〇〇市が地形の特色を生かしていたのと同じように、夏の厳しい暑さや台風から暮らしを守る工夫をしたり、気候を農業や観光業などの産業に生かしたりするなど、沖縄県の気候に合わせた生活をしている。</p> </div>	<p>□ 調べたことを表に整理し、自然に備えた工夫と自然を生かした工夫に分類する。(別表参照)</p> <p>□ 前小単元のまとめの表と本時の表を比較しながら、自然環境と国民生活との関連について考えを深められるようにする。</p> <p>★ 表やノートの記述、発言から「地形に特色ある地域と気候に特色ある地域の生活の様子を比較したり、沖縄の自然条件と人々の生活とを関連付けたりしながら、自然環境と国民生活との関連を考えているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ ノートの記述や発言から「人々が気候に適応した生活をしていることを理解しているか」を評価する。 【知②】</p>

【第 6 時で作成する表の例】

学習したこと	自然と関係があること		
沖縄県の家の様子	・ <u>低く平らな屋根</u>	・ <u>屋上のタンク</u>	・ <u>白い壁</u> ・ <u>コンクリートづくり</u>
農業	・ <u>サトウキビ</u> ・ <u>ゴーヤー</u>	・ <u>電照菊</u> ・ <u>マンゴー</u>	・ <u>パイナップル</u> ・ <u>パッションフルーツ</u>
観光業	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>シュノーケリング</u> ・ <u>ダイビング</u> ・ <u>カヤック</u> ・ <u>沖縄県観光振興条例</u> 		
昔（琉球王国時代の人々）の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>琉球建築の伝統的な家</u> ・ <u>防風林</u> ・ <u>さんごの石垣</u> ・ <u>琉球王国時代の伝統的な服装</u> 		

自然に備えた工夫

自然を生かした工夫

小単元名	寒い土地の暮らし	配当 6時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	----------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の国土の様子と国民生活について、気候などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国の国土の様子と国民生活について、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。 ②調べたことを白地図や表、文などにまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	①気候などに着目して、問いを見だし、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。 ②特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	①我が国の国土の様子と国民生活について予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。ア(イ)には「(前略)人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること」と示され、具体的には、我が国には地形、気候などの自然条件から見て特色ある地域があること、人々は自然条件の中で工夫しながら生活していること、人々は自然条件を生かし産業を営んでいることを理解できるようにする。特色ある地域の生活の具体を理解するだけでなく、その環境に適応して人々が生活していることを理解できるようにする。
- ②内容(1)イ(イ)には「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること」と示されている。特色ある地域の人々の生活について、「人々の生活は、地形条件や気候条件とどのようなつながりがあるか。」などの問いを設けて調べさせるとよい。
- ③内容の取扱い(1)エに「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件(山地や低地など)や気候条件(温暖多雨や寒冷多雪など)から見て特色ある地域の中からそれぞれ一つ取り上げること(※括弧書きは筆者)と示されている。自分たちの地域の自然状況や子供の実態等を考慮しながら適切な事例を選択することが大切である。なお、本小単元では、気候条件から見て特色ある地域として「寒冷多雪」の地域を取り上げている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本小単元では事例地として北海道名寄市を取り上げる。旧風連町と合併前の旧名寄市は、平成元年に北海道から「利雪・親雪モデル都市」に指定され、同じ年に「名寄の冬を楽しく暮らす条例」を制定した。合併後の現在の名寄市でもこの条例は引き継がれ、寒冷多雪な気候を生かした様々な取組が行われている。利雪親雪という考えの基、行政と市民が一体となってまちづくりに取り組んでいる様子は、子供が気候条件と人々の生活を関連付けて考える手がかりとなる。また、本小単元では北海道の先住民族であるアイヌ民族の文化も取り上げる。その際は社会的象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせ、北海道の人々は昔から自然環境に適応して生活していたことにも気付かせたい。

氷点下30度のしばれ、青空に映えてきらきら輝く樹氷、厳寒の朝夕に姿を現すサンピラー、このような自然環境の中で、私たち名寄市民は真っ白い雪像がならぶ街並みをつくるなど、北国特有の生活と文化を創りだしてきました。

しかし、雪や寒さとの付き合いは、いまだ必ずしも十分とはいえません。私たちは「名寄の冬をもっと楽しく、より快適に暮らすこと」を願っています。

私たちは、一人ひとりの創意と工夫、責任と役割により、雪が多く寒い気候・風土に適した、名寄らしい魅力のある生活環境と文化の創造に努め、より快適で楽しく暮らせるまちづくりをすすめるために、この条例を制定します。

▲「名寄の冬を楽しく暮らす条例」前文(北海道名寄市ホームページより)

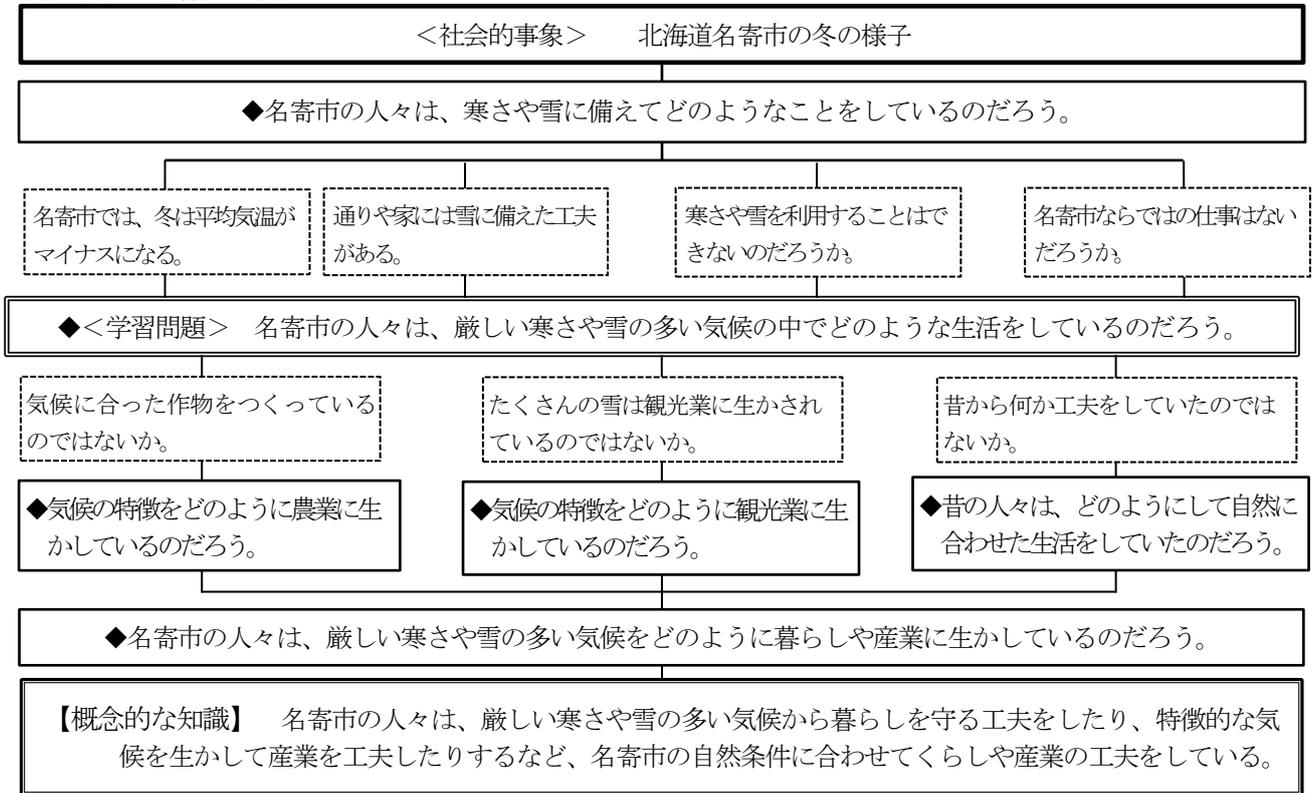
<http://www.city.nayoro.lg.jp>

②気候を生かした産業では、農業（アスパラガスの栽培）や観光業（雪質日本一フェスティバル）を取り上げる。社会的事象の見方・考え方（事象や人々の相互関連）を働かせ、アスパラガスの栽培が昼夜の寒暖差を生かして行われていることや、観光業に多雪という名寄市の気候の特徴を生かしていることに気付くことができるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、名寄市の気候の特徴を捉え、名寄市の人々が寒冷多雪な気候を克服するための工夫をしていることを調べる。その上で、地形の特色と人々の生活には関連があるという前小単元の学習内容を想起させ、子供に名寄市の人々の生活に着目させて学習問題をつくる。また、予想や学習計画を立てる場面でも、人々は地形の特色を農業や観光業に生かしているという前小単元の学習を生かすことで、子供が学習に対して見通しをもち、主体的に追究できるようにする。
- ②「しらべる」段階では、名寄市で行われている農業や「名寄の冬を楽しく暮らす条例」などの取組について、JA道北なよろのホームページ (<http://www.ja-douhokunayoro.or.jp>) や名寄市役所のホームページ (<http://www.city.nayoro.lg.jp>) を活用し、子供自らが資料を探したり選んだりして主体的に調べることができるようにする。
- ③「まとめる」段階では、学習問題を解決する際に、自然環境と国民生活との関連について、前小単元の事例地と名寄市の共通点を話し合う活動を取り入れる。活動を通して、人々は様々な自然環境に適応して生活していることを理解できるようにし、事例地以外の地域に対しても社会的事象の見方・考え方（事象や人々の相互関連）を働かせて考えられるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫～「つかむ」段階における「思考・判断・表現」の評価～

「つかむ」段階の第1時では、北海道名寄市の気候に着目をして、名寄市の人々の生活の様子について疑問を交流し合う活動を行う。その際のノートの記述や発言内容を基に、「思考・判断・表現」の観点から評価を行う。「冬の寒さが厳しく雪がたくさん降る中で、どのような仕事をしているのか。」「今のような技術もない昔、大雪の中で人々はどのように暮らしていたのか。」「雪が多いからスキーなどの観光業が盛んなのではないか。」「平均気温が低い中、どんな作物をつくっているのか。」など、年間の平均気温が低く、冬は雪が多いという名寄市の気候の特徴を正しく捉え、自分たちの地域の生活の様子と比べたり、現地の写真などから読み取ったことと関連付けたりして疑問を書くことができたら「おおむね満足できる」状況と評価できる。さらに、名寄市の気候の特徴から複数の疑問を記述したり、前小単元の学びを基に、気候を生かすという視点から疑問をもつことができたりしたら、「十分に満足できる」状況と評価できる。そして、それらの疑問を整理して「寒冷多雪」な気候の特徴と人々の暮らしを関連付けて追究する学習問題をつくる。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つか	①写真や気温と降水量のグラフの読み取りを通して、名寄市の人々の生活の様子について疑問をもつことができるようにする。	○名寄市の様子について写真を読み取る。 ・とても寒そうだ。 ・たくさん雪が積もっている。 ・お祭りや体育の授業にも雪が使われている。 ◆名寄市の人々は、寒さや雪に備えてどのようなことをしているのだろう。 ○気温と降水量のグラフ、市内や家の写真から名寄市の様子を読み取る。 ・冬は平均気温がマイナスになっている。 ・通りや家に雪に備えた工夫がある。 (二重窓、玄関フード、ストーブ、石油タンク、縦長の信号機、雪を流す溝(流雪溝)) ○疑問に思ったことや調べたいことを出し合う。 ・寒さや雪を利用することはできないのだろうか。 ・名寄市ならではの仕事はないだろうか。	◎なよろ雪質日本一フェスティバル 小学校のスキー授業(写真) □地図帳を基に名寄市の位置を確認する。 ◎名寄市と東京の気温と降水量 上川地方の無落雪の家 縦長の信号機 流雪溝(写真) □東京都との違いを確認する。 ☆ノートの記述や発言から「名寄市の気候に着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
む	②調べたいと思ったことを整理して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	○調べたいことを整理して学習問題をつくる。 名寄市の人々は、厳しい寒さや雪の多い気候の中でどのような生活をしているのだろう。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・気候に合った作物をつくっているのではないか。 →気候の特徴をどのように農業に生かしているのだろう。 ・たくさんの雪は観光業に生かされているのではないか。 →気候の特徴をどのように観光業に生かしているのだろう。 ・昔から何か工夫をしていたのではないか。 →昔の人々は、どのようにして自然に合わせた生活していたのだろう。	□カードに書かせ、整理する。 □前小単元の調べた視点を生かす。 ★ノートの記述や発言から「気候と人々の生活の関連について予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
つづける	③名寄市の農業について調べ、人々は、特徴的な気候を生かして農業を行っていることを理解できるようにする。	◆気候の特徴をどのように農業に生かしているのだろう。 ○名寄市の特産物について話し合う。 ・様々な農作物がつくられている。 ・特にアスパラガスが有名だ。 ○資料からアスパラガスづくりの仕事について調べる。 ・夏の昼夜の寒暖差を利用してつくっている。 ・最高気温と最低気温の差が大きいことで、おいしいアスパラガスをつくれる。 ○農家の方の話から、名寄市で農業を営む上での工夫や努力をまとめる。 ・気候の特徴を生かして農作物をつくっている。 ・気候の特徴は他の農作物づくりにも生かされている。	◎JA なよろ道北のホームページ ◎名寄市と東京都の気温 名寄市の畑の様子(写真)、作業表 ◎JA なよろ道北の方の話 □農業と自然条件を関連付けて考えさせる。 ☆ノートの記述や発言から「名寄市の農業について必要な情報を集め、読み取り、人々が気候に合わせた作物をつくっていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	④名寄市の観光業について調べ、人々は、特徴的な気候を生かして観光業を営んでいることを理解できるようにする。	◆気候の特徴をどのように観光業に生かしているのだろう。 ○名寄市で行われている気候を生かした取組を調べる。 ・冬に大きなお祭りがある。 ・雪を利用して国際雪像彫刻大会が開かれている。 ・スキーやカーリングなどウィンタースポーツが盛ん。 ○「名寄の冬を楽しく暮らす条例」を調べることを通して、気候とまちづくりとの関連について話し合う。 ・利雪親雪を掲げ、雪が多いことを長所と考えている。 ・雪を利用したまちづくりをしようとしている。 ・冬にも観光客に来てもらえるように、様々な工夫や努力をしている。	◎なよろ雪質日本一フェスティバル 国際雪像彫刻大会、スキージャンプ、カーリング(写真) ◎名寄の冬を楽しく暮らす条例 ◎名寄市役所のホームページ □自然条件だけではなく人々の工夫や努力にも着目させる。 ☆ノートの記述や発言から「名寄市の観光業や条例について必要な情報を集め、読み取り、人々が気候を生かしたまちづくりを進めていることを理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑤先住民族の暮らしの様子を調べ、アイヌの人々の生活と気候との関連や、伝統的な文化を引き継ぐ努力について考え表現できるようにする。</p>	<p>◆昔の人々は、どのようにして自然に合わせた生活をしてきたのだろう。</p> <p>○アイヌの人々の自然に合わせた生活について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約150年前に北海道という地名ができる以前から、名寄市には先住民族（アイヌの人々）が住んでいる。 ・アイヌの人々の家（チセ）も寒さを防ぐ工夫をしていた。 ・昔から外に出て活動する時も寒さを防ぎ、動きやすい服装をしていた。 ・自然のめぐみに対する感謝の気持ちを歌や踊りで表していた。 <p>○アイヌの方の話から、アイヌの人々の願いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々は、自分たちが受け継いできた文化のよさを多くの人に理解してもらおうと、文化を引き継ぐ努力をしている。 	<p>□先住民族という言葉を確認する。</p> <p>□1869年に北海道という地名ができる以前から、北海道にアイヌの人々が住んでいたことを確認する。</p> <p>◎アイヌの人々の伝統文化（衣服・食事・住居・踊りの写真）</p> <p>☆ノートの記述や発言から「アイヌの人々の生活と気候を関連付けて考えているか」を評価する。【思①】</p> <p>◎アイヌの方の話</p> <p>★ノートの記述や発言から「これまでの学習を振り返り、追究を深めようとしているか」を評価する。【態①】</p>
ま と め る	<p>⑥名寄市の人々の生活や産業の様子について、今まで調べてきたことを表にまとめて話し合い、学習問題について考え、気候と生活の関連について理解できるようにする。</p>	<p>◆名寄市の人々は、厳しい寒さや雪の多い気候をどのように暮らしや産業に生かしているのだろう。</p> <p>○調べたことを表にまとめ、前小単元のまとめの表と比べて気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらの地域の人々も、厳しい自然環境に備えて生活をしている。 ・どちらの地域の人々も、特徴的な自然環境を農業や観光業などの産業に生かしていた。 ・どちらの地域の人々も、昔から自然環境に合わせて工夫をして生活をしてきた。 <p>○学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・名寄市の人々は、〇〇市が地形の特色を生かしていたのと同じように、厳しい寒さから暮らしを守る工夫をしたり、気候を農業や観光業などの産業やまちづくりに生かしたりするなど、名寄市の気候に合わせて生活をしている。</p> </div>	<p>□調べたことを表に整理し、自然に備えた工夫と自然を生かした工夫に分類する。（別表参照）</p> <p>□前小単元のまとめの表と本時の表を比較しながら、自然環境と国民生活との関連について考えを深められるようにする。</p> <p>★表やノートの記述、発言から「地形に特色ある地域と気候に特色ある地域の生活の様子を比較したり、名寄市の自然条件と人々の生活とを関連付けたりしながら、自然環境と国民生活との関連を考えているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述や発言から「人々が気候に適応した生活をしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

【第6時で作成する表の例】

学習したこと	自然と関係があること
名寄市の家 市内の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>二重窓</u> ・<u>縦長の信号機</u> ・<u>玄関フード</u> ・<u>流雪溝</u> ・<u>ストーブ</u> ・<u>石油タンク</u>
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>アスパラガス</u> ・<u>かぼちゃ</u> ・<u>馬鈴薯</u> ・<u>もち米</u> ・<u>とうもろこし</u>
観光業	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>なよろ雪質日本一フェスティバル</u> ・<u>スキージャンプ、カーリング</u> ・<u>国際雪像彫刻大会</u> ・<u>名寄の冬を楽しく暮らす条例</u>
昔（アイヌの人々）の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>アイヌの人々の伝統的な衣服</u> ・<u>チセ</u>

自然に備えた工夫

自然を生かした工夫

小単元名	くらしを支える食料生産	配当 6時間	内容(2)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	-------------	--------	-----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の食料生産について、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の概要を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。	①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、食料生産の概要について考え、表現している。 ②食料生産と国民生活を関連付けて、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	①我が国の食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)ア(ア)(ウ)、イ(ア)に関する内容で構成したものであり、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分される。ここでは、「食料の生産地」を取り上げ、我が国では様々な食料を生産していること、それぞれの土地や気候を生かして食料の生産が営まれていることなど食料生産の概要について扱うことが示されている。
- ②我が国では様々な食料品を生産していること、それぞれの土地や気候を生かして食料の生産地が広がっていることなどを基に食料生産の概要を理解するとともに、食料生産は国民の食生活を支えていることや、食料の生産量は、国民生活と関連して変化していること、食料の中には外国から輸入しているものがあることなどを基に、我が国の食料生産の役割について理解することが示されている。

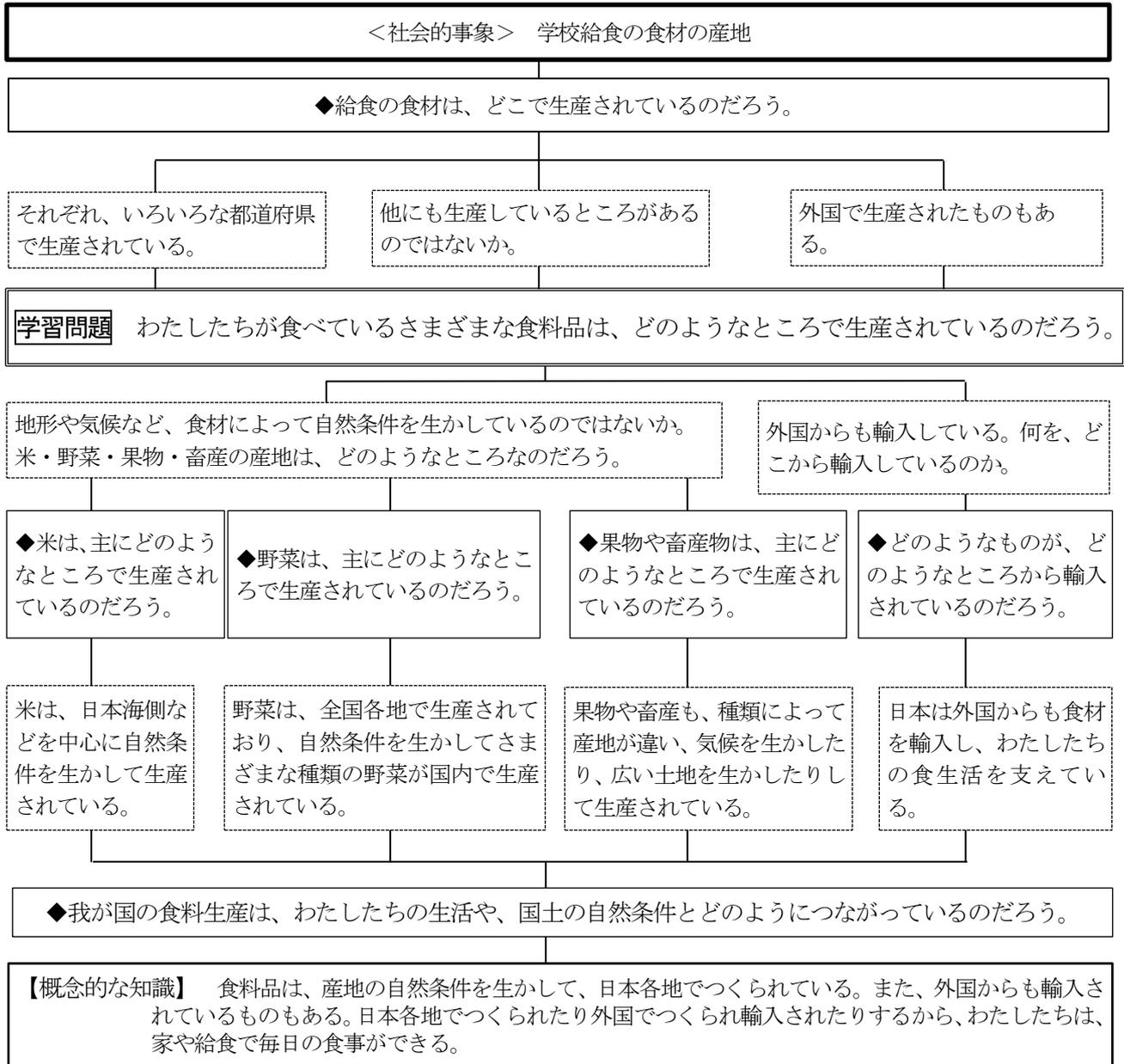
(2) 教材や資料の工夫

- ①子供が「我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれたり、国民の食料を確保する重要な役割を果たしたりしている」ことを理解できるように、食料の事例として、子供が身近に感じられる給食の献立のご飯と豚汁、果物について取り扱う。そして、主食である米や、副菜となる野菜、肉、果物などの食料品が、日本各地でそれぞれの地形や気候など、自然条件を生かして生産されていることを捉えられるようにする。合わせて、国内の主な生産地や輸入相手国の位置についても取り扱う。
- ②「生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して食料生産の概要を捉える」ために、統計資料や写真資料などを準備するとともに、地図帳や地球儀などを用いて調べるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「食料生産の概要を捉える」学習問題や「生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わり」に着目する問いを設定し、子供が主体的に追究できるようにする。
- ②生産物の分布や輸入など外国との関わりを捉えられるように、個人で白地図（日本地図・世界地図）に米・野菜・畜産物・果物のそれぞれについて、生産額の多い都道府県を調べ、順位ごとに色分けをしてまとめていく。そして、それぞれの地図を比べながら話し合い、学習問題について考えられるようにする。
- ③外国との関わりでは、我が国の日本の農産物の生産額の変化や食料自給率を調べる活動を通して、外国との関わりも総合して食料生産の概要を理解できるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「しらべる」段階では、生産物の種類ごとに主な産地を調べ白地図に整理し、その分布の特徴や傾向について理解できるようにする。具体的には、地図帳や資料を活用して個々に調べ、産地の位置や広がりから、気付いたことを書き込ませる。そして、それをグループやクラス全体で共有しながら理解を深めていく。その際、話し合いを通して加除修正をした部分は赤で書かせるようにしておく。このような活動を通して、一人一人の技能や理解の状況を的確に把握できるようにするとともに、全員がねらいとする知識を理解できるようにしていく。なお、個々に調べているときには、机間をまわりながら、子供の学びの状況を的確に捉え、資料の読み取り方を助言したり、地形や気候との関連を問いかけてたりするなど、個に応じた指導・支援を行っていく。

「まとめる」段階では、学習問題や食料生産と国民生活について考える場面で、「思考・判断・表現」の観点から評価をする。これまでに調べてきた白地図の情報を比較したり関連付けたりして、根拠や具体例を示しながら、食料生産と自然条件との関連や、食料生産と国民生活との関連について考えをまとめることができているならば、「おおむね満足できる」状況と捉えられる。しかし、学習問題だけでは国民生活との関連については意識しづらい子供もいると考えられるため、「食料生産は、わたしたちの生活とどのようにつながっているのだろう。」などの問いにより、学習問題について考えを深められるようにする。そして、最後に小単元の学習を振り返って分かったことや考えたことをまとめ、それを基に「知識・技能」を評価する。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①わたしたちが食べている給食食材の産地を調べ、学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	<p>○給食の献立の材料や種類ごとの産地について調べる。</p> <p>◆給食の食材の産地はどこなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食で食べているものは、いろいろなところから来ている。 <p>○給食で食べている材料の産地を調べ、地図に表し、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道でつくられているものが多い。 いろいろな県から食材が届いているが、地域ごとに特徴があるなど、何か秘密があるのではないか。 外国からも多くの食材が来ていることが分かる。 	<p>◎給食の献立表と食材の産地</p> <p>◎食材の生産額ランキング表</p> <p>◎日本の白地図</p> <p>□外国から輸入されているもの 食料品も取扱い、外国との関わりについても確認する。</p> <p>□これまで学習してきた国土の地形や気候の特色を想起させる。</p> <p>☆記述や発言から「生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、食料生産の概要について考え、表現しているか」を評価する。【思①】</p>
しるべ	②米の主な産地や地域の特色について調べ、理解できるようにする。	<p>○一人一人が持参した米袋の産地を調べる。</p> <p>◆米は、主にどのようなところで生産されているのだろう。</p> <p>○資料などから米の生産が盛んな地域を日本地図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> お米は日本の主食なので、日本全国で生産されているが、特に日本海側の方が米の生産が盛んだ。 <p>○米の生産が盛んな地域の土地や気候などの特色を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寒い地域に多いのは、自然条件を生かして生産しているからだ。 その土地の地形に合わせた生産方法を工夫している。 	<p>◎各自が持参した米袋</p> <p>◎米の生産額ランキング表</p> <p>◎日本の白地図</p> <p>□生産額によって白地図に塗る色を変え、まとめていく。</p> <p>☆記述や発言から「米の生産地の分布、生産量の変化などについて、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、米の生産の概要を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
る	③野菜の主な産地やその産地の特色について調べ、理解できるようにする。	<p>◆野菜は、主にどのようなところで生産されているのだろう。</p> <p>○資料などから野菜の生産が盛んな地域を日本地図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜によって産地が違う。 野菜とその地域の気候に関係がありそうだ。 <p>○野菜の生産が盛んな地域の土地や気候などの特色を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> お米と同じで自然条件を生かしている。 野菜は人口の都市部にすぐ届けられるように、都市部近くで生産している。 	<p>◎野菜(じゃがいも・ごぼう・にんじん・大根)の生産額ランキング表</p> <p>◎日本の白地図</p> <p>☆記述や発言から「野菜の種類や生産地の分布、生産量の変化などについて、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、野菜の生産の概要を理解しているか」を評価する。【知①】</p>

	<p>④果物や畜産物の主な産地やその産地の特色について調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆果物や畜産物は、主にどのようなところで生産されているのだろう。</p> <p>○資料などから果物や畜産物の生産が盛んな地域を日本地図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物と畜産物も野菜と同じでそれぞれ産地が違う。 ・スーパーマーケットに行くと、果物やお肉は外国産のものをよく見かける。 <p>○果物や畜産物の生産が盛んな地域の土地や気候などの特色を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物はその地域の気候によって、盛んな果物の種類が違う。 ・畜産は広い土地を生かした北海道や九州地方で盛んに行われている。 	<p>◎果物(りんご・みかん)、畜産物(豚肉)の生産額ランキング表</p> <p>◎日本の白地図</p> <p>☆記述や発言から「畜産物や果物の種類や生産地の分布、生産量の変化などについて、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、畜産物や果物の生産の概要を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤食料品の輸入など外国との関わりについて調べ、輸入が果たしている役割について理解できるようにする。</p>	<p>○資料などから日本の食料自給率の変化や輸入量について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は、自国産だけでなく、輸入をしている。 ・日本は食料全体に対する生産額の食料自給率が6.6%だが、カロリーを基準とした食料自給率だと38%だ。 <p>◆どのようなものが、どのようなところから輸入されているのだろう。</p> <p>○自給率が低い食品の輸入先について調べ、外国との関わりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな国から輸入されている。 ・小麦や大豆のように自給率が低い食品もある。 ・輸入先の国も自然条件が関係している。 ・食生活の変化が、食材の輸入量や自給率に影響をしている。 	<p>◎日本の農産物の生産額の変化</p> <p>◎品目別自給率の変化</p> <p>◎食料品別の輸入量の変化</p> <p>◎食料品輸入の世界別の生産額ランキング</p> <p>◎世界地図及び白地図</p> <p>◎食生活の変化</p> <p>□自給率の低い食品に焦点化して主な輸入先を調べる。</p> <p>☆記述や発言から「輸入など外国との関わりなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料の中には外国からの輸入に頼っているものがあることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>ま と め る</p>	<p>⑥調べてきたことを基に学習問題や国民生活との関連について考え、食料生産の概要や国民生活との関連を理解できるようにする。</p>	<p>◆我が国の食料生産は、わたしたちの生活や、国土の自然条件とどのようにつながっているのだろう。</p> <p>○今まで調べてきた日本地図や産地の特色を基に、共通点や相違点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食材によって、その地域の地形や気候を生かした生産方法がある。 ・日本は自国産だけでなく、外国からも食料品を輸入している。 <p>○我が国の食料生産と、わたしたち国民の生活とのつながりを考え、話し合う。</p> <p>○本時の問いに対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・わたしたちの食べている食料品の主な産地では、その土地の自然条件を生かしてつくられていることが分かった。また、外国から輸入されているものもあった。日本各地でつくられたり外国でつくられ輸入されたりするから、給食や家で毎日の食事ができる。</p> </div>	<p>◎これまでまとめてきた白地図等</p> <p>□白地図で調べたことを比較したり関連付けたりして、考えを深められるようにする。</p> <p>★記述や発言から「食料生産と国民生活とを関連付けて、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★記述や発言から「調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	米づくりのさかんな地域	配当 8時間	内容(2)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-------------	--------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の農業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、農業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、農業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして良質な農作物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、農業の発展について考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国の農業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、農業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、農業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして良質な農作物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して問いを見いだし、農業に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。 ②農業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて、農業に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に、これからの農業の発展について、消費者や生産者などの立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。	①我が国の農業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、農業の発展について、消費者と生産者の立場から多角的に考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)ア(イ)(ウ)イ(イ)に関する内容について、稲作を事例として取り上げて構成したものである。ここでは、農家だけでなく、農業協同組合、農業試験場、米の輸送に関わる人など、「食料生産に関わる人々」を取り上げ、様々な人々の工夫や努力、協力関係が食料生産を支える働きをしていることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(2)イに示された「これからの農業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、単元末の「つなぐ」段階で、子供が日本の農業の課題を把握した上で、消費者や生産者などの立場から多角的にこれからの農業の発展について考えをもつことができるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本小単元では、子供が「食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、食料生産を支えている」ことを理解できるように、事例地として、昔から米づくりが盛んで、耕地整理や品種改良を進め、食味ランキング特Aの米を長年輩出している庄内平野を取り上げる。
- ②統計資料などとともに、インターネットや聞き取り調査による情報なども活用しながら、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関連)を働かせて、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用に着目して食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉えられるようにする。
- ③子供が消費の減少や従事者の高齢化など農家の悩みや農業の課題を捉え、農業の未来に関心をもてるようにし、消費者と協力して行う共同栽培米の推進や、食料を生産・加工・販売する6次産業化による収入の増加や雇用の確保など、課題解決を目指した新たな取組を調べることを通して、消費者や生産者の立場から多角的に考え、農業の未来について一人一人が考えることができるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「まとめる」段階では、それまでに調べたことを説明し合い、学級で消費者、生産者、生産に関係する人々の取組を関連付けて考え、そのつながりや協力関係等を線で結んだり、キーワードを書き加えたりして関係図にまとめる。
- ②学習問題の結論をまとめる中で、農家の悩みや日本の農業の課題に気付かせ、日本の農業の未来を考えるために、「つなぐ」段階を設定する。課題解決に向けて、現在進行形で新たな取組を進めている人々をモデルにして多角的に考え、意見交換をする。

(4) 問いの構成の工夫

<社会的事象> 市販の米袋とお米の購買傾向

◆お米を買うとき、どのようにして選んでいるのだろう。

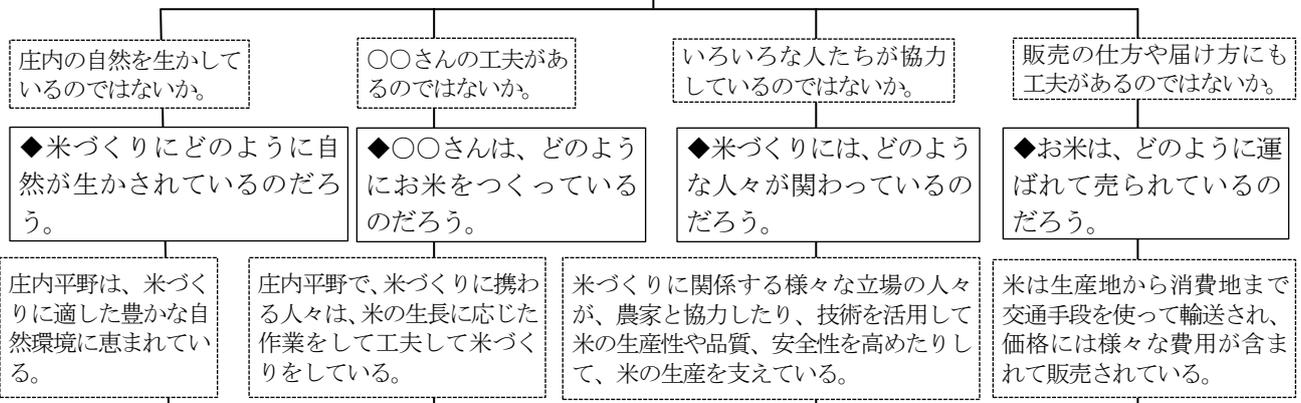
わたしたちは、価格や安全性などを基にお米を購入している。

<社会的事象> 庄内平野の水田の様子、庄内平野の農家の方

◆米づくりがさかんな庄内平野は、どのようなところなのだろう。



◆<学習問題> 庄内平野でおいしいお米をつくり続ける〇〇さんは、どのように米づくりをしているのだろう。



◆米の生産は、どのような工夫や努力によって支えられているのだろう。

【概念的な知識】米づくりのさかんな地域では、米づくりに関わる人々が、自然条件を生かしたり、高い技術を活用し生産性や品質を高めたり、輸送方法や販売方法を工夫したりして、我が国の主食である米を生産し、消費者に送り届ける働きをしている。

<社会的事象> 米づくりの課題解決に向けた新たな取組（法人化、6次産業化、共同開発米等）

◆米づくりをこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのだろう。

(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、毎時間の調べたことを整理しながら、米づくりに関わる人々の取組などを関係図にまとめていく。その際、米づくりに関わる人々の工夫や努力、相互の関係を考えたり、それらとその土地の自然環境や需要と関連付けて考えたりして、記号や言葉などを用いながら関係図に表現し、説明することができているか、「思考・判断・表現」の観点から評価する。効率的にまとめられるように、「調べる」段階では、毎時間のまとめや振り返りの活動を通して、分かったことや考えたことなどをノートに記述したり、付箋に書き残したりするよう指導する。また、作成した関係図を用いて、お互いに説明し合う活動を行い、それぞれが考えを深められるようにするとともに、その発言内容も評価に生かしていく。そして、その後、「米の生産は、どのような工夫や努力によって支えられているのだろう。」という問いに対する自分の考えをまとめ、その記述内容等から「知識・技能」について評価をする。

「つなぐ」段階では、米の生産における日本の現状を捉え、米を含めた農業全体の課題を把握し、その解決に現在進行形で取り組む事例を調べて、これからの農業において大切だと思うことを話し合う。その過程において、これまで学習したことを基に、よりよい農業のあり方について生産者や消費者などの立場から多角的に考えているか、「思考・判断・表現」の観点から評価する。そして、小単元の学習全体を振り返る中で、消費者の立場からこれからの農業にどのように関わっていくか考えようとしているか、「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価する。

3 小単元の指導計画（8時間扱い）

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①米づくりが盛んな庄内平野の様子から、米づくりに対する問いを見いだすことができるようにする。	◆お米を買うとき、どのようにして選んでいるのだろう。 ○お米を買うとき、何で選んでいるのか話し合う。 ・価格で安いもの。 ・安全な日本産のお米を買う。 ・おいしいお米を選んでいると言っていた。 ○食味ランキングと10a当たりの生産量から米作りの盛んな場所について調べる。 ・食味ランキング、生産量ともに山形県が入っている。 ◆米づくりが盛んな庄内平野は、どのようなところなのだろう。 ○庄内平野の様子について調べ、気付いたことや疑問、調べたいことを話し合う。 ・山に囲まれた広い低地、大きな川、広がる水田。 ・生産量が多いのは様々な工夫があるからではないか。	□事前に家庭で聞き取りを行わせておく。 ◎米の食味ランキング一覧 ◎10a当たりの生産量 ◎米の生産量の日本地図 ◎庄内平野と岡部さんの写真 ☆発言や記述から「我が国の稲作について、自然条件、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して問いを見だし、表現しているか」を評価する。 【思①】
	②調べたいと思ったことを整理して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	○調べたいことを分類して学習問題をつくる。 庄内平野でおいしいお米をつくり続ける○○さんは、どのように米づくりをしているのだろう。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・自然を生かしているのではないか。 ・○○さんの工夫があるのではないか。 ・一人では難しそう。いろいろな人の協力があるのでは ・届け方や販売の仕方にも工夫があるのではないか。	□カードに書かせて分類、整理する。 ★発言や記述から「我が国の稲作について、予想や学習計画を立て、追求の見通しをもっているか」を評価する。 【態①】
し ら べ る	③庄内平野の自然環境について調べ、豊かな自然を生かして米づくりが営まれていることを理解できるようにする。	◆米づくりにどのように自然が生かされているのだろう。 ○最上川の航空写真から庄内平野で米づくりに適した環境を見付け、話し合う。 ・広い平野に大きな川。地形条件が適している。 ・鳥海山には春でも雪が残っている。 ○気温・日照時間のグラフから、庄内平野の米づくりに適した条件について調べる。 ・夏の気温が高く、日照時間が長い。 ・防砂林、耕地整備など、人々の努力もある。	◎土地利用図と耕地面積の割合 ◎気温と日照時間の統計資料 ◎雪解け水に関する文章資料 □自然条件と関係付けさせる。 ☆発言や記述から「地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、庄内平野では、自然条件を生かして米づくりをしていることを理解しているか」を評価する。 【知①】
	④お米ができるまでの1年間の仕事を調べ、カレンダーにまとめ、米づくりの生産の工程について理解できるようにする。	◆岡部さんは、どのようにお米をつくられているのだろう。 ○米づくりの農家の1年間の主な仕事の流れを調べ、生産の工程や技術などについて話し合う。 ・土づくりや肥料の散布などいろいろな仕事がある。 ・田植え以外に苗づくりなども行っている。 ・水の管理はとても大切な作業。 ・米づくりは2年前の種もみ選りから始まる。 ・単に稲を育てるだけでなく、年間を通して様々な仕事がある。 ・いろいろな機械を使って仕事をしている。機械を使うと仕事の時間を短縮し、負担を減らすことができる。	◎稲の生長と稲作作業の写真 ◎作業を説明する岡部さんの話 □情報を整理しやすいようにワークシートを活用する。 ☆発言や記述から「地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、生産の工程、技術の向上などについて理解しているか」を評価する。 【知①】
	⑤機械の共同購入や耕地整理、品種改良などについて調べ、農家とJAや農業試験場などが協力して米づくりに取り組んでいる	◆米づくりに、どのような人々が関わっているのだろう。 ○機械の共同購入や耕地整理などの様子について調べ、農家が協力し合う理由を話し合う。 ・協力すれば費用や労力などの負担を減らせる。 ・耕地整理などを国や県が進めている。 ○農業協同組合や水田農業試験場などが、どのように農家の人たちを支えているか調べる。	◎農業機械の所有台数の変化、ヘリコプターでの農薬散布、○○さんの共同作業の話、耕地整理前後の写真、用水路や配水路の仕組み □JAなどにメールやFAXで聞き取り調査をする。 ☆発言や記述から「地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読

し ら べ る	<p>ことを理解できるようにする。</p> <p>⑥お米が生産地から消費者に届くまでを調べ、価格と費用の関係を理解できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・営農指導をして、病害虫などの予防をしている。 ・品種改良をして、おいしくて病気や寒さに強い米をつくっている。 <p>◆お米は、どのように運ばれて売られているのだろう。</p> <p>○カントリーエレベーターの中の様子や出荷までの流れを調べ、流れ図に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫→カントリーエレベーター→トラック→消費地 <p>○販売価格になるまでにかかる費用を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産費以外にも輸送費、宣伝費、人件費など、お店に届くまでに費用がかかる。 <p>○庄内平野で生産された米が消費者に届けられるまでの様子から、運輸の働きや経費と米の価格の関係について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運輸の働きも、私たちの豊かな食生活にとって欠かせない。 ・米の価格には、様々な費用が含まれている。 	<p>み取り、人々の協力関係、技術の向上などについて理解しているか」を評価する。【知①】</p> <p>◎カントリーエレベーター資料</p> <p>◎庄内平野から主な消費地までの経路が分かる日本地図</p> <p>◎米の価格に含まる費用</p> <p>□米の流れ図にまとめさせる</p> <p>☆発言や記述から「地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、人々の協力関係、輸送、価格や費用などについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑦調べたことを関連付けて関係図に整理し、米づくりに関わる人々の働きについて考え、農業に関わる人々の工夫や努力について理解できるようにする。</p>	<p>○調べたことをつなげて関係図にまとめて説明し、学習問題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全でおいしいお米をつくるために、様々な工夫をしている。 ・様々な人々が協力して米づくりを行っている。 <p>◆米の生産は、どのような工夫や努力によって支えられているのだろう。</p> <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・私たちが食べているお米は、米の生産や輸送に関わる人々が協力し、おいしく安全にたくさんつくる工夫や努力をして生産され、お店まで届けられて売られている。</p> </div> <p>○現在の米づくりの課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費量と生産量の減少、農業従事者の減少と高齢化。 	<p>□取組を関係図に整理し、互いに説明し合うことを通して、より確かなものとし、それを基に学習問題について話し合う。</p> <p>★関係図の記述や発言から「農業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて、農業に関わる人々の働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★記述や発言から「農業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして良質な農作物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>◎消費量と生産者人口の減少、農業従事者数と年代別従事者数の変化</p>
つ な ぐ	<p>⑧新しい米づくりの取組について調べ、立場を選択して農業の未来について考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆米づくりをこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのだろう。</p> <p>○米づくりに関わる人々や消費者の新たな取組を調べ、まとめて作成した関係図に加筆する。</p> <p>○関係図の中での立場を明確にして、米づくりが未来に続いていくための自分の考えをノートに書き、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者が質のよい米を選べば、農家の人たちがつくりたいと思うお米がつかれるようになり、元気が出ると思う。 	<p>◎共同経営や法人化、6次産業の取組、消費を増やす工夫、共同開発米の取組等の資料</p> <p>□資料に基づいて、立場を選択して考えさせる。</p> <p>★発言や記述から「学習したことを基に、これからの農業の発展について、消費者や生産者などの立場から多角的に考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★発言や記述から「学習したことを基に、消費者や生産者などの立場からこれからのよりよい農業のあり方を考えたり、消費者の立場から関わり方などを考えたりしようとしているか」を評価する。【態②】</p>

小単元名	水産業のさかんな地域	配当 8時間	内容(2)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	------------	--------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、水産業の発展について考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や地球儀、各種の資料などで調べ、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図表や文などにまとめ、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。</p>	<p>①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見だし、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。</p> <p>②水産業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に、これからの水産業の発展について、消費者や生産者などの立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。</p>	<p>①我が国の水産業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、これからの水産業の発展について、消費者と生産者の立場から多角的に考えようとしている。</p>

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)ア(イ)(ウ)イ(イ)に関する内容について、水産業を事例として取り上げて構成したものである。ここでは、漁師だけでなく、水産業に関連する漁業協同組合や水産試験場、食料輸送に携わる人など「食料生産に関わる人々」を取り上げ、様々な人々の協力関係が食料生産を支える働きをしていることを扱うことが示されている。なお、事例としては水産業のかわりに、野菜、果物、畜産物の生産を取り上げることもできる。
- ②内容の取扱(2)イに示された「これからの農業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、小単元末の「つなぐ」段階で、子供が日本のこれからの水産業の課題について、世界の国々と比較することを通して把握した上で、消費者や生産者などの立場から多角的にこれからの水産業の在り方についての考えをもつことができるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①子供が「食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、(中略)食料生産を支えている」ことを理解できるように、事例地として、本小単元では、かつお漁が盛んで、よりよい水産加工団地をみぞす漁港を中心に発展してきた静岡県焼津市を取り上げる。また、日本では多種多様な漁法が行われていることから、北海道根室市のさんま網漁を取り上げ、焼津市のかつおの一本釣り漁と比較しながら、漁法の利点や課題に対する工夫を捉えられるようにする。さらに、養殖業では、近畿大学のマグロの完全養殖、栽培漁業では、瀬戸内海の鱒を取り上げる。このように日本全国の事例地を取り上げることで、各地で水産業に関わる人々の工夫や努力がわたしたちの食生活を支えていることを理解できるようにする。
- ②「生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用に着目して食料生産に関わる人々の工夫や努力」について、子供が具体的に理解できるようにするために、インターネットによる映像資料を中心に取り上げる。また、統計資料などを準備するとともに、インターネットや聞き取り調査による情報を活用する。
- ③水産の発展を考える学習として、未来の水産資源や未来の寿司屋のシミュレーション映像、水産業の課題と出合わせて、世界の国々の解決策を日本と比較しながら調べる。水産資源の管理するためにTAC法(海洋生物資源の保存及び管理に関する法律)を定めていることや、海のエコラベルが付いた商品を購入するなどの購買行動をとることで、消費者も水産資源の保護に関わることができる。このような水産資源の保護、管理の取組を取り上げることを通して、水産業に関わる人たちは水産物を確保するだけでなく、持続可能な水産業を目指していることを捉えられるようにする。それを基に、一人一人が水産業の未来に関心をもてるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、給食の献立や主な国の国民一人あたりの年間魚介類消費量を調べることを通して、水産物は自分たちにとって、身近で食生活に欠かせないものであることに気付かせる。その上で、水産物の生産量の推移や水産業で働く人数の推移などの水産業における課題と出合わせることで、水産物を確保するための工夫や努力に着目させて学習問題をつくる。また、予想や学習計画を立てる場面でも、既習事項を生かすことで子供が学習に対して見通しをもち、主体的に追究できるようにする。

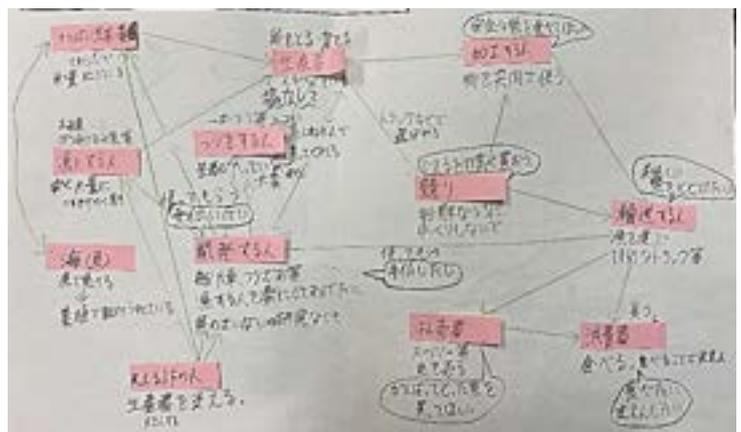
- ②「まとめる」段階では、学んだことを関連付けて総合し、漁師や養殖業、栽培漁業、加工業、輸送など水産業にかかわる人々の取組と消費者をつなげて関係図にまとめる。関係図にまとめることを通して、漁師や養殖業、栽培漁業、加工業、輸送など水産業にかかわる人々の工夫や努力、協力関係を捉え、その働きについて考えることができるようにする。
- ③「つなぐ」段階では、これからの水産業の課題になる社会的事象と出合わせ、その解決に向けた現在進行形の新たな取組について、世界の国々の取組と比較しながら調べ、消費者と生産者の両方の立場から意見を交換し合う活動を設定する。

(4) 問いの構成の工夫

<社会的事象> 日本付近の海流や漁港の様子			
◆わたしたちが食べている様々な水産物は、どこで獲れるのだろう。			
◆日本の水産業は、どのような様子なのだろう。			
<社会的事象> 生産量の変化、水産業従事者数の推移、水産資源の減少等			
漁師が高齢化し、どんどん減っている。	水産資源が減り、生産量も減っている。	どうやって魚を確保しているのだろう。	どのような工夫・努力をしているのだろう。
◆<学習問題> 水産業にかかわる人々は、水産物を確保するためにどのような工夫や努力をしているのだろう。			
魚の習性を利用して、工夫した獲り方を行っているのではないかも	水産資源のことを考え、魚や貝を育てているのではないかも	新鮮さを守るために工夫したり、加工したりして輸送しているのではないかも	
◆さんまやかつおの漁は、どのように行われているのだろう。	◆養殖業や栽培漁業は、どのように行われているのだろう。	◆港に水あげされた水産物は、どのようにわたしたちのもとに届くのだろう。	
◆わたしたちが食べる水産物は、どのような工夫や努力によって支えられているのだろう。			
【概念的な知識】 わたしたちが食べている水産物は、漁師や養殖業、栽培漁業、加工業、輸送などに関わる人々が協力し、水産資源を守ることに気を付けながら、様々な工夫や努力をして確保している。その働きによって、わたしたちは新鮮で安心な水産物を食べることができ、食生活は支えられている。			
<社会的事象> 今後の水産業の課題、世界の国々の取り組み			
◆水産業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのだろう。			

(5) 評価の工夫

①「まとめる」段階では、学習してきたことを生かして、漁師や養殖業、栽培漁業、加工業、輸送など水産業にかかわる人々の取組と消費者をつなげて関係図に整理し、説明し合ったり、問いについて話し合ったりする(右図参照)。その記述や発言の内容から「水産業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考え、適切に表現しているか」、「思考・判断・表現」の観点から評価する。実際には、それぞれの漁業における人々の取組を的確にまとめ、それらの共通点や国民の食生活とのつながり、自然条件とのつながりを具体的に記号や言葉で書き込むことができれば、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。



②「つなぐ」段階では、これからの水産業の深刻な課題である「水産資源の保護」を取り上げる。そして、その課題について世界の国々の取組を調べ、水産業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいか、消費者側と生産者側の立場から考え、話し合う。最初の記述や話し合いの内容において、「思考・判断・表現」の観点から評価する。その際、消費者と生産者双方の立場から多角的に考え、これまで学習したことや本時で調べた世界の取組などを根拠にして、具体的に自分の考えを述べていければ、「おおむね満足できる」状況と捉えられる。そして、その後自分の考えをまとめる際に、その記述等の内容から「態度」について評価する。

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①水産物とわたしたちの関わりや日本の主な漁港の水揚げ量を調べることを通して、水産物の生産地の分布について理解する。	<p>○生活の中で食べている水産物を発表し合ったり、給食で食べている水産物を調べたりする。</p> <p>・給食では、えびやツナ、出し汁などで水産物を食べている。</p> <p>○主な国の一人一年あたりの魚や貝の消費量を調べる。</p> <p>・日本は、他国に比べ、水産物を多く消費している。</p> <p>・自分たちは、結構水産物を食べている。</p> <p>◆わたしたちが食べている様々な水産物は、どこで獲れるのだろうか。</p> <p>○日本の主な漁港や養殖が盛んなところを調べる。</p> <p>・千葉の銚子港、静岡の焼津港の水揚げ量が多い。</p> <p>・鹿児島でぶりの養殖が行われている。</p> <p>○日本の近海で多くの魚が獲れる理由を調べる。</p> <p>・日本近海は、海流がぶつかることや大陸棚になっているので、たくさんの魚が獲れる。</p>	<p>◎魚や水産加工品の写真、給食献立表</p> <p>□水産物と自分を身近に感じられるようにする。</p> <p>◎主な国の国民一人あたりの年間魚介類消費量のグラフ</p> <p>□日本人は、他国と比較して水産物多く食べていることから「どこで獲っているのか。」と問いをもてるようにする。</p> <p>◎日本の主な漁港・養殖場が分かる地図、地図帳</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「日本の主な漁港や水産物の分布について理解しているか」を評価する。 【知①】</p>
	②日本の水産業の課題について調べることを通して、水産物の確保について話し合い、学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。	<p>◆日本の水産業は、どのような様子なのだろう。</p> <p>○水産物の生産量の推移や水産資源の減少の原因について調べる。</p> <p>・水産資源が減っているから生産量も減っている。</p> <p>・水産資源は、これまで魚を多く獲りすぎているからだ。</p> <p>○水産業で働く人数の推移を調べる。</p> <p>・漁師がどんどん減り、高齢化も起きている。</p> <p>○これまでの学習を生かして、日本の水産業について疑問や調べたいことを出し合う。</p> <p>・課題がある中で、どのようにして魚を確保しているのか。</p> <p>・漁師の方は、どのような工夫や努力をしているのか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>水産業にかかわる人々は、水産物を確保するためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。</p> </div> <p>○予想を話し合い、学習計画を立てる。(予想→問い)</p> <p>・どのように魚を獲っているのだろうか。</p> <p>・養殖業や栽培漁業は、どのように行われているのだろうか。</p> <p>・港に水あげされた水産物は、どのようにわたしたちのもとに届くのだろうか。</p>	<p>◎水産物の生産量の推移</p> <p>◎魚が減った理由(映像)</p> <p>□2つの資料を関連付けながら、水産資源が獲れなくなってきたことを捉えられるようにする。</p> <p>◎水産業で働く人数の推移</p> <p>◎前時のノート</p> <p>□水産業の抱える課題がある中で、どのように水産物を確保しているのかという問題意識をもてるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【思①】</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「我が国の水産業について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 【態①】</p>
し	③④さんまの網漁やかつおの一本釣り漁を調べることを通して、魚を獲るための工夫や努力について理解する。	<p>◆さんまやかつおの漁は、どのように行われているのだろうか。</p> <p>○さんまやかつおを獲るための工夫や努力について調べる。</p> <p>・さんまは、魚の習性を生かし、集魚灯を活用して網で大量に獲っている。</p> <p>・かつおは、漁師が一本釣りで獲って、素早く冷凍している。</p> <p>○網漁と一本釣りを比較し、消費者や生産者の立場から利点や課題について考え、話し合う。</p> <p>・網漁は大量に獲れ、漁師にとってはよいけれど、獲りすぎると食べられなくなる可能性がある。</p> <p>・一本釣りは手間がかかるが、獲る量は、考えて獲ることができる。消費者は、新鮮なものが食べられる。</p>	<p>◎さんま漁映像・さんま網漁イラスト</p> <p>◎さんま漁師の話</p> <p>◎かつお漁映像・漁協の人の話</p> <p>□網漁と一本釣りを比較しながら、消費者や生産者の立場で、経済面や環境面について多角的に考えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、魚の捕り方や技術の向上について理解しているか」を評価する。 【知①】</p>
べ	⑤養殖業や栽培漁業の仕組みを調べることを通して、水産業に携わる人々は様々な人と協力し、水産資源を増やすために工夫していることを理解する。	<p>◆養殖業や栽培漁業は、どのように行われているのだろうか。</p> <p>○瀬戸内海の鱈の栽培漁業や、近畿大学のマグロの完全養殖について調べる。</p> <p>・研究所の人が鱈の稚魚を育て、大きくなったら海に放している。それによって、獲れる量が少しずつ増えている。</p> <p>・大学の研究者が協力し、完全養殖できるようになった。</p> <p>○養殖業や栽培漁業の利点や課題について考え、話し合う。</p> <p>・安定して魚を獲れるから、いつでも食べることができる。</p> <p>・えさや育てる難しさがある。</p>	<p>◎鱈漁の映像、マグロ養殖業の映像</p> <p>◎養殖業や栽培漁業を行う人の話</p> <p>□養殖業や栽培漁業を行うために、研究者と漁師が協力していることを捉えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上について理解しているか」を評価する。 【知①】</p>

	<p>⑥港や輸送の働きについて調べることを通して、漁港で働く人や輸送に関わる人たちの品質を高める工夫や、水産物の値段と費用の関係について理解する。</p>	<p>◆港に水あげされた水産物は、どのようにわたしたちのもとに届くのだろう。</p> <p>○港の働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港ではせりを行い、値段を決めている。 ・漁港で働く人は、魚の鮮度を落とさないように工夫したり、水産加工施設で加工したりしている。 <p>○焼津港に水揚げされたカツオについて、その後の輸送経路や工夫について調べ、流れ図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度を保つために、温度を一定に保ちながら魚を輸送。 <p>○水産物の値段にはどのようなお金が含まれているか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港や輸送、販売店など関わった人たちのお金が含まれている。 	<p>◎水産加工施設資料</p> <p>◎せりの映像</p> <p>◎焼津港から主な消費地までの経路が分かる地図</p> <p>◎地図帳</p> <p>◎輸送の工夫についての文書資料</p> <p>□米づくりと同様に、様々な立場の人が関わることで経費がかかっていることを考えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
まとめる	<p>⑦調べたことを関連図に整理し、水産業に関わる人たちの果たす役割を考えることを通して、水産業に関わる人たちが我が国の食料生産を支えていることを理解する。</p>	<p>◆わたしたちが食べる水産物は、どのような工夫や努力によって支えられているのだろう。</p> <p>○これまで学習してきたことを関係図に整理し、水産業に関わる人々とわたしたちの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業に関わる人々の工夫や努力、協力があって、わたしたちの食生活は支えられている。 <p>○話し合いや関係図を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わたしたちが食べている水産物は、漁師や養殖業、栽培漁業、加工業、輸送などに関わる人々が協力し、水産資源を守ることに気を付けながら、様々な工夫や努力をして確保している。その働きによって、わたしたちは新鮮で安心な水産物を食べることができ、食生活は支えられている。</p> </div> <p>○学習問題に対する考えを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産資源は、これからどうなってしまうのだろう。 ・農業と違って、海は世界でつながっているから、日本だけでなく、世界の問題として考えていかなければいけない。 	<p>□これまで学習してきたことを関係図にまとめることで、米づくりと同様に、水産業においても様々な立場の人たちが関わっていることを捉えられるようにする。</p> <p>◎関係図</p> <p>★ノートの記述から「水産業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述や関係図から「水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つなぐ	<p>⑧水産業の今後の課題や世界の国々の取組を調べることを通して、消費者や生産者の立場からこれからの水産業の在り方について考え、話し合う。</p>	<p>○前時を振り返り、未来の水産資源や寿司屋について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来は、水産資源が獲れなくなり、寿司の値段がものすごく高くなっている。 <p>◆水産業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのだろう。</p> <p>○ノルウェーやイギリスの水産資源を守る取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノルウェーは過去の失敗を改善するため、漁獲制限している魚が約25種類もあり、厳しく制限されている。 ・世界のMSC認証の海のエコラベルの認知度は、かなり高い。 <p>○これまでの学習を基に、水産業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのか、消費者と生産者の立場から考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの水産業を安定的に続けていくためには、水産資源を減らさないことや、魚を増やしていく工夫や努力が必要になってくる。消費者はエコラベルなどを見て商品を選んでいくべきだ。なぜなら、日本の消費者は水産資源を減らさないように協力しようとする意識が低いから。また、生産者は水産資源をとり過ぎず、自然環境を守りながら魚をしていくべきだ。また、世界とも話し合い、水産資源を守っていかなければならない。 <p>○話し合いを基に、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者だけ、生産者だけが頑張るのではなく、お互いが協力し合って、水産資源を守っていくことが大切だ。まず、自分にできることは、現実を知っていくこと、水産業に関心をもち続け、多くの人と考えていくことだ。 	<p>◎未来の水産資源資料</p> <p>出典：テレ朝番組『ガイアの夜明け』映像</p> <p>◎未来の寿司屋の映像</p> <p>出典：テレ朝番組『ガイアの夜明け』映像</p> <p>◎ノルウェー昔と今の資料</p> <p>出典：https://diamond.jp/articles/160040?page=3</p> <p>◎海のエコラベルの認知度調査</p> <p>出典：https://prtimes.jp/main/html/rd/p000000016.000059178.html</p> <p>□他国の水産資源保護に対する消費者と生産者の意識を比較することで、日本も意識を変える必要性を捉えられるようにする。</p> <p>□これまでの学習を振り返り、米づくりとの比較を通して、水産業の在り方について考えられるようにする。</p> <p>□消費者と生産者の立場の両面から多角的に水産業について考えるようにする。</p> <p>★記述や発言から「学習したことを基に、これからの水産業の発展について、消費者や生産者の立場から多角的に考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述から「学習したことを基に、これからの水産業の発展について、消費者と生産者の立場から多角的に考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

小単元名	日本の工業生産と工業地域の特色	配当 6時間	内容(3)アの(ア)及び(エ)とイの(ア)
------	-----------------	--------	-----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の工業生産について、工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業製品の概要を理解している。	①工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、問いを見だし、工業製品の概要について考え、表現している。	①我が国の工業生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図、図表や文などにまとめ、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。	②工業製品と国民生活を関連付けて、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元では、内容(3)ア(ア)(エ)イ(ア)に基づいて構成された小単元である。「我が国では様々な工業生産が行われていることや、国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。」と記述されるなど、工業の種類や工業の盛んな地域のみを学習するのではなく、盛んな工業や工場の規模、工業製品の改良なども含めて工業の概要を捉え、工業製品が国民生活の向上に重要な役割を果たしていることや、工業生産が国民生活を支えていることを理解できるようにする。
- ②「工業生産が国民生活に果たす役割」を考えることについては、我が国の工業の種類や生産額、工業の盛んな地域の分布などの情報を総合したり、工業製品の改良と国民生活の向上とを関連付けたりするなど、空間的な広がりや時間的な経過、比較・関連・総合などの社会的事象の見方・考え方を働かせることができるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

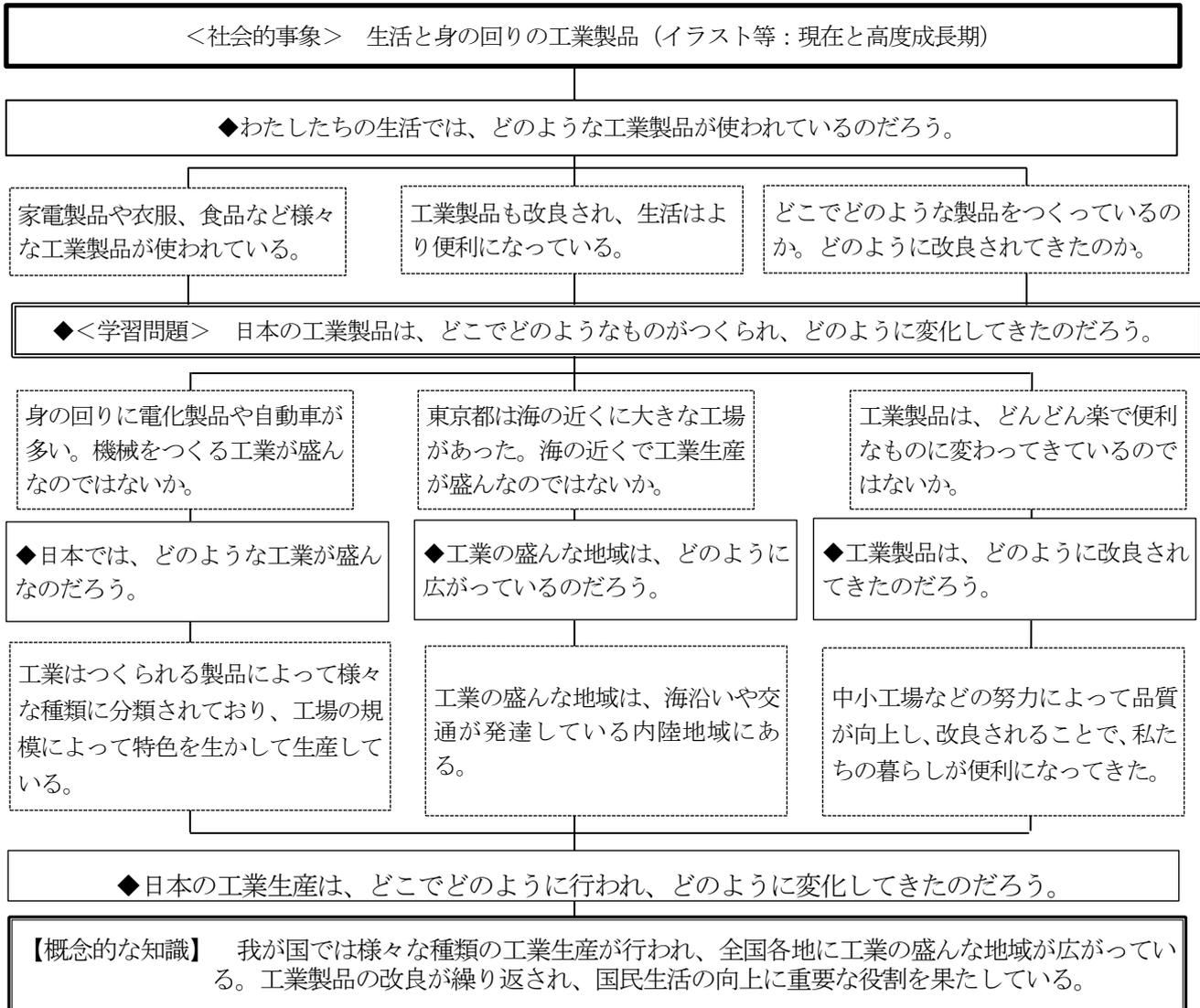
- ①子供が「我が国では様々な工業生産が行われ、工業の盛んな地域が広がっていること」を理解できるようにするため、「工業の種類や生産別生産額、工場の規模別数や割合(グラフ)」「工業地帯や主な工業地域の分布(地図)」を資料として活用する。その際、新たな用語・語句については、しっかりと確認をする。また、「工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていること」を理解できるようにするため、子供にとっても身近で、変化の様子が捉えやすく、工業の種類にも気付くように「自動車、テレビ、炊飯器、掃除機、電話機、食品、衣服など」を取り上げて、その改良の経過を資料として活用する。
- ②「我が国の工業生産が国民生活に果たす役割」について考えるために、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、比較)を働かせて、身の回りの工業製品の改良の経過に着目して調べることで、工業製品の改良と国民生活が向上してきたことを関連付けて考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①身の回りにたくさんの工業製品があり、それにより便利な生活ができていることから、工業生産の様子に関心を高め、工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良に着目しながら学習問題をつくるようにする。そして、既習内容や資料を基に予想し、調べる問いを設定して、子供が主体的に追究できるようにする。
- ②工業製品の改良については、身近な生活で使う工業製品(自動車、テレビ、炊飯器、掃除機、電話機など)を取り上げ、一人一人が選択して調べる。調べたことを共有することで工業製品の改良による利便性の向上に気付き、国民生活との関連について話し合い、国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。

③「まとめる」段階では、調べたことを説明し合い、学級で白地図などに工業の種類や盛んな地域をまとめたものをグループで整理し、我が国の工業生産が国民生活に果たす役割について話し合い、学習問題に対する自分の考えを書くようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「しらべる」段階では、各種資料を用いて工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良について調べる。内容的に円グラフや帯グラフ、棒グラフなどの統計資料を活用して調べることが多い。単に数値を読み取るだけでなく、全体的な変化や傾向、割合などを捉えたり、それらに関連付けたりして読み取る技能がポイントになる。資料の読み取り方について十分に指導するとともに、資料から読み取ったことや考えたことをノートに記述させるなどして、子供の状況を的確に把握し、それに応じた指導・支援を行っていくことが大切である。その上で、気付いたことを話し合うことによって、的確に資料を読み取り、事実を捉え、工業生産の概要を理解できるようにしていく。

「まとめる」段階では、これまでに調べてきたことを白地図に整理し、学習問題に対して考え、「工業製品と国民生活との関わり」についてまとめる。第4時でまとめた工業地帯の白地図に、盛んな工業、工場の規模、その改良の様子を書き加えていくことで、調べたことを関連付けながら根拠や理由を明確にして考え、まとめられるようにする。それを基にグループや学級で話し合い、考えを深めていく。その記述や発言の内容から「工業製品と国民生活を関連付けて、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現しているか」(思考・判断・表現)を評価する。そして、その話し合いを通して、本時の問いについて、自分の言葉でまとめるようにする。その記述内容等から工業地帯の広がりや、工業生産の役割について理解することができたか「知識・技能」の状況について評価する。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ	①身の回りの工業製品や工業製品の移り変わり、工業の種類等について調べ、学習問題をつくることができるようにする。	<p>◆わたしたちの生活では、どのような工業製品が使われているのだろう。</p> <p>○身の回りの工業製品について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家電製品や衣服、食品など様々な工業製品が使われている。 ・工場の機械など産業にも生かされている。 ・生活になくてはならないものばかりだ。 <p>○高度経済成長期と現在の工業製品を比較し、工業製品や、それに伴うくらしの変化について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業製品は昔に比べてすごく便利になっている。 ・生活も、以前より便利になっている。 <p>○米づくりや水産業の盛んな地域の特色を振り返り、疑問を出し合い、工業生産についての学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の生産地は東北地方に多いが、工業はどの地域が盛んなのだろう。 ・工業製品はどのように変化してきたのだろう。 ・どこでどのようなものがつくられているのだろう。 	<p>□工業製品の意味を確認する。</p> <p>◎生活の中にある工業製品(イラスト等)、産業の中で生かされている工業製品、</p> <p>□イラストを基に、身の回りの工業製品を探し、その種類や生産の様子、くらしとの関連について関心を高める。</p> <p>◎高度経済成長期のくらしの様子(イラスト等)</p> <p>□工業製品とくらしの変化を関連付けて考えられるようにする。</p> <p>□食料生産の学習を想起させ、その学びを生かして問いを見いだせるようにする。</p> <p>☆記述や発言から「工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、問いを見だし、工業製品の概要について考え、表現しているか」を評価する。【思①】</p>
か	②学習問題に対する予想や学習計画を立てることができるようにする。	<p>○身近な工業製品の生産地を調べたり、既習内容を振り返ったりしながら、予想を出し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りに電化製品や自動車が多い。機械をつくる工業が盛んなのではないか。 →日本では、どのような工業が盛んなのだろう。 ・東京都は海の近くに大きな工場があった。海の近くで工業生産が盛んなのではないか。 →工業の盛んな地域は、どのように広がっているのだろう。 ・工業製品は、どんどん楽で便利なものになってきているのではないか。 →工業製品は、どのように改良されてきたのだろう。 	<p>◎工場の外観(大工場、中小工場の写真)、地図帳、既習の資料等</p> <p>□身の回りの工業製品について、シールや箱の表示などから生産場所を調べる。</p> <p>□工場の外観なども示しながら、立地条件等について話し合う。</p> <p>□3、4年の学習や、国土の特色、これまでの産業の学習を根拠にしながら予想させ、学習計画を整理する。</p> <p>★記述や発言から「我が国の工業生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして追究の見通しをもっているか」を評価する【態①】</p>
む	③工業の種類について調べ、我が国で盛んな工業や、工場の規模の様子などを理解できるようにする。	<p>◆日本では、どのような工業が盛んなのだろう。</p> <p>○資料から工業の種類や種類別生産額について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械、化学、金属、食料品、繊維、その他 ・日本は機械工業の生産額の割合が多い。 ・生産額の総額は約322兆円と大きい額。 <p>○工場の規模について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大工場と中小工場の割合、生産額、製品等。 	<p>◎工業の種類や種類別生産額</p> <p>□第1時で調べた製品を種類別に分類する。</p> <p>◎工場の規模別数や割合、工場の製品</p> <p>□調べた事実を関連付けながら、日本の工業の特色について話し合わせる。</p>

し ら べ る		<p>○工業生産の特色を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業全体では年々、生産額の割合が増えている。 ・工場の規模によって役割がある。 ・工業生産は、わたしたちの生活で使う物をたくさん生産している。 	<p>☆記述や発言から「工業の種類などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、盛んな工業や工場の規模の様子などを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>④工業の盛んな地域について調べ、国土には工業の盛んな地域が広がっていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆工業の盛んな地域は、どのように広がっているのだろう。</p> <p>○工業地帯や工業地域の分布や盛んな工業について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業の盛んな地域は、海沿いや交通が発達している内陸地域にある。 ・内陸の工場では、トラックや貨物列車などの輸送手段を用いて製品を届けている。 ・工業地帯によって盛んな工業の特色がある。 <p>○工業の盛んな地域の広がりや位置などの特徴について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方南部から九州地方北部までの海沿いに、太平洋ベルトと呼ばれる工業が盛んな地域がある。 ・海沿いは原料や製品の輸送や荷物の積み下ろしなどに都合がよい。 ・輸送費や、製品をつくるための条件に合わせて、工業の盛んな地域が広がっていった。 	<p>◎工業の盛んな地域（地図） ◎工業の種類別の生産額の割合 □工業の盛んな地域を白地図にまとめながら、その分布や広がりをつまみさせる。</p> <p>□話し合う際、地理的な特徴に目を向けられるようにする。</p> <p>☆記述や発言から「工業の盛んな地域の分布などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、全国に工業の盛んな地域が広がっていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤工業製品の改良について調べ、工業製品の改良が国民生活の向上につながっていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆工業製品は、どのように改良されてきたのだろう。</p> <p>○工業製品の普及や工業製品ごとの改良の経過について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小工場などの努力によって品質が向上し、多くの工業製品が使われるようになった。 ・自分のたちの生活に合わせて、より便利な製品が生み出されている。 <p>○工業製品の改良と国民生活の関連について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業製品が改良されてくるにつれて、私たちの暮らしが便利になってきた。 	<p>◎工業製品の普及率の変化、改良の経過（自動車、テレビ、炊飯器など） □一人一人が工業製品を選択して調べ共有することで、工業製品の改良による利便性の向上に気付かせる。</p> <p>☆記述や発言から「工業製品の改良などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業製品が改良され国民生活も向上してきたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑥調べたことを地図に整理し、学習問題について考え、我が国の工業生産の概要や役割を理解できるようにする。</p>	<p>◆日本の工業生産は、どこでどのように行われ、どのように変化してきたのだろう。</p> <p>○調べたことを白地図に整理し、我が国の工業生産の特色や国民生活に果たす役割について議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋ベルトを中心に日本の工業は発達し、生産額も年々増えている。 ・時代に応じた製品や、暮らしをより豊かにしてくれる製品が生み出されてきた。 <p>○学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・我が国では様々な種類の工業生産が行われ、全国各地に工業の盛んな地域が広がっている。工業製品の改良が繰り返され、国民生活の向上に重要な役割を果たしている。</p> </div>	<p>□我が国の工業生産の特色や工業生産が国民生活に果たす役割について、調べたことを基に根拠を明確にして議論ができるようにする。</p> <p>★記述や発言から「工業製品と国民生活を関連付けて、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現しているか」を評価する【思②】</p> <p>★記述や発言から「調べたことを白地図、図表や文などにまとめ、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること、工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する【知②】</p>

小単元名	自動車をつくる工業	配当 8時間	内容(3)アの(イ)及び(エ)とイの(イ)
------	-----------	--------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の自動車工業について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、自動車工業に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、工業の発展について考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、工業生産に関わる人々の工夫や努力について理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解している。	①製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて着目して、問いを見だし、工業生産に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。 ②工業生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、工業生産に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に、これからの工業の発展について、消費者や生産者の立場などから多角的に考えたりして、適切に表現している。	①我が国の自動車工業の生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、これからの工業の発展について、消費者や生産者の立場から多角的に考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(3)「我が国の工業生産」ア(イ)(エ)イ(イ)に関する内容で構成した小単元である。内容の取扱い(3)アで、事例として、金属工業、機械工業、化学工業、食料品工業などの中から一つを取り上げることが示されている。本指導計画においては、工業生産額で最も高い割合を占める機械工業の中から、我が国の基幹工業でもある自動車工業を事例として取り上げている。それとともに、第3学年の「地域に見られる生産や販売の仕事」とのねらいの違いを意識して、我が国の工業生産についての理解を深めることが求められている。
- ②内容の取扱い(3)イに示された「工業の発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。」については、小単元末の「つなぐ」段階で、日本の工業が果たす役割について考え、消費者や生産者の立場などから多角的に考え、これからの工業の発展について、子供一人一人が考えをもてるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、「工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えている」ことを理解できるようにする。事例地として、本小単元では、世界からも高い評価を受け、自動車生産台数が日本一である愛知県豊田市を取り上げる。
- ②小単元の導入で、モザンビークを走る日本車の写真と世界での販売台数に関する資料を提示する。子供たちは遠い国で日本車が走っていることや、世界の多くの国で日本車が売られていることを捉え、世界からの日本車への評価や、世界で多くの日本車が売られていることについて興味・関心を高め、問題意識をもてるようにする。

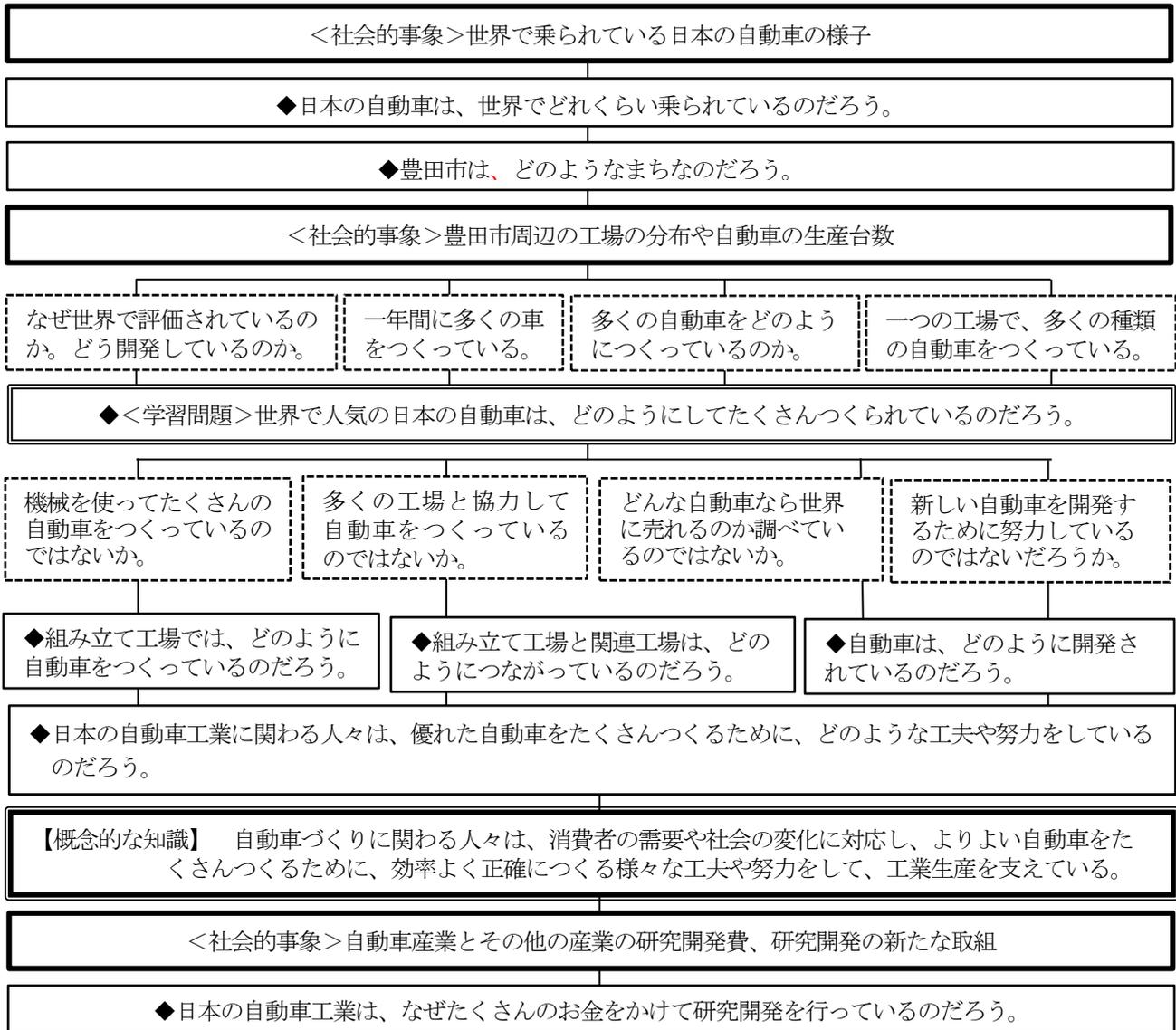
(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①本小単元では、「つかむ」段階で、日本の自動車工業と世界とのつながりを実感できるよう、世界から見た日本の自動車への評価や、世界各国での販売台数など広い視野で日本の自動車工業について学習し、日本の工業生産について捉える学習問題をつくる。そのために、海外で日本車が乗られている様子(画像や映像)や、世界の自動車の販売台数の変化、日本車の販売台数を示した世界地図などを活用し、子供たちが、なぜ日本の自動車が遠い国でも使われているのか問題意識を持ち、日本の自動車の優れている点や、自動車工業に携わる人々の工夫や努力について問いを見いだせるようにする。
- ②「まとめる」段階で学習問題に対する自分の考えをまとめる際に、調べたことを関連図に整理する。調べてきたことの相互の関連を捉え、どんな意味や働きがあるのかを考えて作成することで、自動車工業に関わる様々な人々の工夫や努力によって、消費者や社会の願いが実現され、国民の生活が支えられていることを理解できるようにする。
- ③「つなぐ」段階で、研究や開発など自動車工業に携わる人々の弛まない努力によって、生活に欠かせない自動車の性能が向上し、生活が豊かになっていることを捉えさせる。そのために、人々の安全や利便性など、消費者や社会の願いに対する自動車工業に関わる人々の新たな取組を取り上げ、自動車工業の発展について多角的に考えることができるようにする。

<第1時のノート>より

こんなにも日本車が売られていてびっくりしました。これは、質が良いことが世界中に知られているからかもしれないと思いました。この質の良さはどのようなつくり方からきているのか知りたいです。

(4) 問いの構成の工夫

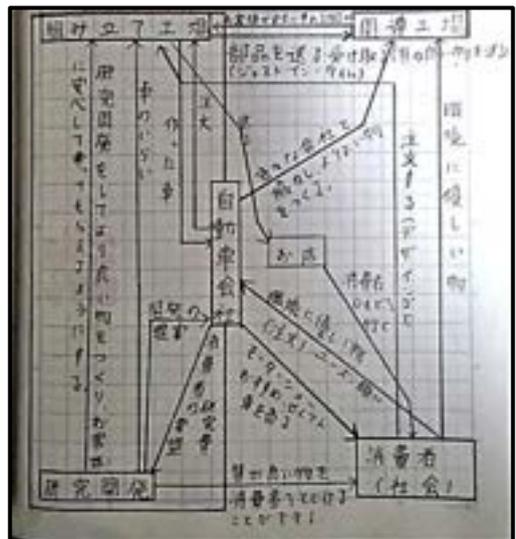


(5) 評価の工夫～「まとめる」段階における評価の工夫と評価の実際～

「まとめる」段階の第7時では、これまで調べたことを基に関連図を作成する。その記述や説明の内容から「工業生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付け、工業生産に関わる人々の働きを考え表現しているか」(思考・判断・表現)を評価する。そのために、「(4) 問いの構成の工夫」にあるように、学習問題について考えるための問いを投げかける。この関連図には学習してきたことが整理され、それぞれの相互の関連に対する子供の考えが表現される。具体的には、「組み立て工場の製造工程」「関連工場の部品生産の工程」「関連工場と組み立て工場との協力関係」「自動車開発」についての相互の関連である。

実際の評価については、学習したことを基に役割や働き、工夫や努力について考えられているか、記号や書き込まれた言葉を丁寧に読み取りながら、一人一人の子供の考えを的確に捉えていくことが大切である。その際、必要であれば子供に問いかけ、説明を求めるなどの手だてを講じることが大切である。そして、根拠や理由を明確にして、学習してきたことが相互に関連していることが分かるように記述されているか、を評価する。

関連図の例▶



具体的には、関連工場の計画的、効率的な部品生産と組み立て工場との結び付きなど、工場相互の協力関係のような仕組みや工夫・努力について記述されていれば、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。更に、消費者の需要や社会の変化に視野を広げ、国民生活の向上についても記述されていれば、「十分満足できる」状況と評価することができる。

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①日本の自動車は世界の中でも販売台数が多く、世界の様々な国で乗られていることを理解できるようにする。	○どのようなときに自動車に乗っているのかを話し合う。 ○どうして日本の自動車がモザンビークで使われているのかを考える。 ○モザンビーク以外の国では、日本の自動車がどれくらい使われているのか予想する。 ◆日本の自動車は、世界でどれくらい乗られているのだろう。 ○日本の自動車は、世界で(モザンビーク以外の国で)どれくらい売られているのか調べる。	◎海外で走る日本車(写真)、世界各国で最も売られている自動車ブランド、世界の自動車の販売台数の変化、日本車の販売台数 □日本車が外国で高い評価を受けていることから、我が国の自動車工業への関心を高める。 ☆ノートなどの記述から「必要な情報を読み取り、日本の自動車の販売台数や世界の様々な国で乗られていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	②豊田市の自動車工場につくられている自動車の生産台数を基に、学習問題をつくらることができるようにする。	◆豊田市は、どのようなまちなのだろう。 ○豊田市は、どのようなまちなのか調べる。 ・たくさんの自動車工場が集まっている。 ・豊田市の多くの人が自動車に関する仕事をしている。 ○トヨタ堤工場について調べる。 ・一年間に多くの車を生産。一日当たり1020台。 ・一つの工場で、多くの種類の自動車をつくっている。 ○日本の自動車に関して、疑問や考えを出し合い、学習問題をつくる。 ・世界で評価の高い自動車をどのようにつくっているか。 ・多くの自動車をどのようにつくっているのか。 一つの工場で全てつくれるのか。 ・評価が高い自動車をどのように開発しているのか。 どこかで研究をしているのでは… <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">世界で人気の日本の自動車は、どのようにしてたくさんつくられているのだろう。</div>	◎豊田市周辺の主な工場等 □工場の分布に着目できるように、豊田市の地図上で場所を示す。 ◎トヨタ堤工場の概要 □日本の自動車の優れている点に着目できるように、世界での販売や、生産台数に関する資料を示す。 ☆ノートなどの記述から「日本の自動車生産について、生産台数や販売台数、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	③学習問題に対する予想や学習計画を立てることができるようにする。	○学習問題に対して予想をする。 ・多くの工場と協力して自動車をつくっている。 ・機械を使ってたくさん自動車をつくっている。 ・どんな自動車なら世界に売れるのか調べている。 ・新しい自動車を開発するために努力している。 ○予想を整理して、学習計画を立てる。 ・自動車をたくさんつくる工夫(生産の工程)。 ・関連工場と協力して自動車をつくる工夫(関連工場との連携)。 ・評価の高い自動車をつくらることができる工夫(研究開発)。	□製造の工程、関連工場、研究開発の視点で整理して、学習計画を立てる。 ★ノートなどの記述から「学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	④組み立て工場の生産の様子について調べ、自動車工場の生産における工夫や努力について理解できるようにする。	◆組み立て工場では、どのように自動車をつくっているのだろう。 ○自動車工場での生産の工程を調べ、働く人がどのようなことを考え、生産しているか話し合う。 ・ラインごとに組み立てを行い、異常があったときにすぐに解決している(呼び出しボタン、アンドンなど)。 ・人とロボットが作業を分担して、効率よくつくっている。 ・機械を使い、同じ動作の作業や、大きい部品や重い部品を取り付ける作業を行っている。 ・ドアを外して作業を行ったり、作業者の負担を減らすようにしている(らくらくシート)。 ・作業の負担軽減や効率化を図る工程が考えられている。	◎自動車工場の生産工程、工場働く人の話 □製造の工程や優れた技術に着目できるように、作業手順ごとに捉えさせ、働く人の作業や願いについて考えさせる。 □働く人の話から、作業の効率化や正確さの工夫に気付かせる。 ☆ノートなどの記述から「必要な情報を集め、読み取り、製造の工程や生産に関わる人々の工夫や努力について理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑤関連工場の部品生産の工夫や努力、自動車工場とのつながりについて理解できるようにする。</p>	<p>◆組み立て工場と関連工場は、どのようにつながっているのだろう。</p> <p>○関連工場の数や位置について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車工場のまわりに関連工場がある。 ・関連工場で自動車の部品がつくられているのではないかな。 <p>○関連工場では、どのような部品を製造し、どんなことに気を付けて自動車工場に運んでいるのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約3万個もの部品を、関連工場で作っている。 ・すぐに部品を届けられることができるように、関連工場は自動車工場の近くにある。 <p>○自動車工場と関連工場の役割や特徴、関係について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い技術で、正確に細かな部品を生産している。 ・関連工場と役割分担し、品質の高い自動車を生産している。 	<p>◎専用の部品をつくる人の話</p> <p>◎自動車工場と関連工場のつながり</p> <p>□工場相互の協力に着目できるように、関連工場と組み立て工場の取組について矢印でつないだり図に表したりして、関係や互いの役割について考えられるようにする。</p> <p>☆ノートなどの記述から「必要な情報を集め、読み取り、関連工場の部品生産の工程や、組み立て工場との協力関係について理解しているか」を評価する。 【知①】</p>
	<p>⑥自動車開発の様子について調べ、消費者や社会のニーズとのつながりについて理解できるようにする。</p>	<p>○研究開発の変遷を手がかりにして、本時の問いをつかむ。</p> <p>◆自動車は、どのように開発されているのだろう。</p> <p>○自動車の研究開発の取組について調べ、開発者の思いや願いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料電池自動車や電気自動車など、環境に配慮された自動車がつくられている。 ・誰もが安全で安心して走ることができる自動車がつくられている。 ・消費者のニーズや社会の課題を解決するために、世界の中でも高い性能の自動車を研究開発している。 	<p>◎自動車のCM（映像、パンフレット）</p> <p>◎研究開発の取組や研究開発費等</p> <p>□優れた技術に着目できるように、消費者や社会のニーズに応えるために行っている、自動車づくりに携わる人々の工夫や努力について考えさせる。</p> <p>☆ノートなどの記述から「必要な情報を集め、読み取り、消費者や社会のニーズに合わせた自動車開発などの優れた技術について理解しているか」を評価する。 【知①】</p>
<p>ま と め る</p>	<p>⑦調べたことについて関連図に整理し、学習問題について考え、工業生産を支える人々の働きを理解できるようにする。</p>	<p>◆日本の自動車工業に関わる人々は、優れた自動車をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしているのだろう。</p> <p>○調べて分かったことや考えたことを関連図にまとめ説明し合う。</p> <p>○相互の関係について話し合い、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本の自動車工業は、組み立て工場と関連工場が協力して、たくさんの自動車をつくっている。また、消費者や社会のニーズに合わせて、新たな自動車を開発する工夫や努力をすることで、国民がよりよい自動車を使うことができることが分かった。</p> </div>	<p>□自動車ができるまでの取組を相互に関連付けて関連図に整理する。</p> <p>★関連図の記述や発言から「工業生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付け、工業生産に関わる人々の働きを考え、表現しているか」を評価する。 【思②】</p> <p>★ノートなどの記述から「工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解しているか」を評価する。 【知②】</p>
<p>つ な ぐ</p>	<p>⑧新たな自動車工業の取組について調べ、消費者や生産車の立場などから多角的に考え、これからの自動車工業の発展について、考えようとする態度を養う。</p>	<p>○様々な産業の研究開発費の現状を知り、本時の問いをつかむ。</p> <p>◆日本の自動車工業は、なぜたくさんのお金をかけて研究開発を行っているのだろう。</p> <p>○問いについて学習してきたことを基に考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい自動車をつくらないと売れない。 ・お客さんの願っただけでなく、環境や福祉、安全など社会の課題も解決していかなければならない。 <p>○自動車工業と私たちの生活との関わりや、これからの自動車工業の在り方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者のニーズや社会の変化に応じて、生産者がより安全で、環境にいい自動車などを絶えず研究開発することで、優れた技術が開発され、私たちの生活が向上していくことが分かった。また、工業に関わる人々だけではなく、私たちが消費者のニーズや世界で求められている自動車など、今後の工業の課題について考えたいかなければいけない。 	<p>◎自動車産業とその他の産業の研究開発費</p> <p>◎研究開発の新たな取組</p> <p>□持続発展について着目できるように、優れた技術や、工業製品の開発に努力していることを示す。</p> <p>★ノートなどの記述や発言から「学習したことを基に、これからの工業の発展について、消費者や生産者の立場などから多角的に考え、適切に表現しているか」を評価する。 【思②】</p> <p>★ノートなどの記述から「学習したことを基に、これからの工業の発展について、消費者や生産者の立場から多角的に考えようとしているか」を評価する。 【態②】</p>

小単元名	工業生産を支える貿易や運輸	配当 6時間	内容(3)アの(ウ)及び(エ)とイの(ウ)
------	---------------	--------	-----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

貿易や運輸について、交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現することを通して、貿易や運輸は原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通網の広がり、外国との関わりなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易や運輸の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。	①交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見いだし、貿易や運輸の様子について考え、表現している。 ②工業生産と貿易や運輸の働きを関連付け、貿易や運輸の役割を考え、適切に表現している。	①貿易や運輸について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(3)「我が国の工業生産」アの(ウ)及び(エ)、イの(ウ)に関する内容で構成したものである。ここでは、「貿易や運輸の様子」を取り上げ、交通網の広がり(特に海運)、外国との関わりが、原材料の確保や製品の販売などにおいて工業生産を支える重要な働きをしていることを扱うことが示されている。

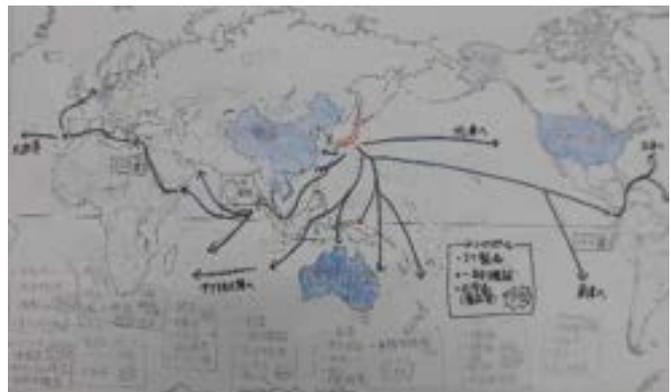
(2) 教材や資料の工夫

- ①「つかむ」段階で、貿易や運輸の重要性を捉えた後に、モーリシャス座礁事故(2020)やスエズ運河封鎖事故(2021)といった海難事故の事例を挙げ、輸出や輸入ができなくなったら、日本の工業生産はどうなるのかについて、消費者と生産者の双方の立場から工業生産と貿易や運輸との関わりを考えることで、貿易や運輸への関心を高める。
- ②日本の貿易量における海運が占める割合は99.7%にも上るなど、ほとんどの積み荷が船によって運ばれている。そこで、原材料の確保や製品の販売など、工業生産を支える重要な役割を果たしている様子を的確に捉えられるようにするために、欧米諸国に運んでいる自動車運搬船や、原油などの原材料を運ぶタンカーの航程の距離や日数、海運に携わる人の工夫や努力について、海運に携わる人々の話を基に調べることができるようにする。
- ③「しらべる」段階で、地図や統計資料、インターネットによる情報を活用し、白地図にまとめる。そうすることで、貿易や運輸の様子について、交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、社会的現象の見方・考え方(位置や空間的な広がり)を働かせて捉えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、前小単元「自動車をつくる工業」の学習からの連続性を意識して、自動車の輸送や現地生産の様子、主な輸出先などを調べる活動を通して、工業製品を輸送する様子や貿易の働きについて関心をもち、子供が主体的に追究できるようにする。
- ②「しらべる」段階では、我が国における輸出入の様子、運輸の様子について、資料を使って調べたことを世界の白地図にまとめる活動を設定する。世界の白地図にまとめることで、視覚的に貿易の特色や、海に囲まれている日本の地形において海上輸送の働きが大切であることを捉えられるようにする。

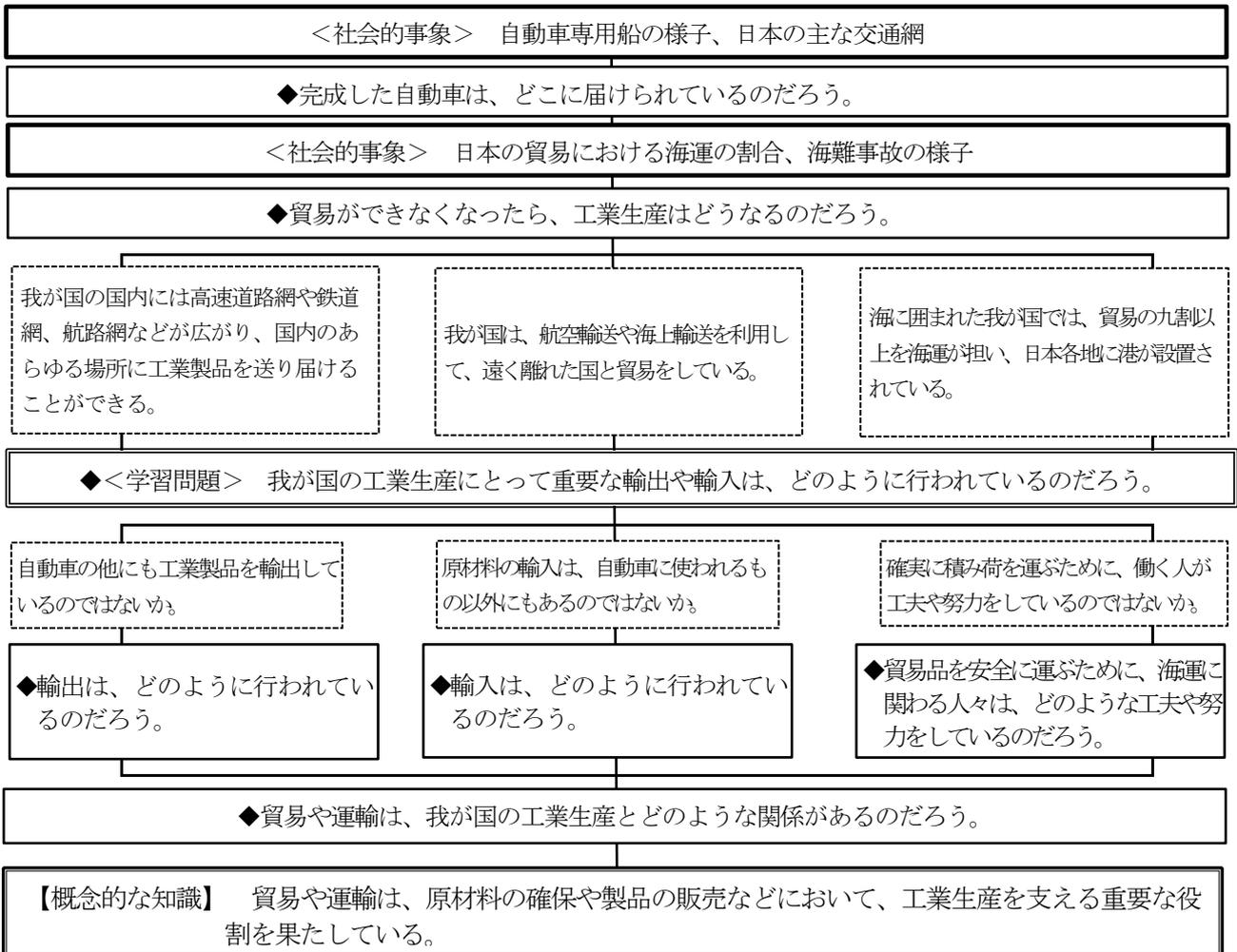
(右図参照)



子供のまとめの例▶

③「まとめる」段階では、貿易や運輸と国民生活を関連付けて考えることができるように関係図にまとめる。具体的には、「国民生活」「工業生産」「貿易」「運輸」の4つのキーワードの配置や、矢印の方向と意味を考えさせるようにする。関係図は、貿易や運輸が、工業生産を支える上でなぜ大切なのかについて話し合う際に、子供が考えを深めるための思考の整理に活用できるようにする。（「(5) 評価の工夫」欄参照）

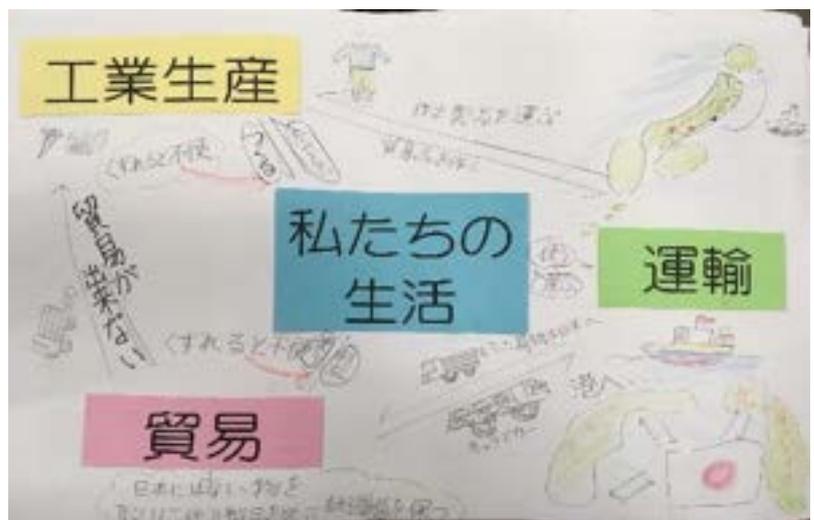
(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、貿易や運輸が我が国の工業生産において果たす役割について、「運輸のはたらき」「日本の貿易の特徴」「貿易と工業生産や国民生活との関係」などを視点にして、関係図にまとめ、互いに説明し合うようにする。その際、関係図の記述や発言の内容から「知識・理解」の観点で評価をする。調べた事実を基に、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることについて、根拠を明確にしながらいふことができたり、説明したりすることができていれば、「おおむね満足できる」状況と捉えられる。

(右図参照)



▲関係図の例

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①完成した自動車や、その原材料の輸送の様子を通して、貿易や運輸について理解できるようにする。	◆完成した自動車は、どこに届けられているのだろうか。 ○国内では、どこへどのように運んでいるのかを調べる。 ・船やキャリアカーを使って全国に自動車を運んでいる。 ○国外へは、どこへどのように運んでいるのかを調べる。 ・大きな船を使って輸送している。約6000台も運べる。 ・アメリカやオーストラリアにたくさん輸出している。 ○自動車の原材料は、どこからどのように運んでいるのかを調べる。 ・プラスチックや燃料になる原油は、中東の国々だ。 ・天然ゴムは、東南アジアが多い。 ・輸入も船を使って行っているのではないかな。 ・自動車をつかって売るまで、多くの国が関係している。	□「運輸」「輸出」「輸入」の用語の意味を確認する。 ◎日本の主な交通網、日本製の自動車の主な輸出先、自動車の主な原材料を輸入している国 ☆発言やノートなどの記述から、「地図帳や地球儀、資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、日本国内や国外への様々な輸送手段が活用されていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	②疑問を整理して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	○外国との貿易においては、日本の貿易量のほとんどが船によって運ばれてきている理由を調べる。 ・日本の輸出入のほとんどは船で運んでいる。 ・日本は海に囲まれているという国土が関係している ・海運は、飛行機よりも安くて、大量に運べる。 ◆貿易ができなくなったら、工業生産はどうなるのだろうか。 ○海難事故によって輸出入ができなくなったらどうなるか話し合い、学習問題をつくる。 ・せっかくなつくれた自動車も届けられない。 ・取引先の会社や国に損害が出て迷惑をかけてしまう。	◎日本船主協会の方の話 ◎海難事故の様子 ☆発言やノートなどの記述から、「貿易や運輸の様子について、交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
し ら べ る	③我が国の主な輸出相手国と輸出品について調べ、我が国の輸出の特色について理解できるようにする。	◆輸出は、どのように行われているのだろうか。 ○主な輸出相手国と輸出品を調べる。 ・自動車や精密機械などの工業製品の輸出が多い。 ○我が国が、何を、どこに、どうやって輸出しているのかを資料から読み取り、輸出品と貿易相手国とのつながりを白地図にまとめる。 ・アメリカや中国との取引が多い。 ・国によって、輸出している工業製品が違う。 ・狭い海峡や運河はどのように航行しているのだろうか。 ・日本は様々な国に工業製品を輸出している。	◎主な工業製品の輸出の割合 ◎主な輸出相手国と輸出品 □世界地図に輸出の主な相手国と輸出品を書き込ませ、日本とのつながりを視覚的に捉えさせる。 ☆白地図やノートの記述から「地図帳や地球儀、資料などで調べ、必要な情報を集め、読み取り、我が国の輸出の特色を理解しているか」を評価する。【知①】
		我が国の工業生産にとって重要な輸出や輸入は、どのように行われているのだろうか。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・他にも工業製品を輸出しているのではないかな。 →輸出は、どのように行われているのだろうか。 ・原材料の輸入は、他にもありそうだ。 →輸入は、どのように行われているのだろうか。 ・確実に積み荷を運ぶために、働く人々は協力したり、様々な工夫をしたりしていると思う。 →貿易品を安全に運ぶために、海運に関わる人々は、どのような工夫や努力をしているのだろうか。	★発言やノートなどの記述から、「貿易や運輸の様子について、予想や学習計画を立て、追究の見通しをもととしてしているか」を評価する。【態①】

	<p>④我が国の主な輸入手国と輸入品について調べ、我が国の輸入の特色について理解できるようにする。</p>	<p>◆輸入は、どのように行われているのだろうか。 ○工業製品をつくるための原材料や燃料が、どこから、どのように運ばれているかを調べる。 ・原材料や燃料のほとんどを輸入が占めている。 ○我が国が、何を、どこから、どうやって輸入しているのかを資料から読み取り、輸入品と貿易相手国とのつながりを白地図にまとめる。 ・石油のほとんどは中東の国から輸入している。 ・東南アジアの国々からは天然ガスを輸入している。 ・日本は原材料やエネルギー資源のほとんどを外国からの輸入に頼っている。</p>	<p>◎主な原料・エネルギー資源の輸入量と国内生産量の割合 ◎主な輸入相手国と輸入品 □第3時と同様に、世界地図に主な輸入相手国と輸入品を示す。 ☆白地図やノートの記事から「地図帳や地球儀、資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、我が国の輸入の特徴を理解しているか」を評価する。 【知①】</p>
	<p>⑤貿易を支えるための海運の工夫や努力について理解できるようにする。</p>	<p>◆貿易品を安全に運ぶために、海運に関わる人々は、どのような工夫や努力をしているのだろうか。 ○マラッカ海峡の航行の様子や船長の話を通して、海運に関わる人々が安全・確実に運ぶために、どのような工夫や努力をしているのかを調べる。 ・短い時間で輸送するための航路の選定をしている。 ・海運に関わる人々は、互いに協力し合い、安全に航海して荷物を送り届けている。</p>	<p>◎マラッカ海峡の写真、ヨーロッパへと向かう航路、船長の話 ☆発言やノートなどの記事から「地図帳や地球儀、資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易に関わる人々の工夫や努力を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>まとめ</p>	<p>⑥調べたことについて関係図に整理し、学習問題について考え話し合うことを通して、貿易や運輸の特色や、その役割について理解できるようにする。</p>	<p>◆貿易や運輸は、我が国の工業生産とどのような関係があるのだろうか。 ○自然災害の影響で、輸出・輸入される品物が運べなくなったときの影響について、改めて考える。 ・機械類の部品が運べないと、日本の工場では工業製品をつくれなない。 ○工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けながら関係図にまとめ、それを説明し合ったり、貿易や運輸の役割を考え、話し合ったりする。 ・運輸に関わる人たちの工夫や努力によって、我が国の工業生産や私たちの生活が支えられている。 ・エネルギー資源を外国に頼っているので、大切に使ったり、頼らなくてもいい方法を考えたりすることが大切。 ○キーワードを基に関係図に貿易や運輸と日本の工業の関係を表現し、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。 ・日本は、外国から原材料やエネルギー資源を輸入し、それを使って工業製品をつくり、輸出している。 ・運輸は、貿易を円滑に行うために必要だ。 ・貿易や運輸が、日本の工業を支えている。 ・貿易や運輸によって、国民生活も支えられている。</p>	<p>◎2011年タイの洪水で影響を受ける日本企業の工場 □「国民生活」「工業生産」「貿易」「運輸」の言葉の配置や関係性を考えさせる。 □これまでにまとめた白地図などを基に、自分の考えをしっかりとまとめてから説明し合ったり、話し合ったりさせる。 ★発言やノートなどの記事から「工業生産と貿易や運輸の働きを関連付け、貿易や運輸の役割を考え、表現しているか」を評価する。【思②】 ◎自由貿易と保護貿易 □工業の発展に向けた貿易のあり方などについても問いかける。 ★関係図やノートなどの記事から「貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
		<p>・海運をはじめとする運輸のはたらきは、日本の貿易にはなくてはならないものである。そして、外国から原材料を輸入して、工場で生産した製品を海外に輸出するという日本の貿易の特色から考えると、貿易や運輸は、日本の工業を支える重要な役割を果たしている。そして、工業、貿易、運輸は国民生活そのものを支えている。</p>	

第 1 時の資料 (つかむ)

資料 自動車の主な原材料の輸入先 日本自動車の輸出先

◆自動車をつかって売るまでに、どのような国々が関係しているのだろう。

	原油輸入先	鉄鉱石輸入先	天然ゴム輸入先
1	サウジアラビア 35%	オーストラリア 60%	インドネシア 64%
2	アラブ首長国連邦 24%	ブラジル 28%	タイ 32%
3	カタール 9%	カナダ 4%	ベトナム 1%

	自動車輸出先
1	アメリカ 38%
2	オーストラリア 6%
3	中国 4%

日本と各国との位置関係に着目する。

株式会社帝国書院ホームページより作成

一般社団法人日本貿易会ホームページより作成

原材料は、いろいろな国から届いているよ。自動車の部品にはたくさんの国が関わっているね。

日本から遠いところにも運ばれているよ。日本の周りは海だから、船を使っているのかな。

第 2 時の資料 (つかむ)

資料 海運の重要性が分かる資料
・日本船主協会の方のお話 ・海難事故の写真

【日本船主協会の方の話】

日本の貿易において、船による輸送が大半を占めるのは、まず日本の地形が大きく関係しています。日本は、四方を海で囲まれており、昔から周りの国と船で、人や物、さらには文化の交流を行ってきました。

そのため、貿易で工業製品や原材料を積んだ大きな船が泊まることのできる港が、様々な場所にあります。海運の動きは、日本の輸出や輸入にとって、とても重要なものになっています。

日本の地理的条件や海運の歴史に着目する。

日本の工業にとって、海運による貿易は欠かせないものだね。



(出典：読売新聞社)

国内の工業や外国との関わりに着目する。

【指導上の留意点】
海難事故によって、もしも船での輸送ができなくなったらどうなるのかを話し合い、出てきた疑問を学習問題へとつなげる。

物の行き来が止まってしまうと、工業にも影響が出るのではないかな。

【学習問題】
我が国の工業生産にとって重要な輸出や輸入は、どのように行われているのだろう。

第5時の資料（調べる）

- ◆貿易品を安全に運ぶために、海運に関わる人々は、どのような工夫や努力をしているのだろう。

【日本船主協会の方の話】



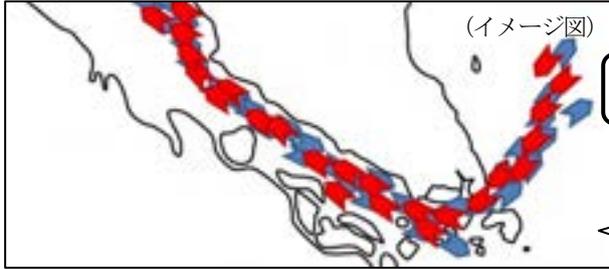
船は、航空機に比べて、段違いに多くの量の積み荷を、一回で輸送することができます。ジャンボジェット機では、一度に運べるのは、多くても200トン程度です。しかし、原油を運ぶタンカーや鉄鉱石を運ぶ船になりますと、一度に20万トンもの積み荷を運ぶことができます。

資料 海運の工夫が分かる資料

- ・日本船主協会の方のお話
- ・マラッカ海峡の船舶マップ
- ・貨物船の船長さんのお話

大量輸送におけるコンテナ船の働きに着目する。

船は一度にたくさんの荷物を運べるね。



(イメージ図)

世界地図におけるマラッカ海峡の位置に着目する。

どうしてこんな狭い場所をたくさんの船が通っているのだろう。

(出典) MarineTraffic (ライブ船舶マップ) : 日本語ページ

<https://www.marinetraffic.com/jp/ais/home/centerx:103.9/centery:1.2/zoom:8>

輸送にかかる時間に着目する。



【貨物船の船長の話】

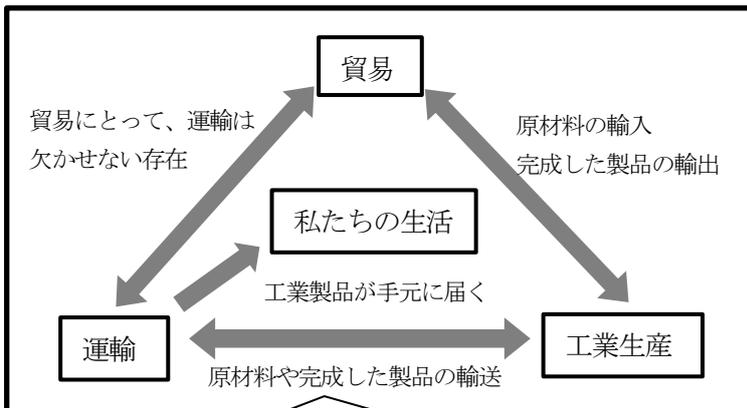
ヨーロッパまで荷物を運ぶまでに、約40日間かかります。シンガポールにあるマラッカ海峡は、世界中でも、かなり危ないといわれている難所です。船が各地から集まってきて混み合い、様々な方向へ進むからです。ただ、なるべく短い日数で運ぶためには、このような狭い海峡を通らなければなりません。

早く運ぶための工夫をしているね。

短い時間で運ばれると工場やお客さんも助かるね。

第6時の資料（まとめる）

- ◆貿易や運輸は、我が国の工業生産とどのような関係があるのだろう。



【指導上の留意点】

「国民生活」「工業生産」「貿易」「運輸」の4つのキーワードがどのような関係にあるのか関係図に表す。

海運をはじめとする運輸のはたらきは、日本の貿易にはなくてはならないものである。そして、外国から原材料を輸入して、工場で生産した製品を海外に輸出するという日本の貿易の特色から考えると、貿易や運輸は、日本の工業を支える重要な役割を果たしている。そして、工業、貿易、運輸は国民生活そのものを支えている。

小単元名	放送などの産業とわたしたちの暮らし	配当 8時間	内容 (4) アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)
------	-------------------	--------	-------------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

放送や新聞などの産業について、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査や映像、新聞などの各種資料で調べ、まとめ、放送などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送などの産業は国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて、聞き取り調査や映像、新聞などの各種資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、放送などの産業の様子を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、放送などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	①情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見だし、放送などの産業の様子について考え、表現している。 ②放送局などから発信される情報と自分たちの生活を関連付け、放送などの産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	①放送などの産業について予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(4)「我が国の産業と情報との関わり」ア(ア)(ウ)イ(ア)に関する内容で構成している。ここでは、放送、新聞などの産業の様子を捉えるだけではなく、それらの産業から発信される情報が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(4)のアに、「放送、新聞などの産業」の中から一つを選択して取り上げることが示されているが、本小単元では、子供にとって身近であり、ほとんどの子供に視聴経験があると思われる放送局を取り上げる。
- ③内容の取扱い(4)アで示された「情報を有効に活用することについて、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることに気付くようにすること」については、「しらべる」段階の第7時で報道被害の様子を扱うことで、情報の受け手として、確かな情報を収集・選択し、様々な観点から比較して適切に判断することの大切さに、子供が気付けるようにする。その際、自分が送り手になり得ることも想起させて、送り手の立場から、その責任の大切さについても気付くことができるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本小単元では、東日本大震災発生直後の放送局の緊急放送の様子を取り上げる。平成23年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災後では、放送中の番組を中断し、地震発生直後からニューススタジオでの放送を行っている。さらに、その3分後の午後2時49分には、ロボットカメラを利用した全国中継で仙台市青葉区、宮城県石巻市の映像を流し、午後2時50分には画面上に津波警報等の情報を表示している。緊急放送に対する日常的な訓練を生かし、様々な地域から短い時間で情報を集め、放送する様子は、社会的事象の見方・考え方(時期・時間の経過、位置や空間的な働き)を働かせることで、放送局が行っている情報を集め、発信するまでの工夫や努力などを捉える手がかりとなる。なお、当時被災地にいた家庭の子供が学級内に在籍していることも考えられる。その際は、十分に配慮をして指導を行う。

【参考】東日本大震災発生直後の放送：NHK 東日本大震災アーカイブスより

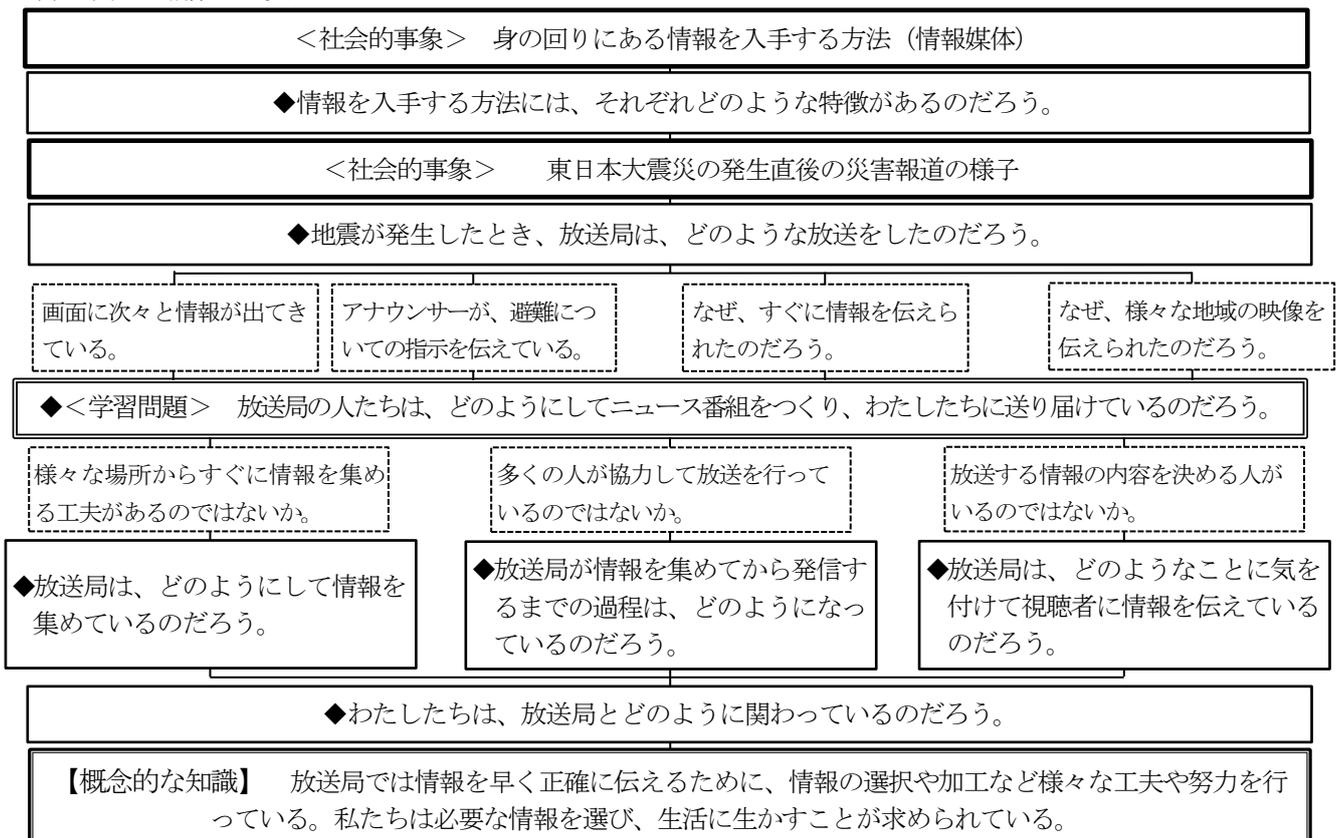
(<https://www9.nhk.or.jp/archives/311shogen/72hours/>)

- ②放送局から発信される情報と自分たちの生活を関連付ける手がかりとして、「東日本大震災発生後の新聞のテレビ欄」や、「東日本大震災発生後のL字放送(テロップ)」の様子を取り上げる。社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関連)を働かせ、放送局は視聴者が必要とする情報を選択・加工して放送を行っていることに気付くことができるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

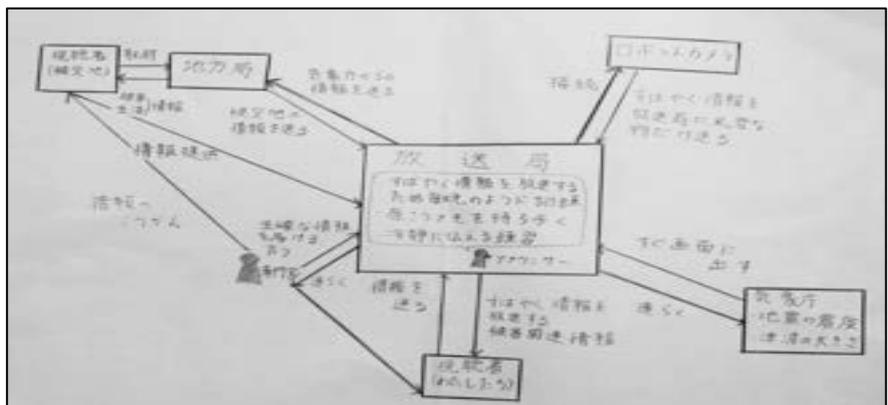
- ① 「つかむ」段階では「我が国の産業と情報との関わり」に関する二つの小単元のオリエンテーションとして、情報の入手方法やその特徴について調べる活動を行う。「情報」という言葉の意味や、私たちはたくさんの情報に囲まれて生活をしていることを理解することで、子供が学習に対して見通しをもち、主体的に追究できるようにする。
- ② 「しらべる」段階では、放送局が行っている情報を集め、発信するまでの工夫や努力などについて、NHK 東日本大震災アーカイブス (<https://www9.nhk.or.jp/archives/311shogen/72hours/>) 内の映像を活用することで、子供自らが、資料を探したり選んだりして主体的に調べることができるようにする。その際、情報を伝えるアナウンサーの思いにも触れることで、情報を分かりやすく正確に伝えようとする放送局の人々の姿にも着目させる。
- ③ 「まとめる」段階では、放送局から発信される情報と自分たちの生活を関連付けて考えるために、調べたことを関連図にまとめる。図の中に視聴者（私たち）を書き入れることで、放送、新聞などの産業と国民生活との関わりを子供が理解できるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫～「まとめる」段階における「思考・判断・表現」の評価～

「まとめる」段階では、学習してきたことを整理し、放送局から発信される情報と自分たちの生活との関連を考えるために、関連図にまとめる活動を行う。その際の記述や発言内容を基に、「思考・判断・表現」の観点で評価を行う。「放送局」「被災地で災害報道を見る人」「東京で災害報道を見る人（私たち）」などの立場を明確にして、関係があるもの同士を線で結ばせるだけでなく、どのような関係性があるかも具体的に文や言葉で記述させる。子供によってつなぎ方やつないだ理由が異なることが予想されるため、子供相互の対話的な活動も促すことができる。そして、対話の部分も含めてそれらを整理することで、放送などの産業は国民生活に大きな影響を及ぼしているという、学習問題に対する答えへとつなげられるようにする。



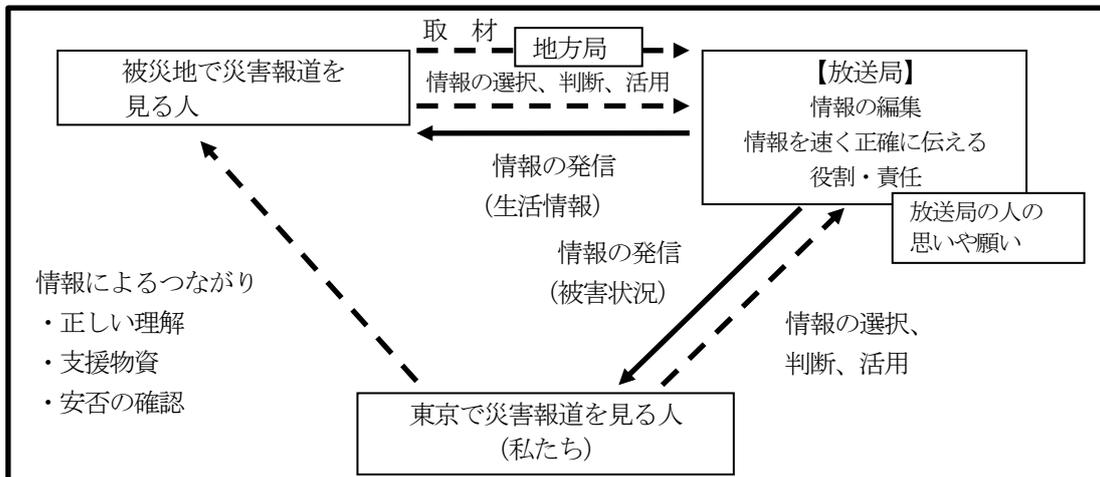
▲関連図の例

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①身の回りの情報や情報機器等について調べ、身の回りにはたくさんの情報があることや、情報の入手には様々な方法があることを理解できるようにする。	○身の回りにある情報を入手する方法(情報媒体)について調べる。 ・テレビ ・ラジオ ・新聞 ・インターネット(パソコン、スマートフォン)等 ◆情報を入手する方法には、それぞれどのような特徴があるのだろう。 ○情報の入手方法について、それぞれの特徴を話し合う。 ・新聞やインターネットは、自分の必要な情報だけを取り出して調べられる。 ・ラジオは、別のことをしながらでも情報を聞ける。 ・すぐに情報が手に入るから、テレビは地震などの時によく使う。	□情報という言葉の意味を確認する。 □情報の入手方法やその特徴について調べることで、子供に学習の見通しをもたせる。合わせて、自分たちが情報の発信者になることがあることにも気付かせる。 □情報媒体には、それぞれ伝え方や伝わり方に特徴があることに気付かせる。 □災害時には、テレビから多くの情報を得ていることに気付かせる。 ☆ノートの記述や発言から「必要な情報を集め、読み取り、身の回りの情報や情報の入手方法などについて理解しているか」を評価する。【知①】
	②東日本大震災発生直後の災害報道の映像の読み取りを通して、放送局の働きや仕事について疑問をもつことができるようにする。	◆地震が発生したとき、放送局は、どのような放送をしたのだろう。 ○東日本大震災の発生直後のテレビ放送の様子について調べる。 ・予定を変更して地震に関する番組を放送している。 ・画面に次々と情報が出てきている。 ・様々な地域の映像が映し出されている。 ・アナウンサーが避難についての指示を出している。 ○疑問に思ったことや調べたいことを出し合う。 ・なぜ、すぐに情報を伝えられたのだろう。 ・なぜ、様々な地域の映像を伝えられたのだろう。	◎東日本大震災の発生直後の災害報道の様子 ◎日本地図 □すぐに放送が始まっていることや、様々な情報が集まっていることに着目させる。 ☆ノートや記述内容から「東日本大震災発生時の放送から情報を集め、発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	③調べたいと思ったことを整理して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	○調べたいことを整理して学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">放送局の人たちは、どのようにしてニュース番組をつくり、わたしたちに送り届けているのだろう。</div> ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・様々な場所からすぐに情報を集める工夫があるのではないか。 ・多くの人が協力して放送を行っているのではないか。 ・放送する情報の内容を決める人がいるのではないか。	□カードに書かせ、整理する。 □予想を整理しながら学習計画を立てる。 ★ノートや記述内容から「放送などの産業について、予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	④放送局における情報の収集の様子について調べ、理解できるようにする。	◆放送局は、どのようにして情報を集めているのだろう。 ○様々な場所から情報を集めるために、放送局にはどのような仕組みがあるか調べる。 ・全国各地に支局がある。 ・全国各地にロボットカメラを設置することで、必要な映像をすぐに撮影することができる。 ・情報収集のために、様々な関係機関と連携をしている。 ○東京の放送センターを中心に、支局、ロボットカメラ、関係機関を線で結び、情報を集める仕組みを図で表す。	◎NHK ホームページ、ロボットカメラの映像(NHK for school) □放送に携わる人々に、集めた様々な情報を速く伝えるための工夫や努力について捉えさせる。 □放送局への動画の投稿など、自らが情報の収集や発信に関わる可能性があることに気付かせる。 ☆ノートの記述や発言から「必要な情報を集め、読み取り、情報を集める際の工夫や努力などについて理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ る	<p>⑤放送局における情報の発信の様子について調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆放送局が情報を集めてから発信するまでの過程は、どのようになっているのだろう。</p> <p>○東日本大震災を伝えるニュース番組は、どのようにしてつくられていたのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が関わり、情報の収集、加工、放送と、様々な過程を経て放送されている。 <p>○放送局で働く方が、どのような思いで災害報道に対して準備をしているのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送終了後、毎晩緊急放送の訓練を行っている。 ・テレビを見ている人に、正しい情報を分かりやすく伝えるということを重視している。 	<p>◎情報収集から放送されるまでの過程の様子</p> <p>□放送局で情報の選択や加工をしていることに気付かせる。</p> <p>◎放送局の方の話</p> <p>☆ノートの記述や発言から「必要な情報を集め、読み取り、収集した情報を発信する際の工夫や努力などについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑥⑦放送局における情報の選択・加工の様子について調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆放送局は、どのようなことに気を付けて視聴者に情報を伝えているのだろう。</p> <p>○東日本大震災翌日の画面の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴者の生活に関する情報が表示されている。 <p>○東日本大震災翌週の新聞のテレビ欄について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定されていた番組が変更されている。 ・生活情報や安否情報を伝えている。 <p>○テレビの情報は、私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送局の情報が間違っていることもあった。 ・様々な情報と比べながら、私たち自身も情報の内容について選び、判断する必要がある。 ・発信するときは、正確さや影響を考えることが大切。 	<p>◎東日本大震災のL字放送(テロップ)の様子、東日本大震災発生後の新聞のテレビ欄</p> <p>□視聴者のニーズに合わせて番組編成も変更されることを捉えさせる。</p> <p>□影響の一例として報道被害を扱う。また、自らが情報の送り手となる場合も想起させ、考えさせる。</p> <p>☆ノートの記述や発言から「必要な情報を集め、読み取り、発信するまでの工夫や努力などについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑧調べたことを関連図にまとめ、学習問題について考え、放送などの産業の役割を理解できるようにする。</p>	<p>◆わたしたちは、放送局とどのように関わっているのだろう。</p> <p>○放送局と視聴者の関わりを関連図に整理して説明し合ったり、気付いたことを話し合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見る人に合わせて様々な情報を放送している。 ・放送局からの情報で、行動が変わることがある。 <p>○学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p>	<p>□情報が伝わる過程や、情報を取り出す過程を矢印で表す。</p> <p>★図やノートの記述、発言から「放送局から発信される情報と自分たちの生活を関連付け、放送などの産業が国民生活に果たす役割を考えているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述や発言から「放送などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

【第8時で作成する関連図の例】



小単元名	情報と産業の関わり (観光業)	配当 8時間	内容 (4) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------------	--------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の産業と情報の関わりについて、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの資料で調べたりして、図表などにまとめ、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にして、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用の仕方について、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状について理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	①情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見だし、産業における情報活用の現状について考え、表現している。 ②情報化の進展に伴う産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことを基に産業と国民の立場から多角的に考えたりして、情報化の進展に伴う産業や国民生活の向上について自分の考えをまとめ、適切に表現している。	①我が国の産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、産業と国民の立場から、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(4)ア(イ)(ウ)イ(イ)の「我が国の産業と情報との関わり」に関する内容で構成したものである。具体的には、「大量の情報や(中略)国民生活を向上させていることを理解すること」と記述され、情報を活用しながら変化し発展している産業、情報通信機器を利用する国民などの情報と関わる人々を取り上げ、情報や情報通信技術(インターネットやビッグデータ、SNSなど)を活用する産業の役割について扱うことが求められている。
- ②内容の取扱い(4)イでは情報や情報技術を活用して発展している産業の事例として「販売、運輸、観光、医療、福祉など」の中から選択して取り上げることとされている。本指導計画においては、事例として、魅力ある地域の観光資源について情報を発信して地域の活性化に努めている観光業を中心に取り上げている。
- ③内容の取扱い(4)イに示された「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、「つなぐ」段階で、これからの観光業がどのように情報を活用して発展していくのかについて、学習したことを生かして、子供が情報活用の在り方を多角的に考え、まとめることができるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①子供が「我が国の産業と情報との関わり」について理解できる事例として、魅力ある地域の観光資源について情報を発信して地域の活性化に努めている観光業を取り上げる。事例を選択するに当たって、学習指導要領の内容から以下の4つの観点に基づき分析し、事例地を選択した。

事例	大量の情報を収集 位置・検索・販売・気象	情報通信技術の活用 AI・IoT・VR・AR	第3次産業の発展 創出・サービスの質・利便性	情報の発信や 国民生活との関連
くまもとDMC 2016年12月設立	ビッグデータの提供 目的地検索+GPS+位置情報+飲食・公理のPOSのデータ	分析ソフト 分析データベース マーケティング業務が1/3	地震で減少した観光客数の回復 2016年→観光ビジネス	熊本×観光×食 ウェブサイト「おるとくまもと」2017年4月開設 宿泊・アクティビティ着地型旅行 旅行商品・熊本特産品

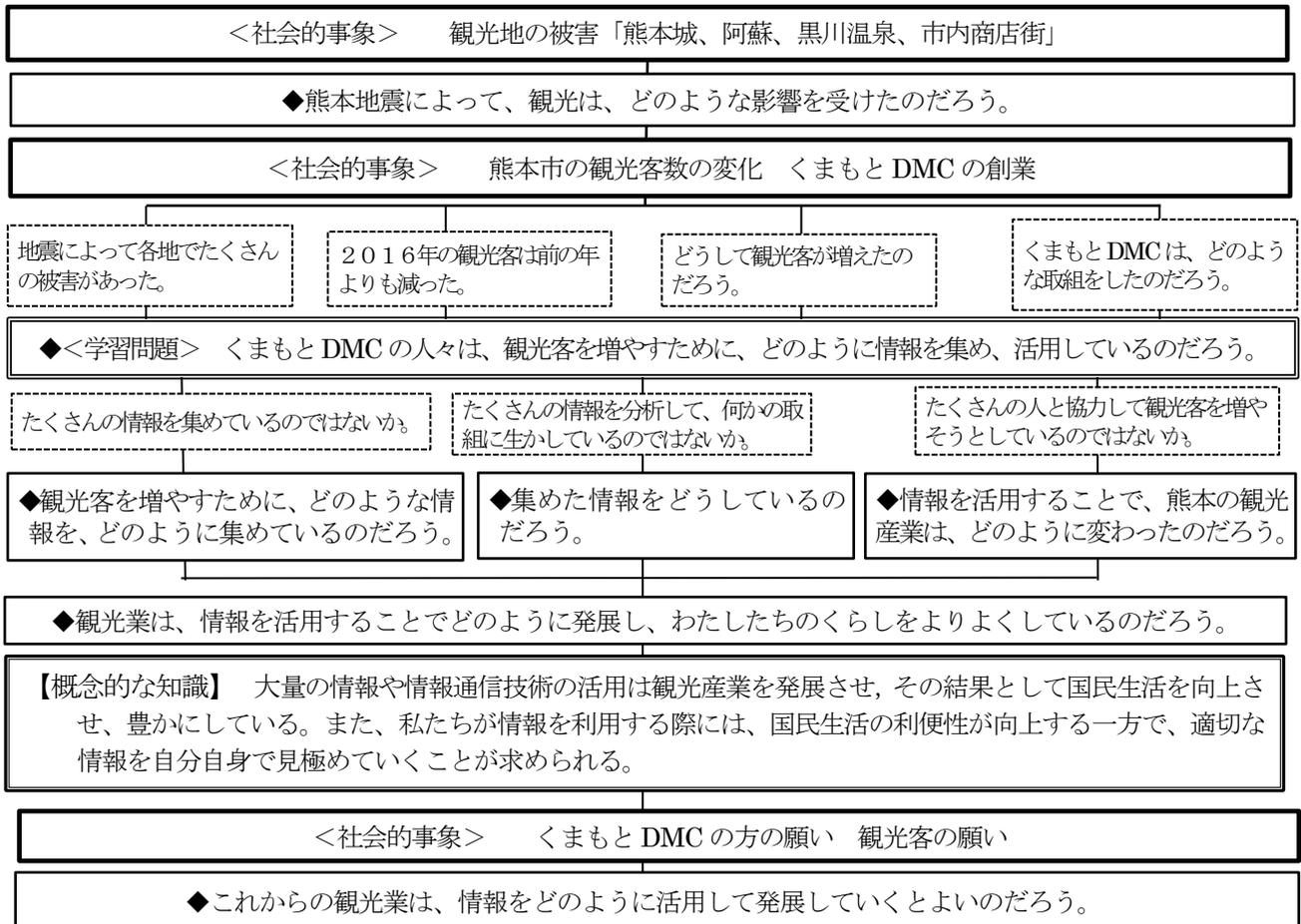
- ②主体的に問題解決的な学習を行うことができるように、小単元の導入で、2016年の熊本地震を取り上げる。それを通して、震災が原因で一時期観光客が減ったにもかかわらず、その後、少しずつ観光客が増えてきていることと熊本DMCが関わっていることに気付かせる。そして、観光業に関わる人々が、どのように観光客を増やしてきたかに着目し、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な働き)を働かせながら、情報の種類や情報の活用の仕方について調べたり考えたりできるようにする。
- ③大量の情報を活用して産業を進展させていこうとしている事例の、プラス面だけでなくマイナス面もあるという事実から、これからの情報産業と自分との関わりについて考える必要があることを、「つなぐ」段階で取り上げる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、熊本市は熊本地震の影響で一時期観光客数が減ったが、短い期間で観光客数が増えきた事実を取り上げ、観光客数の増加に関わっている熊本DMCへの疑問や調べたいことを引き出し、学習問題をつくる。その際、「熊本県の観光客数の変化のグラフ」や「震災後に観光ニーズに応じて復興させたホテルや商店の写真」などを提示し、熊本地震の前と後の変化に着目できるようにする。観光業に関わる人々がどのような情報を収集し、活用しているのか、子供一人一人が自分の予想をもち、学習計画を立てることで、主体的な学習が展開できるようにする。

- ②「まとめる」段階では、学んだことを関連付けて総合し、関係図にまとめることを通して、観光業が大量の情報や情報通信技術を活用して取り組んできたことが、観光業を発展させ、国民生活を向上させていることと関わっていることを考えられるようにする。関係図は、学級全体で国民生活の影響について話し合う時に、それぞれの考えを深めるための思考の整理につながるようにする。
- ③「つなぐ」段階では、観光業の未来を考えた後に、インターネットの情報よりマスメディアの情報の方が利用者から信頼されている理由を考える。そして、自分もインターネット上で、より不確かで誤った情報を発信してしまう可能性があることをつかみ、情報活用の在り方について考えたことを意見交換できるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

①「まとめる」段階では、くまもと DMC の取組について、「情報の種類や集め方」「情報の活用の仕方」「利用者にとって良い点」などを視点にして関係図にまとめる。その記述内容や説明、その後の話し合いでの発言から「情報を活用した観光業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考え、表現しているか」(思考・判断・表現)について評価する。
(右図参照)



▲関係図の例

②「つなぐ」段階では、「これからの観光業は、情報をどのように活用して発展していくとよいのか。」について、産業と国民の立場から、多角的に考えられるようにする。その際、記述などから、学習したことや情報を活用した未来の産業予想を基に、根拠や理由を明確にして考えているかを捉え、「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について自分の考えをまとめているか。」(思考・判断・表現)について評価する。

「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について自分の考えをまとめているか。」(思考・判断・表現)について評価する。

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①②情報を扱う観光業とわたしたちの生活との関わりについて学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	<p>◆わたしたちは、暮らしの中で情報をどのように活用しているのだろう。</p> <p>○情報と自分たちの生活との関わりを振り返り、情報産業への関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で、情報が生活と関わっている。 ・買い物や通院、車に乗る時にも情報がやり取りされていた。 <p>○昔と今の情報の収集や活用の仕方を比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行に行こうとする時、昔はパンフレットや本を見ていた。 ・予約は電話で観光協会の人に聞いたり、ホテルなどを電話で予約したりしていた。 ・旅行代理店で予約をしていた。 ・今は、遠くの場所のいろいろな情報が、インターネットですぐに分かる。 ・今はお店に行かなくても、インターネットで申し込める。 <p>◆熊本地震によって、観光は、どのような影響を受けたのだろう。</p> <p>○「熊本地震の資料」を見て、分かったことや考えたことを発表し合う。(熊本地震後、観光客減の資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本城は、かなり倒壊している。 ・観光客が一気に減ってしまった。 <p>○熊本地震の影響を、観光客数や、観光産業に関わる人々の願い、観光客を戻すために誰が、どのような取組をしているのかを読み取り、疑問や考えを出し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまもと DMC が、たくさんの情報を活用している。 ・どのような方法で観光客を増やそうとしているのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">くまもと DMC の人々は、観光客を増やすために、どのように情報を集め、活用しているのだろう。</div> <p>○予想を基に、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客を増やすために情報を集めている。 ・今までの観光客の情報を集める機械がある。 ・観光産業に関わる人たちに情報を送っている。 →どのような情報を、どのように集めているのだろう。 ・パソコンを使って、観光客を増やす仕組みを考えている。 ・今までの観光客の情報を分析して活用するための人がいる。 →集めた情報をどのように活用しているのだろう。 ・活用した情報を、いろいろな人と情報交換している。 →情報を活用することで、熊本の観光産業は、どのように変わったのだろう。 	<p>◎イラスト「生活の中の情報」、主なサービス業における年間売上高</p> <p>□サービス業の中でも、観光業の売上高が高いことを捉えさせる。</p> <p>◎昔の生活の様子(映像)、東京オリンピックの頃の情報活用の様子、現在の情報活用の様子(イラスト)</p> <p>□特に、観光産業の変化を捉えやすい資料を提示し、比較させる。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、わたしたちは生活の中で多様な情報を活用していることを理解しているか」を評価する。【知①】</p> <p>◎観光地の被害写真「熊本城、阿蘇、黒川温泉、市内商店街等」、熊本地震前後の観光客数、「市役所の人の話」</p> <p>□観光業の課題を確認した上で、改善状況を示し、疑問や課題意識をもたせる。</p> <p>◎くまもと DMC の方の話</p> <p>□疑問や調べていきたいことを分類・整理して、学習問題につなげる。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「熊本地震の観光業に対する影響などから、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p> <p>□情報の収集、情報の活用の視点で予想を考えさせる。</p> <p>□学習問題の解決に向けて調べることを問いの形で整理して、学習計画を立てる。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「我が国の産業と情報との関わりについて予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
	③くまもと DMC がどのような情報を集めて活用しているのか、資料集を用いて調べ、集めて活用されている情報の種類を理解できるようにする。	<p>◆くまもと DMC では、どのような情報を、どのように集めているのだろう。</p> <p>○くまもと DMC がどのような情報を集めているのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナビタイムという位置データの情報を集めている。 ・人がどこからどこに移動したかが分かるデータを集めている。 <p>○調べた情報の種類について話し合い、情報の目的を関連付け、理由についても話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係ないような情報もたくさん集められていた。 ・観光客のアンケートを集めて、どんな要望があるのかを毎週必ず確認していた。 ・集めたデータは、すぐに会社の誰でも確認できるようになっている。 	<p>□資料から調べたことをノートに記録したり話し合っただけで確認したりする。</p> <p>◎データ活用資料(ナビタイム、ebase、カスタマーコミュ、agoop、PWT)、データ分析資料(データビークル、DHE)</p> <p>◎アンケートの写真</p> <p>□ビッグデータだけでなく、アンケートのアナログデータも含めて、情報として集めていることを確認する。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「資料から必要な情報を集め、読み取り、産業で活用されている情報の種類について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
④⑤	くまもと DMC が情報をどのように活用しているかを調	<p>◆くまもと DMC では、集めた情報をどうしているのだろう。</p> <p>○アリペイのシステムについて読み取ったことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は両替所がなく、外国人は買い物ができなかったが、今は簡単に買い物ができるようになった。 	<p>「アリペイ開発資料」</p> <p>◎「お店の人の話」※悩み</p> <p>□外国人観光客に絞った活用であることを押さえる。</p>

	<p>べ、理解できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホがあれば簡単に使うことができるようになった。 ○アリペイを使えるようにしたことで、どのような変化があったのかを考え、話し合う。 ・店の人…外国人観光客が増え、商品が売れて収入が上がった。 ・外国人観光客…簡単に買い物ができるようになった。また、買いたい物を買うことができるようになった。 ○本時の学習での自分の考えをまとめる。 ・くまもと DMC の人たちは、いろいろな情報を組み合わせで分析し、観光客を増やすために情報を活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「お店の人の話」(クマモンスクエア松本さん) □店の人の立場、観光客の立場の両方から考えられるようにする。 □「言語」が新たな課題となり、コールセンターの設置へとつながっていることを押さえる。 ☆ノートの記述や発言内容から「資料から必要な情報を集め、産業における情報の活用の仕方について理解しているか」を評価する。【知①】
	<p>⑥くまもと DMC が集めた情報を活用することで、熊本の観光産業はどのように変わったのか考え表現できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報を活用することで、熊本の観光産業は、どのように変わったのだろう。 ○取組の結果を調べ、現状をまとめ、情報活用による変化について話し合う。 ・観光客が増え、外国人観光客による売り上げが増えた。 ・アリペイは63店舗まで導入店舗が増えた。 ・商品開発や紹介で、アクセス数や売り上げも増えている。 ・熊本県以外の50の地域・団体等でも活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> □情報の活用による観光産業の変化(成果)をまとめる。 ◎「おるとくまもと」 ◎「くまもと DMC の方の話」 ☆ノートの記述や発言内容から「情報の活用により、観光業の様子がどのように変わったか考え、表現しているか」を評価する。【思①】
<p>ま と め る</p>	<p>⑦観光業における情報活用の現状とわたしたちの生活との関わりについて関連付け、自分の考えをまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆観光業は、情報を活用することでどのように発展し、わたしたちの暮らしをよりよくしているのだろう。 ○様々な立場の人の取組と情報の種類や流れをつなげて関係図に整理して、学習問題について話し合う。 ・たくさんの人が情報を活用して発信することで、わたしたち国民が旅行する時に役立っている。 ・外国人旅行客が困っていることを解決するから、観光客が増えている。わたしたちも外国人と接することが増えていく。 ○話し合いを基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>観光業に関わる人々は、大量の情報や情報通信技術を生かし、分析したことを基に利用者の願いに応じてサービスを行うことで、観光客を増やしている。また、情報を活用してサービスの向上が進んだことで、利用者にとっての利便性も高まっている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○観光業の情報活用に関して課題点はないかを考える。 ・人が情報を上手く使えないと、役に立たないのではないかな。 ・仕組みづくりにはお金がかかるから、どこでもできるわけではないのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> □「情報収集と分析→情報を活用した改善→産業の発展・生活の向上」の流れでまとめられるようにする。 ★ノートの記述から「情報化した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考え、表現しているか」を評価する。【思②】 □産業と国民の両方の立場から考え、情報活用によって、観光業が発展し、国民生活を向上させていることを捉えさせる。 ★ノートの記述や関係図から「大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることについて理解しているか」を評価する。【知②】 □情報活用の課題を考えさせることで、今後についても考えるきっかけとなるようにする。
<p>つ な ぐ</p>	<p>⑧学習したことを基に、情報化の進展に伴う、観光業の発展と国民生活の向上について考えようとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆これからの観光業は、情報をどのように活用して発展していくとよいのだろう。 ○日本各地の観光地の取組について資料から読み取り発表する。 ・日本各地に DMC があり、情報を発信して観光を盛んにしている。 ・日本中で情報活用できる仕組みが整い始めている。 ・昔と比べると、とても便利になっている。 ○観光業が情報を活用して発展していくことや、わたしたちの生活を向上をさせていくために必要なことを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>観光業が情報を活用して、よりよく発展していくためには、情報を集める技術や分析する技術を伸ばしていくとともに、どのような情報を集めて、どのように情報を活用していくのかについて、よく考えられるようにすることが必要である。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を活用した未来の産業について考えたことをまとめる。 ・情報と観光業の関わりがもっと進むと、たくさんの地域が活性化したり、観光客が増えたりする。 ・便利だからこそ、情報を正しく使えるようにならなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎観光会社の方の話 □前時の関係図に、観光業の立場と国民の立場から、これからどうなってほしいかということを書き入れて話し合い、よりよい情報活用の将来に向けて必要なことや、自分たちが関われることを考えられるようにする。 ★ノートの記述や発言内容から「学習したことを基に産業と国民の立場から多角的に考え、情報化の進展に伴う産業や国民生活の向上について自分の考えをまとめているか」を評価する。【思②】 ◎society5.0 (動画) ★ノートの記述や発言内容から「情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしているか」を評価する。【態②】

小単元名	情報と産業の関わり (販売業)	配当 8時間	内容 (4) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------------	--------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の産業と情報の関わりについて、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの資料で調べたりして、図表などにまとめ、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にして、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用の仕方について、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状について理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	①情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見だし、産業における情報活用の現状について考え、表現している。 ②情報化の進展に伴う産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことを基に産業と国民の立場から多角的に考えたりして、情報化の進展に伴う産業や国民生活の向上について自分の考えをまとめ、適切に表現している。	①我が国の産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(4)ア(イ)(ウ)イ(イ)の「我が国の産業と情報との関わり」に関する内容で構成したものである。具体的には、「大量の情報や(中略)国民生活を向上させていることを理解すること」と記述され、情報を活用しながら変化し発展している産業、情報通信機器を利用する国民などの情報と関わる人々を取り上げ、情報や情報通信技術(インターネットやビッグデータ、SNSなど)を活用する産業の役割について扱うことが求められている。
- ②内容の取扱い(4)イでは情報や情報技術を活用して発展している産業の事例として「販売、運輸、観光、医療、福祉など」の中から選択して取り上げることとされている。本指導計画においては、事例として、販売情報を収集・分析して、商品開発をしたり、店舗とインターネットでの販売を融合して行ったりしている販売業を中心に取り上げている。
- ③内容の取扱い(4)のイに示された「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、「つなぐ」段階で、販売業以外の産業がどのように情報を活用しているのかについても触れ、学習したことを生かして、子供が情報活用の在り方を多角的に考え、まとめることができるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①子供が「我が国の産業と情報との関わり」について理解できる事例として、販売情報を収集・分析して、商品開発をしたり、店舗とインターネットでの販売を融合して行ったりしている販売業を取り上げる。事例を選択するに当たって、学習指導要領の内容から以下の4つの観点に基づき分析し、事例地を選択した。

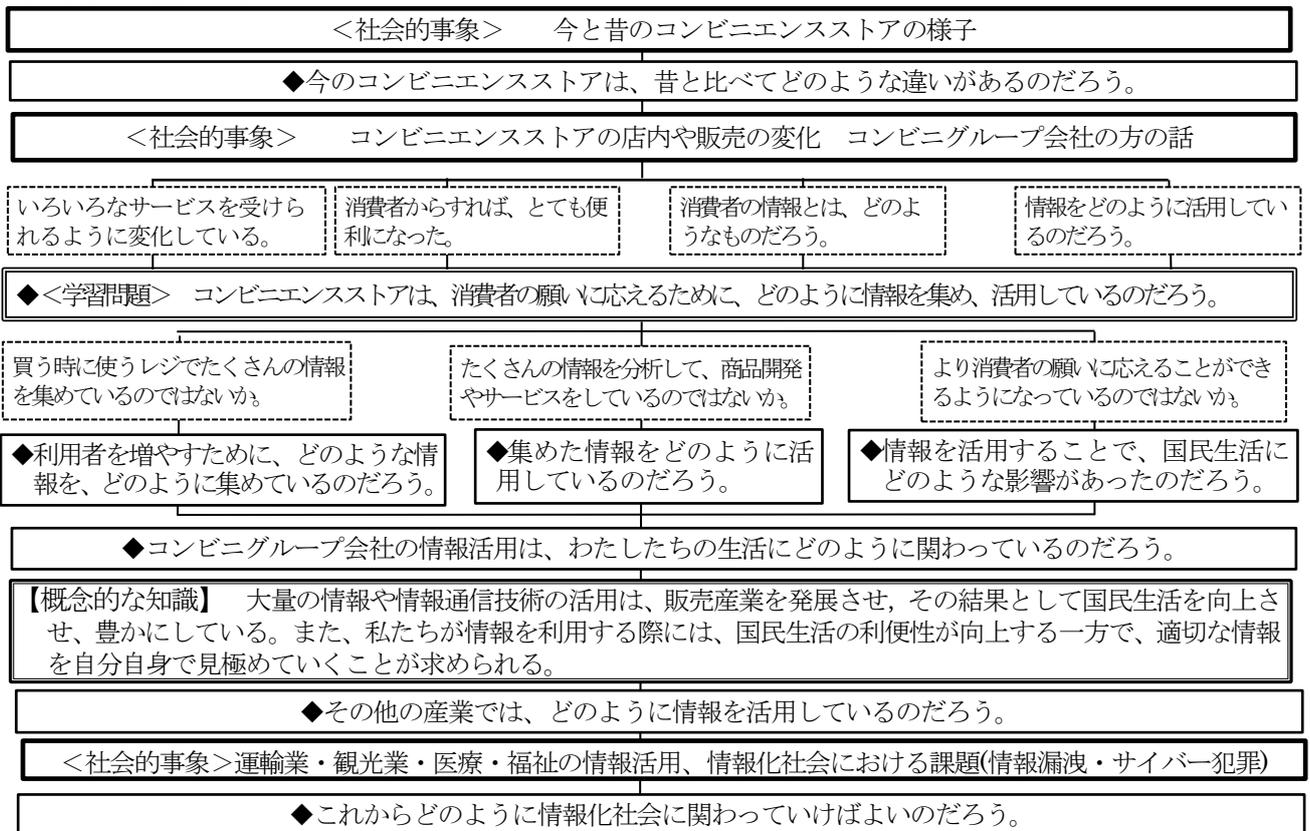
	事 例	大量の情報を収集 位置・検索・販売・気象	情報通信技術の活用 AI・IoT・VR・AR	第3次産業の発展 創出・サービスの質・裾野	情報の発信や 国民生活との関連
販 売 業	コンビニエンスストア	ビックデータ POS レジシステム nカード・Sアプリ 商品改良委員会	ストアコンピュータ 情報活用システム 野村総合研究所	コンビニエンスストアの売り場写真 コンビニエンスストア店舗数の増加 PGの売り上げ向上	テレビCM コンビニエンスストアHP コンビニエンスストアの文京 区分布図・nカード
	コンビニグループ 会社	POS レジシステム nカード 各会社アプリ 通信販売HP	各社本部マーケティング 部 野村総合研究所	ネットとリアルとの融合(郵送・店舗受け取り の実現) 通信販売利用者数向上 通信販売売り上げ向上	通信販売HP 通信販売アプリ
	コンビニグループ 会社データラボ	コンビニグループ会社以 外の異業種企業計 11社より顧客行動	行動履歴分析 新たなニーズの開拓	新規サービスの開拓 アプリ・ネットサービスの向上	各アプリ

- ②情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、コンビニエンスストアを中心としたグループ会社が販売情報を集積・分析し、商品開発したり店舗とネットでの販売を融合して行ったりしていることなどを調べられるようにする。
- ③インターネット内の情報は、マスメディアから発信される情報より精査されておらず、誤った情報が大量にあることを取り上げる。適切な情報を見極めることの大切さを理解した上で、情報活用の在り方について子供が考えをまとめることができるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

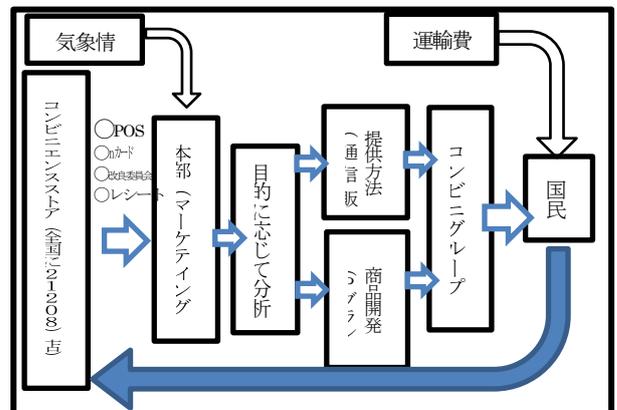
- ①「つかむ」段階では、コンビニエンスストアの昔と今を比較することで、サービスの違いや食料品の変化に注目し、商品の値段が高いのに情報を活用して売れていることを調べることを通して、コンビニエンスストアにおける情報活用について疑問や調べたいことを引き出し、学習問題をつくる。また、予想や学習計画を立てる場面では、コンビニエンスストアの情報システム投資額を提示し、情報システムに着目できるようにする。それを基に、コンビニエンスストアがどのような情報を、どのように収集し、どのように活用しているのかについて予想を考え、学習計画を立てることで、主体的に追究ができるようにする。
- ②「まとめる」段階では、学んだことを総し関連付けて、関係図にまとめることを通して、販売業が大量の情報や情報通信技術を活用してきたことが、販売業を発展させ、国民生活を向上させていることと関わっていることを考えられるようにする。関係図は、全体で国民生活の影響について話し合う時に、それぞれの考えを深めるための思考の整理につながるようにする。
- ③「つなぐ」段階では、販売業以外の産業の情報活用を調べ、情報活用のメリットやデメリットについて考える。それを通して、情報化社会はとても便利になっていく一方で、個人情報漏洩や犯罪に巻き込まれる恐れがあることに気付かせる。そして、これまでの学習を生かし、国民の一人として、これからどのように情報化社会と関わっていけばよいのかについて話し合い、考えをまとめることができるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

- ①「まとめる」段階では、学習してきたことを基に、コンビニグループ会社の情報活用と国民(わたしたち)の生活との関わりについて、関係図に整理し、それを基に問いに対してまとめる。その記述内容や説明、その後の話合いの発言から「情報を活用した販売業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考え、表現しているか」(思考・判断・表現)について評価する。
- ④「つなぐ」段階では、販売業以外の産業の情報活用や情報活用の課題についても調べ、「これからどのように情報化社会と関わっていけばよいのか」について、産業と国民の立場から、多角的に考えられるようにする。多様な産業における情報活用や課題、国民生活との関連を比較し、共通点を見いだしながら、「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えているか」(思考・判断・表現)について評価する。その際、根拠や理由などを明確にして考えているかに注目する。



▲関係図の例

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①コンビニエンスストアの販売の昔と今を比較することを通して、情報を扱う販売業とわたしたちの生活との関わりについて学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○コンビニエンスストアの販売の様子について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・多くの商品を売っているので、便利。 ◆今のコンビニエンスストアは、昔と比べてどのような違いがあるのだろうか。 ○昔と今のコンビニエンスストアの店舗の様子を比べて、変化について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・買い物の仕方が変わった。 ・コンビニエンスストアは、ただ商品を売るお店から、いろいろなサービスを受けられるお店に変化している。 ○食料品に注目し、開発商品の値段が高いのに売れているものがあることについて話し合い、学習問題をつくる。 ・売れない時代でも消費者の情報を活用すれば売れるなんて、どんな情報を集めているのか。 ・消費者の情報とは、どのようなものなのだろうか。 ・情報をどのように活用しているのだろうか。 ・アンケートやインタビューなどを行っているのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎レシート、今と昔の店の様子の写真、消費者の声、レトルトハンバーグの写真と売り上げの変化、商品改良計画、コンビニグループ会社の方の話 □物が売れない時代でも、情報を活用することで売ることができるという驚きから、学習問題をつくるようにする。 ◎コンビニエンスストアの情報システム投資額 ☆ノートの記述や発言内容から「コンビニエンスストアの販売の様子について、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> コンビニエンスストアは、消費者の願いに応えるために、どのように情報を集め、活用しているのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○予想を考え、学習計画を立てる。 ・どのような情報をどのように集めているのだろうか。 ・集めた情報をどのように活用しているのだろうか。 ・情報を活用することで、どのような変化があったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ノートの記述や発言内容から「販売業と情報の関わりについて予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	②コンビニエンスストアでは、どのような情報をどこからどのように集めているのかについて調べ、理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ◆コンビニエンスストアは、利用者を増やすために、どのような情報を、どのように集めているのだろうか。 ○どのような情報をどこから集めているのかについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・POS レジを通して、購入商品の履歴を集めている。 ・nカードから年齢や性別、購入商品・来店頻度を集めている。 ○資料から本部とのつながりについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・店舗で得た情報は、本部とつながっている。 ・消費者の情報だけでなく、気象情報や地域の情報も本部と情報交換している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎POS レジ・nカード資料、コンビニグループ会社の方の話、情報システム、気象情報 □店舗と本部が双方に情報交換することで、より多くの情報を扱っていることを押さえる。 ☆ノートの記述や発言内容から「資料から必要な情報を集め、販売業で活用されている情報の種類や情報の収集の方法について理解しているか」を評価する。【知①】
	③コンビニエンスストアが集めた情報の活用について調べ、情報を商品開発に活用していることを理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ◆コンビニエンスストアは、集めた情報をどのように活用しているのだろうか。 ○商品改良委員会やコンビニグループの分析結果について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・消費者は、価格の安さではなく、上質な商品を求めている。 ・商品改良委員会が客の求めるニーズを分析している。 ・アンケートやインタビューなど、客の声を基にした情報も多く活用している。 ○商品開発について、コンビニエンスストアと消費者の立場から考えたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・客の求めているものが買え、販売側の売り上げも伸びる。 ・WIN-WINの関係になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎レトルトハンバーグの写真、消費者の声、商品改良委員会 ◎コンビニグループ会社の方の話 □情報を分析・活用し、様々な過程を経て商品開発されていることを押さえる。 ☆ノートの記述や発言内容から「資料から必要な情報を集め、産業における情報の活用の仕方について理解しているか」を評価する。【知①】
	④コンビニエンスストアでは、集めた様々な情報をサービス向上に役立てていることを理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ◆コンビニエンスストアは、集めた情報を活用して、他にどのようなサービスをしているのだろうか。 ○通信販売の仕組みについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ネットとリアル融合した新しいサービスだ。 ・自分の都合に合わせて買い物ができる便利な仕組みだ。 ○総合通販の売り上げ推移や利用者の声について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・客のニーズに応えるサービスを考えることで、利用者も増え、売り上げも上がっている。 ○総合通販についてコンビニエンスストアと消費者の立場で考えたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・このサービスも、情報を活用することによってWIN-WINの関係になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎通信販売の仕組み、通信販売利用者と売り上げの推移、通信販売利用者の声、コンビニグループ会社の方の話 □利用者の情報を活用することで、より消費者のニーズに応えていることに気付かせる。 ☆ノートの記述や発言内容から「資料から必要な情報を集め、販売業における情報の活用の仕方について理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑤店舗の広がりやグループ会社の取組について調べ、情報の活用と国民生活の変化について考え表現できるようにする。</p>	<p>◆販売業において情報を活用することで、国民生活にどのような影響があるのだろう。</p> <p>○コンビニエンスストアの店舗数について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアは、約 21208 店舗で全国各地に広がっているから、どこでもサービスを受けられる。 <p>○コンビニエンスストアのグループ会社について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアで買える商品が、グループ会社のスーパーマーケットや百貨店で購入できる。 ・グループ会社は約 150 社もあるから、どこでもサービスが受けられる。 <p>○コンビニグループ会社の新しい取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの情報を集めることができるようになる。 ・今後も多くの情報を活用して、どんどん発展していく。 	<p>◎全国の同一コンビニの分布図</p> <p>□空間的な視点を入れることで、サービスの広がりについて捉えさせる。</p> <p>◎コンビニグループ会社概要及びデータ管理</p> <p>□コンビニエンスストアだけでなく、多くの会社と連携し、全国に広がっていることを理解できるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「店舗の広がりやグループ会社の取組と国民の生活を関連付けて、その変化を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	<p>⑥情報を活用して変化する販売業の現状と国民生活を関連付け、自分の考えをまとめ、大量の情報や情報通信技術活用は様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆コンビニグループ会社の情報活用は、わたしたちの生活にどのように関わっているのだろう。</p> <p>○これまで調べた情報の種類や収集方法、情報の活用などの流れを関係図に整理して説明したり、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考え話し合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニグループ会社が情報を活用して販売に生かすことで、私たちの生活は便利で豊かになっている。 <p>○話し合いや関係図を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <p>コンビニグループ会社は、大量の情報や情報通信技術を生かして消費者のニーズに応えていくことで、売り上げや利用者を増やし、利用者は便利なサービス等を受けられるようになることで、利便性が高まっている。</p>	<p>□関係図は、コンビニグループ会社の情報活用に関与する自分を位置付けるようにまとめる。</p> <p>★関係図の記述や発言から「情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考え、表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述などから「大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることについて理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑦他の産業の情報活用について調べ、様々な産業における情報の活用や課題、発展や国民生活との関連などについて考え表現できるようにする。</p>	<p>◆その他の産業では、どのように情報を活用しているのだろう。</p> <p>○産業を発展させている運輸・観光・医療・福祉の事例について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運輸：交通情報を活用した渋滞解消 ・観光：GPS を活用したニーズに応える取り組み ・医療：臨床データを活用した薬や試料の開発 ・福祉：高齢者の安全・安心を守る見守りシステム <p>→様々な場で情報を活用し、利用者に最適な生活ができるようにしている。</p> <p>○情報を活用して産業が発展することのプラス面とマイナス面について、Tチャートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報活用によって産業が大きく発展し、わたしたちの生活も便利になっている。 ・便利な一方で、情報が漏れるなどの危険もある。 ・どんな課題があるのだろう。 	<p>◎運輸・観光・医療・福祉の情報活用における資料</p> <p>□販売業だけでなく、多くの産業を取り上げることで、情報活用が産業の発展や、国民の利便性を向上させていることに気付かせる。</p> <p>□これまでの学習を生かして、情報活用におけるプラス面とマイナス面について考えさせることで、情報活用における課題に着目させる。</p> <p>★ノートの記述や発言から「情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考え、表現しているか」を評価する。【思②】</p>
	<p>⑧情報化社会の課題を調べ、わたしたちの生活との関連について、学習したことを基に考えようとする態度を養う。</p>	<p>○前時について振り返り、情報化社会の課題を示す新聞記事などについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報流出やネット犯罪が多く起こっている。 ・情報管理が問題となっている。 ・情報活用は便利だけれど、やはり課題もある。 <p>◆これからどのように情報化社会に関わっていけばよいのだろう。</p> <p>○nカード利用契約書について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を活用することは、しっかりと説明に書かれているから、理解した上でカードを活用していかねばならない。 ・産業にとっても、情報を活用することにとっても注意している。 <p>○これまでの学習を基に、これからどのように情報化社会と関わっていけばよいのか話し合い、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を活用していくことは、産業にとっては発展し続けられること、わたしたち消費者にとっては、便利で豊かな生活を送ることができるなどのメリットがあるので、今後も情報活用が増えていくと考えられる。だからこそ、産業と消費者のお互いが、個人情報の流出やトラブルを起こさないように気を付けたり、情報を正しく活用できるように見極めたりしていくことが大切である。 	<p>◎情報漏洩の新聞記事</p> <p>◎サイバー犯罪検挙状況等グラフ</p> <p>□情報化社会の課題を調べることで情報を見極める大切さに気付かせる。</p> <p>◎nカード利用契約書(抜粋)</p> <p>□カードの利用契約書を調べることで、産業と国民の両方の立場で情報活用に関心していることを捉えさせる。</p> <p>□これまでの学習を基に、これからの情報化社会について考えることにより、情報活用の在り方を産業と国民の立場で多角的に考えられるようにする。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

第 1 時の資料（つかむ）

◆今のコンビニエンスストアは、昔と比べてどのような違いがあるのだろうか。

レトルトハンバーグステーキの販売状況

年次	販売額
2010	212万個
2011	446万個
2012	571万個
2013 (7ヵ月)	439万個
累計	1,668万個



商品改良計画



（出典）コンビニグループホームページ

資料 今と昔の店の様子の写真 消費者の声 レトルトハンバーグの写真
レトルトハンバーグ売り上げの変化 商品改良計画

コンビニエンスストアの売り上げの変化に着目する。

とても高い商品なのに、どうしてこんなに売れるのかな。

こんなにすごい計画をどうやって考えているのかな。

情報ってなんだろう。
情報をどのように活用しているのだろう。

【指導上の留意点】

コンビニグループ会社の方の話から出てきた疑問について話し合い、学習問題へとつなげる。

【コンビニグループ会社の方のお話】



ものが売れない時代でも、消費者の情報を活用すれば売れるものは作れます。

【学習問題】

コンビニエンスストアは、消費者の願いに応えるために、どのように情報を集め、活用しているのだろう。

第 2 時の資料（調べる）

◆コンビニエンスストアは、利用者を増やすために、どのような情報を、どのように集めているのだろう。



（出典）コンビニエンスストアホームページ

資料 情報を集める資料

- ・ POS レジ・プリペイドカードについての資料
- ・ コンビニグループ会社の方の話

情報の種類や情報通信技術に着目する。

【指導上の留意点】

POS レジやカードの情報を集める資料を扱うことで、より多くの情報を様々な方法を用いて集めようとしていることに気付くことができるようにする。

普段買い物をする時に使っているレジなどから、様々な情報を集めているんだね。

【コンビニグループ会社の方のお話】

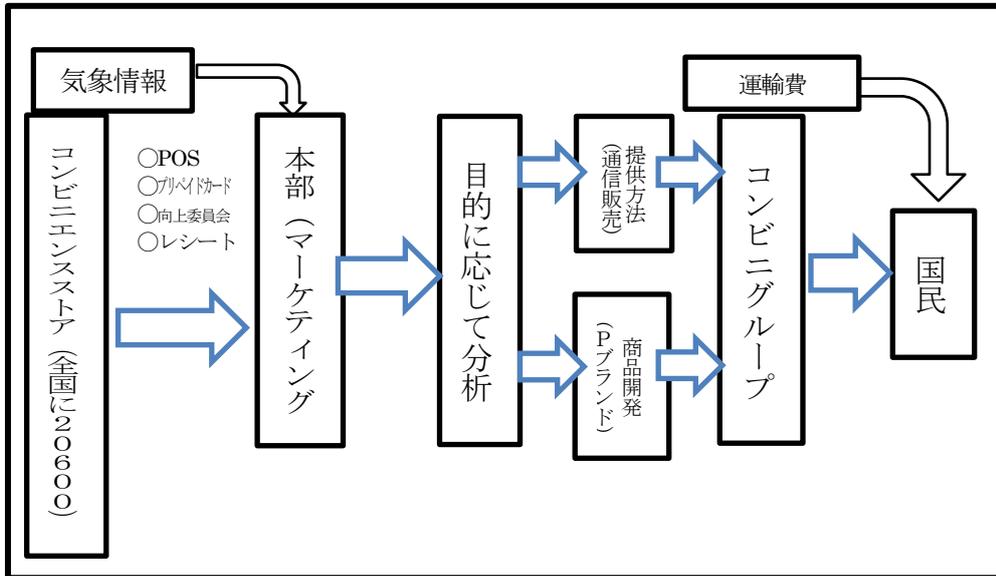


昔は、情報が集めにくく、大変な手間をかけて情報を集めていました。今では POS レジやカード、アプリなど、様々な方法を通して、多くの情報を集めることができるようになりました。そのことの実現により、お客様のニーズにより応えたり、お客様の声を生かせたりすることができるようになりました。

昔と違って、様々な方法を使って多くの情報を集めることができるようになったんだ。

第6時の資料 (まとめる)

◆コンビニグループの情報活用は、わたしたちの生活にどのように関わっているのだろう。



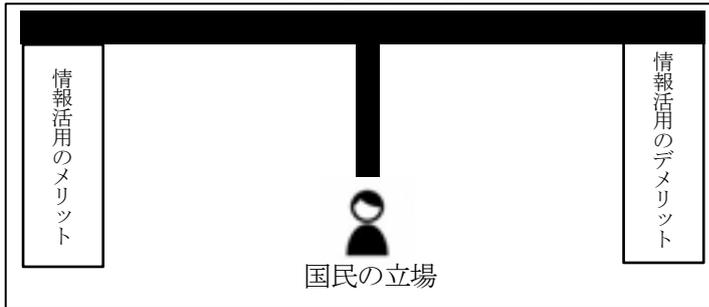
【指導上の留意点】

「コンビニエンスストア」、「消費者」の2つのキーワードがどのような関係にあるのか関係図に表す。

コンビニグループ会社は、大量の情報や情報通信技術を生かして消費者のニーズに応じていくことで、売り上げや利用者を増やしている。また、情報活用が進んだことで消費者が場所や時間を選ばずに、より便利なサービスを受けられるようにしている。

第7・8時の資料 (つなぐ)

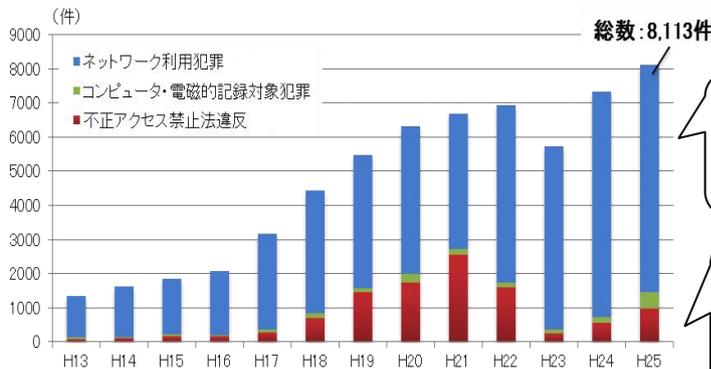
◆これからどのように情報化社会に関わっていけばよいのだろう。



情報活用によって国民の生活は、便利になっている。一方で個人情報の扱いやネット犯罪などの課題があるのではないかな。

【指導上の留意点】

学習指導要領の内容の取扱いにあるように、情報化社会のよさや課題について自分の考えをまとめることができるようにする。



情報を活用することが増えているから、これからもっと犯罪も増えていくかも。

情報化社会は、わたしたちを便利にしてくれるけれど、適切な情報を見極め、活用していくことが大切だ。

(出典) 警視庁「サイバー犯罪の検挙状況等」平成 25 年

小単元名	情報と産業の関わり（運輸業）	配当 8時間	内容（4）アの（イ）及び（ウ）とイの（イ）
------	----------------	--------	-----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の産業と情報の関わりについて、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの資料で調べたりして、図表などにまとめ、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にして、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用の仕方などについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状について理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	①情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見だし、産業における情報活用の現状について考え、表現している。 ②情報化の進展に伴う産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことを基に産業と国民の立場から多角的に考えたりして、情報化の進展に伴う産業や国民生活の向上について、自分の考えをまとめ、適切に表現している。	①我が国の産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、産業と国民の立場から、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容（4）ア（イ）（ウ）イ（イ）の「我が国の産業と情報との関わり」に関する内容で構成したものである。具体的には、「大量の情報や（中略）国民生活を向上させていることを理解すること」と示されており、情報を活用しながら変化し発展している産業、情報通信機器を利用する国民などの情報と関わる人々を取り上げ、情報や情報通信技術（インターネットやビッグデータ、SNSなど）を活用する産業の役割について扱うことが求められている。
- ②内容の取扱い（4）イでは情報や情報技術を活用して発展している産業の事例として「販売、運輸、観光、医療、福祉など」の中から選択して取り上げることとされている。本指導計画においては、事例として、情報を収集・分析して、効率の良い運行を可能にするダイヤの設定やルートの最適化に活用したり、乗降客数の増加や再配達の削減に活用したりしている運輸業を中心に取り上げている。
- ②内容の取扱い（4）イに示された「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」について、小単元終末の「つなぐ」段階で子供が情報活用の在り方を多角的に考え、まとめることができるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①主体的に問題解決的な学習を行うことができるように、「バス乗合輸送人員の変化」「バス事業者の黒字と赤字の割合」「バス会社の情報活用後の利用者数の変化」を提示し、全国の多くのバス事業が厳しい状況にあるという事実と、その一方で、情報を活用して利用者数を増加させているバス会社の取組に対する疑問や課題意識を引き出す。
- ②社会的事象の見方・考え方を働かせて問いを追究できるように、学習指導要領の内容に示された着目する視点や特色や意味を焦点化し、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、理解できるようにする。「車内装置の写真」「バス路線や時刻表の情報活用前後の変化」「サービス評価の推移」などの資料を示すことで、情報の種類や集め方、情報の活用の仕方などに着目して、バス会社や運送会社が情報を収集・分析し、効率の良い運行を可能にするダイヤやルートの最適化に活用したり、乗降客数の増加や再配達の削減に活用したりしていること、顧客の満足度も高まっていることなどを調べさせる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、全国にあるバス事業の厳しい状況、利用者減による路線バスの廃止や交通弱者の増加という課題に注目させる。一方で、情報活用によって利用者数を増加させているバス会社を取り上げる。両方の事実の相

違点から、情報活用に対する疑問や課題意識をもたせることで学習問題をつくり、学習計画を立て、問題解決的な学習につなげる。

- ②「しらべる」段階では、社会的事象の見方・考え方を働かせることができるように、「バス会社は、どのような情報をどのように集めているのだろうか。」「バス会社では、集めた情報をどうしているのだろうか。」「物を運ぶ産業では、バス会社のように情報を活用しているのだろうか。」の3つの問いを追究する。
- ③「まとめる」段階では、バス会社と運送会社の情報を活用した取組について、表にまとめて比較する活動（指導計画内に例示）を行う。「情報の種類や集め方」「情報の活用の仕方」「利用者にとっての良い点」のそれぞれについて整理し、話し合うことを通して、それぞれの取組の良さや共通点を見いだすことにつなげられるようにする。
- ④「つなぐ」段階では、「まとめる」段階までの学習を基に、運輸業における情報活用を通じたよりよい発展や、それを通してわたしたちの生活を向上させていくために必要なことを考える。そのことから、運輸業が情報を活用して、よりよく発展していくためには、情報を集める技術や分析する技術を伸ばしていくとともに、どのような情報を集めて、どのように活用していくのかについて、よく考えることが必要であることに気付かせる。そして、情報を活用した未来の産業について、自分の考えをまとめられるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

- ①「まとめる」段階では、比較表にまとめることで、学習してきたことを整理し、それぞれの関係の意味について考える。具体的には、「バス会社」と「運送会社」それぞれについて「情報の種類や集め方」「情報の活用の仕方」「利用者にとっての良い点」の3点について比較表にまとめ、比較したり関連付けたりしながら、考えたことを表に書き込んでいく。その記述内容や「情報を活用した運輸業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考え、表現しているか」（思考・判断・表現）について評価する。
- ②「つなぐ」段階では、「これからの運輸業は、情報をどのように活用して発展していくとよいのだろう。」について、産業と国民の立場から、多角的に考えられるようにする。その際、記述などから、学習したことや情報を活用した未来の産業予想を基に、根拠や理由を明確にして考えているかを捉え、「産業と国民の立場から多角的に考え、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について自分の考えをまとめているか」（思考・判断・表現）を評価する。

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①②情報を扱う運輸業とわたしたちの生活との関わりについて学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	<p>○情報と自分たちの生活との関わりを振り返り、運輸業への関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で、情報が生活に関わっていた。 ・買い物や通院、車に乗る時にも情報がやり取りされていた。 ・運輸業がサービス産業の中で売上が一番多い。 ・工業の学習の時に、運輸業は人や物を運ぶ産業だと学習した。 ・こんなに売り上げが多いということは、それだけ情報との関わりも大きいのではないか。 <p>◆人や物を運ぶ産業は、どのように情報と関わっているのだろうか。</p> <p>○全国にある路線バスの現状について調べ、疑問や考えを出し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの利用者が60億人も減っている。 ・車を運転できない人は、バスがないと出かけることが難しい。 ・乗客数を増やしている会社では、どのような方法で利用者を増やしているのだろうか。 ・他の人や物を運ぶ産業でも同じようなことがあるのだろうか。 	<p>◎イラスト「生活の中の情報」、主なサービス業における年間売上高</p> <p>□サービス業の中でも運輸業の売上高が高いことを捉えさせる。</p> <p>◎バス乗合輸送人員の変化</p> <p>◎バス事業者の黒字と赤字の割合</p> <p>◎バス会社の情報活用後の利用者数の変化</p> <p>□バス事業の課題を確認した上で、改善状況を示し、疑問や課題意識をもたせる。</p> <p>◎バス会社の方の話</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「運輸業の様子について、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p>
	<p>人や物を運ぶ産業では、わたしたちの暮らしをよりよくするために、どのように情報を集め、活用しているのだろうか。</p>	<p>○予想を基に、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗客が少ない原因を調べるために、情報を集めている。 ・バスの中に、情報を集めたり活用したりするための機械が入っている。 →どのような情報をどのように集めているのだろうか。 ・パソコンを使って、乗客を増やす仕組みを考えている。 →集めた情報をどのように活用しているのだろうか。 ・他の運輸業でも情報との関わりがある。 →物を運ぶ産業では、どのように情報を活用しているのだろうか。 	<p>□情報の収集、情報の活用の視点で予想を考えさせる。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「我が国の運輸業と情報の関わりについて予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
しらべる	③バス会社では、様々な情報をどこからどのように集めているのかについて理解できるようにする。	<p>◆バス会社は、どのような情報をどのように集めているのだろうか。</p> <p>○どのような情報をどこから集めているのかについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車内に乗降センサーがあり、どこかのバス停でどれだけの人が乗ったのかという情報を集めている。 ・GPSアンテナで、バスが時間どおりに運行できているかという情報を集めている。 ・車内アンケートを集めて、どんな要望があるのかを毎週必ず確認している。 ・集めたデータは、車内のデータ転送装置で転送され、すぐに会社で確認できるようになっている。 	<p>◎車内装置の写真</p> <p>◎車内アンケートの写真</p> <p>□ビッグデータだけでなく、アンケートのアナログデータも含めて、情報として集めていることを確認する。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「資料から必要な情報を集め、産業で活用されている情報の種類について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	④⑤バス会社では、集めた情報を活用し、問題点の分析や改善を行っていることを理解できるようにする。	<p>◆バス会社では、集めた情報をどうしているのだろうか。</p> <p>○情報を活用する前後のバスルートの違いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通る道が変わっている。 ・なくなったバス停や新しくできたバス停がある。 <p>○バス会社が、集めた情報をどのように活用しているのか、資料を読み取り調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使う人がいないバス停にバスを停めることをやめて、より必要な人がいる場所をアンケートで確認したことで、バスルートとバス停を変えた。 <p>○バス会社が、情報を活用したことにより、どのように利益を上げたのかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスルートの変更を行ったことで、乗客が増えて利益につながった。 ・バス会社が赤字を改善するための取組によって、乗る人にとっても使いやすくなっている。 	<p>◎改善前後のバス路線図、時刻表</p> <p>◎バス停ごとの利用者数</p> <p>◎バス会社の方の話</p> <p>□集めた情報を分析しルートを改善した結果、赤字改善につながったことを押さえる。</p> <p>◎サービス評価の推移</p> <p>□情報を活用することで、事業者と乗客のどちらにとっても利便性が高まったことを確認する。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「資料から必要な情報を集め、運輸業における情報の活用の仕方について理解しているか」を評価する。【知①】</p>

	<p>⑥運輸業の情報活用について調べ、バス会社と同じように、情報を活用して発展している運輸業について理解できるようにする。</p>	<p>◆物を運ぶ産業でも、バス会社のように情報を活用しているのだろうか。</p> <p>○運送会社など、物を運ぶ運輸業が抱える課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる購入者の増加で、配達が進められなくなっている。 ・運ぶ人の数が減ってきている。 ・同じ荷物を何回も届け直すことで、運ぶ側の負担が大きくなっている。 <p>○情報を活用して発展している運送会社の事例について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住所や希望の配達時間、道路状況などの情報を集めている。 ・集めた情報を基にして宅配ネットワークシステムを使うことで、一番効率の良いルートで配達できるようになっている。 	<p>◎宅配便の取扱数の推移</p> <p>◎運輸業従事人口の推移</p> <p>◎宅配便の再配達率の割合</p> <p>◎宅配ネットワークシステム図</p> <p>□バス会社の取組との共通点や相違点について考えさせる</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、運輸業における情報の種類や活用の仕方について理解しているか」を評価する。【知①】</p>												
<p>まとめる</p>	<p>⑦運輸業における情報活用の現状とわたしたちの生活とを関連付け、自分の考えをまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆人や物を運ぶ産業は、情報を活用することでどのように発展し、わたしたちの暮らしをよりよくしているのだろうか。</p> <p>○これまで調べてきたことを比較表に整理して、学習問題について議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表に整理した後、表の項目を比べたり関連付けたりして考えたことを、表に書き込んでいく。 <table border="1" data-bbox="466 743 1040 945"> <caption>比較表の例</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>情報の種類や集め方</th> <th>情報の活用の仕方</th> <th>利用者にとって良い点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バス会社A</td> <td>乗客数(センサー) 位置情報(GPS)</td> <td>時間やルートの変更</td> <td>利用しやすくなった</td> </tr> <tr> <td>宅配便会社B</td> <td>希望時間(不在時) 位置情報(GPS)</td> <td>効率の良いルート決定</td> <td>利用しやすくなった</td> </tr> </tbody> </table> <p>○話し合いを通して考えたことから、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div data-bbox="438 1025 1050 1191" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>バス会社や運送会社などの人や物を運ぶ産業では、大量の情報や情報通信技術を生かし、利用者の願いに応じて、運行や配達の最適化や効率化を行っていくことで売り上げや利用者を増やしている。また、情報を活用してサービスの向上が進んだことで、利用者にとっての利便性も高まっている。</p> </div> <p>○まとめたことを見直し、運輸業の情報活用について課題点はないかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が情報を上手く使えないと、どれだけ情報を集めても役に立たない。 ・仕組みづくりにはすごくお金がかかるから、どの会社でもできるわけではないのではないか。 		情報の種類や集め方	情報の活用の仕方	利用者にとって良い点	バス会社A	乗客数(センサー) 位置情報(GPS)	時間やルートの変更	利用しやすくなった	宅配便会社B	希望時間(不在時) 位置情報(GPS)	効率の良いルート決定	利用しやすくなった	<p>□「情報収集→情報を活用した産業の発展→生活の向上」の流れでまとめられるようにする。</p> <p>□学習したことを基に根拠や理由を明確にして発言させる。</p> <p>★ノートの記述や作成した比較表から「情報化の進展に伴う産業の発展と国民生活の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考え、表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>□産業と国民の両方の立場から考え、情報活用によって、人や物を運ぶ運輸業が進展し、国民生活を向上させていることに気付かせる。</p> <p>★ノートの記述や作成した比較表から「大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることについて理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>□これまで学習してきた情報活用の良さに対して、課題を考えさせることで、今後の情報活用について考える契機となるようにする。</p>
	情報の種類や集め方	情報の活用の仕方	利用者にとって良い点												
バス会社A	乗客数(センサー) 位置情報(GPS)	時間やルートの変更	利用しやすくなった												
宅配便会社B	希望時間(不在時) 位置情報(GPS)	効率の良いルート決定	利用しやすくなった												
<p>つながる</p>	<p>⑧学習したことを基に、情報活用を通じた産業の発展やわたしたちの生活の向上について、考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆これからの運輸業は、情報をどのように活用して発展していくとよいのだろうか。</p> <p>○運輸業が、情報を活用してより発展していくことや、それを通してわたしたちの生活を向上させていくために必要なことを話し合う。</p> <div data-bbox="438 1550 1050 1684" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>運輸業が情報を活用して、よりよく発展していくためには、情報を集める技術や分析する技術を伸ばしていくとともに、どのような情報を集めて、どのように情報を活用していくのかについて、よく考えることが大切である。</p> </div> <p>○情報を活用した未来の産業について、自分が考えたことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報と運輸業の関わりがもっと進むと、事故が減ったり、高齢者が外出したりしやすくなる。 ・便利になるからこそ、情報を正しく使えるようにならなければならない。 	<p>◎バス会社の方の話</p> <p>□前時で作成した比較表を活用して、運輸業の立場と利用者である自分たちの立場から、これからどうなってほしいか考えをまとめた上で話し合い、よりよい情報活用の将来に向けて大切なことや自分たちが関わられることを考えられるようにする。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「学習したことを基に産業と国民の立場から多角的に考え、情報化の進展に伴う産業や国民生活の向上について自分の考えをまとめているか」を評価する。【思②】</p> <p>◎Society5.0(動画)</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>												

小単元名	自然災害を防ぐ	配当 6時間	内容 (5) アの(ア)及び(エ)とイの(ア)
------	---------	--------	-------------------------

<「地理的環境と人々の生活」及び「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の自然災害の様子について、災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見だし、国土の自然災害の状況について考え、表現している。 ②我が国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて考えたり、学習したことを基に国民一人一人の防災意識を高めることの大切さについて考えたりして、適切に表現している。	①我が国の自然災害の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活」のア(ア)(エ)イ(ア)に関する内容で構成している。ここでは、「自然災害と国土の自然条件との関連」や「国や県などの対策や事業」を取り上げ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、国民の生活を守るために国や県などが様々な事業や対策を進めていることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(5)アに「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などを取り上げること。」と示されており、ここでは、第4学年「自然災害から人々を守る活動」とのねらいの違いに留意し、自然災害と国土の自然条件との関連を通して国土の地理的環境を理解することが求められている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①子供が災害の種類や発生の位置や時期に着目して、「自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していること」を理解できるようにするために、「全国で発生する自然災害の種類」「地図帳」「年表」を資料として活用する。
- ②日本は自然災害が多く発生する国土であり、国連大学がまとめた「自然災害に見舞われる可能性」では世界4位である。同じく国連大学により、被害の大きさや復旧までにどれぐらい時間がかかるかというを示した「脆弱性ランキング」も発表されており、その中では17位となっている。これらの資料を活用して、自然災害防止への切実感をもたせるとともに、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、比較)を働かせ、資料を基に、自然災害に見舞われる可能性と実際の被害の多さの違いに着目させ、日本の自然災害への問題意識を高められるようにする。

順位	国
1位	バヌアツ
2位	トンガ
3位	フィリピン
4位	日本

*171か国を対象としている

- ▶自然災害に見舞われる可能性が高い国(国連大学『世界リスク報告書2016年版』)

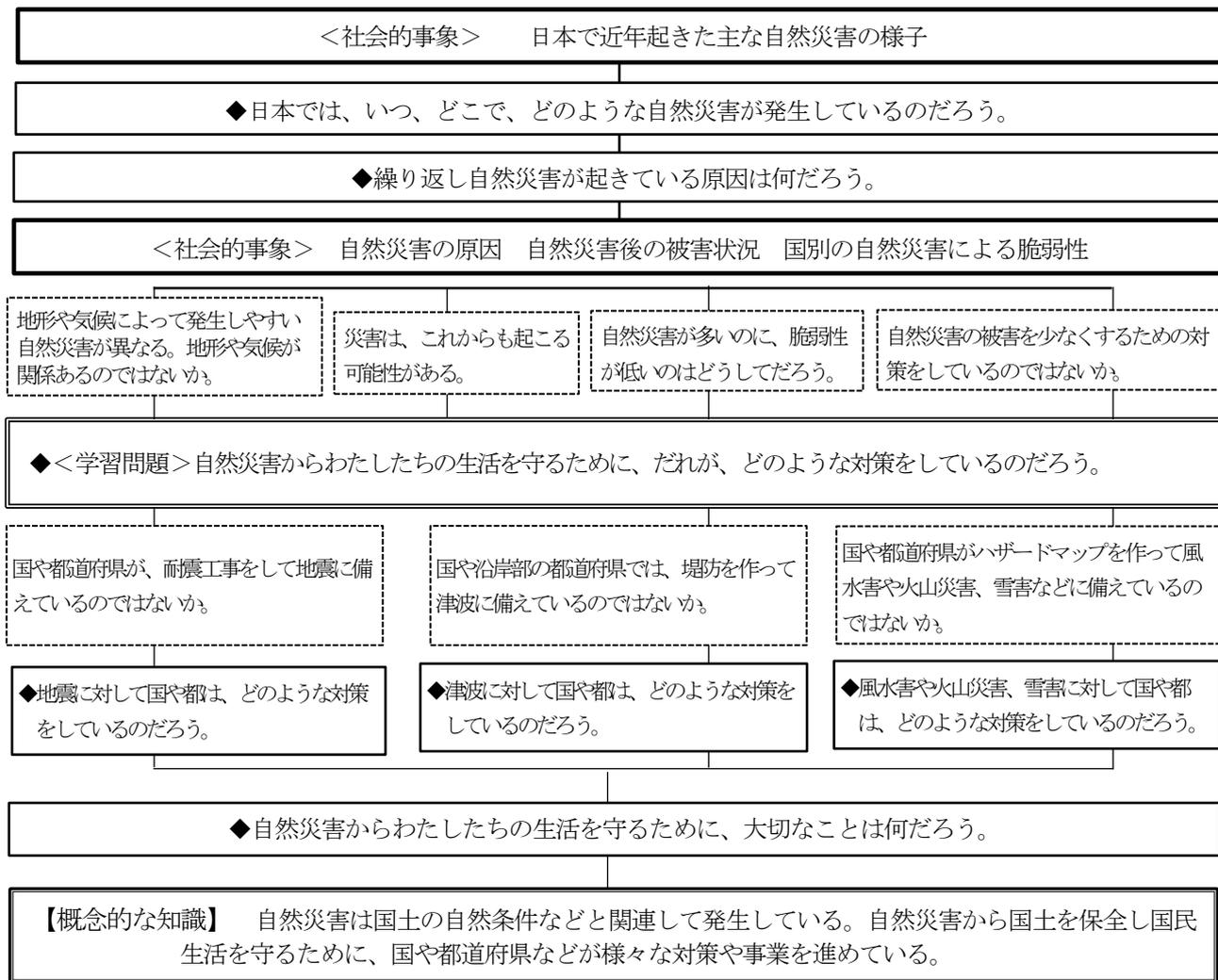
<https://jp.unu.edu/news/news/wrr-2016-inadequate-infrastructure-pushes-up-risk-of-disaster.html>

- ③「全国の防災力ランキング」(日本気象株式会社提供)とは、都道府県ごとの防災意識を調べ、集計してランキングにしたものである。このランキングは、「気象情報(警報など)を日頃からチェックしている」や「近くの避難所を知っている」などの質問に対する回答を基に算出されている。このランキングからは、何度も繰り返した大きな自然災害に見舞われた地域の人々ほど、防災意識が高いことを読み取ることができる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階で、自然災害と国土の環境との関連を捉えさせる。第4学年や第5学年の既習事項も想起させながら学習問題をつくったり、学習計画を立てたりできるようにする。
- ②「しらべる」段階では、自然災害に対する対策を調べるように学習を展開する。各自然災害への対策を調べた後は、なぜその対策を行うのか、意図を考えさせることで、国や都道府県が建設した防災施設や取組の目的に触れさせるようにする。また、理科「天気の変化」「川と災害」などで得た知識を調べる際に活用できるよう、教科間のつながりも意識したい。
- ③「まとめる」段階では、調べたことを表にまとめたり、「防災力ランキング」を提示し、住んでいる地域の自然条件を意識して生活する人の姿に目を向けさせたりすることで、「自然災害の多い国土で生活する国民一人一人の防災意識を高めることの大切さ」を考え、学習問題を解決できるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫 ～「まとめる」段階における「思考・判断・表現」の評価～

「まとめる」段階では、調べてきたことを表にまとめることで、学習してきたことを整理する。具体的には、「自然災害の種類」「地形や気候との関わり」「国や地方自治体の対策」「対策の意図」を表にまとめ、それを基に比較・関連・総合しながら考えたことを書き込ませていく。その記述や話し合いにおける発言の内容から「自然災害と国土の自然条件との関連を考え、表現しているか」(思考・判断・表現)を評価する。

その際、「防災・減災のために国や県が役割を分担して対策や事業を行っている」「自然条件と自然災害は関係していて、その地形や気候を踏まえた対策を行っている」など、それぞれの項目を比較して共通点を見いだしたり、国土の自然条件と自然災害、及びその対策について関連付けて考えたりすることができていれば、「おおむね満足できる」状況と評価することができる。

特に、作成した表や「全国の防災力ランキング」を基に、「国民一人一人の防災意識を高めることが大切である。」ということに触れた記述が見られた場合は、「十分に満足できる」状況と評価できる。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①日本で発生する自然災害の種類や位置、年代、回数を調べ、我が国の自然災害の状況を理解できるようにする。	<p>○資料から自然災害の被害や人々に与えた影響について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物が壊れたり、流されたりしている。 ・被害の範囲が広い。・災害後の生活への影響が大きい。 <p>◆日本では、いつ、どこで、どのような自然災害が発生しているのだろうか。</p> <p>○日本で発生したことのある自然災害の種類や位置、年代、回数を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波、風水害、火山の噴火、大雪など、多くの種類の自然災害が全国で発生している。 ・同じ地域で繰り返し自然災害が発生している。 	<p>◎地震や津波、火山噴火、大雪の写真</p> <p>◎日本で近年発生した自然災害(地図、年表)、地図帳</p> <p>□白地図に発生した位置や年代を記入させ、場所による違いや繰り返し発生していることに気付かせる。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	②日本で発生する自然災害の原因などに着目して問いを見だし、学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	<p>○前時の学習を振り返り、めあてを設定する。</p> <p>◆繰り返し自然災害が起きている原因は何だろう。</p> <p>○日本で発生する自然災害の被害や原因を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風水害は、大きな川が流れている場所や降水量が多い場所で起こる ・雪害は、冬にたくさん雪が降りやすい日本海側で多く発生している。 ・地形や気候によって発生しやすい自然災害が異なる。 <p>○「自然災害に見舞われる可能性」と「脆弱性ランキング」から問いを見だし、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が多く発生しやすいのに、なぜ脆弱性は高くないのだろうか。 ・何か対策がされているのだろうか。 ・国が対策をしているのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自然災害からわたしたちの生活を守るために、だれが、どのような対策をしているのだろうか。</p> </div> <p>○予想を基に学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の被害を減らすために、国や都府が防災の取組をしているのではないか。 ・対策は、種類や地域によって違いがあるのかもしれない。 <p>→地震(津波、風水害、火山災害、雪害)に対して、だれが、どのような対策をしているのだろうか。</p>	<p>◎自然災害によって被害を受けた方の話、自然災害の原因</p> <p>□既習事項(国土の地形や気候の特色など)を想起させながら、自然災害が起きる原因を考えさせる</p> <p>◎自然災害に見舞われる可能性</p> <p>◎国別自然災害による脆弱性ランキング</p> <p>□脆弱性が低いことに着目して学習問題をつくるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「我が国の自然災害について、災害の種類や発生位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見だしているか」を評価する。【思①】</p> <p>どのような対策をしているのだろうか。</p> <p>★発言や記述から「学習問題の解決に向けた予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
しらべる	③地震への対策や意図について調べ、理解できるようにする。	<p>○学習計画から本時のめあてをつかみ、予想を出し合う。</p> <p>◆地震に対してだれが、どのような対策をしているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国は、建物が倒れにくい対策を考えているのではないか。 ・国は、地震が起きた後のことも考えていると思う。 <p>○地震に対する国や地方自治体の取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国が緊急地震速報を流している。 ・国が中央防災会議を行い、地震への対策を話し合っている。 ・〇〇市では、学校や公共施設などを中心に耐震工事を行っている。 <p>○国や地方公共団体が行う対策の意図を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何百年かに1回の大災害でも、被害を減らせるようにしている。 ・自分の身は自分で守れるようになってほしい、というねらいがある。 	<p>◎地震への対策</p> <p>◎国土交通省の方の話</p> <p>□対策を進める意図について話し合う際には、現代の人だけではなく、未来の人に向けての取組であることに目を向けられるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、地震に備えた様々な対策やその意図について理解しているか」を評価する。【知①】</p>

	<p>④津波への対策や意図について調べ、理解できるようにする。</p>	<p>○学習計画から本時のめあてをつかみ、予想を出し合う。 ◆津波に対してだが、どのような対策をしているのだろう。 ・国が避難所をつくっているのではないか。 ○津波に対する国や地方自治体の取組を調べる。 ・国や地方自治体が防潮堤を作っていた。 ・国（気象庁）が地震の後、すぐに津波警報を出していた。 ・地域ごとに津波を想定した避難訓練をしていた。 ○国や地方公共団体が行う対策の意図を話し合う。 ・津波警報を聞いて、すぐに安全な場所に避難してほしい、というねらいがある。</p>	<p>◎津波への対策 ◎国土交通省の方の話 □話し合う際には、ハザードマップの意味に着目し、「国民の防災意識を高める」ことの大切さに目を向けられるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、津波に備えた様々な対策やその意図について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤風水害や火山災害、雪害への対策や意図について調べ、理解できるようにする。</p>	<p>○学習計画から本時のめあてをつかみ、予想を出し合う。 ◆風水害や火山災害、雪害に対してだが、どのような対策をしているのだろう。 ・大雨や火山の噴火が起こったら、国が警報を出しているのではないか。 ○風水害や火山災害、雪害に対する国や地方自治体の取組を調べる。 ・警報を出したり、流雪溝や防砂林、ハザードマップなどをつくったりしている。 ○国や地方公共団体が行う対策の意図を話し合う。 ・ハザードマップなどを活用して、自分で自分の身を守れるようになってほしい、というねらいがある。</p>	<p>◎風水害や火山災害、雪害への対策 ◎国土交通省の方の話 □話し合う際には、地震災害・津波災害への対策との共通点に目を向けられるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、風水害や火山災害、雪害に備えた様々な対策やその意図について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>ま と め る</p>	<p>⑥調べたことを表に整理し、学習問題について考え、国土の災害への対策や事業について理解できるようにする。</p>	<p>◆自然災害からわたしたちの生活を守るために、どのような対策がされているのだろう。 ○調べたことを「自然災害の種類」「地形や気候との関わり」「対策」「意図」の視点で整理する。 ◆自然災害からわたしたちの生活を守るために、大切なことは何だろう。 ○調べたことを整理した表と「全国の防災力ランキング」を基に、防災意識の高い都道府県とその回答内容を調べ、自然災害と生活との関連や、自然災害から生活を守るために大切なことを話し合う。 ・地域ごとに自然条件が異なり、発生する自然災害も違うため、地域ごとに日頃から自分たちの生活を守るための備えをしている。 ○学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自然災害は国土の自然条件などと関連して発生しているので、国民の生活を守るために国や都道府県などは、その地域に合わせて対策や事業を進めている。私たちも日頃から自然災害に備えてできることに取り組み、自分の身を自分で守る必要がある。</p> </div>	<p>□全ての都道府県に自然災害への対策があることから、自然災害が多く発生する国土で国民は生活していることや、生活を守るために様々な対策が行われていることに注目させる。 ◎全国の防災力ランキング ★作成した表の記述や発言の内容から「我が国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や地方自治体の対策の役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】 ★まとめの記述などから「自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために、国や県などが様々な対策を進めていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

【第6時で作成する表の例】

自然災害の種類	地形や気候との関わり	国・地方自治体の対策	対策の意図
地震	複数のプレート、断層	耐震工事	被害を防ぐ（少なくする）
		緊急地震速報	自分で自分の身を守る
津波	プレート、沿岸部	防潮堤	被害を防ぐ（少なくする）
		津波ひなんタワー	自分で自分の身を守る
風水害、火山災害	降水量、河川、火山	砂防ダム	被害を防ぐ（少なくする）
		ハザードマップ	自分で自分の身を守る

小単元名	わたしたちの生活と森林	配当 7時間	内容(5)アの(イ)及び(エ)とイの(イ)
------	-------------	--------	-----------------------

<「地理的環境と人々の生活」及び「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の森林について、森林資源の分布や働きなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現することを通して、森林はその育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、森林資源の育成や保護の取組に協力していこうとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①森林資源の分布や働きなどについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、森林はその育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。	①森林資源の分布や働きなどに着目して問いを見だし、国土の環境について考え、表現している。 ②森林と国土保全や国民生活を関連付けて、森林資源が果たす役割を考えたり、学習したことを基に森林の保護や育成に対する自分の関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	①我が国の森林について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを基に森林の保護や育成など、今後、森林を守り続けていくために自分たちが協力できることを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」アの(イ)及び(エ)、イの(イ)に関する内容で構成している。ここでは、「森林の育成や保護に従事している人々」を取り上げ、様々な人々の協力関係が国土の保全など重要な役割を果たしていることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(5)ウの解説として示されている「国民の一人として、国土の自然環境…(中略)国民一人一人の協力の必要性に気付くようにすること」については、「まとめる」段階で、子供がこれからの森林の育成・保護について相互関係的な視点で捉え、「つなぐ」段階で、国民の一人として自分たちに協力できることを考えたり、選択・判断したりできるようにすることを意図している。

(2) 教材や資料の工夫

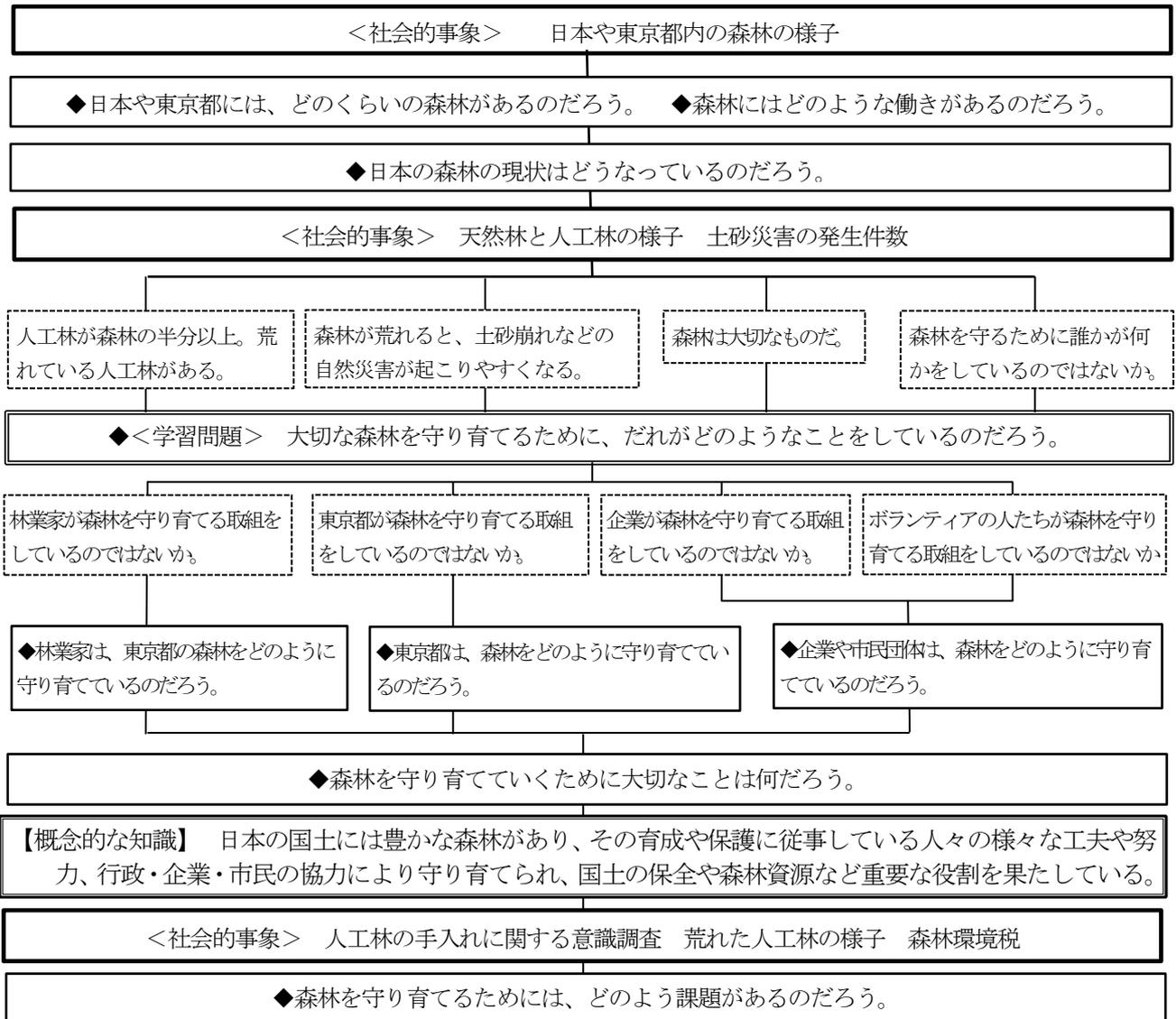
- ①事例地として、東京都の森林を取り上げた。自分たちが住む東京都の「都会であり森林が少ない」というイメージとは逆に、東京都の約4割が森林であることは、子供に驚きをもたせ、その働きや保護・育成について興味・関心を高める上で効果的であると考え。また、かつて生産が減っていた多摩産材は、約60年前に植林した森林が育ち出荷できる状態になったこと、花粉症対策で皆伐を行う施策を進めたことなどの理由から、近年、生産が増えているという点も教材として魅力的である。
- ②森林の育成や保全する取組を、行政のみが主導で行うことには限界があり、企業や市民団体と協力しながら進めている。その様子を教材として取り上げ、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせ、それぞれの役割を考え、行政・企業・市民が連携して取り組んでいくことが大切であることを捉えさせるとともに、子供が国民の一人としてどのように森林の育成や保全に向き合うとよいのか考えることができるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、第1時に身の回りの木製品を探すことで、森林と自分たちの生活とのつながりを意識させ、森林のもつ役割を考えていく。第2時では、前時で学んだ森林のもつ役割と「土砂災害の発生件数」から森林の大切さを実感させ、「大切な森林を守り育てるために、だれがどのようなことをしているのだろう。」という学習問題につなげていく。また、森林の働きについて、「つかむ」段階で調べる活動をすることで、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、森林がどのような働きをもっているのかを理解した上で、国土の保全の重要性に一層関心をもって追究できるようにする。
- ②「しらべる」段階では、行政・企業・市民による森林の育成・保全の取組について、1時間ごとに分かったことや考えたことを関連図にまとめることで、様々な立場の人が連携・協力することで進められていることが理解できるようにする。

- ③「まとめる」段階では関連図にまとめた後に、国民の一人として、自分が国土を保全することについてどのように考えたり関わったりするのかを表現する。
- ④「つなぐ」段階では、学習してきたことを基に「森林環境税の使い道」について話し合う活動を通して、森林を守るために自分たちにできることや協力できることを主体的に考えようとする態度を養うようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

- 「まとめる」段階では、学習してきたことを整理して関連図にまとめていく。その記述や、その後の話し合いにおける発言の内容などから、「思考・判断・表現」について評価する。具体的には、森林の分布や国民の生活舞台である国土の保存と関連付けて、林業家、東京都、企業、市民団体の協力や役割、森林資源の果たす役割やその保全の大切さ、自分との関わりなどについて考え、表現されているかを捉えていく。そして、学習問題について自分の考えをまとめる活動において、その記述内容などから「森林は林業家・行政・企業・都民の協力によって守り育てられ、国土の保全に重要な役割を果たしていることを理解しているか」（知識・技能）について評価する。
- 「つなぐ」段階では、学習してきたことを基に、「森林環境税の使い道」について考えることを通して、森林を守り育てるために自分たちが協力できることを考える。その際に、「思考・判断・表現」の観点から評価する。「林業家や森林を守る市民団体のサポートに使うといいと思う。」「森林を守るためには、適切に木材を活用していくことが大切である。国産木材の加工品を積極的に使うための補助金に使うとよいのではないかと。」「森林を守るための植林などのボランティア活動の経費にあてることもできる。」「森林の大切さを伝えるための取組に使うのもよい。」など、国土や国民生活を守る森林の働きや、その現状、保護育成の取組等、学習したことを基にして、考えたり選択・判断したりすることができていれば、「おおむね満足できる」状況と捉えられる。そして、話し合った後、自分の関わり方や、自分たちに協力できることをまとめていく際に、その記述から「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

3 小単元の指導計画 (7時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ	①森林と自分たちの生活とのつながりを振り返り、森林には様々な働きがあることを理解できるようにする。	○身の回りには、どのような木製品があるのか話し合う。 ・鉛筆 ・机 ・ドア ・ノートなどの紙 ・木材はいろいろなところで使われている身近なものだ。 ◆日本や東京都には、どのくらいの森林があるのだろうか。 ○日本列島における森林の分布の様子について調べる。 ・日本の森林率は67%で、世界第3位だ。 ・東京都の約4割が森林だ。 ◆森林にはどのような働きがあるのだろうか。 ○森林の役割や働きについて調べる。 ・木材を生み出している。 ・森林には様々な役割がある。	◎将棋の駒と台、新国立競技場、森の動物、ランドサットの衛星写真 □森林の様々な機能に着目できるようなイラストなどを使って視覚的に捉えさせる。 ◎国土及び東京都における森林面積の割合と森林の分布 □森林面積の広さや自分たちの生活とのつながりなどから、森林についての関心を高める。 ◎森林の働きについての資料 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、森林資源の分布や働きなどについて理解しているか」を評価する【知①】
か む	②日本の森林の現状について調べ、疑問に思ったことから学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	◆日本の森林の現状はどうなっているのだろうか。 ○森林の種類について調べ、違いについて話し合う。 ・森林には天然林と人工林がある。 ・人工林が半分以上あるなんて知らなかった。 ○日本の人工林の現状を調べる。 ・人工林が荒れている。そのことにより土砂災害が起りやすくなっている。 ○森林の役割や現状、土砂災害の発生件数から考えたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・森林が荒れると私たちの暮らしにも影響する。 ・森林を守るために、誰かが何かをしているのではないかと。 大切な森林を守り育てるために、だれがどのようなことをしているのだろうか。 ○予想を出し合い、学習計画を立てる。 ・林業家が森林を守り育てる取組をしているのではないかと。 ・東京都が森林を守り育てる取組をしているのではないかと。 ・ボランティアの人たちも何かしているのではないかと。	◎天然林と人工林の写真 ◎天然林と人工林の割合のグラフ □天然林と人工林の違いに着目できる写真を提示し、グラフから人工林が多いことを捉えさせる。 ◎荒れた人工林の写真 ◎日本の土砂災害の件数 ☆発言や記述から「森林資源の分布や働きなどに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 ★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	③林業家の取組について調べ、林業に携わる人々の仕事の内容、工夫や努力していることを理解できるようにする。	◆林業家は、東京都の森林をどのように守り育てているのだろうか。 ○資料を基に、林業に携わる人々の仕事の内容を調べる。 ・「育苗→植林→下草刈り→枝打ち→間伐→伐り出し→搬出」という手順で森林の木が木材になる。 ・林業家は、たくさんの手間や時間をかけてよい木を育てている。 ・安い輸入木材が入ってきて出荷量が減ってしまった。 ○森林(人工林)を守り育てるための林業家の役割を考える。 ・人工林を守るためには、木を切って使い、また植えるというサイクルを続けることが大切だ。そのサイクルを止めないために、林業家の仕事はとて大切である。	◎森林(人工林)を整備する様子が分かる写真(育苗・植林・下草刈り・枝打ち・間伐・伐り出し・搬出) □森林(人工林)の育成の工程に着目して図に整理し、工夫や努力を捉えられるようにする。また、時間の経過から考え、森林の育成には長い時間がかかることに気付くことができるようにする。 ◎林業家の方の話、木材輸入量の変化 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、人工林を守り育てるための林業家の取組を理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>④ 東京都の森林の保護・育成のために行政が行っている取組について調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆ 東京都は、森林をどのように守り育てているのだろう。 ○ 資料を基に、東京都が森林を守り育てるために行っている取組を調べる。 ・ スギ花粉対策の皆伐を進めることで多摩産材の生産が増えてきた。 ・ 森林作業道の整備を進め、大きな機械が入れるようにしている。 ○ 森林を守り育てるための東京都の役割について考える。 ・ 林道を整備したり様々な取組を行ったりするなど、林業家を応援することが東京都の役割である。</p>	<p>◎ 東京都の森林整備 ◎ 多摩産材の増加傾向が分かるグラフ ◎ 森林作業道の整備 □ 東京都の「森づくり推進プラン」を参考に、子供に分かりやすいように資料を加工する。 ☆ 発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、森林を守り育てるための東京都の取組を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤ 東京都の森林の保護や育成のために企業や市民団体がやっている取組を調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆ 企業や市民団体が、森林をどのように守り育てているのだろう。 ○ 資料を基に、企業や市民団体が森林を守るために行っている取組を調べる。 ・ 「企業の森」では、企業が森林を保全するためにかかる費用を出したり、社員が植林をしたりしている。 ・ 東京チェーンソーズでは、市民から森林を整備する費用を募り、森林に関心を高めるイベントを開いている。 ・ 青梅りんけんの人々は、里山を憩いの場として整備することで、市民が森林に関心をもてるよう努めている。 ○ 企業や市民団体の取組の共通点を考える。 ・ どの取組も、森林に興味や関心をもってもらうことを目的にしている。</p>	<p>◎ 企業の森、東京チェーンソーズの取組 □ ホームページやインタビュー記事を活用して調べさせる。 ◎ 「とうきょう林業サポート隊」の取組、青梅りんけんの取組 □ それぞれの取組を比較したり、林業家や東京都の取組と関連付けたりして考えられるように発問や助言を行う。 ☆ 発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、森林を守り育てるための企業や都民の取組を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>まとめ</p>	<p>⑥ 調べたことを関連図にまとめることを通して、森林の保護・育成に取り組む人々の働きについて考え、理解できるようにする。</p>	<p>◆ 森林を守り育てていくために大切なことは何だろう。 ○ 林業家、東京都、企業・市民団体の関わりについて、関連図にまとめ説明し合ったり、話し合ったりする。 ・ それぞれの立場が連携・協力して国土の保全に取り組んでいる。 ○ 学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>森林には、国土を守る様々な働きがあり、林業家、東京都、企業・市民団体が協力して整備を進めたり育成したりしている。私たちが国民の一人として森林を守る活動に参加したり、関心をもち続けたりすることが大切だ。</p> </div>	<p>□ 関連図を基に自分の考えを説明し合いながら、相互に考えを深められるようにする。 ★ 関連図の記述から「森林と国土保全や国民生活を関連付けて、森林資源が果たす役割を考えているか」を評価する。【思②】 ★ ノート等の記述内容から「森林は様々な立場の人たちの工夫と努力により守り育てられ、国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
<p>つなぐ</p>	<p>⑦ 日本の森林が抱える課題を捉え、学習したことを基に、森林資源を守り育てるために国民の一人として、できることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆ 森林を守り育てるためには、どのような課題があるのだろう。 ○ 日本の森林を守り育てることに関する課題について調べる。 ・ 年々林業従事者が減っている。 ・ 人工林の手入れが十分に行き届いていないと感じている割合が多い。 ・ 木を伐りたくても伐れない現状がある。 ○ 森林を守り育てるための国の新たな取組を調べ、森林環境税の使い道について話し合う。 ・ 森林環境税が導入されるが、使い道が決まっていない。 ・ 森林整備や国産材のPRのために使う。 ○ 学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 ・ 森林環境税の仕組みを調べたり、ボランティアで森林保全のイベントに参加したりするなど、自分たちにできることを行いたい。</p>	<p>◎ 前時にまとめた関連図、荒れた人工林の様子、林業家の方の話、人工林の手入れに関する意識調査、森林環境税のイメージ図 ★ 発言や記述内容から「学習したことを基に、森林の保護や育成に対しての自分の関わり方を考えたり、選択・判断したりして、適切に表現しているか」を評価する。【思②】 □ 学習したことを基に考えるように助言する。 ★ 記述内容から「単元の学習を振り返り、森林を守り育てていくために自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

小単元名	環境を守るわたしたち	配当 8時間	内容 (5) アの(ウ)及び(エ)とイの(ウ)
------	------------	--------	-------------------------

<「地理的環境と人々の生活」及び「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

公害の防止と生活環境について、公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、地図帳や各種の資料で調べて関連図などにまとめ、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現することを通して、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、国民の一人として国土の環境保全について自分たちができることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害防止の取組を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。	①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して問いを見だし、国土の環境について考え、表現している。 ②公害防止の取組と環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取組の働きを多角的に考えたり、学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちができることを考えたり選択・判断したりして、表現している。	①公害防止の取組について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、国土の環境を保全するために自分たちができることを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活の関連」の(ウ)(エ)イ(ウ)に関する内容で構成したものである。ここでは、「公害の防止と生活環境の様子」を取り上げ、「関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたこと」や「公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さ」を扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(5)ウに示された、「国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること」については、小単元末の「つなぐ」段階で、海洋プラスチック問題を取り上げ、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、国土の環境保全への関心を高めるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

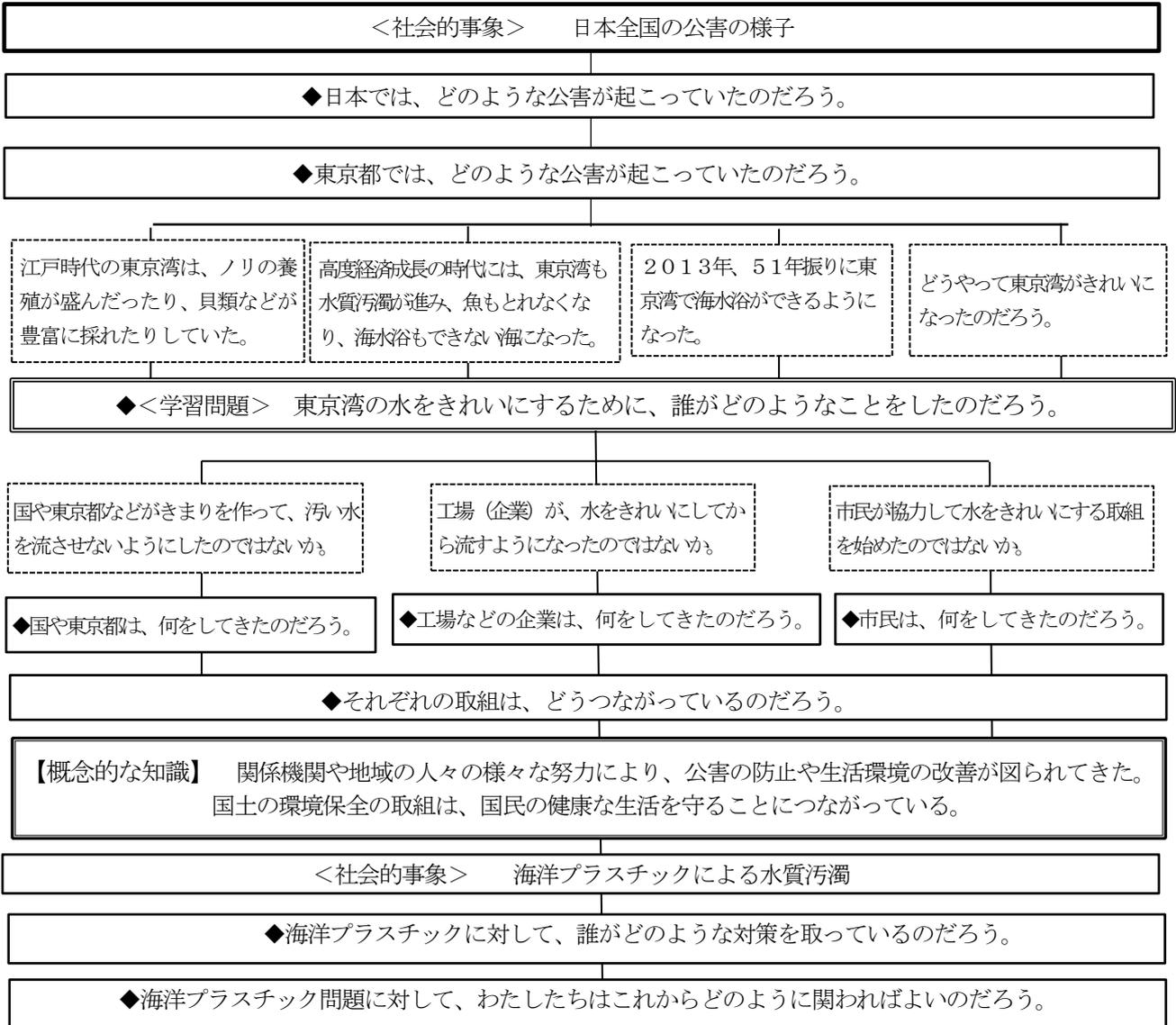
- ①日本の国土における公害の発生時期や経過などを調べ、概観的な学習を行った後に、具体的な事例を通して環境を保全する取組について調べる。中心の事例としては、東京湾を取り上げる。「東京湾の海水浴場復活(湾の東京都側)」を教材として取り上げることで、東京都で生活する子供に、「生活排水によって汚れてしまった海が、どのようにして海水浴ができるまできれいになったのか。」などの疑問や驚きをもたせることができる。
- ②公害を防止する取組については、行政・企業・市民の取組を取り上げ、その様子から関係機関や市民が協力して取り組んでいくことが大切であることを、相互関係的な視点にも着目して捉えられるようにする。合わせて、環境改善や人々の健康な生活における課題に気付き、子供が国民の一人として、どのように公害防止や人々の健康な生活に向き合うとよいか、考えることができるようにする。
- ③70年前に製品化されたプラスチックが、現在、海洋プラスチックとして海に残り、海の生物に大きな影響を与えている。社会への関わり方を考える「つなぐ」段階において、社会に見られる新しい課題を把握する教材として活用することで、現代社会の問題の解決に向け、自分たちができることを考えるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせて、公害の発生時期や経過や広がりに着目して、年表資料から地図作りを行い、我が国における公害の歴史や原因、分布などを捉え、国土で発生した公害の様子を理解できるようにする。
- ②学習計画を立てた際に、問いだけでなく、調べる方法、手段についても子供と共に決めていく。子供一人一人が、これまでの積み重ねを生かして、調べたことを表現するツールや調べる資料の見通しを立てられるようにする。そして、実際に「しらべる」段階では、毎時間の学習展開を、「見通す、調べる、交流する、振り返る」という流れにして、子供自らが学習状況を把握しながら主体的に学習を進められるようにする。また、関係機関や地域の人々の様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解できるようにする。そのために、「東京湾の水質汚濁の発生時期や経緯(年表、地図)」「東京湾の水質汚濁の原因」「国・都・工場・市民の取組」「全国の公害への取組」を資料として活用し、長年取り組んでいることを捉えられるようにする。

- ③「まとめる」段階では、調べたことを整理して、「公害防止に関わる人々の協力や努力」についての関連図をグループごとに作成し、話し合い、学習問題に対する考えを書くようにする。
- ④「つなぐ」段階では、学習したことを基に、海洋プラスチックの問題への取組に対して、四象限マトリクス図を用いた話し合い活動を行い、「自分ができること」を選択・判断しながら意見交換する学習活動を設定し、社会参画の意識を高める。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

子供自身が自己の学びを振り返り、見通しをもって追究することができるように、振り返りを工夫する。毎時間の振り返りについては、感想ではなく、次時の自分の学びにつながる振り返りができるよう指導していく。全ての問いについて毎時間振り返るのではなく、毎時間の学習活動や評価に合わせて、教師と子供で選択しながら振り返りを行う。このことにより、次時の見通しをもつことができたり、自分の考えを整理したりすることができる。振り返りの問いは右の七つを例示し、この中から本時のねらいや内容、指導計画上の位置付けなどから、教師が指定をしたり、子供自身が選択をしたりできるようにする。また、振り返りの記述については、自己評価のみならず、子供相互による評価、教師による評価においても活用できる。

- ①何が分かったか
- ②何が分からなかったか
- ③何を考えたか
- ④どう学んだか
- ⑤どうしたかったか
- ⑥次にどうすればよいか
- ⑦そもそもどうということなのか

「まとめる」段階では、「しらべる」段階において個人で作成してきた関連図を基に、調べたことをグループごとに関連図に整理し、それぞれの関係や働きなどについて話し合う。その際、話し合う前に、関連図を振り返って気付いたことを書き加える時間を取り、その記述や話し合いにおける発言などを基に「思考・判断・表現」について評価する。そして、それらの活動を基に、学習問題に対する自分の考えをまとめる活動において、その記述内容から「公害防止の取組と国民生活の関連や、公害防止の取組の大切さについて理解しているか」（知識・技能）について評価する。

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①環境汚染に伴う健康被害や全国に広がる環境問題を調べ、公害の種類と発生の原因を理解できるようにする。	○大気汚染と水質汚濁の写真から、「公害」の言葉の意味を捉える。 ◆日本では、どのような公害が起こっていたのだろう。 ○公害分布図を完成させ、どのような公害が広がっていたのかを調べる。 ・高度経済成長の時期に公害が多く起こっている。 ○環境局の方の話から、公害が起きる原因を調べる。 ○東京都の公害について、東京都の公害年表から調べる。 ○本時の振り返りをする。 ・高度経済成長期の日本は、経済を優先して環境や健康に被害を与えた。公害は日本全国に広がり、水質汚濁など、人々の生活に影響が出た。東京都でも裁判になるなど大きな被害が出た。同じように経済的な理由なのか知りたい。	◎写真：高度経済成長期の工場の様子と河川の様子。 ◎地図：日本の公害分布図 ◎表：公害一覧 □公害の分布図から、公害が全国に広がっていたことに着目できるようにする。 ◎文書：環境局の方の話 ☆ノートの記述などから「地図帳や各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、公害の種類と発生の原因を理解しているか」を評価する。【知①】
	②東京湾における水質環境の変化を捉え、東京都の環境改善について学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができるようにする。	○前時の振り返りから、本時のめあてを確認する。 ◆東京都では、どのような公害が起こっていたのだろう。 ○東京湾について調べる。 ○汚れた東京湾の写真を読み取る。 ○当時の公害について調べる。 ○東京湾の3つの時代の写真の変化から、学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">東京湾の水をきれいにするために、誰がどのようなことをしたのだろう。</div> ○予想を立て、調べることを学習計画として整理する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><学習計画>①国や東京都の取組を調べる。 ②工場など企業の取組を調べる。 ③市民の取組を調べる。</div>	◎写真：昭和の東京湾 ◎文書資料：東京湾の公害について、 ◎写真：現在の東京湾 □時間と様子の変化から、学習問題をつくるようにする。 ☆ノートの記述から「公害の発生時期や経過に着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 ★発言やノートの記述から「東京湾の水質汚染やその改善について、予想や学習計画を立て、追究の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	③東京湾における国や都による水質改善の取組を調べ、理解できるようにする。	◆国や東京都は、何をしてきたのだろう。 ○資料を活用して、行政の取組について調べる。 ・河川にして水質汚濁防止法を定めた。 ・法律によって工場の排水がきれいになった。 ・下水道が整備され、汚れた水が流れにくくなった。 ・東京湾は、まだまだきれいとは言いきれない。 ○関連図に調べたことを書き、本時の振り返りを書く。 ・国が法律を定め、計画を策定し、予算化して事業を進めた。東京都は、下水道などのインフラ整備を進めた。	◎下水道整備(写真、文書) ◎環境関連の法令(年表) □人々の協力関係に着目できるようにする。 ☆ノートなどの記述から「必要な情報を集め、読み取り、国や都などの様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解しているか」を評価する。【知①】
	④東京湾における工場などの企業による水質改善の取組を調べ、理解できるようにする。	◆工場などの企業は、何をしてきたのだろう。 ○企業の取組について調べる。 ・排水処理では、行政の基準を超えないように、環境にやさしいものづくりをしている。 ・洗剤など生活排水として流れるものは、環境にやさしい製品を開発して改善されてきた。 ・海洋プラスチックの問題が、これからの課題だ。 ○関連図に調べたことを書き、本時の振り返りを書く。 ・企業は行政の定める法律を守り、環境に配慮した製品を開発して、環境保全への対策を行っている。	◎工場の排水状況 ◎環境にやさしい製品(写真) □人々の協力関係に着目できるようにする。 ☆ノートなどの記述から「必要な情報を集め、読み取り、企業などの様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑤東京湾における市民による水質改善の取組を調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆市民は、何をしてきたのだろう。</p> <p>○「ふるさと東京を考える会」の取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カキを使った浄化作業や、東京都と共同で水質浄化実験をしていた。 <p>○「綾瀬川を愛する会」の取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動などで、東京湾に注ぐ川をきれいにする。 <p>○関連図に調べたことを書き、本時の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体が水をきれいにする活動や、東京湾の海に親しむ活動が進められており、わたしたちの生活をより豊かにしてくれている。 	<p>◎「ふるさと東京を考える会」及び「綾瀬川を愛する会」の活動（写真、文章）</p> <p>□学んだことを第2時の予想で用いた関連図に書き込み、人々の協力関係に着目できるようにする。</p> <p>☆ノートの記述などから「必要な情報を集め、読み取り、市民の努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>まとめ</p>	<p>⑥これまで学習してきたことを関連図に整理し、学習問題について考え、公害防止の取組と国民生活の関連や、公害防止の取組の大切さを理解できるようにする。</p>	<p>◆それぞれの取組は、どうつながっているのだろう。</p> <p>○調べてきたことを基に、関連図にまとめ、説明し合ったり話し合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが水をきれいにするための取組をしていて、それが関連して水質が改善されてきている。 <p>○学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>関係機関や地域の人々の様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきた。国土の環境保全の取組は、国民の健康な生活を守ることにつながっている。</p> </div>	<p>◎作成してきた関連図</p> <p>□公害の防止に向けた取組や人々の協力を理解できるようにする。</p> <p>★関連図や発言の内容から「公害防止の取組と環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取組の働きを多角的に考えているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートなどの記述から「公害防止の取組と、環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取組の働きを理解しているか。」を評価する。【知②】</p>
<p>つ</p>	<p>⑦海洋プラスチックの被害や行政や企業、市民団体の取組を調べ、自分たちの生活との関わりに気づき、新たな環境問題に対して関心をもつことができるようにする。</p>	<p>○海洋プラスチックが引き起こす被害を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋プラスチック問題を知ってびっくりした。 <p>◆海洋プラスチックに対して、誰がどのような対策を取っているのだろう。</p> <p>○行政、企業、市民団体が行っている取組を調べ、図に整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国は、国際社会と協力して減らす取組をしている。 ・企業は、プラスチック製品を減らす努力をしている。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害の時と同じように行政や企業、市民が協力して、新しい課題を解決しようとして取り組んでいる。自分たちには何ができるのだろうか。 	<p>◎海の中や東京湾のイワシ（写真）</p> <p>◎海洋プラスチックの被害（文章資料）</p> <p>◎国の海ごみ対策（文章資料）</p> <p>◎各企業の取組（文章資料）</p> <p>◎市民団体の取組（文章資料）</p> <p>☆ノートの記述から「新しい環境問題に問題意識をもち、主体的に追究しようとしているか」を評価する。【態①】</p>
<p>なぐ</p>	<p>⑧海洋プラスチック問題から、国土を保全するために自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆海洋プラスチック問題に対して、わたしたちはこれからどのように関わればよいのだろう。</p> <p>○問題解決に向けて大切な要素を考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋プラスチックは、自分たちの生活から出ている。国民一人一人ができることを実践することが大切。 ・都や企業、市民団体の取組に参加することも大切。 ・みんなが実践することが大切。 <p>○学習したことを振り返り、意見文としてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この海洋プラスチック問題も、便利さだけを求めていると、将来取り戻すことができなくなる。だから、世界中のみんなが努力すれば効果は大きいと思うので、みんなが不要なプラスチックを使わないようにすればいいと思う。 	<p>◎4象限マトリックス、これまでの資料</p> <p>□4象限マトリックスを使って考えを視覚化し、ワールドカフェ方式で考えを交流しながら深めていけるようにする。</p> <p>★記述や発言の内容から「学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちができることを考えたり選択・判断したりして、表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★記述や発言の内容から「学習したことを基に、国土の環境を保全するために自分たちができることを考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

第6学年

年間指導計画

第6学年の指導計画作成のポイント

1 目標と改訂のポイント

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。<知識及び技能>

(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。<思考力、判断力、表現力等>

(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きる大切さについての自覚を養う。<学びに向かう力、人間性等>

(1) <知識及び技能>の改訂のポイント

- ・我が国の「政治の仕組み」という文言が加わり、日本国憲法との関連で国会、内閣、裁判所などの我が国の政治の仕組みを理解することが求められている。
- ・グローバル化する社会への対応の観点から、「グローバル化する国際社会における」という文言が加わり、地球規模で発生している課題を知ることが求められている。
- ・「まとめる技能」が明記され、第3学年や第4学年の目標にない「適切に」という文言を加えて、より質の高い技能を身に付けさせることを目指している。

(2) <思考力、判断力、表現力等>の改訂のポイント

- ・社会的事象の意味に「特色や相互の関連」という文言が、また、第3学年や第4学年の目標にある社会的事象の特色や相互の意味を考える力に「多角的」という文言が加わるとともに、表現する力、第3学年や第4学年の目標にない「説明したり」「それらを基に議論したり」という文言が加わり、思考力、判断力、表現力の高まりが求められている。

(3) <学びに向かう力、人間性等>の改訂のポイント

- ・これまでの「興味・関心と理解を深める」という文言がなくなり、「主体的に学習の問題を解決しようとする態度」や「学習したことを社会生活に生かそうとする態度」を養うことが示され、多角的な思考や確かな理解を通して、「我が国の将来を担う国民としての自覚」を養うことが新たに示された。

2 内容の改訂のポイント

○内容(1)「我が国の政治の働き」 ← 旧内容(2)のア、イを入れ替えて設定。

○内容(2)「我が国の歴史上の主な事象」 ← 旧内容(1)のイをイとウに分けて設定。
旧内容(1)のオをカとキに分けて設定。

○内容(3)「グローバル化する世界と日本の役割」 ← 旧内容(3)のアにイから「国際交流」の内容を移行。

★単元配列案 *政治単元を歴史単元の前(第1単元)に配置する。 合計時数 105 時間

新学習指導要領の内容		小単元名	配当時間
(1)	我が国の政治の働き	わたしたちのくらしと日本国憲法	10 時
		わたしたちの願いを実現する政治	8 時
(2)	我が国の歴史上の主な事象	縄文のむらから古墳のくにへ	7 時
		天皇中心の国づくり	6 時
		貴族のくらし	4 時
		武士の世の中	6 時
		今に伝わる室町文化	5 時
		戦国の世から天下統一へ	6 時
		江戸幕府と政治の安定	6 時
		町人の文化と新しい学問	6 時
		明治の国づくりを進めた人々	6 時
		世界に歩み出した日本	6 時
		長く続いた戦争と人々のくらし	6 時
		新しい日本、平和な日本へ	7 時
		(3)	グローバル化する世界と日本の役割
世界の未来と日本の役割	8 時		

3 新学習指導要領の内容構成及び内容の取扱い

	内容構成			内容の取扱い
	着目すること	考えること	理解すること	
内容(1)	日本国憲法の基本的な考え方	日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考える。	日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 国会などの議会政治や選挙の意味、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、裁判員制度や租税の役割などについて扱う。日本国憲法や政治の仕組みに関する内容に関わって、国民としての政治への関わり方について多角的に考え、自分の考えをまとめることができるよう配慮する。
	政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなど	国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて、国民生活における政治の働きを考える。	国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解する。	
内容(2)	世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産など	調べた歴史上の主な事象を関連付けたり総合したりして、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考える。	我が国が歩んできた大まかな歴史を理解するとともに、それらの事象に関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 世の中の様子がむらからくへへと変化したこと 天皇を中心とした政治が確立されたこと 日本風の文化が生まれたこと 武士による政治が始まったこと 今日の生活文化につながる室町文化が生まれたこと 戦国の世が統一されたこと 武士による政治が安定したこと 町人の文化が栄え新しい学問がおこったこと 我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたこと 我が国の国力が充実し国際的地位が向上したこと 戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと 	<ul style="list-style-type: none"> 国宝、重要文化財に指定されているものや、世界遺産に登録されているものなどを取り上げ、我が国の代表的な文化遺産を通して学習できるように配慮する。 例示された42人の人物を取り上げ、人物の働きを通して学習できるように指導する。 年表や絵画など資料の特性に留意した読み取り方についても指導する。 歴史学習全体を通して、我が国は長い歴史をもち伝統や文化を育んできたこと、我が国の歴史は政治の中心地や世の中の様子などによって幾つかの時期に分けられることに気付くようにするとともに、現在の自分たちの生活と過去の出来事の間関わりを考えたり、過去の出来事を基に現在及び将来の発展を考えたりするなど、歴史を学ぶ意味を考えるようにする。
内容(3)	外国の人々の生活の様子など	世界の国々の文化や習慣は多様であることとスポーツや文化などを通して他国と交流することを関連付けて、国際交流の果たす役割を考える。	我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 我が国や諸外国の伝統や文化を尊重しようとする態度を養うよう配慮する。 世界の人々と共に生きていくために大切なことや、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり選択・判断したりできるように配慮する。 「国際連合の働き」について、ユニセフやユネスコの身近な活動を取り上げる。また、「我が国の国際協力の様子」については、教育、医療、農業などの分野で世界に貢献している事例の中から選択して取り上げる。
	地球規模で発生している課題や世界の国々が抱えている課題、それらの解決に向けた連携・協力など	地球規模で発生している課題の解決と我が国の国際協力の様子に関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考える。	我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解する。	

4 各内容のポイント

- 内容(1)「我が国の政治の働き」では、政治の働きへの関心を高めるようにすることを重視して、我が国の政治の働きに関する内容については、これまでの順序を改め、内容の(2)を(1)として示すとともに、内容のア、イの順序も改め、(ア)日本国憲法や立法、行政、司法の三権と国民生活に関する内容、(イ)国や地方公共団体の政治の取組に関する内容として示した。
- 内容(2)「我が国の歴史上の主な事象」では、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して調べることや、「我が国の歴史の展開」を考えること、我が国が歩んできた「大まかな歴史」や「関連する先人の業績、優れた文化遺産」を理解することなど、小学校の歴史学習の趣旨を明確に示した。
- 内容(3)「グローバル化する世界と日本の役割」では、「国際交流」をこれまでのイからアに移行し、国際交流の果たす役割を考えられるようにした。また、国連の一員としてユニセフやユネスコなどの取組に我が国が協力する活動や、ODA（青年海外協力隊）やNGOなどの活動を教材として、我が国が国際社会の中で重要な役割を果たしていることを捉え、これからの我が国の国際交流や国際協力、国際貢献などの在り方について多角的に考え、話し合う学習を工夫して展開することが大切である。

小単元名	わたしたちの暮らしと日本国憲法	配当 10時間	内容 (1) アの(ア)及び(イ)とイの(イ)
------	-----------------	---------	-------------------------

〈主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分〉

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の政治の働きについて、日本国憲法の基本的な考え方に着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめ、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現することを通して、日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていること、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に、国民としての政治への関わり方について考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本国憲法の基本的な考え方について、見学・調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、我が国の民主政治を理解している。	①日本国憲法の基本的な考え方に着目して、問いを見だし、我が国の民主政治について考え、表現している。	①日本国憲法の基本的な考え方について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていること、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解している。	②日本国憲法の基本的な考え方と国民生活や、国会、内閣、裁判所の働きと国民を関連付け、日本国憲法の特徴や役割を考えたり、学習したことを基に、国民としての政治への関わり方を多角的に考えたりして、適切に表現している。	②学習したことを基に、国民としての政治への関わり方について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①日本国憲法には、国民の基本的な権利を侵すことのできない永久の権利として保証されていること、我が国が国際紛争を解決する手段として戦争を永久に放棄すること、現在の我が国の民主政治は、日本国憲法の基本理念である国民民主権の考え方と深く関わっていること、天皇は日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴として位置付けられていること、国民の権利と果たすべき義務が定められていることなどを理解することを意図している。
- ②我が国の政治には、国会に立法、内閣に行政、裁判所に司法という三権があること、それらは相互に関連し合っそれぞれ役割を果たしていることなどを基に、我が国の政治の仕組みについて理解することを意図している。

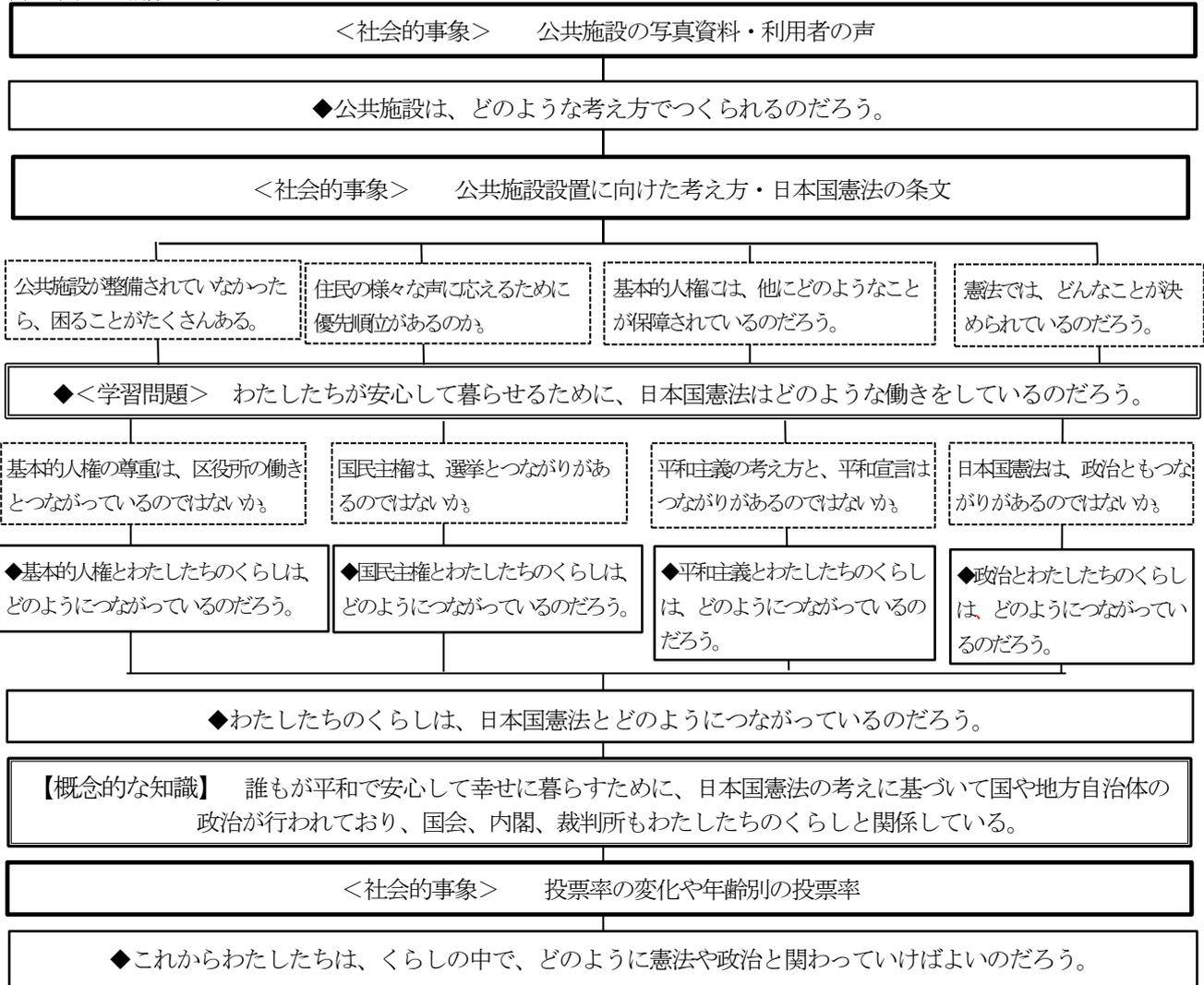
(2) 教材や資料の工夫

- ①日本国憲法をより身近に捉えられるようにするために、身近な公共施設の見学や聞き取り調査をしたり、国や県、区(市町村)などが作成した広報誌などを活用して具体的に調べたりする活動を取り入れる。その際、社会的な事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせながら、日本国憲法が自分たちの生活と密接に結び付いていることに気付くことができるようにする。
- ②三権についても、国や地方公共団体の取組についての具体的な事例を取り上げて調べるようにする。「憲法」について、国民との関わりを指導する際に、国民生活との関わりが深い具体的な事例として、国民の祝日を扱う。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「まとめる」段階では、学習問題に対して、見出し(キャプション)を付け、理由とともに発表したり、短冊に短くまとめて表現したりする活動を設定し、憲法や政治への着眼点を学び合い、考えをより深めることができるようにする。個々の考えを交流する場面では、ICT機器も効果的に活用したい。
- ②政治への関わり方を考えることができるようにするために、「つなぐ」段階を設定し、選挙の投票率を取り上げる。これまでに学んだ選挙の働きを踏まえて、国民として日本国憲法やこれからの政治への関わり方について多角的に考察し、自分の考えをまとめることができるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第9時では、これまで調べてきたことを関連付け、学習問題について考える。その際、関連図に表す活動を設定し、その記述内容から「思考・判断・表現」の観点で評価する。自分たちの生活と、日本国憲法の三つの柱である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義とのつながりを、矢印などの記号や、関連を表す言葉で表していたり、それらを比較したり総合したりして日本国憲法の特徴を言葉でまとめたりしていれば、「おおむね満足できる状況」と捉えることができる。さらに、その考えを実現するためには国民の義務や努力が大切なことなど、国民の側からも日本国憲法について考えることができなければ、「十分に満足できる状況」と捉えることができる。

そして、関連図やその後の話し合いを基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる活動において、その記述内容などから「知識・技能」の観点で評価する。

「つなぐ」段階では、本小単元で学習したことを基に、国民としての政治への関わり方を考える。具体的には、自分も政治に関わる国民の一員であることを実感できるようにするために、参政権の行使である「投票」を教材として提示する。そして、選挙は国民の代表者を選出する大切な仕組みであることを理解し、遠くない将来、自分も有権者となる国民の一人として、様々な立場から多角的に考え、義務や責任などと関連付けて自分の考えをまとめる。

実際においては、最後のまとめとして書いた記述内容などから「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価する。右の記述例では、「教育を受ける」「政治を動かす」など、選挙が基本的人権や参政権に関わる重要な役割をもっていることを踏まえ、投票の重要性について自分の考えをまとめている。このような場合は、「おおむね満足できる状況」と捉えることができる。

考えたこと

わたしは、なぜこんなにも多くの人が投票しないのか、と思いました。世界に目を向ければ、多くの人々が教育を受けられないことから、政治を変えようと動いたり、動こうとしても動けない人がいたりするのに、なぜ投票しないのか。ただ、「面倒だ」とか「遠い」とか、そんなに簡単に言うてはいけないと思う。

▲ノートの記述例

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

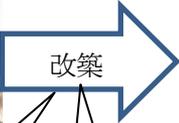
過程	ねらい (○数字は第○時を表わす)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①身近な公共施設の見学を基に、日本国憲法と国民生活との関連について考えることができるようにする。	○区役所や、他の公共施設の写真や資料から、気付いたことを話し合う。 ・区民の生活を支えてくれるところだった。 ◆公共施設は、どのような考え方でつくられるのだろう。 ○区の担当者から、施設の基となる考え方を聞き、日本国憲法について調べる。 ・区役所や公共施設は、日本国憲法の考え方に基づいてつくられているとは知らなかった。 ・日本国憲法には基本的人権の尊重、国民主権、平和主義の三原則がある。	◎公共施設の写真や資料 ◎区の担当者の話、日本国憲法の条文 □自分の身近なところに生かされていることから、日本国憲法の考え方に関心を高める。 ☆ノートの記述や発言内容から「日本国憲法の基本的な考え方に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
し ら べ る	②日本国憲法と自分たちの生活との関連を調べる学習問題をつくり、それに対する予想を基に、学習計画を立てることができるようにする。	○日本国憲法の三原則についての疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・基本的人権とは他とどのようなものがあるのか。 ・どうして、この3つを原則にしているのか。 ・わたしたちの生活とどのようにつながっているのか。 わたしたちが安心して暮らせるために、日本国憲法はどのような働きをしているのだろう。 ○学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・基本的人権の尊重は、区役所の働きとつながっているのではないかと。→基本的人権の尊重とわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。 ・国民主権は、選挙とつながりがあるのではないかと。→国民主権とわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。 ・平和主義の考え方と、平和宣言はつながりがあるのではないかと。→平和主義とわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。 ・日本国憲法は、議会や役所、裁判所など政治ともつながりがあるのではないかと。	□子供の疑問を基に学習問題をつくる。 ☆ノートや発言内容から「日本国憲法の基本的な考え方に着目して問いを見だし、我が国の民主政治について考え、表現しているか」を評価する。【思①】 ◎三原則を象徴する事例資料 □学習問題と事例資料を関連付けて考え、三原則のそれぞれと自分たちのくらしとのつながりについて予想し、学習計画を立てるようにする。 ★ノートの記述や発言内容から「日本国憲法の基本的な考え方について、予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
	③基本的人権の尊重に基づく取組を調べ、自分たちの生活との関連を理解できるようにする。	◆基本的人権の尊重とわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。 ○基本的人権の尊重に基づいた取組を調べる。 ・区報で発信している様々なことは、この考えに基づいて行われていた。 ○国民の権利と義務について調べる。 ・様々な権利があるけれど、国民としての義務もあるから、しっかりと責任を果たしたい。 ○基本的人権の尊重の考え方と自分たちのくらしとの関わりについて考え、話し合う。 ・病院の医療費や教科書の無償配布も、この考えに基づいている。	◎日本国憲法、区報や区のホームページ ◎国民の基本的人権や義務に関するイラスト □自分たちのくらしの中で、基本的人権が尊重されていることを実感できるようにするため、子供にとって身近な具体的事例である租税についても扱う。 ☆ノートの記述や発言内容から「基本的人権の尊重について、必要な情報を集め、読み取り、基本的人権は侵すことのできない永久の権利として保障され、その保持には国民の不断の努力が必要であることや、国民生活との関連について理解しているか」を評価する。【知①】
	④国民主権に基づく取組を調べ、自分たちの生活との関連を理解できるようにする。	◆国民主権とわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。 ○国民主権に基づいた取組を調べ、国民主権の考え方と自分たちのくらしとの関わりについて考え、話し合う。 ・選挙で自分たちの代表を選ぶことができるのは、国民主権の考え方が基になっている。 ・区報で意見を聞いて、政治に生かしていた。 ○天皇の地位について調べる。 ・天皇は象徴であって、政治には関わっていない。	◎日本国憲法、区報やホームページ □参政権は国民主権の基本であり、民主政治にとって極めて重要であることを理解できるようにする。 □子供にも理解しやすい国事に関する行為などを取り上げ、天皇に対する理解と敬愛の念を深めるようにする。 ☆記述や発言から「国民主権について、必要な情報を集め、読み取り、我が国の民主政治と国民主権との関わりや国民生活との関連について理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑤ 平和主義に基づく取組を調べ、自分たちの生活との関連を理解できるようにする。</p>	<p>◆ 平和主義とわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。</p> <p>○ 平和主義に基づいた取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自衛隊や非核三原則などの取組があった。 ○ 平和主義の考え方と自分たちのくらしとの関わりについて考え、話し合う。 ・ 平和だから国民が安心して豊かな生活ができる。 	<p>◎ 日本国憲法、区報や区のホームページ</p> <p>□ 平和主義の原則について関係する条文などを根拠に調べる。</p> <p>☆ 記述や発言から「平和主義について、必要な情報を集め、読み取り、我が国が国際紛争を解決する手段としての戦争を永久に放棄することなどが憲法に定められていることや、国民生活との関連を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑥ 国会の役割について調べ、その働きや自分たちの生活との関連を理解できるようにする。</p>	<p>◆ 国会には、どのような働きがあるのだろう。</p> <p>○ 国会の仕組みと働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法律をつくっている。 ・ 国民主権の考えに基づいている。 ○ 国会と国民との関わりを考え、表現する。 	<p>◎ 国会の仕事についての資料</p> <p>□ 調べたことを基に、見方・考え方を働かせて国会と国民との関わりを図に表現する。</p> <p>☆ 記述から「国会の役割について、必要な情報を集め、読み取り、その働きや国民生活との関連を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑦ 内閣の役割について調べ、その働きや自分たちの生活との関連を理解できるようにする。</p>	<p>◆ 内閣には、どのような働きがあるのだろう。</p> <p>○ 内閣の仕組みと働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内閣総理大臣が中心になって政治を行っている。 ○ 内閣と国民との関わりを考え、表現する。 	<p>◎ 内閣の仕事や仕組みの資料</p> <p>□ 調べたことを基に、見方・考え方を働かせて内閣と国民との関わりを図に表現する。</p> <p>☆ 記述から「内閣の役割について、必要な情報を集め、読み取り、その働きや国民生活との関連を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑧ 裁判所の役割について調べ、その働きや自分たちの生活との関連、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを理解できるようにする。</p>	<p>◆ 裁判所には、どのような働きがあるのだろう。</p> <p>○ 裁判所の仕組みと働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法律に基づいて国民の権利を守っている。 ○ 裁判所と国民との関わりを考え、表現する。 ○ 国会や内閣、裁判所のそれぞれの働きや関連をまとめ、自分たちのくらしとの関わりについて考え、話し合う。 ・ 互いに監視し合って、権力の集中を防いでいる。 	<p>◎ 裁判所の働きについての資料</p> <p>□ 裁判員制度についても触れる。</p> <p>□ 調べたことを基に、見方・考え方を働かせて裁判所と国民との関わりを図に表現する。</p> <p>★ 記述から「裁判所の役割について、必要な情報を集め、読み取り、その働きや三権分立、国民生活との関連を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>ま と め る</p>	<p>⑨ 学習問題に対する考えをまとめ、日本国憲法の特徴や我が国の政治の仕組みについて理解できるようにする。</p>	<p>◆ わたしたちのくらしは、日本国憲法とどのようにつながっているのだろう。</p> <p>○ 日本国憲法の三原則や政治の仕組みと、自分たちのくらしとのかかわりを関連図に表し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権の尊重も、平和主義も、主権をもっている国民一人一人を大切にしている。 ・ 憲法に定められているから学校に通うことができる。 ○ これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。 <p>【日本国憲法で支えられているくらし】 誰もが平和で安心して幸せに暮らせるように、日本国憲法の考えに基づいて国や区の政治が行われている。国会、内閣、裁判所もわたしたちのくらしと関係している。また、選挙や納税、裁判員制度など、自分たちも政治につながっている。</p>	<p>◎ 前時までの資料やノート・作品</p> <p>□ 三原則、政治の仕組み、自分たちのくらしの5枚のカードを位置付け、関連を図に表す。</p> <p>★ 関連図や発言から「日本国憲法の基本的な考え方や国民生活、国会、内閣、裁判所の働きを関連付け、日本国憲法の特徴や役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>□ 自分の考えに見出しをつけてまとめる。</p> <p>★ 記述から「日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など、国家や国民生活の基本を定めていることや、民主政治は日本国憲法の基本的な考えに基づいていること、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
<p>つ な ぐ</p>	<p>⑩ 憲法や政治と自分との関わりを考えようとする態度を養う。</p>	<p>○ 世界と比較した投票率の変化を調べ、参政権等、国民と政治とのつながりや、国民としての政治への関わり方について議論し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 投票率がこんなに低いとは思わなかった。 ・ 選挙で選ばれた議員が、税金の使い方を決めている。投票率が低いのに、正しいことを決められるのか。 ・ 国民主権なのだから選挙に行くべきだ。 ・ 納税や裁判員で、国民も政治に参加している。 ・ 選挙はもちろん、政治に関心をもつことが大切。 <p>◆ これからわたしたちは、くらしの中で、どのように憲法や政治と関わっていけばよいのだろう。</p> <p>○ 学んできたことを基に、自分の政治への関わり方を考えてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支えられるだけでなく、自分から関わる必要がある。そのために選挙に行く。 ・ 政治や国民生活を支える納税は大切なので、国民の一員として果たしていきたい。 ・ 裁判と国民生活との関わりに関心をもっていく。 	<p>◎ 投票率の変化、年齢別の投票率のグラフ</p> <p>◎ 世界と比べた投票率の低さ</p> <p>□ 国民と政治とのつながりについて考えるため、選挙に関わる投票率を取り上げる。</p> <p>★ 発言やノートの記述から「学習したことを基に、国民主権を踏まえて政治への関わり方を様々な立場から多角的に考えているか」を評価する。【思②】</p> <p>□ 選挙や納税、裁判員制度などを振り返り、国民としての政治への関わり方について多角的に考え、義務や責任などと関連付けて自分の考えをまとめられるようにする。</p> <p>★ 発言やノートの記述から「学習したことを基に、主権をもつ国民の一人として、政治への関わり方を考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

第1時の資料（つかむ）

資料 世田谷区役所の改築

◆公共施設はどのような考え方でつくられるのだろうか。（出典：世田谷区HP）



全ての人に分かりやすい施設を目指している。

区民の安心安全を支える施設を目指している。



資料 区役所の方の話

【指導上の留意点】日本国憲法の基本的人権の尊重に基づいていることを話していただく。

第2時の資料（つかむ）

資料 教育費無償化の例

○前時の学習を振り返る。

区役所の改築は、日本国憲法の基本的人権の尊重の考えに基づいて行われている。

私たちが使っている教科書は、税金によって無償となっている。これは、日本国憲法によって、教育を受ける権利が保障されているからだ。

身近なくらしと日本国憲法との考え方に着目する。

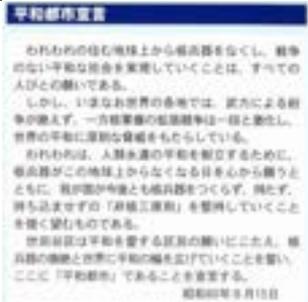
【学習問題】

わたしたちが安心して暮らせるために、日本国憲法はどのような働きをしているのだろうか。

○学習計画を立てる。



資料 区役所改築説明会（世田谷区 HP）



平和都市宣言（世田谷区 HP）



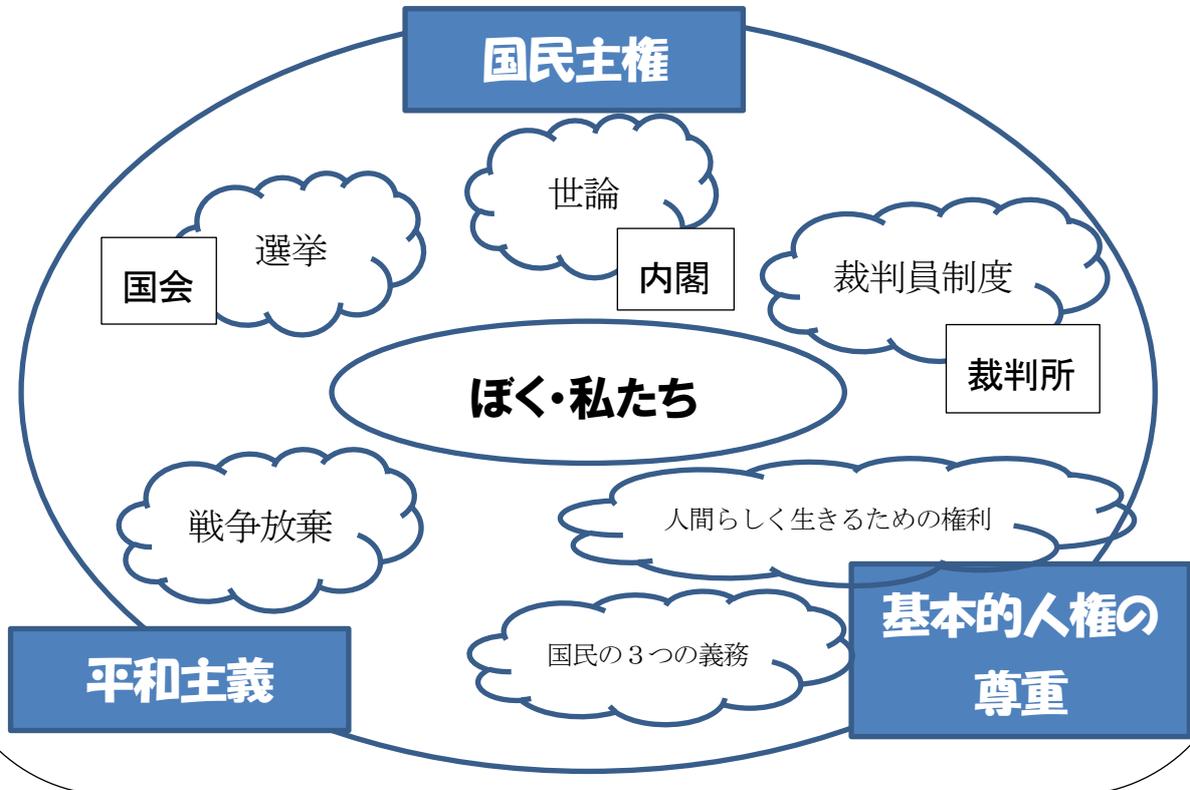
医療券、受給者証（東京都 HP）

国民主権	平和主義	基本的人権の尊重
------	------	----------

第9時の資料（まとめる）

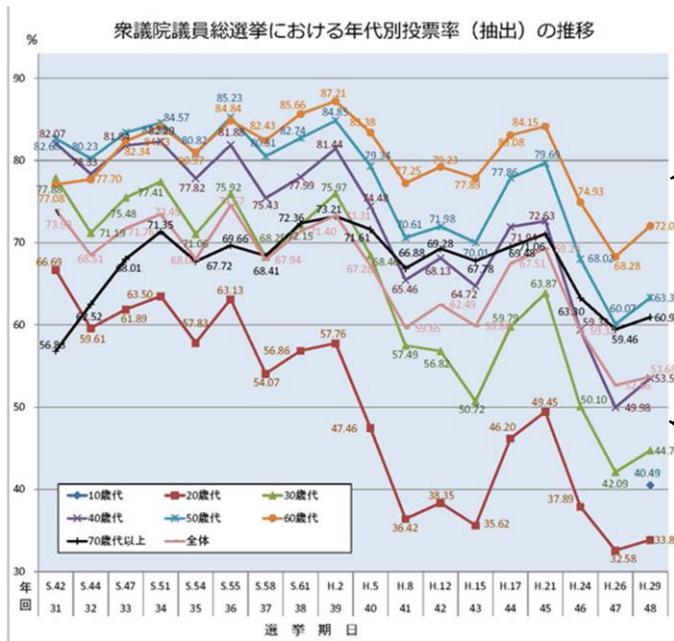
◆わたしたちのくらしは、日本国憲法とどのようにつながっているのだろう。

誰もが平和で安心して幸せに暮らせるのは、日本国憲法の考えに基づいて国や区の政治が行われているからだ。また、選挙や裁判員制度などもくらしと関係している。



第10時の資料（いかす）

◆これから私たちは、くらしの中でどのように憲法を生かしていけばよいのだろう。



資料 衆議院議員総選挙における年代別投票率の推移
(出典：総務省 HP)

若者の投票率は低く、高齢者の投票率は高いな。

政治に参加する権利があるのに、投票に行かないのは、何か理由があるのかな？

選挙に参加できるまであと6年だから、自分の意見をもてるようにしたいな。

時間の長期的視点で、投票率の変化に着目する。

小単元名	わたしたちの願いを実現する政治 (子育て支援の願いを実現する政治)	配当 8時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	--------------------------------------	--------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめ、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだし、国や地方公共団体の政治の取組について考え、表現している。 ②国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて、国民生活における政治の働きを考え、適切に表現している。	①我が国の政治の働きなどについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)「我が国の政治の働き」ア(イ)(ウ)イ(イ)に基づいて構成したものである。前小単元で、日本国憲法の特色や国の政治の仕組みを学習していることを踏まえて、国や地方公共団体の取組から政治の働きについて学習する。具体的には、国民や市民の願いの実現に向けて、どのような内容の政策が、どのような過程を経て実施されたか、どのような法令に基づいているか、予算はどのように決められるかなどの問いを設けて調べたり、それらの取組と国民生活を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現する。
- ②内容の取扱い(1)ウにおいて、アの(イ)の「国や地方公共団体の政治」については、社会保障、自然災害からの復旧や復興、地域の開発や活性化などの取組の中から選択して取り上げることとされている。なお、本指導計画においては、社会保障を取り上げている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本指導計画では、社会保障の中でも、自分の生活とも関わりが深く、各地方公共団体で多様な取組が行われている「子育て支援」について取り上げた。
※地方公共団体による子育てをする人を支援する取組の事例
世田谷区「おでかけひろば」 <https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kodomo/002/003/d00016014.html>
練馬区「ねりっこ学童クラブ」 <https://www.city.nerima.tokyo.jp/kosodatekyoiku/kodomo/nerikkoclub/nerigakudo.html>
- ②子育て支援に関わる具体的な事業として「地域の子育て支援施設」を取り上げ、国の法律に基づき、都道府県や市区町村などの地方公共団体が、地域の実態や住民の意見を取り入れながら政策を決定し、国と協力して計画的に実行していることなどを、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、国や地方公共団体が国民生活の安定と向上のために様々な取組をしていることを理解できるようにする。
- ③地域の子供センターなど、子育て支援に関わる施設の建設に対する市議会の働きや、子育て支援事業を行うために必要な費用としての税金の働きについて調べ、考えて表現する活動を取り入れる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、保育園や児童館、子供の医療費の補助など、地方公共団体による子育てを支援の取組を地域の実態に合わせて取り上げ、自分の生活と関連させながら学習問題をつくり、学習計画を立てる。
- ②「しらべる」段階では、市の取組を中心に、市民との関わりや議会への提案、予算などを取り上げ、市のHPや広報誌、議事録などの資料を活用して、様々な機関の働きが関連していることに着目できるようにする。そして、毎時間、分かったことを関係図にまとめていく。
- ③「まとめる」段階では、人々の願いを実現するために関わる住民、役所、議会、予算などについてまとめてきた関係図を基に、相互の関係を整理して関連図にまとめ、国民生活と結び付けながら調べたことや考えたことを表現する。

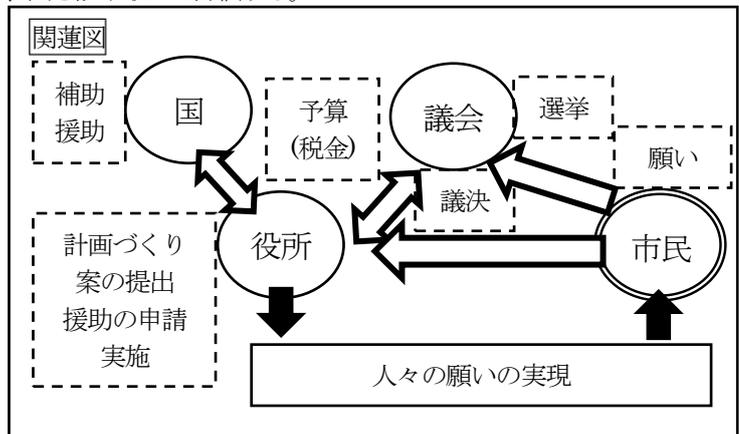
(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第7時に、「しらべる」段階で毎時間まとめてきた関係図を整理して、一つの関連図にまとめ、それを基に交流し合う活動において、「思考・判断・表現」の観点で評価する。実際の評価に当たっては、願いが実現する過程における国や地方公共団体、国会や地方議会の役割や相互の関係を考え、それぞれの機関を位置付けたり、矢印などの記号や言葉で表したりすることができているか、図を読み取って評価する。

右の関連図の例のように、国民の願いを、議会や役所、国が連携して実現することが読み取れれば、「おおむね満足できる状況」と捉えることができる。話し合いにおいては、「市民の願いは、市役所だけでなく、議会での議決、国による予算の補助などもあって実現している。」など、政治の働きを総合的に捉えたり、「わたしたちの生活は、政治の働きによってより良くなる。」「わたしたちも税金や選挙で政治につながっている」など、政治の働きや国民主権と関連付けて発言したりしていれば、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。



▲関連図の例

3 小単元の指導計画（8時間扱い）

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①子育てをする人の悩みや願いについて考え表現することができるようにする。	○昔と今の家族構成を比較して、気付いたことを話し合う。 ・昔は祖父祖母とともに暮らしている。 ・今は家族の人数が少ない。 ○家族構成の変化が暮らしにどのような変化をもたらしたのか話し合う。 ・家庭の中の役割分担 ・子育ての負担 ◆子育てをしている人は、どのような悩みや願いをもっているのだろう。 ○子育てをしている人の悩みや願いについて調べる。 ・子供を預かってほしい。 ・子供たちが遊べる場所がほしい。 ・子育てにかかる費用が負担になっている。 ○悩みを解決するためにどうすればよいか話し合う。	◎昔と今の家族の写真 □写真の比較を通して、家族構成の変化に気付き、家庭生活の変化への関心を高めるようにする。 ◎人口減少社会に関する意識調査 ◎子育てをする親へのインタビュー □予想した悩みや資料から調べた悩みを解決するためにどうするか考え、「願い」としてまとめる。 ☆ノートの記述や発言から「家族構成や家庭生活の変化から、子育ての悩みや願いを考えているか」を評価する。【思①】
	②地方公共団体による子育て支援のための取組について話し合い、学習問題をつくり、それに対する予想を基に、学習計画を立てることができるようにする。	○子育てをしている人の悩みや願いを確認する。 ○地方公共団体による子育て支援のための施設や制度について調べる。 ◆子育て支援のための市の施設や制度は、どのようなになっているのだろう。 ○子育て支援のための市の取組について話し合い、学習問題をつくる。 ・市民の意見を聞く担当がいる。(役所) ・市長や市の担当者が計画を立てた。(役所) ・議員が関わっているからだと思う。(議会) ・費用は国と市とが協力して出しているのではないだろうか。(費用・税金) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">子育て によってどのように実現されているのだろう。</div> ○学習問題に対する予想を基に、調べる順序を整理して、学習計画を立てる。	◎子育て支援施設のパンフレットや紹介VTR □資料から、市の子育て支援の取組について気付くようにする。 □取組の意味や議会、行政などに着目できるようにする。 ☆ノートの記述などから「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 ★ノートの記述や発言から「学習問題に対して、予想を基に学習計画を立て、追究の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	③子育て支援施設の取組について調べ、施設の役割を理解できるようにする。	◆子育て支援施設では、どのような取組をしているのだろう。 ○子育て支援施設では、誰に対して、どのような取組をしているのか、資料を活用して調べる。 ・子育ての支援 ・親のサポート ・交流イベント ○住民の願いと施設の取組、職員の話などを結び付け、子育て支援施設の役割について話し合う。 ・各家庭の子育てを支えている。願いを実現している。	◎施設のパンフレットや取組に関する資料、職員や利用者の話等 ☆記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、子育て支援施設が住民の願いを実現し、人々の生活を支える大切な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	④子育て支援の取組を実現するための市役所の働きについて調べ、理解できるようにする。	◆子育て支援の取組を実現するために、市役所はどのような働きをしたのだろう。 ○市役所の方の話や資料、子育て支援施設の建設や取組を実現するための市役所の働きを調べる。 ・計画や予算案の作成、議会での提案、国や県への補助金申請、取組の実施や施設の運営等 ・法律や条例に基づき、子育て支援のために取組や施設の建設が進められた。 ・将来のことを考えている。 ・住民の願いを取り入れて計画を作成した。 ○学習したことを関係図にまとめる。	◎市役所の方の話(インタビュー、文章資料) □市役所の方の話から、市民の願いと市役所の取組、議会、予算の関係など実施までの経過を関係図に表す。 ☆関係図や発言から「必要な情報を集め、読み取り、政策の内容や計画から実施までの過程と市役所の関わりを理解しているか」を評価する。【知①】
	⑤子育て支援の取組を実現するための議会の働きについて調べ、理解でき	◆子育て支援の取組を実現するために、市議会はどのような働きをしているのだろう。 ○資料から市議会の働きについて調べる。 ・議員は選挙で選ばれている。	◎市民と市の政治の関係図 □議会で話し合いをする議員が市民の代表であり、市民は議員を通して政治に参加していることを確認する。

し ら	<p>るようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の願いは、議員を通じて議会に伝えられる。 ・市長と議会の関係は、国会と内閣に似ている。 <p>○子育て支援の取組について、市議会でどのようなことを話し合っているのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所でつくられた計画書や予算案に質問したり、実施について判断したりしながら決定した。 ・市役所からの提案や取組の状況を議会で話し合っている。 <p>○学習したことを関係図にまとめる。</p>	<p>◎議事録をまとめ直したもの。</p> <p>□提案の議決だけでなく、その後の運用または実施の状況を確認していることを捉えるようにする。</p> <p>☆関係図やノートの記述から「政策の実施の過程での議会の働きについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
べ る	<p>⑥子育て支援の取組を実現するための予算について調べ、理解できるようにする。</p>	<p>○子育て支援の取組に必要な費用について予想し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設をつくるための土地や建物の代金。 ・施設で働く人に支払う給料。 ・遊び道具など、施設で使用する道具の代金。 <p>○施設の利用料について調べる。</p> <p>◆市民の願いを実現するための予算は、どのように決められているのだろう。</p> <p>○費用がどこから出ているのか、資料から調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金が使われている。 ・税金は市民が納めている。 ・国からの補助金も使われている。 ・市役所は、国に補助や援助の申請をしている。 <p>○学習したことを関係図にまとめる。</p>	<p>□運営に必要な費用と施設が安く利用できる事実から、本時の問いに繋げる。</p> <p>◎市の予算のグラフ、税務署の人の話</p> <p>□税金が暮らしをより良くするために使われていることを、資料を通して調べられるようにする。</p> <p>□税金を通して国民がどのように政治に関わっているのかに着目できるようにする。</p> <p>☆関係図やノートの記述などから「おでかけひろばの実施と市の予算の関わりについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑦調べたことを関連図にまとめ、政治の働きについて考え表現することができるようにする。</p>	<p>◆子育てをしている人を支援するために、政治はどのような働きをしたのだろう。</p> <p>○人々の願いを実現する過程を、様々な立場の人の働きに着目して、関連図に整理する。</p> <p>○関連図を基に、互いの考えを交流し合い、政治の働きについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の願いを実現するために、議会や市役所が様々な話し合いや取組を行っている。 ・市の施設は、税金や国からの補助金によって運営されている。 ・政治がわたしたちの生活を良くしている。 	<p>□市役所、議会、市民の願い、子育て支援の取組などについてまとめてきた関係図を活用して、本小単元で学習したことを振り返り、市民の願いが実現するまでの、それらの関わり、位置付けや役割を確認する。</p> <p>★関連図や発言の内容から「国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて、国民生活における政治の働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p>
	<p>⑧学習問題に対する考えをまとめ、政治の働きについて理解できるようにする。</p>	<p>◆子育てをしている人を支援するために、政治はどのような働きをしたのだろう。(前時からの引き続き)</p> <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・国民の暮らしは、国や地方公共団体の政治と深く結び付いていて、国や地方公共団体は、主権者である国民の暮らしの安定と向上のために重要な働きをしている。</p> </div> <p>○身の回りの生活から、みんながより良く暮らせるようにするための施設や取組を調べ、自分たちと政治のつながりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の施設もたくさんある。介護サービスもある。 ・体が不自由な人も暮らしやすいように、点字ブロックやスロープ、多目的トイレがある。 ・学校では、教科書が無料で配布される。 ・政治は自分たちの生活を守っている。 ・税金や選挙などで自分たちも政治に参加できる。 	<p>◎前時にまとめた関連図</p> <p>★ノートの記述から「国や地方公共団体の政治は、国民主権の考えの下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>◎まちの様子(写真やイラスト)、区市のパンフレット、各施設・設備の写真等</p> <p>□学習問題に対する考えを基に、身の回りの生活から社会保障に関する施設や設備を調べ、社会保障が自分たちの生活の維持・向上を図るものであることに考えを深め、政治と自分との関わりを考えることを通して、政治への関心を高める。</p>

小単元名	わたしたちの願いを実現する政治 (自然災害からの復旧や復興)	配当 8時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------------------------------	--------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめ、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、見学・調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだし、国や地方公共団体の政治の取組について考え、表現している。 ②国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて、国民生活における政治の働きを考え、適切に表現している。	①我が国の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①国や地方公共団体の政治は国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解することを目標とする本小単元の学習は、前小単元で学んだ日本国憲法と政治、国民生活との関わりについての具体を学ぶことにもなる。前小単元の学びを生かしながら、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、我が国の政治の働きについて、社会的事象の見方、考え方を働かせて理解を深めていけるようにする。
- ②国や地方公共団体の政治の取組について、本小単元では、自然災害からの復旧や復興を事例として取り上げる。自然災害からの復旧や復興は、子供にとっても切実な願いであり、政治の働きを具体的に捉えやすいというよさがある。それを生かし、政策の内容やその決定過程、基になる法令、予算の決定などについて問いを設けて調べたり、それらの取組と国民生活を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現できるようにする。

(2) 教材や資料の工夫(ある市の東日本大震災からの復旧・復興を事例に)

- ①自然災害からの復旧や復興に関わる具体的な取組について、現在もなお復興の半ばである東日本大震災を取り上げて、災害が発生したときに市役所や県庁が自衛隊の派遣を要請するなど、国と協力しながら救援活動を行ったり、災害復旧のために物流拠点を配置したり、長期的な視野に立って地域の再興に向けて様々な施策を実行したりしていることなどを具体的に調べる。そして、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせながら、国や地方公共団体が国民生活の安定と向上のために、自然災害の復旧や復興をすすめていることについて理解できるようにする。しかし、現在進行形の事例であるため、現在も様々な課題を抱えながら復興が進められていることにも十分配慮する。
- ②国・県・市の議会では、法令や条例に基づいて、復旧や復興に向けて予算を決めていることから、災害復旧や復興を行うために必要な費用としての税金の働きについて調べ、考えて表現する活動を取り入れる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、東日本大震災で被害にあった人々の思いや願いから学習問題をつくり、学習計画を立てる。「しらべる」段階では、国や地方公共団体の取組を中心に市民との関わりや、議会への提案や予算などを取り上げ、様々な取組が関連していることに着目できるようにする。調べる際は、映像資料や新聞記事、市や県の広報誌やHPなどの資料を活用して調べられるようにする。
- ②「まとめる」段階では、調べてきたことを時間の経過に沿って関連付けて整理しながら考えられるように、関係図にまとめる活動を設定する(「(5) 評価の工夫」参照)。国や県、市町村、議会、住民など様々な立場や、取組、予算、住民の願いなど、様々な事柄を整理する必要があるため、時間の経過という一つの基準に即して整理していくことにより、復旧・復興の様子や、個々の事実の関連などが捉えやすくなると考える。また、同じ形式でまとめていくことにより、図を見せ合いながら対話を促すこともできる。

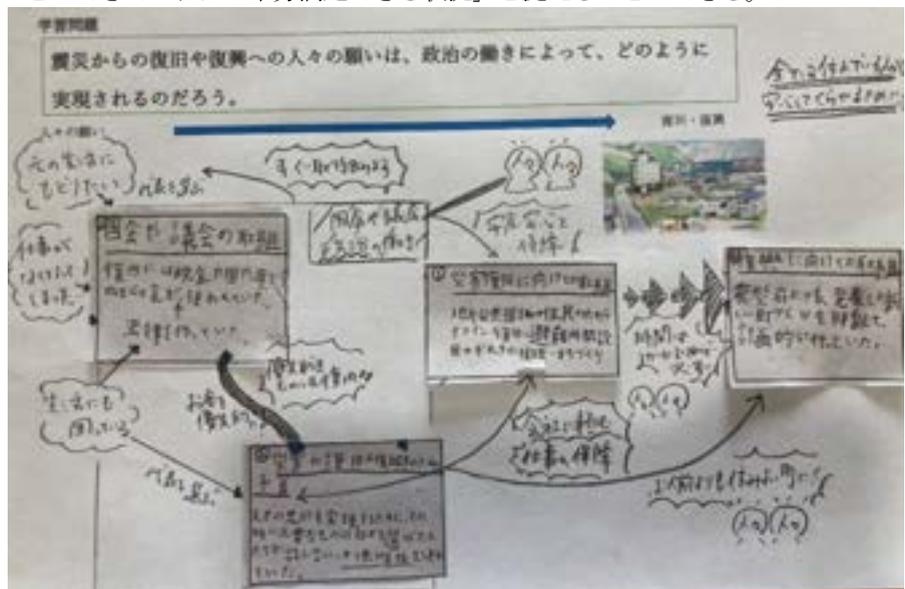
(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第7時では、「復旧や復興に向けて、政治はどのような役割を果たしたのだろう。」という問いから、調べてきたことを時間の経過に沿って関連付けて整理して関係図にまとめて考える。時間の経過に着目し、地方公共団体や議会の役割や相互の関係、租税の働き、これらと国民生活との関連などを考え、記号や言葉で適切に表現することができていれば「おおむね満足できる状況」と捉えられる。さらに、それらを総合して政治の働きについて考え、表現することができていれば「十分満足できる状況」と捉えることができる。

右の図は、様々な「人々の願い」から「国会や議会の取組」を矢印でつなぎ、その後の取組へとつなげている。また、その過程にも、「以前よりも住みよいまちに」と、新たな住民の願いが書き加えられている。このような記述から、政治の取組と人々の願いを関連付けてその働きを考えていることが捉えられ、「おおむね満足できる状況」と評価することができる。



▲関係図の例

3 小単元の指導計画 (7時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表わす)	主な問い (◆) と主な学習活動 (○) 予想される子供の反応 (・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①災害復旧の例を基に、災害が起きたときの政治の働きに関心を持ち、学習問題をつくることができるようにする。	<p>○東日本大震災の被害の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大勢の死傷者、津波に流された町や家屋、産業への被害が大きい。 ・元のまちに復旧したり、よりよいまちに復興したりするには、費用がどのくらいかかるのだろう。 <p>◆被災した人々は、どのような願いをもっていたのだろう。</p> <p>○東日本大震災の被害を受けた人々は、当時どのような願いをもっていたのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住む家がほしい。 ・家族に会いたい。 ・一日も早く以前の生活に戻りたい。 <p>◆震災からの復旧は、どのようにして行われたのだろう。</p> <p>○災害時、最初に行われたことを、資料を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊や消防隊が復旧のために働いている。 ・仮設住宅やライフラインが整備されている。 ・国や県、市が、人々のために様々な取組をしている。 <p>○疑問を出し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれが、どのようなことをしたのか。 ・経費はどうしたのか。 ・政治が関係しているのではないか。 	<p>◎東日本大震災の写真・映像、新聞記事、『3. 11を忘れない』</p> <p>□各種資料から被害の大きさを捉えるとともに、被害を受けた人々は、当時どのような願いをもっていたのかを予想して、話し合うようにする。</p> <p>◎災害復旧の様子（自衛隊や消防隊の働き）、仮設住宅、ライフラインの整備の資料</p> <p>☆ノートの記述や発言から「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p>
震災からの復旧や復興への人々の願いは、政治の働きによって、どのように実現されるのだろう。			
	②学習問題について予想し、学習計画を立てることができるようにする。	<p>○予想したことを基に、学習計画を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や県、市などが協力して進めていたのではないか。 →復旧や復興のため、国や県、市町村はどのような取組をしたのか。 ・やるべきことがたくさんあるので、話し合っって計画的に進めたのではないか。 ・人々の願いを聞き取って進めたのではないか。 ・憲法や法律に基づいて進められたのではないか。 →取組は、どのように決められたのか。 ・予算は税金が使われたのではないか。 →予算はどのように決められたのか。 	<p>◎復旧までの流れ（復興庁HP 県、市のHP、記事 等）</p> <p>◎写真資料（工事現場、議会の様子、新しいまちの様子など）</p> <p>□国、県、市町村が連携・協力して取組を進めたことや、法令、予算等に着目できるようにする。</p> <p>★ノートや発言内容から「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
しるべ	③災害復旧に向けた国や県、市町村の働きを調べ、理解できるようにする。	<p>◆災害復旧に向けて、国や県、市町村は、どのような取組を行ったのだろう。</p> <p>○災害復旧に向けた市町村や県の取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災した地区の市や県が真っ先に動いて、困っている人を助けている。 <p>○災害復旧に向けた国の取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市だけではなく、国もすぐに対策に取り組んだ。 	<p>◎復旧までの流れ（復興庁HP、県、市のHP、記事 等）</p> <p>□人々の願いを基に、速やかに取り組んだことを捉えられるようにする。</p> <p>□自衛隊は国の機関であり、国の取組であることを伝える。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「政策の内容などについて各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、復旧に向けた国や地方公共団体の政治の取組を理解しているか」を評価する。【知①】</p>

<p>④国会や県、市議会などの働きについて調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆被災地の復旧や復興に向けた取組は、どのようにして決められたのだろう。</p> <p>○資料を基に、国会や県、市議会の取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の思いを実現するために、その時に必要なものは何かを選ばれた代表の人たちが話し合い、優先順位を決めていた。 ・国（政府）は、復旧のための法律や予算を成立させた。 	<p>◎各議会の内容に関する資料（記事、広報、HP等）</p> <p>□法令を具体的に取り上げる。</p> <p>☆ノートの記述や発言などから「政策の計画から実施までの過程、法令との関わりなどについて、各種の資料などで調べ、必要な情報を集め、読み取り、国会や地方議会の働きを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>⑤災害復旧や復興に向けた予算について調べ、その内容や税金の働きを理解できるようにする。</p>	<p>◆災害の復旧や復興のための予算は、どのようなになっているのだろう。</p> <p>○復旧の経費は、何が充てられているのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧には市民の税金だけでなく、国や県からの補助金が使われていた。 <p>○税金の集められ方と使われ方について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の税金があった。 ・集められ方が税金によって違って、誰もが税金を納めるようになっていた。 	<p>◎租税についての資料（税務署）、復旧・復興に向けた予算が成立するまでの流れや予算額</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「法令や予算との関わりなどについて各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、予算の内容や税金の働きを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>⑥被災地の復興に向けた、県や市町村の取組を調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆被災地の復興に向けて、県や市町村はどのような取組を行っているのだろう。</p> <p>○県や市町村の復興に向けた取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県や市町村は震災前よりも発展した新しいまちづくりを目指して、計画的に復興に向けて取り組んでいた。 <p>○人々の復興への願いと取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民も県や市町村の支援を受けながら、震災からの復興や、新しいまちづくりを目指し、自分たちの住むまちをよりよいものにしようと努力していた。 	<p>◎復興に関する資料（県や市の計画、記事、広報、HP）</p> <p>□市民と県や市町村が協力して取り組んでいることを捉えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述などから「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体による復興のための取組や、国民生活との関連を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>まとめ</p> <p>⑦調べたことを関係図にまとめ、政治の働きについて考えることができるようにする。</p>	<p>◆復旧や復興に向けて、政治はどのような役割を果たしたのだろう。</p> <p>○これまで学習したことを関連付け、人々の願いである復旧や復興が進められる様子に関係図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の願い→（※この間をまとめる）→復旧・復興 <p>○関係図を基に互いの考えを説明し合い、本時の問いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や県、市町村、議会など様々な機関がつながって復興を進めている。 ・税金や選挙などを通して国民も関わっている。 	<p>□これまで調べてきたことを、国や地方公共団体の取組や計画決定の過程、相互の関係や基になる法令、予算などと関連付けて、その流れを時系列に沿って図にまとめる。</p> <p>★関係図の記述や発言内容から「国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて、国民生活における政治の働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p>
<p>⑧学習問題に対して考え、政治の働きを理解できるようにする。</p>	<p>◆復旧や復興に向けて、政治はどのような役割を果たしたのだろう。（前時からの引き続き）</p> <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・東日本大震災からの復旧や復興に向けて、国・県・市は法律を制定したり、予算を決めて執行したりするなどして、計画的に地域の再建や人々の生活の安定を図る取組を行っている。</p> </div> <p>○自分たちと政治のつながりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治は自分たちの生活を守っている。 ・税金や選挙などで自分たちも政治に参加できる。 	<p>◎前時の関係図</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「国や地方公共団体の政治は、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>□学習問題に対する考えを基に、政治と自分との関わりを考えるを通して、政治への関心を高める。</p>

小単元名	縄文のむらから古墳のくにへ	配当 7時間	内容 (2) アの(ア)及び(イ)とイの(イ)
------	---------------	--------	-------------------------

<「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

「くに」としての我が国の歴史が形づくられるまでの狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、世の中の様子、人物の働き、代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、狩猟・採集や農耕が始まった頃の生活の様子、古墳の出現、大和朝廷の支配の広がりをつまみ、世の中の様子の変化を考え、表現することを通して、むらからくにへと変化したことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、狩猟・採集の生活や農耕が始まった頃の生活の様子、古墳の出現と広がり、大和朝廷（大和政権）の支配の広がり理解している。 ②調べたことを年表や図、文章などにまとめ、むらからくにへと変化したことを理解している。	①世の中の様子、人物の働き、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、狩猟・採集や農耕が始まった頃の生活の様子、古墳の出現、大和朝廷（大和政権）の支配の広がりについて考え、表現している。 ②狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を比較したり関連付けたり総合したりして、世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。	①狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、「くに」としての我が国の歴史が形づくられるまでを学習する。狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子の三つの事象を取り上げ、地域にある博物館や資料館などを利用して調べ、当時の様子や人物の働きを年表などに適切に整理してまとめ、むらからくにへと変化したことを理解する。
- ②世の中の様子がむらからくにへと変化したことを理解できるようにする際、国の形成や地域の統一の様子を物語る神話・伝承を取り上げ、当時の人々のもの見方や考え方に興味をもつことができるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①縄文時代から現代までの等尺年表を基に、時代によって長さが異なることを理解し、これから学ぶ歴史学習の時間的な見直しをもてるようにする。
- ②縄文時代と弥生時代の生活を比較し、米づくりが伝わったことを契機に狩猟生活から農耕生活、共同生活から指導者の出現、不安定な生活から安定した生活へと変化したことを具体的に捉えることができるようにする。
- ③卑弥呼が魏に使いを送ったことに関する資料、大陸から渡来人が渡ってきた頃の中国や朝鮮半島と日本との位置関係を示す地図や年表などを活用して、東アジアという空間的な広がりの中で社会の様子をつまみ、稲作や大陸文化が伝わって世の中の様子がむらからくにへと変化したし、やがて大和朝廷により統一が進められたことを理解できるようにする。

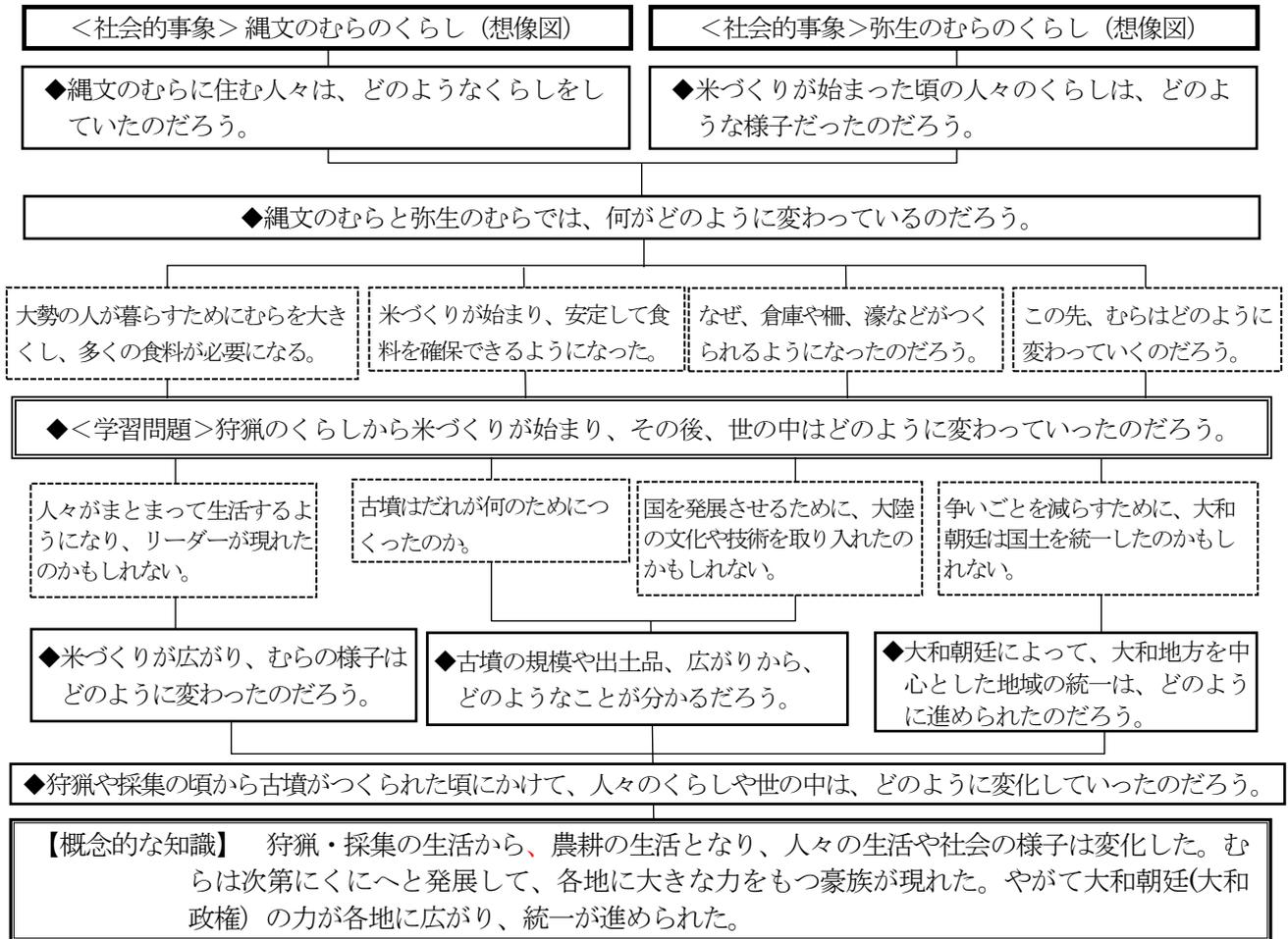
(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①学習を始める前に歴史のオリエンテーションをすることも考えられる。地域の歴史についての学習経験を想起したり、歴史を学ぶ目的を考えたりすることで、今後の歴史学習への興味・関心を高められるようにする。
- ②「つかむ」段階において、縄文と弥生のむらを比較し、米づくりが伝わったことによる社会の変化に着目して学習問題をつくる。そして、その先の様子を予想し、学習計画を立てることで、子供が見直しをもって主体的な学習を展開できるようにする。
- ③歴史の学習の初めの小単元であるため、学習問題づくりをはじめ、問題解決的な学習の流れを丁寧に展開できるようにする。また、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる際は、少人数グループで話し合う活動を取り

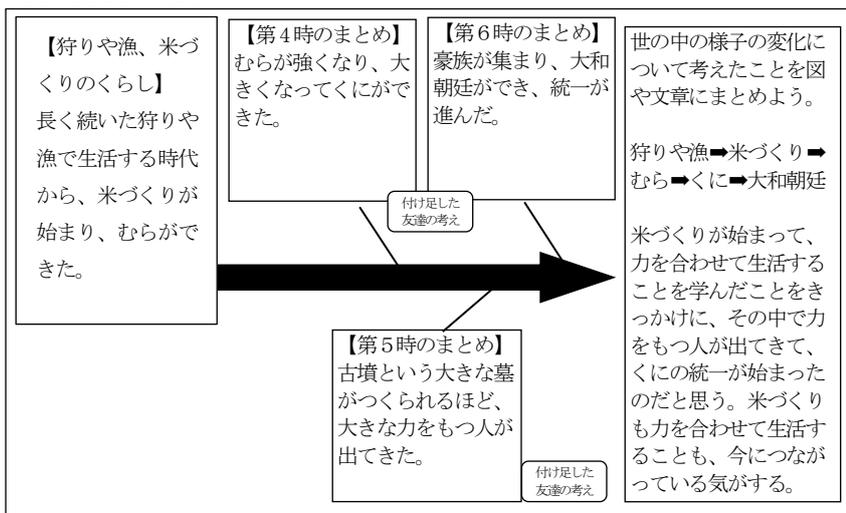
入れることで、自分の考えを確かめたり友達の意見を付け足したりして、自分の考えを深められるようにする。

- ④「しらべる」段階において、毎時間の内容を子供と一緒にまとめる。その際、毎回、小さなカードに記入する。「まとめる」段階では、毎時間書きためてきたカードを用いて、社会的事象の見方・考え方を働かせて比較することで、学習問題に対する自分の考えをまとめられるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫



「まとめる」段階の第7時で、調べたことを基に、世の中の変化について考える場面で「思考・判断・表現」の観点で評価する。

まず、小単元の学習内容をまとめるワークシートに、調べる時間ごとに作成した自分のまとめを書いたカードを貼り付けて、小単元の学習を概観できるようにする。次に、各時間のまとめの中の印を付けたキーワードを適切に活用して、それらに関連付けたり総合したりして、世の中の様子の変化を考える。そして、そこに書き込まれた言葉や記号、発言などから評価する。具

体的には、それぞれの歴史的事象を関連付けて、むらからくにへと変化している様子を考えたり、自分たちの生活と関連付けて米づくりやくにの成り立ちを考えたりすることができていけば、「おおむね満足できる」状況と捉えられる。さらに、作成したワークシートを基に友達と交流し、考えたことを伝え合って加除修正することで、より考えを深められていけば併せて評価する。

3 小単元の指導計画 (7時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表わす)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
	①縄文や弥生のむらのくらしについて調べ、狩猟・採集の生活から米づくりが始まった頃のくらしの様子について理解できるようにする。	<p>◆縄文のむらに住む人々は、どのようなくらしをしていたのだろう。</p> <p>○三内丸山遺跡や出土品の写真、狩りや漁をしていた頃の想像図などを見て、当時の人々がどのように暮らしていたのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力して家や土器をつくっている。 ・狩りや漁で使いそうな弓や槍などの道具も、自分たちでつくっている。 ・山菜や木の実、魚介類や動物など、その季節に採れるものを食料としている。 ・食べ物が採れない時もあるから、不安定なくらしだといえる。 <p>◆米づくりが始まった頃の人々のくらしは、どのような様子だったのだろう。</p> <p>○遺跡や出土品の写真、米づくりの様子の想像図を見て、米づくりが始まり人々のくらしの様子がどのように変化したのか気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓄えておくことができる米を、1年を通して食べるようになった。 ・食料が安定して採れるようになっている。 ・様々な道具の形が変わり、便利になっている。 ・大きさや形、造りの違う家が多くなっている。 	<p>◎三内丸山遺跡の写真</p> <p>◎縄文土器や様々な道具(写真)</p> <p>◎狩りや漁をしていた頃の想像図</p> <p>□写真や地図資料も用いて、想像図から読み取れること、そこから考えられることを色分けして書く。</p> <p>◎等尺年表</p> <p>□時代ごとの時間の長さを等尺年表に表すことで、縄文時代が他の時代と比べて長い期間であることに気付くことができるようにする。</p> <p>◎米づくりが始まった頃の想像図</p> <p>◎弥生土器や様々な道具(写真)</p> <p>□想像図から読み取れることその他に、米づくりによる道具やくらし、人々の変化にも気付けるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、狩猟・採集の生活から米づくりが始まった頃のくらしの様子について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
つ か む	②縄文のむらと弥生のむらの様子を比較して、世の中の様子の変化について関心をもち、学習問題をつくることができるようにする。	<p>◆縄文のむらと弥生のむらでは、何がどのように変わっているのだろう。</p> <p>○2枚の想像図を比べて気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代では、食べ物を安定して手に入れられたから、人も多くなっている。 ・大勢の人がくらすためにむらを大きくし、多くの食料が必要になる。 <p>○疑問を出し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土器や様々な道具が変わっているけれど、生活の変化と関係あるのだろうか。 ・米作りが始まり、世の中の様子はどのように変わっていったのだろう。 ・なぜ、倉庫や柵、濠などがつくられるようになったのだろう。 	<p>◎縄文・弥生のむらの想像図</p> <p>□第1時の資料も活用して比較することで、くらしやむらの様子の変化に目を向けることができるようにする。</p> <p>□衣食住や人々のくらしの変化に着目して、生活が豊かになった様子に気付くようにする。</p> <p>◎縄文～古墳時代の主な出来事(年表)</p> <p>□年表を基に、人々のくらしや世の中の変化に着目して疑問を出し合い、問いを見いだせるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「人々のくらしや世の中の様子などの変化に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p>
	③年表や想像図を基に、学習問題について予想し、学習計画を立てることができるようにする。	<p>○年表や想像図を見て予想したことを出し合い、分類しながら学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々がまとまって生活するようになったことで、リーダーが現れたのではないか。 ・古墳は、だれが何のためにつくったのだろう。 ・争いごとを減らすために、大和朝廷は地域を統一したのではないか。 ・国を発展させるために、大陸の文化や技術を取り入れたのではないか。 <p>○学習問題を解決するために、これから調べることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むらからくにへと変わった様子 ・古墳がつくられた頃の様子 ・大和朝廷が地域を統一した様子 	<p>□予想を基に、学習計画を具体的に話し合うことで、問題解決的な学習の流れを丁寧に展開できるようにする。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「人々のくらしや世の中の変化、その要因について予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>

狩猟のくらしから米づくりが始まり、その後、世の中はどのように変わっていったのだろう。

	<p>④吉野ヶ里遺跡や卑弥呼について調べ、米づくりの広がりにより、むらからくにへと発展したことを理解できるようにする。</p>	<p>◆米づくりが広がり、むらの様子はどのように変わったのだろう。</p> <p>○吉野ヶ里遺跡や出土品、卑弥呼についての記述などの資料から、むらからくにへと発展した様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外から人が自由に入ってこないように、濠や柵をつくっている。 ・食料や種もみ、用水などをめぐって争いが起き、強い力をもつかしらが現れた。 ・進んだ技術が日本に入ってきた。 <p>○むらからくにへと、どのように発展したのかを考え、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より豊かな、力の強いむらが他のむらを支配し、指導者が生まれてくにへと変わっていった。 	<p>◎吉野ヶ里遺跡の写真や想像図</p> <p>◎出土品の写真</p> <p>◎卑弥呼についての文章資料</p> <p>□第1、2時に扱った資料も踏まえ、社会の仕組みの変化に着目できるようにする。</p> <p>□まとめをカードに書く。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、米づくりの広がりにより、世の中の様子がむらからくにへと変化していったことを理解しているか」を評価する。</p> <p>【知①】</p>
し ら べ る	<p>⑤古墳の大きさや出土品、古墳づくりの想像図を基に調べ、王や豪族の力の大きさについて理解できるようにする。</p>	<p>◆古墳の規模や出土品、広がりから、どのようなことが分かるだろう。</p> <p>○大仙（仁徳陵）古墳の写真や、古墳を築いている様子の想像図などを基に、古墳づくりの目的や大陸から伝わった技術などについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大山古墳は約680万人の人たちが、15年以上の時間をかけてつくられた。 ・様々な埴輪がつくられ、古墳の中にも外にもたくさん置かれていた。 ・王や豪族は、自分の力を示すために、大勢の人や物を使って古墳をつくらせた。 <p>○王や豪族の力の大きさについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むらをまとめて、多くの人々を働かせる力をもつ豪族が各地に現れた。 	<p>◎大仙（仁徳陵）古墳の写真とデータ</p> <p>◎古墳を築いている様子の想像図</p> <p>◎石室や出土品の写真</p> <p>□古墳模型や埴輪の複製などがある場合は、実際に手に取って調べる。</p> <p>□古墳づくりの様子から、埋葬された人物が大きな権力や高い技術をもっていたことに気付くようにする。</p> <p>□王や豪族の権力について考えることで、以前よりも身分の差が大きくなってきたことに気付くようにする。</p> <p>□まとめをカードに書く。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、大きな権力をもった王や豪族が支配する世の中であったことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑥大和朝廷（大和政権）の支配の広がり調べ、統一の様子について理解できるようにする。</p>	<p>◆大和朝廷によって、大和地方を中心とした地域の統一は、どのように進められたのだろう。</p> <p>○大和朝廷（大和政権）の力が各地に広がり、国土がどのように統一されていったのかを調べ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巨大な前方後円墳が、今の奈良県や大阪府に多く見られる。 ・強い勢力をもった豪族たちが連合して、大和朝廷（大和政権）という政府をつくった。 ・大和朝廷は、九州から東北地方南部までの豪族や王たちを従え、国土を統一していった。 ・政府の中心となる人物のことを、大王（後の天皇）という。 	<p>◎大和朝廷（大和政権）の広がり地図</p> <p>◎全国古墳の分布図</p> <p>□支配の広がり方が視覚的に分かるように、日本地図などを用いて確認する。</p> <p>◎神話（古事記、日本書紀）</p> <p>□ヤマトタケノミコトの話（神話）を読み、関心をもつようにする。</p> <p>□まとめをカードに書く。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、古墳の広がりや神話を手掛かりに、大和朝廷の支配が広まり、国土を統一していったことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る		<p>◆狩猟や採集の頃から古墳がつくられた頃にかけて、人々のくらしや世の中は、どのように変化していったのだろう。</p> <p>○ここまで調べた3つの時代のまとめカードを基に、少人数グループで世の中の様子の変化について話し合い、何がどのように変わったのかを考える。</p> <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <p>狩猟・採集の生活から、稲作が伝わって農耕の生活となり、人々の生活や社会の様子は変化した。むらは次第にくにへと発展して、各地に大きな力をもつ王や豪族が現れた。やがて大和朝廷（大和政権）の力が各地に広がり、統一が進められた。</p>	<p>□少人数グループで話し合った後、各自の考えをまとめ、発表する。</p> <p>★ワークシートの記述内容から「狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を比較したり関連付けたり総合したりして、世の中の様子の変化を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「調べたことを文章にまとめ、米づくりの広がりとともに、人々の生活や関係が変化し、やがて大和朝廷の力が各地に広がり、むらからくにへと変化していったことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	天皇中心の国づくり	配当 6時間	内容 (2) アの(イ)及び(ウ)とイの(ア)
------	-----------	--------	-------------------------

<「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、世の中の様子、人物の働きや文化遺産に着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、聖徳太子、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりの様子を捉え、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、聖徳太子、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりの様子を理解している。	①聖徳太子が政治を行った頃から聖武天皇が国を治めた頃の世の中の様子、人物の働きや文化遺産に着目して、問いを見いだし、聖徳太子、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりの様子について考え、表現している。	①大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や図、文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。	②大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元では、聖徳太子が政治を行った頃から聖武天皇が国を治めた頃までのことを学習する。具体的には、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、聖徳太子が法隆寺を建立し、小野妹子らを遣隋使として隋に派遣することにより、政治の仕組みなどの大陸文化を積極的に摂取しようとしたこと、中大兄皇子や中臣鎌足によって政治の改革が行われ、天皇中心の新しい国づくりを目指したこと、聖武天皇の発案の下、行基らの協力により国家的な大事業として東大寺の大仏がつくれ、天皇を中心とする政治が都だけでなく広く全国に及んだことや、聖武天皇の願いにより鑑真が来日し、仏教の発展に大きな働きをしたことなどが分かるようにして、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにする。

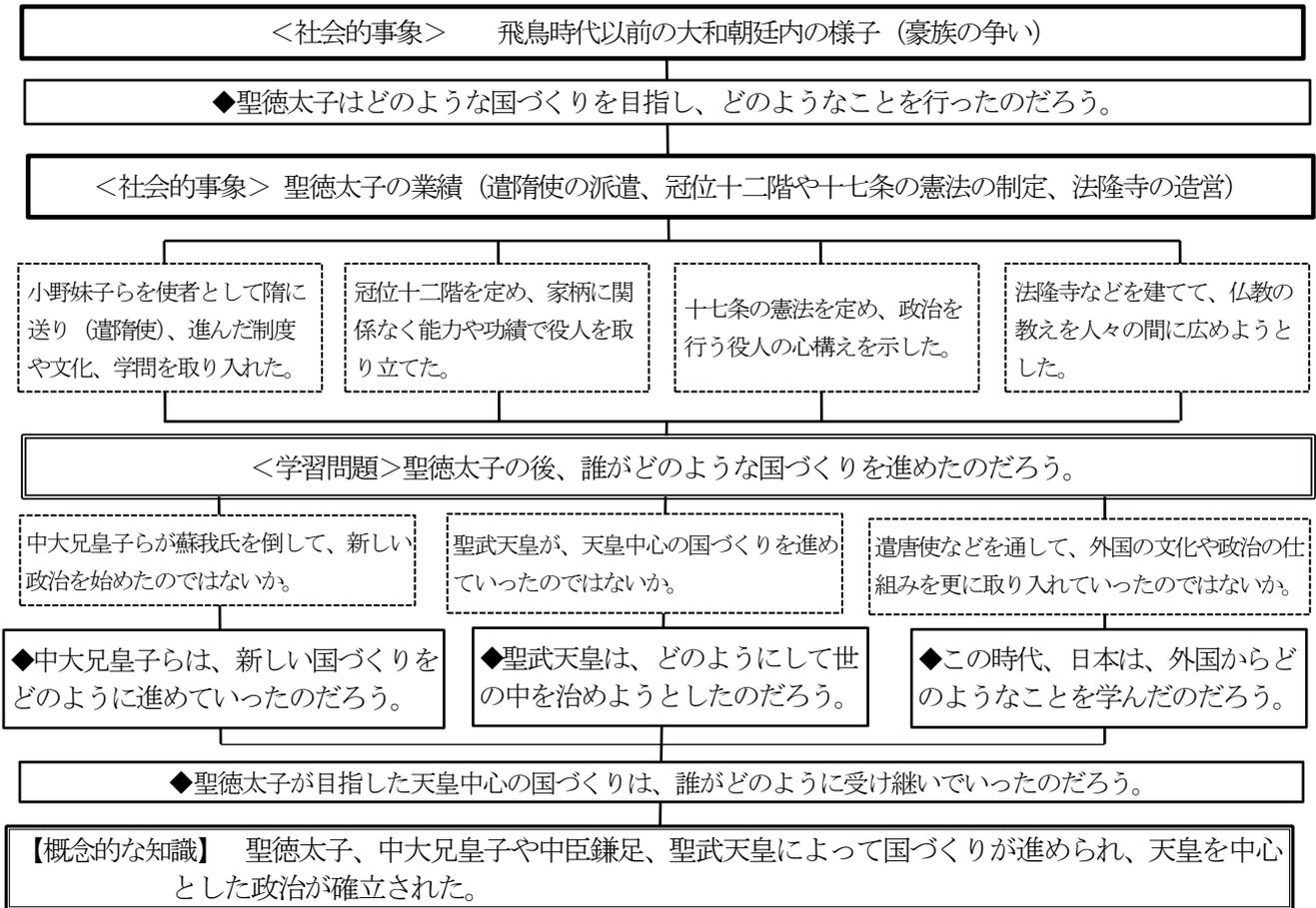
(2) 教材や資料の工夫

- ①「つかむ」段階において、聖徳太子が戦後4回紙幣の肖像画として登場していることを提示し、聖徳太子の業績や活躍した時代に関心をもてるようにする。
- ②第1時で遣隋使について調べる際には、地図帳や教科書に載っている地図を活用し、奈良から隋の都である長安までの道のりの長さを視覚的に捉えられるようにする。同様に、第5時で正倉院の宝物について調べる際にも、日本に贈られた宝物が唐だけでなく、インドやペルシャからも伝えられてきたことを、地図を使って確認する。これらを通して、時期や時間の経過だけでなく、位置や空間的な広がりという社会的象の見方・考え方も働かせて追究できるようにする。
- ③聖徳太子の業績や当時の国内の様子について調べた後に学習問題をつくり、年表を活用して学習計画を立てる。年表には、大化の改新や藤原京、平城京の設営、国分寺や東大寺が建立されたことなど、本小単元で学習する内容を入れ、子供が学習計画を立てる中で、学習すべき内容を追究できるようにする。また、中国との関係も盛り込むことで、遣隋使や遣唐使によって日本に大陸文化や技術が伝えられてきたことにも目を向けられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①学習指導要領では、政治単元の後に歴史単元が位置付けられている。本小単元では、「聖徳太子の目指した天皇中心の国づくり」という視点から学習問題をつくり、追究している。国づくりという政治の面からの学習問題づくりは、歴史学習において本小単元が初めてである。政治単元における学びを生かし、誰が政治を行っているのか、どのような仕組みやきまりがあるのかなどに着目できるようにする。本小単元での学習問題づくりの手法を継続していくことにより、歴史の学習を通して、社会をつくる政治について考えを深めていくことが期待できる。
- ②「まとめる」段階において、調べたことを人物の業績ごとに表に整理して考える活動を設定する。人物の業績を中心に歴史の学習を進めるのは、本小単元が最初となる。また、学習指導要領では本小単元の学習において、聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真の7人の人物を扱うことが示されている。表にまとめることにより、これらの人物の業績を分かりやすく整理するとともに、それぞれの業績を比較したり、関連付けたり総合したりして、その働きを考えることができるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第6時、調べたことを基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる場面で、「思考・判断・表現」の観点で評価する。

本小単元の学習では多くの人物が取り上げられているため、それぞれの業績を整理しながら考えを深められるように、表に整理して気付いたことを話し合う活動を設定した。以下のような表組をつくった後に、それぞれの人物の業績を書き込んでいく（太枠部分が本時で書き込んだ内容）。その表を基に、業績を関連付けたり総合したりして、考えたことを周囲に書き込んで、話し合う。「聖徳太子のしたことを受け継いで国づくりをしている。」「聖徳太子や中大兄皇子たちの働きがあったからこそ、聖武天皇は大きな力を持ち、大仏をつくることができた。」「ここで天皇中心の国ができた。」「行基や鑑真の努力があり、仏教が発展し、人々に広がった。」「聖徳太子と同じように、その後も大陸から学んで国を発展させてきた。」「世界の国々とながっている。」などのように、それぞれの業績を関連付けたり総合したりして考え、記述したり発言したりできれば、「おおむね満足できる」状況と捉えられる。

この他にも、人物の働きを短いキャッチフレーズにまとめ、その理由を書く活動を設定して、評価することも考えられる。例えば、「天皇中心の国の仕組みをつくった中大兄皇子と中臣鎌足」、「大

	大陸から学ぶ	新しい仕組みやきまりなど	仏教の教えを生かす
聖徳太子	遣隋使（小野妹子）の派遣	冠位十二階、十七条の憲法の制定	法隆寺の造営
中大兄皇子 中臣鎌足	中国から帰った留学生らと共に新しい政治を進めた。	大化の改新（土地と人民を天皇が治める、税の仕組み、都をつくる）	
聖武天皇	鑑真を招く。遣唐使を送る。 アジアの優れた文化	日本全国から材料や人を集める。 大きな力をもつ。	東大寺の大仏をつくる。 国分寺・国分尼寺をつくる。
行基			仏教を広める。 大仏造りに協力
鑑真			命がけて海を渡る。正しい 仏教を日本に伝える。

大きな権力を持ち、仏教で世の中を治めようとした聖武天皇」「民衆とともに大仏づくりに尽くした行基」「命がけて海を渡り、仏教の発展に尽くした鑑真」「聖徳太子の願いを受け継ぎ実現した中大兄皇子、中臣鎌足」など、聖徳太子が、大陸から進んだ文化や学問を学び、新たな制度やきまりをつくり、仏教の教えを生かして天皇中心の国づくりを進めたことと、関連付けたり総合したりして考え、調べたことを基にして適切な理由を書くことができれば、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表わす)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①聖徳太子の業績について調べ、聖徳太子が天皇中心の国づくりを目指したことを理解できるようにする。	○いろいろなお札の肖像画に聖徳太子が多く登場していることから、聖徳太子が活躍した時代や業績に関心をもつ。 ◆聖徳太子はどのような国づくりを目指し、どのようなことを行ったのだろう。 ○聖徳太子が活躍した時代の様子や、聖徳太子の業績について調べる。 ・豪族が互いに争い、天皇は豪族を従えるのに苦労していた。 ・聖徳太子は、当時、大きな力をもっていた蘇我氏とともに、天皇中心の国づくりを行った。 ・小野妹子らを使者として隋に送り、進んだ制度や文化、学問を取り入れようとした。 ・冠位十二階を定め、家柄に関係なく能力や功績で役人を取り立てた。 ・十七条の憲法を定め、政治を行う役人の心構えを示した。 ・法隆寺などを建てて、仏教の教えを人々の間に広めようとした。	◎聖徳太子が描かれた紙幣(一万円札…昭和33年発行、五千円札…昭和32年発行、千円札…昭和25年発行、百円札…昭和21年発行) ◎聖徳太子の肖像画、この時代の主な出来事(年表)、冠位十二階、十七条の憲法、法隆寺の造営 ◎遣隋使の交通路を示した、7世紀初めの東アジアの地図 □前の時代に引き続いて、大陸との交流によって、多くの文化などが日本に取り入れられたことに気付くようにする。 ☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、聖徳太子が大陸文化を積極的に取り入れ、天皇中心の国づくりを進めたことを理解しているか」を評価する。【知①】
	②聖徳太子の死後の国づくりに関心を持ち、学習問題をつくることができるようにする。	◆聖徳太子が亡くなった後は、どうなったのだろう。 ○前時の学習を振り返り、聖徳太子が亡くなった後の国づくりについて話し合い、学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">聖徳太子の後、誰がどのような国づくりを進めたのだろう。</div> ○学習問題に対する予想を出し合い、学習計画を立てる。 ・中大兄皇子らが蘇我氏を倒して、新しい政治を始めたのではないか。 ・聖武天皇が、天皇中心の国づくりを進めていったのではないか。 ・遣唐使などを通して、外国の文化や政治の仕組みを更に取り入れていったのではないか。	◎この時代の主な出来事(年表) ☆ノートの記述や発言内容から「世の中の様子、人物の働きなどに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 □年表を基に、人物と行ったことから予想して、学習計画につなげる。 ★ノートの記述や発言内容から「天皇中心の国づくりについて予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	③資料や年表などから、大化の改新について調べ、中大兄皇子らにより天皇中心の国づくりが進められたことを理解できるようにする。	◆中大兄皇子らは、新しい国づくりをどのように進めていったのだろう。 ○中大兄皇子と中臣鎌足らが行った政治について調べる。 ・天皇をしのぐ力をもった蘇我氏を倒し、大化の改新を進めた。 ・中国の政治の制度を手本にして、都から全国へ支配を広げていく仕組みを整備した。 ・中国に習って飛鳥に藤原京をつくったり、元号を定めたりした。 ・豪族が支配していた土地や人々は、国のものになり、豪族は貴族として政治に参加した。 ○8世紀初めの政治の様子について調べる。 ・国を治めるための法律が定められる。 ・人々は、租・調・庸といった税を納め、兵士の役を務めた。 ・都には全国から多くの産物が運ばれ、それらを管理するために木簡が使われた。	◎大化の改新の方針と政治の仕組みの資料 ◎藤原京の復元模型の写真、律令制の税の仕組みの資料 ◎都に運ばれてきた各地の主な産物をまとめた日本地図 □中国(唐)から政治の仕組みを取り入れ、国づくりに生かしていったことを捉えるようにする。 □都に集められる各地の産物の資料を基に、天皇の力を空間的な広がりから考えられるようにする。 ☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、大化の改新による政治の改革により、天皇の力が強くなり天皇中心の政治が進められたことを理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ る	<p>④大仏の造営や聖武天皇の業績について調べ、天皇の力が全国に広がったことを理解できるようにする。</p>	<p>○東大寺の大仏の各部分の大きさを、自分の体や教室の大きさと比べる。 ◆聖武天皇は、どのようにして世の中を治めようとしたのだろう。 ○聖武天皇が行った政治について調べる。 ・聖武天皇が位についた頃、社会全体に不安が広がっていた。 ・聖武天皇は、仏教の力で社会の不安をしずめて国を治めようと願い、全国に国分寺を建てることを命じた。 ・また、東大寺に巨大な大仏をつくり、仏の力で人々を救おうとした。 ○どのように大仏が造られたのかを調べる。 ・聖武天皇の命令で、全国から多くの物資が集められた。 ・行基や優れた技術をもつ渡来人が協力した。 ・のべ260万人以上の人々が何年も働き、大仏が完成した。</p>	<p>□大仏の大きさを実感する中で、なぜそのように大きなものをつくらうとしたのかに関心をもてるようにする。 ◎東大寺の大仏の写真 ◎大仏づくりの資料 ◎大仏づくりで使った金属の産地を示した日本地図、国分寺の分布図 □国分寺の分布図や、大仏づくりに使われた金属の産地の広がりから、天皇の力が東北地方から九州地方まで広がっていたことを捉えられるようにする。 ☆ノートの記述や発言内容から「大仏造営や聖武天皇の業績について調べ、必要な情報を集め、読み取り、天皇を中心とする政治が広く全国に及んだことや、鑑真の来日により仏教が発展したことを理解しているか」を評価する。 【知①】</p>
	<p>⑤遣唐使や鑑真の来日、正倉院の宝物について調べ、大陸文化を取り入れた国づくりの様子を理解できるようにする。</p>	<p>○正倉院の宝物を見て、どこから伝えられたのかについて予想し、関心をもつ。 ◆この時代、日本は、外国からどのようなことを学んだのだろう。 ○この時代の大陸との交流について調べる。 ・聖武天皇は、新しい国づくりに役立てるために、唐に使者を送った。 ・危険な旅であったが、遣唐使は多くの大陸の文化や文物を日本にもたらした。 ・その一部は、東大寺にある正倉院の宝物として保管された。 ・鑑真は、日本の招きに応じて唐から来日を果たし、唐招提寺を建立して、仏教を発展させた。 ○大陸との交流と天皇中心の国づくりとの関わりについて話し合う。 ・中国の皇帝を中心とした政治の仕組みが、天皇中心に国づくりに生かされている。 ・大陸の影響を受けた文化や技術、仏教の教えが、日本の文化なども発展させた。</p>	<p>◎正倉院の宝物の写真 ◎正倉院の宝物が日本に伝えられるまでの世界地図 □正倉院の宝物は、中国だけでなく、さらに西方からシルクロードや海路を使って伝えられてきたことを、世界地図を使って捉えるようにする。 ☆ノートの記述や発言内容から「遣唐使や鑑真の来日、正倉院の宝物などについて調べ、大陸との交流から国づくりが進み、文化や仏教などが発展したことを理解しているか」を評価する。 【知①】</p>
ま と め る	<p>⑥調べて分かったことを表にまとめ、学習問題について分かったことや考えたことをまとめ、天皇中心の政治が確立されたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、誰がどのように受け継いでいったのだろう。 ○調べて分かったことを発表する。 ・中大兄皇子と中臣鎌足は、大化の改新で蘇我氏を破り、天皇中心の国づくりを目指して、様々な仕組みをつくった。 ・聖武天皇は、仏教の力で国を治めようとして、全国に国分寺を、東大寺に大仏を造った。 ○「中大兄皇子」「聖武天皇」を中心に、聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりを、誰がどのように受け継いでいったのか、表にまとめて話し合う。 ・中大兄皇子は、大化の改新後、土地と人々は国のものにし、天皇が治めるようにした。 ・聖武天皇は、遣唐使を送り、中国の優れた技術や政治の仕組みを日本に取り入れた。 ○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <p>聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、中大兄皇子や聖武天皇らによって受け継がれた。中国から文化や政治の仕組みを取り入れたり、仏教の力を利用したりして、天皇を中心とした政治が確立された。</p>	<p>◎前時までに学習した人物の肖像画（聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真） □中大兄皇子、聖武天皇の業績と関連して、中臣鎌足や行基、鑑真、唐への留学生の働きにも目を向けてまとめるようにする。 □大陸（唐）の文化や政治の仕組みが大きく影響したことを捉えるようにする。 ★表の記述内容や発言などから「大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現しているか」を評価する。 【思②】 ★ノートの記述や発言の内容から「調べたことをまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解しているか」を評価する。 【知②】</p>

小単元名	貴族の暮らし	配当 7時間	内容 (2) アの(ウ)及び(ク)とイの(ウ)
------	--------	--------	-------------------------

<「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

貴族の生活や文化について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、貴族の屋敷や貴族の生活の様子、紫式部や清少納言がかな文字を使って優れた文学作品をつくり出したこと、貴族の生活の様子を描いた大和絵などがつくられたことを捉え、京都に都が置かれた頃の文化の特色を考え、表現することを通して、日本風の文化が生まれたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①貴族の生活や文化について、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、貴族の屋敷や貴族の生活の様子、紫式部や清少納言がかな文字を使って優れた文学作品をつくり出したこと、貴族の生活の様子を描いた大和絵などがつくられたことを理解している。 ②調べたことを図や文などにまとめ、京都に都が置かれた頃、日本風の文化が生まれたことを理解している。	①京都に都が置かれた頃の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、貴族の屋敷や生活の様子、紫式部や清少納言の作品などについて考え、表現している。 ②貴族の生活や文化を関連付けたり総合したりして、京都に都が置かれた頃の文化の特色を考え、適切に表現している。	①貴族の生活や文化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元では、京都に都が置かれた頃の貴族の生活や文化について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見い出して調べ、貴族の屋敷の様子や藤原道長に代表される貴族の生活の様子、紫式部や清少納言が我が国独自のかな文字を使って優れた文学作品をつくり出したこと、貴族の生活の様子を描いた大和絵などがつくられたことなどが分かるようにし、京都に都が置かれた頃に日本風の文化が生まれたことを理解できるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

①「つかむ」段階において、「望月の歌」「寝殿造の屋敷の図」を提示し、貴族を代表する藤原道長が権力を保持していた事実と、貴族の屋敷（外観）の様子を関連付けることで、貴族の暮らしや文化に対する問いへとつながる。そして、寝殿造の屋敷や貴族の生活の様子を庶民の生活の様子と比較することにより、この頃生まれた貴族を中心とした文化がどのようなものであったのかについて、子供が問題意識をもつことができるようにする。

②「しらべる」段階において、貴族の生活や文化について世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目できるように、遊び（囲碁、双六、蹴鞠、百人一首など）、作品（源氏物語、枕草子、大和絵、かな文字など）、服装（束帯や十二単など）、年中行事（季節の行事）などの様子を具体的に調べていく。その際、子供が主体的に情報を得る方法として、教科書や資料集だけでなくICT機器や学校図書館を活用できるように、学びの環境を整えることで、子供の確かな理解へとつなげていく。また、東京2020パラリンピック大会でも、大和絵の特徴が用いられたアートポスター作品（山口晃「馬からやぶ射る」2019（YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery））が作られていることを教員が提示することで、当時の文化に対する子供の関心を高めていく学習も考えられる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

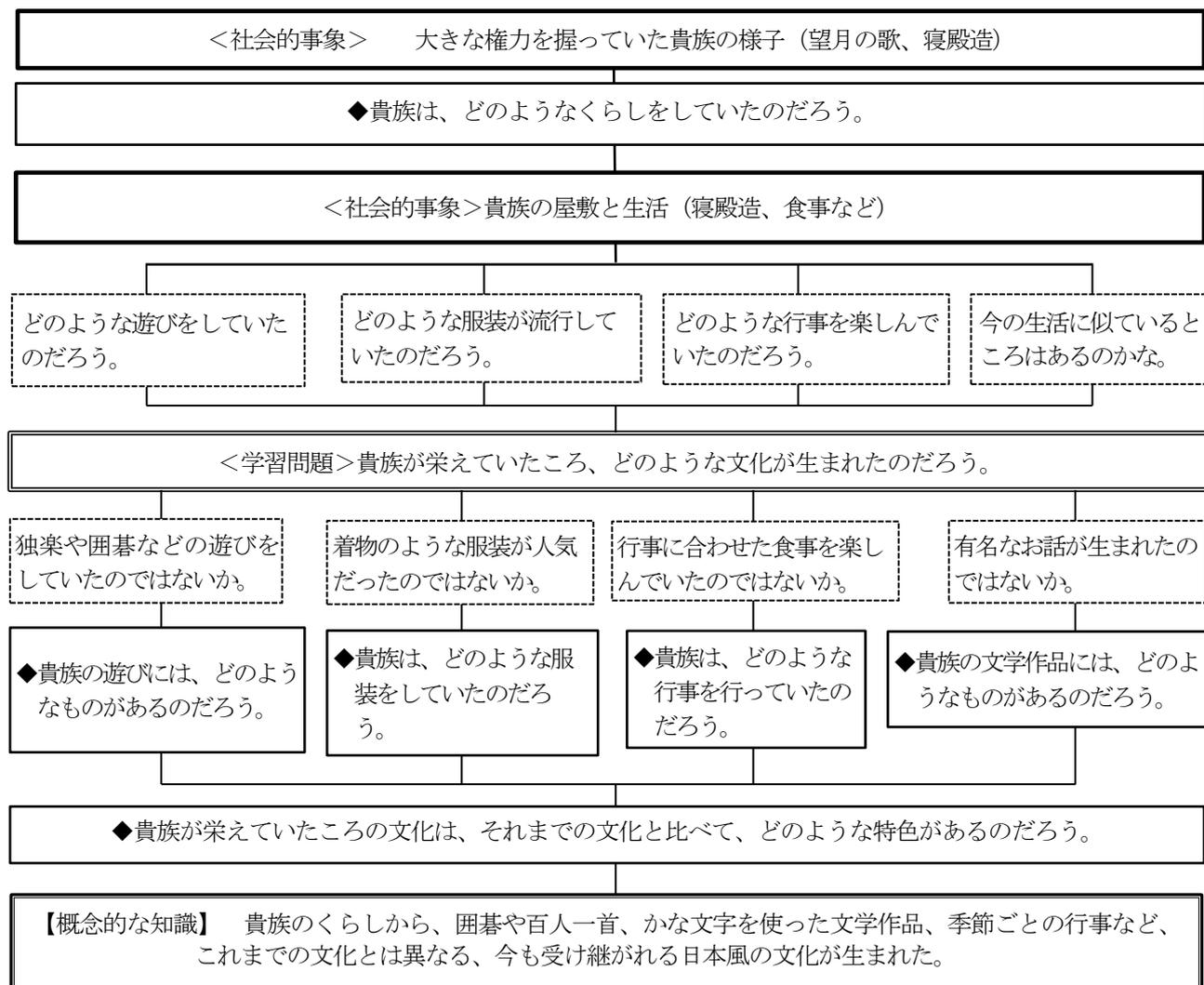
①「つかむ」段階において、貴族の生活や文化について、貴族の歌と建物の様子に関連付けて興味・関心を高め、学習問題「貴族が栄えていたころ、どのような文化が生まれたのだろうか。」をつくる。また、学習問題に対する予想を、子供が付箋等を用いて分類することで、調べるべき視点（遊び・作品・服装・年中行事）を見い出すとともに、調べ方も学習経験を踏まえて話し合い、決めていく。それらにより、子供が見通しをもって、主体的に学習を展開できるようにする。

②「しらべる」「まとめる」段階において、子供の主体的で確かな理解を促すために、課題を明確にした知識構成型ジグソー学習（エキスパート活動・ジグソー活動）を取り入れる。調べる視点に基づき、エキスパート活動

(同じテーマで調べるグループをつくり、調べた内容や意味を話し合い、グループ内で理解を深めること)を展開する。その後、調べたことをグループで図に整理して関連付け、文化の特色をキャプション化するジグソー活動(エキスパート活動で獲得した知識を組み合わせ、問いについて考えること)を行うことで、文化の特色を主体的・対話的に考えることができるようにする。また、前小単元の学習で学んだ大陸風の文化について振り返り、平安文化との比較を通して、その特色について考えを深められるようにする。

③学習指導要領では、歴史学習において、貴族の文化、室町文化、江戸の文化を取り扱うことが位置付けられている。本小単元では、時代背景(貴族の台頭)を当時の文化に関連付ける視点から、学習問題をつくり追究している。室町文化や江戸の文化の学習においても、この手法を継続していくことで、小単元のつながりを意識した学習を展開することが期待できる。また、当時の文化が現代にも受け継がれている具体例を取り上げることは、子供が文化への関心を高める上で重要なことであり、室町文化や江戸の文化においても同様である。その点においても、小単元のつながりを意識した学習を展開し、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養っていく。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第4時では、調べたことを基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる場面で、「思考・判断・表現」の観点で評価する。本小単元のように、「どのような」を追究する学習問題では、「学習問題についてまとめましょう。」という投げかけだけでは具体的知識の羅列に止まり、調べたことを関連付けたり総合したりして考えているか、評価が難しい場合がある。

そこで、「(4)問いの構成の工夫」に示したように、調べたことを振り返りながら、「貴族が栄えていたころの文化は、それまでの文化と比べて、どのような特色があるのだろう。」と改めて問いを見だし、思考を深められるようにする。そして、京都に都が置かれた頃の文化の特色を、子供がどのように考えているのかについて、記述や発言から評価する。

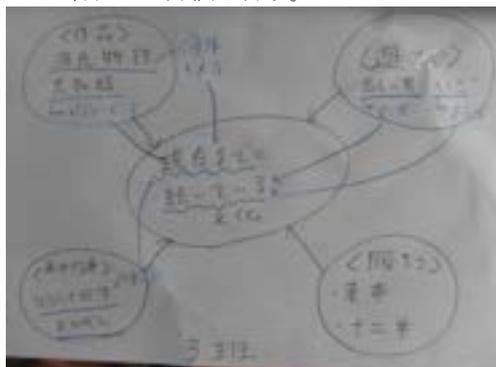
本指導計画においては、右ページのような図に表現して、キャプションを考えるようにした。そして、その根拠

となる事実を明確にしているか、それまでの文化と比較して考えているかに着目して評価を行う。

例えば、「奈良時代に比べて、この時代の女性の服装は十二単など、とても華やかで、現代の着物みたいな日本風な感じがする。」などの発言については、調べたことを比較したり、現在の生活と関連付けたりして考えており、「おおむね満足できる」状況にあると捉えられる。

さらに、複数の具体的知識から総合的に考えている場合については、「十分に満足できる」状況として評価することができる。その他にも、大陸文化と平安文化を表に整理して比較し、特色を考える活動を設定して、評価することも考えられる。

図の例▶



3 小単元の指導計画 (4時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表わす)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①藤原道長が詠んだ歌や貴族の屋敷の様子を調べ、貴族の生活の様子に関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	○藤原道長が望月の歌を詠んだわけを考える。 ・藤原道長は、かなり大きな力をもっていたのだろう。 ◆貴族は、どのような暮らしをしていたのだろう。 ○寝殿造の屋敷や貴族の生活の様子を調べる。 ・屋敷や庭が大きい。 ・庭で遊んでいる。 ・食事が豪華。 ・華やかな暮らしをしている。 ○疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・どのような遊びをしていたのだろう。 ・どのような服装が流行していたのだろう。 ・どのような行事を楽しんでいたのだろう。 ・今の生活に似ているところはあるのかな。	□都が平安京に変わったことを確認する。 ◎藤原道長の肖像画と詠んだ歌 ◎寝殿造の屋敷の図 ◎庶民と貴族の食事の写真 □庶民と貴族の食事を比較し、貴族が華やかな生活をしていたことを捉えられるようにする。 □庭の遊びや食事などに着目することで、貴族たちには多様な楽しみがあったことに子供が気付くようにする。そこから、「どのようなことに楽しみを見出していたのか。」という点に疑問を集約して、学習問題につなげるようにする。 ☆ノートの記述や発言内容から「貴族の生活や文化に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
		貴族が栄えていたころ、どのような文化が生まれたのだろう。	◎源氏物語絵巻の写真 □予想を分類することで、調べる視点を見いだすとともに、調べ方を話し合うようにする。 ★記述や発言内容から「貴族の生活や文化について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】

し ら べ る	<p>②③ 貴族の生活や、そこから生まれた遊びや文学作品、服装、年中行事などについて調べ、貴族が栄えた頃、様々な文化が生まれたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆貴族の〇〇には、どのようなものがあるのだろう。</p> <p>○写真や図、文書等の資料を基に、貴族の生活や文化について調べる。(エキスパート活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊び・・・囲碁、双六、蹴鞠、百人一首など ・作品・・・「源氏物語」(紫式部)、 「枕草子」(清少納言) ・大和絵、かな文字など ・服装・・・東帯や十二単など ・年中行事・・・季節の行事など <p>○異なる課題について調べた友達と、調べたことを交流し合う。</p>	<p>□「〇〇」の部分には、自分が追究するテーマを入れる。</p> <p>◎貴族の生活の様子や文化について分かる書籍、サイト等</p> <p>□学校図書館や ICT 機器を活用した調べ学習など、多様な学び方を選択できるようにする。</p> <p>◎現代に受け継がれる大和絵作品(写真)</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、貴族の屋敷や貴族の生活の様子、紫式部や清少納言がかな文字を使って優れた文学作品をつくり出したこと、貴族の生活の様子を描いた大和絵などがつくられたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>④調べたことをこれまでの文化と比較し、キャプションを考えることを通して、学習問題について分かったことや考えたことをまとめ、京都に都が置かれた頃、日本風の文化が生まれたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆貴族が栄えていた頃の文化は、それまでの文化と比べて、どのような特色があるのだろう。</p> <p>○調べて分かったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族の遊びには、囲碁や双六があった。 ・大和絵は、現代でも東京パラリンピック 2020 のポスターとして描かれている。 ・七夕などの年中行事は、貴族が楽しんでいて、現代にもつながっている。 ・東帯や十二単は、当時の人の正装だった。 <p>○学習問題について調べたことを関連付けて図にまとめ、貴族の文化の特色を表すキャプションを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本風の貴族文化 ・現代にまで受け継がれている文化 ・華やかな文化 など <p>○キャプションを学級全体で交流し合い、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【現代にまで受け継がれている日本風の文化】 貴族のくらしから、囲碁や百人一首、かな文字を使った文学作品、季節ごとの行事など、これまでの文化とは異なる、今も受け継がれる日本風の文化が生まれた。</p> </div>	<p>◎貴族の生活や文化の写真</p> <p>□グループで情報共有を図り、キャプションを考えるジグソー活動につなげるようにする。</p> <p>□グループで調べたことを関連付けて図にまとめ、話し合う。その後、それを踏まえて一人一人がキャプションを考え、交流し合うようにする。</p> <p>□服装などに着目して、それまでの文化と貴族の文化を比較することで、貴族の文化の特色を子供が捉えられるようにする。</p> <p>★キャプションの記述や発言内容から「貴族の生活や文化を関連付けたり総合したりして、京都に都が置かれた頃の文化の特色を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述の内容から「調べたことを図や文などにまとめ、日本風の文化が生まれたことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	武士の世の中	配当 6時間	内容 (2) アの(エ)及び(イ)とイの(ア)
------	--------	--------	-------------------------

<「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配の広がりを捉え、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、武士による政治が始まったことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配の広がりを理解している。 ②調べたことを年表や図、文などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。	①源頼朝が平氏打倒の兵を挙げた頃から鎌倉に幕府が置かれた頃までの世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配の広がりについて考え、表現している。 ②源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	①源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元では、源頼朝が平氏打倒の兵を挙げた頃から鎌倉に幕府が置かれた頃までの世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いなどの事象について調べる。そして、力を付けてきた源氏と平氏が戦い、源義経の働きもあって源氏が勝利し、大きな力をもつようになったこと、朝廷から認められ全国に守護や地頭を置いた源頼朝が、鎌倉に幕府を開き、武士による政治の仕組みをつくり上げたこと、北条時宗が九州の御家人を中心に全国の武士を動員し、元の攻撃を退けたこと、幕府が全国的に力をもってきたことなどが分かるようにし、鎌倉に幕府が置かれた頃、武士による政治が始まったことを理解できるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①「つかむ」段階において、「貴族の牛車の列を警備する武士」と「貴族を討って都に戻ってきた武士」（平治物語絵巻）を提示し、それらを比べ、社会的事象の見方・考え方（時期や時間の経過）を働かせて、世の中の様子や武士の力の変化について問いをもつことができるようにする。
- ②「しらべる」段階においては、地図や地図資料を活用して、空間的な広がりから世の中の様子を捉え、追究を深められるようにする。第3時において、「源氏の軍の進路」を提示し、戦いの時間経過に伴う源氏と平氏の勢力の関係の変化に着目できるようにする。その後、第4時では、地図帳を活用して、朝廷がある京都と幕府を開いた鎌倉が距離的に離れていることを捉えたり、鎌倉に幕府を開いた理由を地理的な条件から考えたりできるようにする。第5時では、「モンゴル(元)の広がり」を提示し、世界との関わりにも目を向けて、元軍が大きな力をもっていたことを捉えることができるようにする。また、「元軍の進路と防塁」を提示し、鎌倉幕府の位置と九州との距離を確認することで、幕府が全国的に力をもっていたことに気付くことができるようにする。このように、本小単元の学習では、位置や空間的な広がりに着目できる資料を活用して、主体的に調べることを通して、確かな理解につなげていく。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①武士の政治の始まりについて、前小単元を振り返り、貴族と武士の生活や役割との比較を通して、興味・関心を高め学習問題をつくり、予想を基に学習計画を立てることにより、子供が見通しをもって、主体的に学習を展開できるようにする。
- ②平清盛による大輪田の泊整備と日宋貿易、源平の戦いの展開、鎌倉幕府と平安京の位置、元の領土拡大と日本との戦いなどについて積極的に地図帳を活用して調べ、空間的な広がりの中で当時の武士の世の中の様子を捉えられるようにする。
- ③学習指導要領では、政治単元の後に歴史単元が位置付けられている。本小単元では、既習事項である「政治」という視点から、学習問題をつくって追究している。可能な小単元において、この手法を継続していくことで、社会をつくる政治について子供が考えを深めていくことを期待できる。

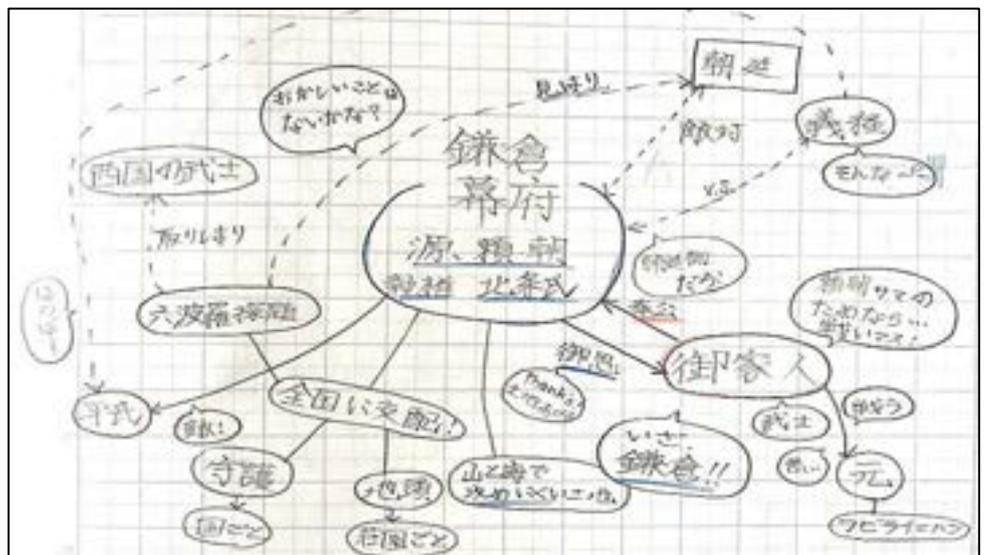
(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第6時では、調べたことを基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる場面で、「思考・判断・表現」の観点で評価する。その際、関係図に整理する活動を取り入れると、子供が調べたことを関連付けたり総合したりして社会的事象の意味を考えている様子を評価しやすい。また、書く前に必要な内容を共有することで、理解が十分でない子供への支援を行うとともに、一人一人の関係図に書き込まれたから事象を結ぶ線、矢印、そのコメント等から、調べた社会的事象の関係、学習問題とのつながりを考えられているか、的確に評価することができる。

例えば、右の関係図(例)においては、鎌倉幕府を中心に置いて、政治の進め方、朝廷や御家人、外国と関係などを整理し、図に位置付けている。このことから、鎌倉幕府が社会を治めていたと考えていることが捉えられる。そして、ご恩と奉公の関係や、守護・地頭などの配置等を書き加えるなど、幕府の仕組みや御家人との関係などを関連付けてまとめている。また、それらに加えて、幕府の力を全国に広げ、元を追い払うことができたことを関連付けた記述も見られる。これらのことから、「十分に満足できる」状況であると捉えることができる。



▲関係図(例)

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①武士の生活の様子や武士と貴族との違いを調べ、武士の思いや願いについて考え、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	○前小単元の学習を振り返り、その後の地方の様子について調べる。 ◆武士とは、どのような人々だったのだろう。 ○貴族のくらしと比べながら、武士のくらしについて調べる。 ・地方の武士は、自分の領地を見渡せる場所に館を建てて住んでいた。広い池や庭もない。 ・武器の手入れや武芸の訓練、馬の世話などを行い、戦いに備えていた。 ○2枚の絵と写真を比べて疑問をノートに書く。 ○疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・なぜ、貴族は武士に道を譲っているのだろう。 ・どのようにして武士は力を強めていったのか。 ・武士が力をもち、政治や世の中の様子はどのように変わったのだろう。 武士はどのように力を強め、どのような世の中をつくったのだろう。	◎「武士の館の様子」(想像図) ◎「都の貴族のやしきの様子」(想像図) □武士の登場の経緯について確認する。 ◎「牛車の列を警備する武士」 ◎「平治物語絵巻(信西の巻)」 □2枚の資料を比較し、武士が貴族をしのぐ力をもったことに気付き、その間に何があったのか、また、それにより社会の様子がどう変わったのか疑問をもつことにより、学習問題づくりにつなげる。 ☆ノートの記述や発言内容から「世の中の様子や、武士の力の高まりなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 ◎この時代の主な出来事(年表) □既習事項や年表を基に、人物と行ったことに着目して、学習計画につなげる。 ★ノートの記述や発言内容から「武士による政治について予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら	②資料や年表などから、平清盛の業績について調べ、争いに勝った平氏が政治を動かすようになったことを理解できるようにする。	○資料「武士の戦い」から分かることを発表する。 ・建物が燃えるほどの激しい戦いだ。 ◆平清盛は、どのようにして勢力を伸ばしていったのだろう。 ○武士が勢力を伸ばしていった経緯について調べる。 ・源氏と平氏の勢いが強く、互いに戦っていた。 ・清盛は太政大臣になり、娘を天皇の后にした。 ○清盛の政治と貴族の政治を比べ、話し合う。 ・娘を天皇の后にしたのは似ている。 ・日宋貿易で利益を上げたことが違う。 ・武士として初めて太政大臣になった。	◎武士の戦い(平治の乱) ◎源氏と平氏の勢力図 □資料から平氏の勢力の広がりに着目できるようにする。 ◎平清盛の年表 □資料を基に、源氏と平氏の共通点や相違点を考えられるように助言する。 ☆ノートの記述や発言内容から「平清盛の年表などを調べて、必要な情報を集め、読み取り、武士である平氏が政治を動かすようになったことを理解しているか」を評価する。【知①】
べ る	③源平の戦いなどについて調べ、源氏が平氏を滅ぼし、源頼朝が征夷大将軍になり鎌倉幕府を開いたことを理解できるようにする。	◆源氏は、どのように平氏を倒したのだろう。 ○源頼朝が平氏を倒すための兵を集めたことを調べる。 ○源義経はどのように平氏を倒したのかについて調べ、ノートに記述する。 ・義経は、一の谷や壇ノ浦の戦いなどで平氏と戦って勝った。 ・義経は、作戦を立てて平氏と戦って勝つことができた。 ・頼朝は鎌倉に残り、武士たちをまとめていた。 ・頼朝は朝廷に認められ、守護・地頭を置いた。 ・戦いの後、義経は頼朝に討たれた。 ・頼朝は征夷大将軍になり、鎌倉幕府を開いた。	◎源氏の軍の進路、源平の戦いのエピソード ◎源頼朝、源義経の人物年表 □源平の戦いの経過を白地図に書き込み、全国に渡って戦いが行われたことを捉えられるようにする。また、そこに頼朝や義経が行ったことを書き加え、それぞれの果たした役割を捉えられるようにする。 ☆ノートの記述や発言内容から「源平の戦いの様子などを調べて、必要な情報を集め、読み取り、源氏が平氏を倒して大きな力をもち、源頼朝が鎌倉幕府を開いたことを理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>④鎌倉幕府の始まりや、ご恩と奉公の関係などを調べ、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士による政治の仕組みをつくり上げたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆源頼朝は、どのような政治をしたのだろうか。</p> <p>○鎌倉の地形について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山と海に囲まれている。 <p>○頼朝がなぜ、鎌倉に幕府を開いたのかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都から離れているから。 ・東国の御家人を集めやすいから。 <p>○頼朝が武士を従えた方法について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士の領地を認めたり、新しく与えたりした。 ・武士が集まれるように道を整備した。 ・武士は、幕府のために戦った。 <p>○頼朝の死後の幕府の政治について調べ、世の中の様子について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北条氏が執権として幕府を引き継いだ。 ・承久の乱後、幕府の力が西国まで広がった。 ・武士のための法律ができた。 	<p>◎京都と幕府の位置（地図）</p> <p>□鎌倉と平安京（京都）の位置や、鎌倉の地形について地図帳を活用して調べ、頼朝の意図について考えられるようにする。</p> <p>◎ご恩と奉公（図）、幕府の勢力図、鎌倉への道と有力御家人の領地、切り通しの写真</p> <p>□道の整備が戦いとつながっていることに気付くよう助言する。</p> <p>□源頼朝と武士の主従関係について、ご恩と奉公という言葉だけでなく、武士の願いと関連付けて考えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言の内容から「必要な情報を集め、読み取り、朝廷に認められ守護・地頭を置いた源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士による政治の仕組みをつくり上げたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤元との戦いについて調べ、幕府の力が全国に及んでいたことを理解できるようにする。</p>	<p>○資料を基に、元寇があったことや元の勢力を調べる。</p> <p>◆北条時宗は、どのようにして元軍と戦ったのだろうか。</p> <p>○元との戦いの様子について調べ、分かったことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・爆発する武器を使っている。元軍の方が、数が多い。 ・防塁をつくって、対抗した。 <p>○元を破ることができた理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士は、領地がもらえらと思ったから必死で戦った。 ・幕府の力が全国に及ぶようになって、西国の武士も逆らえなかった。 	<p>◎モンゴル（元）の広がり</p> <p>◎「蒙古襲来絵詞」</p> <p>□元軍と武士たちの戦い方を図に整理して比較し、相違点を捉えやすくする。</p> <p>◎元軍の進路と防塁（地図）</p> <p>□幕府と元寇の舞台となった九州の位置を確認したり、動員された武士の数や防塁の規模を調べたりして、幕府の力が全国に及ぶようになったことに気付くことができるようする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「元軍の戦いについて調べ、必要な情報を集め、読み取り、ご恩と奉公の関係を基盤とする幕府の力が、全国に及んでいたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑥調べたことを関係図に表し、学習問題について分かったことや考えたことをまとめ、武士による政治が始まったことを理解できるようにする。</p>	<p>◆武士の登場によって、世の中はどのように変わり、武士はどのような政治を行っていったのだろうか。</p> <p>○武士による政治について、キーワードを話し合い、それをういて関係図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源頼朝と北条時宗 ・幕府に従う武士 ・朝廷 ・ご恩と奉公 <p>○関係図にキャプションを付け、交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士の願いをかなえる幕府 ・武士が主権の政治 <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div data-bbox="422 1646 949 1812" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>平清盛、源頼朝、源義経の働きによって武士による政治が始まり、源頼朝がご恩と奉公などの政治の仕組みを整えることで、幕府の力は全国に及ぶようになった。</p> </div>	<p>◎肖像画（平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗）</p> <p>□発表した武士の政治に関わるキーワードを板書し、関係図に活用できるようにする。</p> <p>□関係図にまとめる際は、図の中の幕府を書く場所や大きさなどを、子供と話し合いながら決定する。</p> <p>□キャプションの表現について、関係図を使って説明できるようにする。</p> <p>☆関係図やキャプション、発言の内容から「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述や発言の内容から「調べたことや考えたことを整理して文章にまとめ、鎌倉に幕府が置かれた頃、武士による政治が始まったことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	今に伝わる室町文化	配当 5時間	内容 (2) アの (㊦) 及び(㊧)とイの(㊦)
------	-----------	--------	---------------------------

<「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

京都の室町に幕府が置かれた頃について、当時の代表的な建造物や絵画などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、今に受け継がれる文化を捉え、この頃の文化の特色を考え、表現することを通して、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に、長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と自分たちの生活との関わりを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、今に受け継がれる文化を理解している。	①京都の室町に幕府が置かれた頃について、当時の代表的な建造物や絵画である金閣や銀閣、水墨画などに着目して、問いを見だし、今に受け継がれる文化について考え、表現している。	①京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図や文章などにまとめ、京都の室町に幕府が置かれた頃、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解している。	②京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画である金閣や銀閣、水墨画などを関連付けたり総合したりして、この頃の文化の特色を考え、適切に表現している。	②学習したことを基に、長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元では、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を取り上げる。建造物については、足利義満は金閣を、足利義政は銀閣を、それぞれ建てたこと、それらは現在も保存されていること、銀閣の東求堂の書院造の部屋には、ふすまや畳があり、違い棚が作られていること、それらは現在の和風建築に生かされていることなど。また、絵画については、雪舟により我が国を代表する水墨画の作品が生み出されたこと、それらの中には、国宝に指定され現在も保存されているものがあることや、水墨画は現在も人々に親しまれていることなどを手掛かりに、京都の室町に幕府が置かれた頃、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解することを意図している。
- ②代表的な建造物や絵画について調べるとともに、この頃に生まれた能、茶の湯、生け花、盆踊りなど、今もなお多くの人々に親しまれていることを、関連的に取り上げることも考えられる。

(2) 教材や資料の工夫

- ①金閣や銀閣などが現在も保存されていること、銀閣の東求堂の書院造の部屋のつくりは、現在の和風建築に生かされていること、雪舟の水墨画は現在も人々に親しまれていることなどについて、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせて、この頃の文化と今日の文化とのつながりを捉えられるようにする。
- ②小単元の導入で、既習事項である平安時代の文化の特色を振り返り、金閣や銀閣などの写真と比較しながら、学習問題づくりへとつなげられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①既習の時代の文化を振り返った後で、室町時代の文化についての学習問題をつくり、学習計画を立てる。そして、平安時代の文化の学習内容や学び方を生かしながら、子供が見通しをもって主体的に学習を展開できるようにする。さらに、問題解決を行う過程では、代表的な建造物や絵画、この頃の文化の特色、今に受け継がれているものなどに着目した問いを設定する。
- ②写真や絵画、映像資料などを活用して調べるとともに、書院造の影響を受けている伝統的な家屋を実際に観察するなどして、子供がこの頃の文化に関心をもてるようにする。また、京都で生まれた文化が日本の各地に広まっていた様子についても、写真、地図や映像資料などを活用して捉えられるようにする。
- ③第2時と第3時は、どちらも室町文化について調べる時間である。よって、この2時間を一つにまとめ、調べる社会的事象を選択できるようにする学習展開も考えられる。その際、子供が調べたい文化を選択し、1時間は調べた上で、次の時間に調べたことを共有する。子供が主体的に学習に取り組むことができるように、このような学習を展開することも有効である。

(4) 問いの構成の工夫

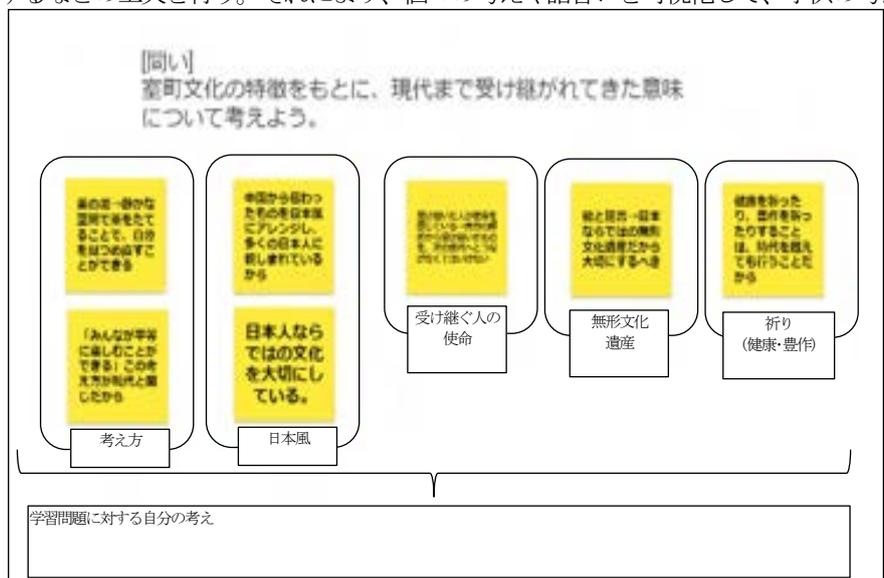


(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第5時では、調べたことを基に、この頃の文化の特色を考え、表現する場面で、「思考・判断・表現」の観点で評価する。

文化を調べる学習においては、取り上げた文化遺産の特色の理解にとどまってしまうことがある。そこで、調べた事実が概念的な知識に高まる過程を丁寧に評価する必要がある。そこで、調べたことを基に、室町文化が今もなお受け継がれている意味や価値について、友達と一緒に話し合いながら考える活動を設定し、「思考・判断・表現」の観点で評価する。具体的には、文化の特色について考えたことを付箋などに書いてホワイトボードに整理したり、GoogleのJamboardに入力してまとめたりするなどの工夫を行う。それにより、個々の考えや話し合いを可視化して、子供の考えの深まりを促すとともに、教師の評価資料としても活用する。そして、話し合いにおける発言や表現された内容から、それぞれの文化について調べたことや考えたこと、話し合ったことを、関連付けたり総合したりして、室町文化の価値や意味を考え、表現しているか評価する。

右の例のように、調べたことから考えたことを分類し、適切な見出しを付けて、文化の特色をまとめることができれば、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。



▲まとめの例

3 小単元の指導計画 (5時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表わす)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料☆★評価【評価】)
つ か む	①金閣、銀閣・東求堂同仁齋の書院造について調べ、室町時代の文化に関心を持ち、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	<p>○平安時代の文化の特色を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貴族の生活ぶりを描いた大和絵がつくられた。 ・ かな文字を使った和歌や書が、今も残っている。 ・ 平安時代は、日本独自の華やかな国風文化だった。 ・ 今も残るものがいろいろとあった。 <p>◆金閣や銀閣・東求堂と現代の和室には、どのような特徴や共通点、相違点があるのだろうか。</p> <p>○金閣、銀閣・東求堂同仁齋の書院造について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金閣は3代將軍の足利義満が、銀閣は8代將軍の足利義政が建てた。 ・ 金閣や銀閣は現在も保存され、観光客の人気の高い。 ・ 金閣はとても豪華だが、銀閣は質素な感じがする。 ・ 書院造の部屋(東求堂)には、ふすまや畳、違い棚や障子などがある。現在の和室に似ていると思う。 <p>○疑問を出し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前に学習した貴族の屋敷とも、武士の館とも様子が違う。なぜだろう。 ・ 貴族中心の平安時代の文化とは違う文化だと思う。 ・ 室町時代は、どんな文化が栄えたのだろうか。 ・ 他に、この頃生まれた文化には、どのようなものがあるのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">室町時代の文化には、どのような特色があるのだろうか。</div> <p>○年表を見ながら疑問や予想したことを出し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 墨絵や茶の湯は、日本の誰かが始めた文化なのではないか。 ・ 能や狂言とは、どのようなものなのだろうか。 ・ この時代の文化は、どのような人たちが親しんだのだろうか。 	<p>◎紫式部・清少納言(写真)</p> <p>◎大和絵やかな文字</p> <p>□教科書やノートを読み返し、既習事項を思い起こすとともに、平安時代の文化の特色について振り返るようにする。</p> <p>◎金閣(写真)・足利義満像</p> <p>◎銀閣(写真)・足利義政像</p> <p>◎東求堂同仁齋(写真)</p> <p>□金閣と銀閣・東求堂同仁齋と現在の和室などを比較することで、共通点や相違点に気付くようにする。</p> <p>□既習の文化と比較して、室町時代の文化について考える。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画などに着目して、今に受け継がれる文化について問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p> <p>◎この時代の主な年表</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「代表的な建造物や絵画、今に受け継がれる文化について予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
し ら べ る	②今日まで続く水墨画や茶の湯、生け花などについて調べ、室町時代に生まれた文化が、今も親しまれていることを理解できるようにする。	<p>◆水墨画や茶の湯、生け花は、どのようなものだろうか。</p> <p>○書院造の部屋の写真から、水墨画に着目し、雪舟の業績について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水墨画は、本当にその場所で景色を見ているように描かれている。 ・ 雪舟は中国で学び、日本の水墨画を完成させた。 ・ 色の濃さの違いで、奥行きを感じる。 ・ 日本各地をまわって作品を描いた。 ・ 今も多くの人に親しまれている。 <p>○茶の湯や生け花について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 室町時代には茶を飲む習慣が広まり、静かにお茶を楽しむための茶室もつくられた。 ・ 生け花は現代にかけて発展していき、現在は様々な流派がある。 <p>○調べたことを基に、それらの文化がどのようにして現在まで続いているのかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形を変えたり発展したりして、現在に受け継がれた。 ・ 現在も多くの人々に親しまれている。 	<p>◎書院造(東求堂同仁齋)(写真)</p> <p>□書院造を手掛かりに、水墨画や茶の湯、生け花に着目する。</p> <p>◎水墨画と雪舟(写真)</p> <p>◎茶の湯や生け花の様子(写真)</p> <p>□水墨画に関しては、他教科と関連付けて実際に墨絵を描く体験などができると、雪舟の高い技術をより強く実感できる。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「水墨画や茶の湯、生け花などについて、必要な情報を集め、読み取り、雪舟の働きや、水墨画などが、今も人々に親しまれていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>

し べ る	<p>③能や狂言などについて調べ、室町時代に庶民の文化から生まれ、現在にも受け継がれていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆能や狂言、その他の文化は、どのようなものだろう。</p> <p>○田楽や猿楽から発展した能や狂言について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民衆の力が高まり、祭りや盆踊りなどが各地で盛んに行われるようになった。 ・人々の生活を題材にして、商人や庶民に広まった。 ・狂言は民衆の生活などを題材に、台詞も日常の会話を用いて、民衆の間に広まった。 ・能と狂言を合わせて能楽とよび、国際的にも無形文化遺産として認められている。 <p>○調べたことを基に、それらの文化がどのようにして現在まで続いているのかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形を変えたり発展したりして、現在に受け継がれた。 ・人々の生活の中から生まれた文化だから、多くの人に親しまれて現在まで続いた。 	<p>◎猿楽・田楽・能・狂言（写真）</p> <p>□田楽や猿楽から能や狂言が生まれたことを捉える。</p> <p>□文章や写真だけで能楽を理解するのは難しい。そこで、映像資料なども用いて、具体的なイメージをもてるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、室町時代に庶民の文化から能や狂言が生まれ、現在にも受け継がれ、人々に親しまれていることを理解しているか」を評価する。</p> <p>【知①】</p>
	<p>④祇園祭などの地方への広がりや、今に受け継がれる様子などを調べ、室町文化の広がりについて考え表現することができるようにする。</p>	<p>◆この時代の文化は、どのような人たちが親しんだのだろう。</p> <p>○祇園祭が全国に広がり、現在も続いていることを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祇園祭は京都だけではなく、様々な地域で行われ、今も続いている。 <p>○食習慣や食べ物、盆踊りなど、この頃の生活習慣や生活の様子、文化が、現在まで続いていることを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日3回食事をとる習慣は、この頃から始まった。 ・祭りや盆踊りなども室町時代から広がった。 <p>○室町文化が全国に広がったり、今でも行われたりしている理由を考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱や、大名や僧などにより地方へ広まった。 ・商人や庶民によって、各地で受け継がれていった。 	<p>◎祇園祭（映像）、全国にある祇園祭（地図）、応仁の乱の資料</p> <p>□祇園祭は全国で行われていることを調べ、誰がどのように広めていったのかを考える。</p> <p>□この頃の生活習慣が、時代を超えて受け継がれ、現在でも定着していることに気付くようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「室町文化の広がりや、今に受け継がれていることについて考え、適切に表現しているか」を評価する。</p> <p>【思①】</p>
ま と め る	<p>⑤これまで学習してきた室町文化の特色を考え、学習問題について分かったことや考えたことをまとめ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解できるとともに、自分たちの生活との関わりを考え表現することができるようにする。</p>	<p>◆室町時代にはどのような文化が生まれ、どのような人たちに親しまれたのだろう。</p> <p>○室町文化の特色、今に受け継がれる意味や価値を考え、付箋やJamboardにまとめて説明し合ったり話し合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水墨画や書院造など、落ち着いた和風という感じがする。 ・静かな空間で茶をたてたり花を生けたりするなど、自分を見つめ直すものが多い。 ・雪舟など、当時の人々の努力によって発展した。その後も、人々に受け継がれ、親しまれている。 ・豊作や健康を祈ることは、時代を超えても同じように行うことであり、今も大切にされている。 <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめ、自分たちの生活との関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室町時代は、現在とつながる文化が生まれた時代だ。 ・平安時代までは、貴族が中心に文化に親しんでいたが、室町文化は民衆も親しむことができていた。 ・自分の身の回りに残る室町文化を探してみたい。 ・外国の人にも室町文化の良さを伝えていきたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>室町時代には、今につながる文化が生まれ、貴族や武士、民衆など様々な人々に親しまれて、その後、全国各地へ広がっていった。そして、今でもなお、室町時代の文化は、多くの人たちに親しまれている。このように長く伝わる文化を、自分たちも生活の中で大切にしていきたい。</p> </div>	<p>◎これまでの資料・ノート</p> <p>□自分の考えをノートに書き出した後、少人数グループで根拠を基に話し合い、まとめたことを学級全体で発表する。</p> <p>★ホワイトボードやJamboardの記述や発言の内容から「京都の代表的な建造物や絵画、金閣や銀閣、水墨画などを関連付けて、この頃の文化の特色について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>□学習問題に対するまとめの後に、我が国の伝統や文化と自分たちの生活との関わりについても書くように指示する。</p> <p>★学習問題についての記述から「調べたことを文章にまとめ、京都の室町に幕府が置かれた頃、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>★記述や発言内容から「学習したことを基に、長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と自分たちの生活との関わりを考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

小単元名	戦国の世から天下統一へ	配当 6時間	内容 (2) アの(㉓)及び(㉔)とイの(ア)
------	-------------	--------	-------------------------

<「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉の天下統一などについて、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、世の中の様子、織田信長や豊臣秀吉が行った政策を捉え、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉の天下統一などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、世の中の様子、織田信長や豊臣秀吉が行った政策を理解している。 ②調べたことを年表や図、文などにまとめ、戦国の世が統一されたことを理解している。	①戦国大名の群雄割拠の状態から、豊臣秀吉が全国統一をした頃までの世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、世の中の様子、織田信長や豊臣秀吉が行った政策について考え、表現している。 ②世の中の様子、織田信長が勢力を伸ばした様子や豊臣秀吉が行った政策を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。	①キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉の天下統一について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元では、ザビエルによって日本にキリスト教が伝えられ、我が国に広がったことや、ポルトガル人によって日本に伝えられた鉄砲を多用するなどして織田信長が短い期間に領地を拡大したこと、豊臣秀吉が検地や刀狩などの政策を行ったことなどを手掛かりに、群雄割拠の状態から、織田信長・豊臣秀吉により戦国の世が統一されたことを理解することができるようにする。

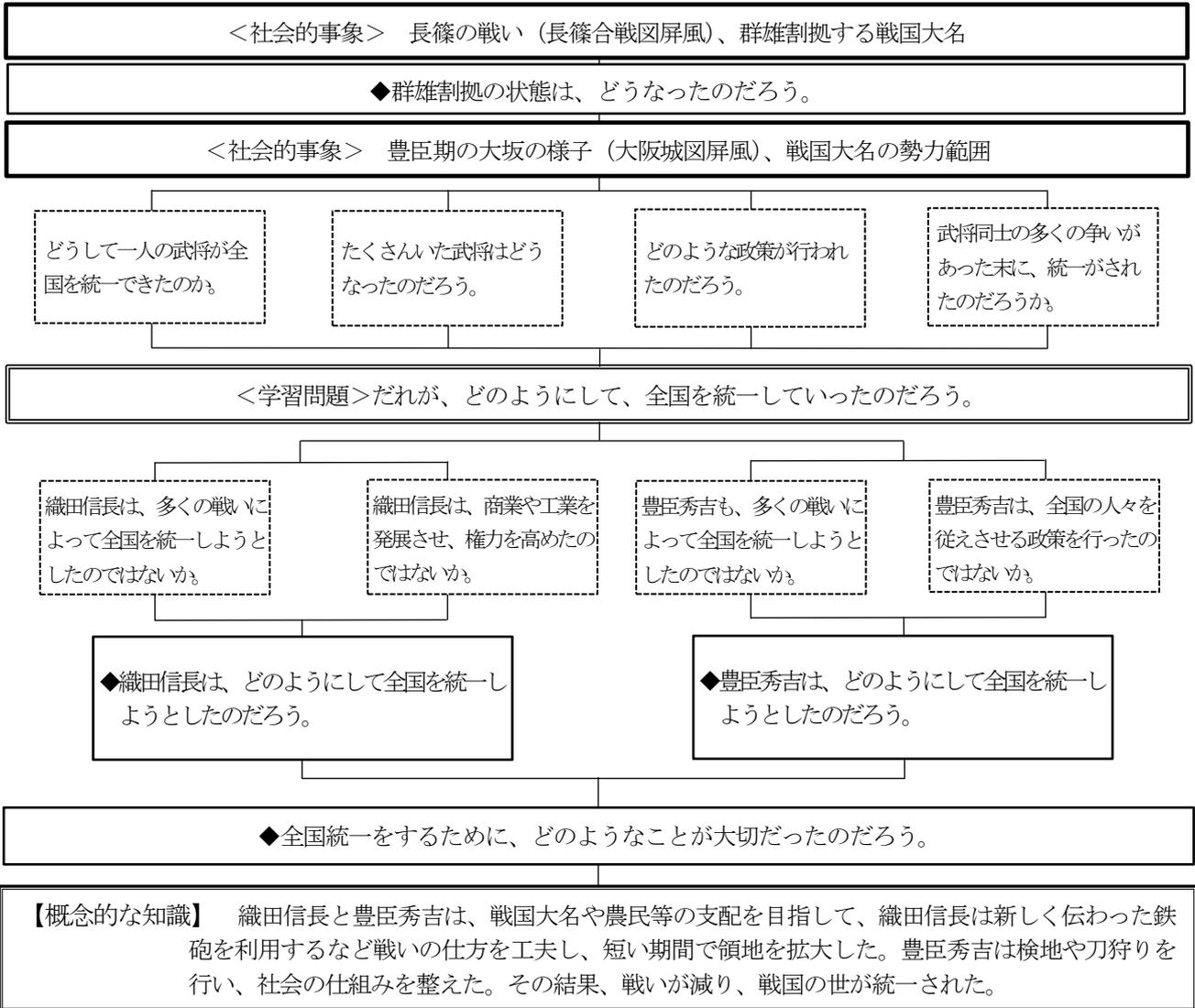
(2) 教材や資料の工夫

- ①「つかむ」段階の第1時において、長篠の戦いの際の長篠城の様子やその頃の合戦の数と、豊臣秀吉の築いた大坂城の様子やその年代の合戦の数を提示し、それらを比較して、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせて、短期間に世の中の様子が大きく変化したことに気付くことができるようにする。そして、世の中の様子の変化に対する気付きを基に、誰が、どのように戦国の世を統一し、平和な時代に近付けたのか問題意識を高め、学習問題をつくるようにする。第2時においては、時間的な視点で時代の変化を捉えることができる教材として、織田信長と豊臣秀吉の業績をまとめた年表を提示し、年表を基に予想を話し合い、学習計画を立てられるようにする。
- ②「しらべる」段階の第3時において、キリスト教の伝来の様子を世界地図などの資料で調べ、社会的事象の見方・考え方(位置や空間の広がり)を働かせて、当時の世界と日本の動きの関連について考えられるようにする。
- ③「しらべる」段階では、戦国の世の社会の様子や織田信長が勢力を伸ばした様子、豊臣秀吉が検地や刀狩などの政策を進め天下を統一した様子について資料を提示し、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、戦国の世の統一に果たした織田信長や豊臣秀吉の役割を考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①戦国の世が統一されたことについて学習問題をつくり、年表を活用して学習計画を立てることにより、子供が見通しをもって、主体的にその後の学習活動を展開できるようにする。さらに、「まとめる」段階では、当時の世の中の様子や、織田信長、豊臣秀吉の天下統一のための政策などに着目して、両者の働きをキャッチコピーにまとめ、自分の考えを発表できるようにする。それにより、先人の果たした役割についての理解を確かなものとして、我が国の歴史や文化を大切にしようとする心情や、歴史の展開について考え、関心をもつ態度を養うことができるようにする。
- ②「まとめる」段階では、織田信長と豊臣秀吉の業績に関する情報を整理するために、両者の肖像画、屏風絵、勢力図、年表等を比較しながら、二人の武将が果たした業績の意味や共通点、相違点について、前時まで作成した思考ツール(同心チャート、ベン図)を活用して整理できるようにする。それにより、空間的・時間的・相互関係的な視点や、比較・分類・関係的な思考を働かせて追究できるようにする。
- ③主体的・対話的で深い学びを実現するために、一人一人が自分の考えをもった上で、ペアや少人数のグループで資料を根拠として話し合う活動や、ホワイトボード、ICT機器等を用いて考えをまとめる活動を取り入れ、最終的に自分の考えを文章等でまとめ、説明し合うことにより、互いに考えを深め、広げられるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「しらべる」段階では、調べて分かったことや考えたことを思考ツールに表現する。

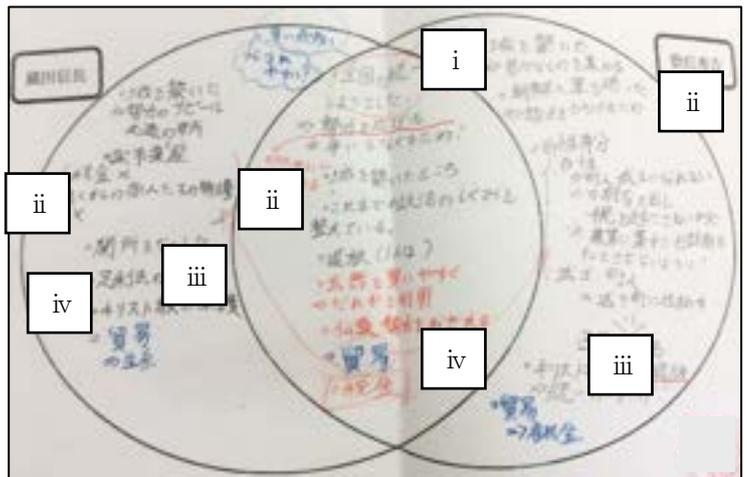
第3・4時の武將の業績調べでは、同心円チャートを活用し、それぞれの武將が果たした政策や取組とその意味を調べ、まとめたものを「知識・技能」の観点で評価する。

第5時では、両武將の業績を右の作品のようにベン図に整理することで、両者が天下統一に向け同様に大切にされた政策や取組について比べ、共通点や相違点を見だし、特色について考えられるようにする。そして、その記述を「思考・判断・表現」の観点から評価する。

ただし、思考ツールは子供が活用方法に習熟しないと、理解したことや思考したことを適切に表現できなかったり、作業に時間がかかったりするので、日頃より様々な教科等で思考ツールを活用しておくといよい。

右のベン図においては、勢力を広げるための戦いや城を築くなどの取組 (i)、政治の仕組みを整えたこと (ii)、キリスト教への対応 (iii)、貿易で利益を得たこと (iv) などの業績を適切に共通点と相違点に表現し、行った政策が天下統一に果たした役割を考え、表現することができているため「十分満足できる」状況と捉えることができる。

「まとめる」段階の第6時では、学習問題についてまとめる前に、「しらべる」段階でまとめたノートや、同心円チャート、ベン図等を基に、織田信長と豊臣秀吉の働きを考え、キャッチコピーをつくる。その記述や発言などから、「思考・



▲ベン図の例

判断・表現」の観点で評価する。そして、キャッチコピーについて交流し合った後に、学習問題に対して分かったことや考えたことを文章にまとめる。

以下のように2つの作品を並べてみることにより、思考・判断・表現したことを生かして、理解を深めていることが分かる。この子供は、織田信長の業績から、新しさに特徴を見だし、その中でも戦国の世における武器の重要性を捉え、「新しい時代をつくる」と、その働きを考えて表現している。豊臣秀吉については、「必要なこと」とあるので、具体的にどのようなことを指すのか、問い返したり、書き加えるよう指示したりするなどの手だてを講じる。適切に説明することができれば、業績を比較したり関連付けたりして織田信長や豊臣秀吉の働きを考えているので、「思考・判断・表現」の観点で「十分満足できる」状況と捉えることができる。まとめにおいても、織田信長が外国から伝わった文化や武器などを用いて全国統一の基礎を築き、それを受け継いだ豊臣秀吉が全国統一をしたことを自分の言葉でまとめ、二人の共通点も捉えていることから、「知識・技能」の観点で「十分満足できる」状況であると捉えることができる。

キャッチコピー
 ○織田信長
 新しいものを取り入れ新しい時代をつくる、武器で天下統一へ
 ○豊臣秀吉
 頭脳派将軍、必要なことを行い、天下統一を果たす

まとめ
 織田信長は、戦い・城・外国の文化・武器などのほとんどにおいて天下統一の土台をつくり、豊臣秀吉は織田のよい所を生かし、自分の納得いくように天下統一の道を切り拓き、それを成しとげた。この二人は、農民にも外国の貿易にも目を向け、政策を行った。戦国時代から今日に伝わる文化はごくわずかだが、戦国大名から感じた思いはすごく大きいと思った。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①「長篠合戦図屏風」と「豊臣期大阪図屏風」の城周辺の様子を比較して、世の中の様子が劇的に変化したことを捉え、学習問題をつくることができるようにする。	○「長篠合戦図屏風」の城周辺の様子を見て、気付いたことを話し合う。 ・城や周りに多くの武士がいて、戦いをしている。 ・山などの地形を使って戦っている。 ◆群雄割拠の状態は、どうなったのだろう。 ○「豊臣期大阪図屏風」の城周辺の様子を見て、気付いたことを話し合う。 ・まちにはたくさんの人々が歩いている。 ・商売をしている人がいる。・多くの家がある。 ○「長篠合戦」と「豊臣が全国を治めていた時期」の戦国大名の勢力図を比べ、疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・一人で全国を統一したのか。 ・どのようにして全国をまとめていったのか。	◎長篠合戦図屏風(写真) □戦いが起きていた様子に着目する。 ◎豊臣期大阪城図屏風(写真) □「長篠合戦図屏風」と比較し、人・建物・まちの様子等に着目する。 ◎長篠合戦の頃と、豊臣秀吉が全国を治めていた時期の勢力図 ◎10年ごとの国内内乱(グラフ) □どうして図屏風に描かれた様子が変わったのかに着目する。 ☆記述や発言から「戦乱の世が統一されていく様子や、豊臣秀吉らの働きなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
		だれが、どのようにして、全国を統一していったのだろう。	
	②戦国の世が統一されたことに関心をもち、学習問題に対して予想し、年表を基にして学習計画を立てることができるようにする。	○学習問題について予想を出し合う。 ・力の強い武将が統一をしたのではないか。 ・いろいろな政策で全国を統一したのではないか。 ・織田信長と豊臣秀吉が大きな役割を果たしたのではないか。 ○予想について、人物年表を基にして話し合う。 ・織田信長は戦いが多い。どのような戦いをして全国を統一しようとしたのか。 ・豊臣秀吉は、検地、刀狩りなどを行っている。全国統一と関係があるのではないか。 ○これから調べていくことを全体で話し合い、学習計画を立てる。 ・織田信長と豊臣秀吉の働きを中心に、資料から調べていく。	◎織田信長・豊臣秀吉の肖像画及び、人物年表 □勢力の変化から織田信長と豊臣秀吉の働きに着目して、人物年表を基に話し合い、予想を深めていくようにする。 □年表に書かれていることを根拠にグループで話し合い、予想を深める。話し合った内容を全体で確認し、次時以降の見通しをもつ。 ★ノートの記述や発言内容から「キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉の天下統一について予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】

し	<p>③織田信長が全国統一に向けて行った政策について調べ、織田信長が短期間に領地を拡大したことを理解できるようにする。</p>	<p>◆織田信長は、どのようにして全国を統一しようとしたのだろう。</p> <p>○織田信長が全国統一に向けて、どのようなことを行ったかを調べ、同心円チャートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安土城の築城、樂市樂座、キリスト教の伝来など <p>○学習したことを基に、織田信長の業績や思い、願いについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国を統一するために様々なことを行ったので、行動力がある。 ・商工業を発展させ、領地を豊かにした。 	<p>◎信長の年表・勢力図の変化</p> <p>◎安土城・樂市樂座（絵図）</p> <p>◎ザビエル（肖像画） など</p> <p>□キリスト教の伝来について、世界地図を活用して調べる。</p> <p>☆ノートの記述や同心円チャート、発言内容から「織田信長の全国統一などについて調べ、必要な情報を集め、読み取り、ザビエルによりキリスト教が伝わったことや、世の中の様子、織田信長が鉄砲を多用して短期間に領地を広げたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ら	<p>④豊臣秀吉の全国統一の様子について調べ、豊臣秀吉が検地や刀狩りなどの政策を行い、全国を統一したことを理解できるようにする。</p>	<p>◆豊臣秀吉は、どのようにして全国を統一しようとしたのだろう。</p> <p>○豊臣秀吉が全国統一に向けて、どのようなことを行ったかを調べ、同心円チャートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検地、刀狩、キリスト教禁止、大阪城築城など <p>○学習したことを基に、豊臣秀吉の思いや願いについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信長と同じで全国を統一したい思いがあった。 ・同じ政策や似ている政策があった。 	<p>◎秀吉の年表・勢力図の変化</p> <p>◎検地令条文、検地の想像図</p> <p>◎刀狩令条文 など</p> <p>☆ノートの記述や同心円チャート、発言内容から「豊臣秀吉の全国統一について調べ、豊臣秀吉は織田信長の後を受け継ぎ、刀狩りや検地などの政策を行い、全国を統一したことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
る	<p>⑤織田信長と豊臣秀吉がどのように戦国の世を統一していったのか、調べたことを基に考え表現することができるようにする。</p>	<p>◆全国統一をするために、どのようなことが大切だったのだろう。</p> <p>○織田信長と豊臣秀吉が行った政策を、ベン図を使って整理し、二人の政策の共通点や相違点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国統一を目指していた。 ・戦いを行った。 ・二人とも経済を盛んにしようとした。 ・キリスト教に対して、異なる政策を行った。 <p>○ベン図に整理した共通点や相違点を、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国統一に向けて、それぞれ業績を積み上げたが、共通点や相違点があり、それぞれの考え方によってやり方が異なると思った。 	<p>◎まとめた同心円チャート</p> <p>□同心円チャートを根拠に政策の共通点や相違点について整理する。</p> <p>□友達のベン図と比較し合い、何に着目してベン図を書いたか共有をし、お互いの考えの違いに気付くことができるようにする。</p> <p>☆ベン図や発言内容から「織田信長と豊臣秀吉の政策や業績を比べたり、関連付けたりして、二人の政策や世の中の様子の変化について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	<p>⑥織田信長と豊臣秀吉の働きや学習問題についてまとめ、二人の武将により、戦国の世が統一されたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆二人の武将は、どのようにして全国を統一していったのだろう。</p> <p>○学習問題に対して調べたことを基に話し合い、織田信長と豊臣秀吉の働きをキャッチコピーにまとめ、自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長…新しいものを使って天下統一へ ・豊臣秀吉…全国統一後に社会の仕組みを整理 <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p>	<p>◎これまでの資料やノート、図等</p> <p>□どのような理由でキャッチコピーを考えたのか話し合う。</p> <p>★キャッチコピーや発言から「世の中の様子、織田信長や豊臣秀吉が行った政策を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした二人の武将の役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「調べたことを文などにまとめ、二人の武将の働きにより、戦国の世が統一されたことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
	<p>織田信長と豊臣秀吉は、戦国大名や農民等の支配を目指して、織田信長は新しく伝わった鉄砲を利用するなど戦いの仕方を工夫し、短い期間で領地を拡大した。豊臣秀吉は検地や刀狩りを行い、社会の仕組みを整えた。その結果、戦いが減り、戦国の世が統一された。織田信長は新しいものを取り入れ、豊臣秀吉は織田信長の政策を土台にして必要なことを考え、両者とも自分のやり方で天下統一を目指した。</p>		

小単元名	江戸幕府と政治の安定	配当 6時間	内容 (2) アの(キ)及び(シ)とイの(ア)
------	------------	--------	-------------------------

<「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、武士を中心とした身分制などについて、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、江戸幕府がどのように世の中を治めたのか捉え、幕府の政策の意図やこの頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、武士による政治が安定したことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①関ヶ原の戦い、江戸幕府の大名配置、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、武士を中心とした身分制などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、江戸幕府の政策や身分制の様子を理解している。 ②調べたことを年表や図、文などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。	①江戸幕府が政治を行った頃の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、江戸幕府がどのようにして世の中を治めたのか考え、表現している。 ②関ヶ原の戦い、江戸幕府の大名配置、参勤交代や鎖国、武士を中心とした身分制などを関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現している。	①関ヶ原の戦い、江戸幕府の大名配置、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、武士を中心とした身分制などについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元では、徳川家康が関ヶ原の戦いに勝利を収め、その後、江戸幕府を開いたことや大名を親藩、譜代、外様に分けて全国に配置したこと、徳川家光の頃に参勤交代が制度として確立したこと、キリスト教の信仰を禁止し、貿易を統制して渡航を禁止するなど、海外との交流を制限する政策を進めていたこと、武士を中心とする身分制が定着したことを手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解できるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

①「つかむ」段階の第1時において、「関ヶ原合戦図屏風」と、織田信長と豊臣秀吉が中心になっていた年数と江戸幕府の長さを比較する図を用いることで、豊臣秀吉が天下統一を果たしたはずの世の中に、再び全国を巻き込んだ戦乱が起こり、徳川家康が江戸幕府を開いたことや、江戸幕府が長期に渡って政権を担っていたことを理解できるようにする。社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせて、江戸時代が長く続いた要因について、問題意識や追究意欲を高める。

②「しらべる」段階において、大名の配置や参勤交代の経路、出島などを通して交易があった国の名称と位置などを、日本地図や世界地図などの資料で調べ、社会的事象の見方・考え方(位置や空間の広がり)を働かせて、歴史的事象の位置や地域間のつながりなどを適切に読み取ることができるようにする。

③「しらべる」段階では、江戸幕府がどのように始まり、どのように世の中を治めたのかを意識しながら、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、関ヶ原の戦い、大名配置、参勤交代や鎖国、身分制などの政策に着目し、それらを関連付けたり総合したりして、幕府の力が全国に及び、武士による政治が安定したことを捉えられるようにする。

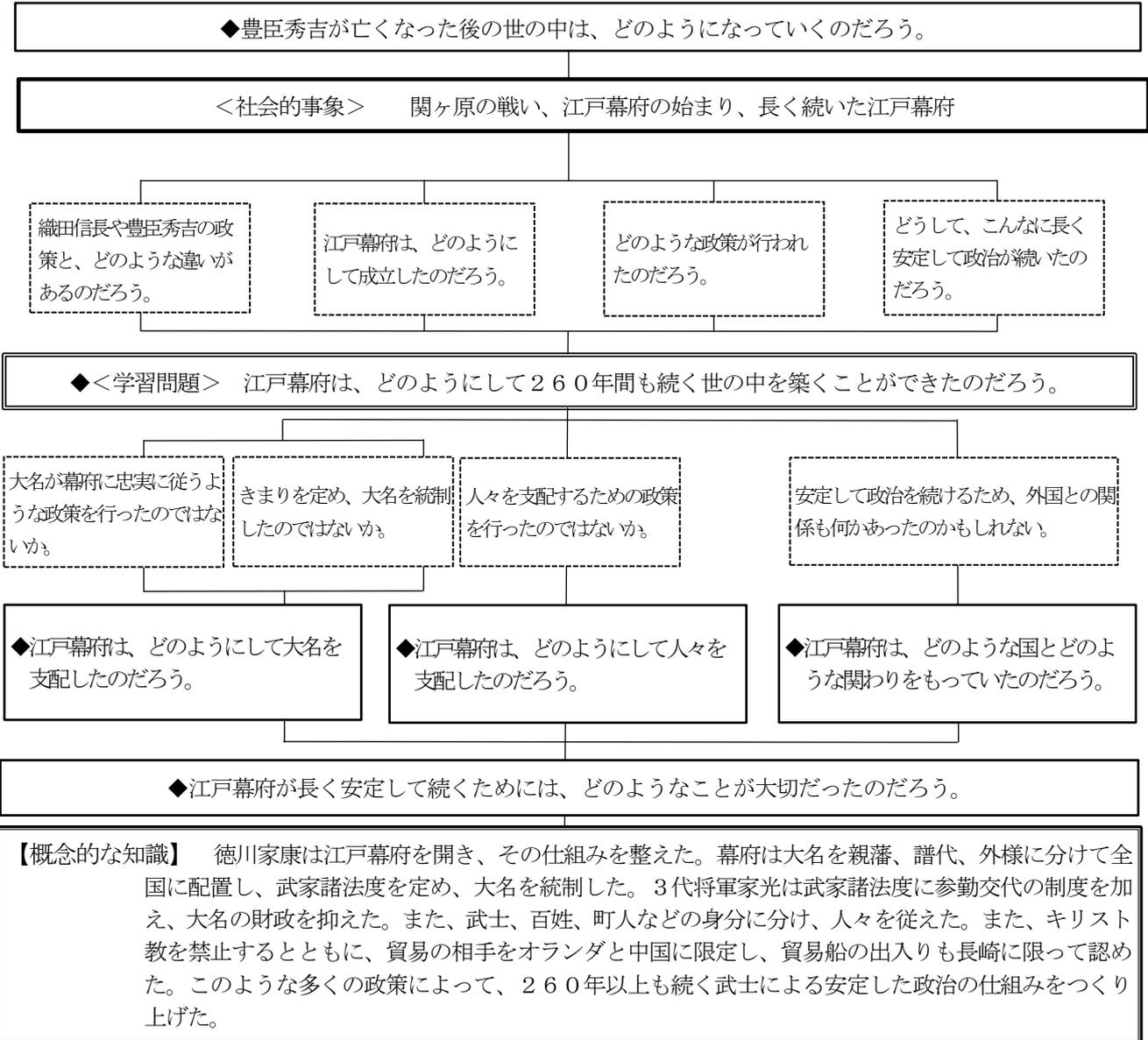
④「まとめる」段階では、「しらべる」段階の学習を生かして、学習問題に対する自分の考えを整理する。江戸幕府が長く続いたことと政策の意図を関連付けながら、幕府が何に重点を置いて政治を行ったのかを捉えられるようにする。為政者の立場として、安定した政権を維持するために何が重要かを考えるために、既習の政治学習の内容を活用することも考えられる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①一人物ではなく「江戸幕府」を主語にして学習問題をつくり、それに対する予想を基に学習計画を立てることにより、武士による政治が安定したことについて、子供が見通しをもって主体的に学習を展開できるようにする。

②主体的・対話的で深い学びを実現するために、一人一人が自分の考えをもった上で、ペアや少人数のグループで資料を根拠として話し合う活動や、ICT機器やホワイトボードを用いて考えをまとめる活動を取り入れるなど、最終的に自分の考えを文章等で表現することで、お互いに考えを深め、広げられるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第6時では、調べたことを基に江戸幕府の政策についてまとめる場面で、「思考・判断・表現」の観点から評価する。

第6時ではまず、第5時まで調べたことを基に、江戸幕府の政策の意図や社会の様子について考え、文章にまとめて説明し合ったり話し合ったりする。その記述や発言の内容から、調べたことを関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や、その頃の社会の様子について考え、表現されているか評価する。具体的には、江戸幕府が長く続いた要因として重要だと思う政策とその理由を考え、それらを共有し、さらに考えを深めているか、ノートの記事や発言内容から評価する。

まず、江戸幕府が長く続いた要因として重要だと思う政策について一つ取り上げ、「安定した政治を行うには、しっかりしたきまりを定めることが大切だ。江戸幕府は武家諸法度を定め、参勤交代の義務化や、大名同士の同盟を禁止した。そのために大名の経済力は弱まり、団結することもできなくなり、大名は幕府に逆らわずに、長い間従うことになった。」などと、自分の考えについて根拠を明確にして説明しているかを評価する。さらに、友達の実見も聞いて、「大名だけでなく、武士を中心とする身分制を定着させたことも、世の中の安定につながった。」などと、江戸幕府の政策やその意図を関連付けたり総合したりして考えを深めて、表現することができていれば、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①豊臣秀吉の死後、徳川家康の開いた江戸幕府が約260年も続いたことを捉え、学習問題をつくることができるようにする。	<p>○前小単元の学習を振り返り、豊臣秀吉によって全国統一が達成されたことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊臣秀吉が全国を統一し、戦いのない世の中になった。 <p>◆豊臣秀吉が亡くなった後の世の中は、どのようになっていくのだろう。</p> <p>○関ヶ原の戦いの様子や、江戸幕府が開かれたことを調べ、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊臣秀吉の死後、再び争いが起きた。 ・関ヶ原の戦いでは、多くの大名が戦った。 ・徳川家康は関ヶ原の戦いで勝利を収め、その後、江戸(今の東京)に幕府を開いた。 <p>○全国支配を成し遂げ、徳川家康が開いた江戸幕府が続いた年数と、織田信長や豊臣秀吉が中心になっていた年数を比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳川氏による政治は、織田信長や豊臣秀吉に比べると、とても長い期間続いている。 ・江戸幕府は260年間も続いている。 <p>○年数を比べた結果、生じた疑問を出し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳川氏による政治は、どうして260年間も続いたのだろう。 	<p>□前小単元のノートに基づき、戦国の世が統一されたことを確認する。</p> <p>□豊臣秀吉の後の社会の展開に興味をもてるようにする。</p> <p>◎関ヶ原合戦図屏風(写真)</p> <p>◎徳川家康(肖像画)</p> <p>◎関ヶ原の戦い前後の全国大名領地一覧図</p> <p>◎江戸幕府の仕組み</p> <p>◎江戸城とそのまわりの様子の図</p> <p>◎テープ年表(政権の長さを比べる図)</p> <p>□織田信長や豊臣秀吉に比べ、江戸幕府の時代が圧倒的に長かったことを押さえ、江戸幕府が長い期間続いたことを捉えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「江戸幕府が260年以上続いたことや、徳川家康の働きなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p>
	②江戸幕府が260年以上も間続いた理由を予想し、学習計画を立てることができるようにする。	<p>◆江戸幕府は、どのようにして260年間も続く世の中を築くことができたのだろう。</p> <p>○学習問題について予想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の大名を従える政策を行ったのではないか。 ・人々を支配する政策を何か行ったのではないか。 <p>○予想について、年表を基にして話し合う。</p> <p>○これから調べていくことを全体で話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府が大名に対して行った政策を調べ、幕府と大名の関係をまとめる。 ・幕府が民衆に対して行った政策を調べ、幕府と民衆の関係をまとめる。 ・幕府の外交政策について調べ、外国との交易の様子やキリスト教に対する政策をまとめる。 	<p>◎テープ年表</p> <p>□前小単元の織田信長や豊臣秀吉の政治と比べながら考える</p> <p>◎徳川氏の政策をまとめた年表</p> <p>□年表に書かれていることを根拠に予想し、グループで話し合いながら整理する。話し合った内容を全体で確認し、次時以降の見通しをもつようにする。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「江戸幕府の大名配置、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、武士を中心とした身分制などについて、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっていか」を評価する。【態①】</p>
し ら べ る	③大名の配置図や武家諸法度、参勤交代の制度を調べ、江戸幕府の大名支配の仕組みを理解できるようにする。	<p>◆江戸幕府は、どのようにして大名を支配したのだろう。</p> <p>○本時の問いについて、予想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名の力を弱め、徳川家に従わないといけないうなきまりを定めたのではないか。 <p>○江戸幕府が大名に対して行った政策を調べ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名の配置を決めた。 ・武家諸法度を定めた。 ・参勤交代の制度を定めた。 	<p>◎徳川家光の肖像画、エピソード</p> <p>◎大名配置図の資料(地図)</p> <p>◎武家諸法度(文書資料)</p> <p>◎参勤交代の資料(規模、様子)</p> <p>◎五街道の地図 など</p> <p>□江戸幕府の大名に対する政策について、地図を活用して調べるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「江</p>

し ら べ る	<p>○江戸幕府が行った政策のねらいについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名に勝手なことをさせないために、武家諸法度を定めた。 ・大名の力を削ぐために、いろいろな仕事を負担させ、参勤交代の制度を取り入れた。 	<p>○江戸幕府は、どのようにして人々を支配したのだろうか。</p> <p>○本時の問いについて、予想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農民からは税を納めさせていたのではないか。 ・幕府に従うきまりを定めていたのではないか。 <p>○江戸幕府の人々に対する政策を調べ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身分を分けていて、武士が中心となっていた。 ・農民よりも低い身分とされた人々もいた。 ・農民には年貢を納めさせていた。 <p>○江戸幕府は身分制により、どのような世の中を目指したのかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の身分を固定化し、武士が百姓や町人を支配する世の中を目指した。 	<p>江戸幕府の大名配置、参勤交代などの幕府の政策について、必要な情報を集め、読み取り、江戸幕府の大名統制の仕組みや意図を理解しているか」を評価する。【知①】</p> <p>◎江戸時代の身分別人口構成</p> <p>◎様々な身分の様子やくらし</p> <p>◎五人組</p> <p>◎農業技術の進歩</p> <p>◎耕地面積と収穫高の移り変わり(グラフ) など</p> <p>□身分ごとに行動が決められていたことに気付くようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、江戸幕府による身分制やその意図、社会の様子を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤江戸幕府の鎖国政策について調べ、幕府がキリスト教の信仰を禁止し、貿易を統制して渡航を禁止するなど、海外との交流を制限する政策を進めたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆江戸幕府は、どのような国とどのような関わりをもっていたのだろうか。</p> <p>○本時の問いについて、予想を出し合う。</p> <p>○江戸幕府がキリスト教を禁止し、鎖国を完成させたことを調べ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の信者が、幕府の命令に従わなくなることを恐れ、禁止した。 ・渡航を禁止し、外国との貿易をオランダと中国に限定した。 <p>○キリスト教の禁止や鎖国政策のねらいについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の情報や貿易の利益を幕府が独占した。 ・支配を強めるため、キリスト教を禁止した。 	<p>◎鎖国までの経緯(年表)</p> <p>◎キリスト教の信者数</p> <p>◎踏み絵の図、出島の絵図</p> <p>◎交流があった国の地図 など</p> <p>□外交政策や鎖国政策を徹底することが、江戸幕府の安定につながったことに気付くようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「鎖国などの幕府の政策について調べ、江戸幕府はキリスト教を禁止し、貿易を統制して海外との交流を制限する政策を進めたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑥学習問題に対する自分の考えをまとめ、江戸幕府の政策によって、武士による政治が安定したことを理解できるようにする。</p>	<p>◆江戸幕府が長く安定して続くためには、どのようなことが大切だったのだろうか。</p> <p>○江戸幕府が長く安定して続いた要因として、重要だと思う政策について考え、自分の意見をまとめ、発表する。</p> <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>徳川家康は関ヶ原の戦いの後、江戸幕府を開き将軍となったが、秀忠に将軍職を譲り、徳川氏による政治が長く続くように政治の仕組みを整えた。家光は、参勤交代などによって大名の経済力を弱めたり、大名同士のつながりを禁止したりすることで、逆らえないようにした。鎖国やキリスト教の禁止を行い、さらに財政を安定させ身分制を定着させたことで、幕府による支配を強めた。こうして、260年以上も続く武士による安定した政治の仕組みをつくり上げた。</p> </div>	<p>◎これまでのノート</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「関ヶ原の戦い、江戸幕府の大名配置、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、武士を中心とした身分制などを関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「調べたことを基に文章などにまとめ、江戸幕府が政治を行った頃、大名統制や身分制、鎖国などの政策によって、武士による政治が安定したことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	町人の文化と新しい学問	配当 6時間	内容 (2) アの(ウ)及び(シ)とイの(7)
------	-------------	--------	-------------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、江戸時代の文化や学問に関する主な事象を捉え、江戸時代に生まれた文化の特色や、新しい学問を生み出した人物の業績が果たした役割を考え、表現することを通して、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、江戸時代の文化や学問について理解している。 ②調べたことを年表や図、文などにまとめ、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。	①歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学に着目して、問いを見いだし、江戸時代の文化や学問について考え、表現している。 ②歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を関連付けたり総合したりして、江戸時代に生まれた文化の特色や、新しい学問を生み出した人物が果たした業績を考え、適切に表現している。	①歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、江戸幕府が政治を行った頃の文化や学問について、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学の二つの事象を取り上げる。その様子や、人物の働き、代表的な文化遺産などに着目して問いを見いだし、追究することを通して、近松門左衛門などによって生み出された歌舞伎の作品が数多く演じられ、それを人々が楽しんでいたり、歌川広重などによって描かれた作品が人々に親しまれていたこと、本居宣長が我が国の古典を研究し、国学の発展に重要な役割を果たしたこと、杉田玄白らがオランダ語の医学書を翻訳して「解体新書」を著したこと、伊能忠敬が全国を測量して精密な日本地図をつくったことなどが分かるようにして、江戸時代に生まれた文化の特色や、新しい学問を生み出した人物の業績を理解できるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

①小単元の導入で、「熙代勝覧」や浮世絵「宮川の渡し」、藩校の分布図を提示する。それを通して、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり)を働かせて、全国的な文化や学問の広がりを捉え、その内容について疑問を見いだし、学習問題をつくることのできるようにする。
②学習計画を立てる場面で、文化と学問、当時の時代背景についての簡易年表を提示する。それを通して、「歌舞伎や浮世絵に関する問い」「国学や蘭学に関する問い」「学問と世の中の関係に関する問い」の3つの問いを追究の視点として見いだし、学習計画を立てることのできるようにする。
③「しらべる」段階で、近松門左衛門や歌川広重などの作品が人々に親しまれたことなどについて、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、これらの人物の働きにより町人の間に歌舞伎や浮世絵が広がったことを捉えられるようにする。その際に、現代に受け継がれている浮世絵などを提示し、当時の文化に対する子供の関心を高めていく。また、本居宣長の古典研究、杉田玄白らによる「解体新書」の完成、伊能忠敬が日本全国を歩いて測量して作成した日本地図などについて、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、この頃、新しい学問がおこったことを捉えられるようにする。さらに、新しい学問と当時の時代背景を関連付け、新しい学問を生み出した人物の業績が果たした役割について、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、世の中を問い直す動きにつながったことを考えるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

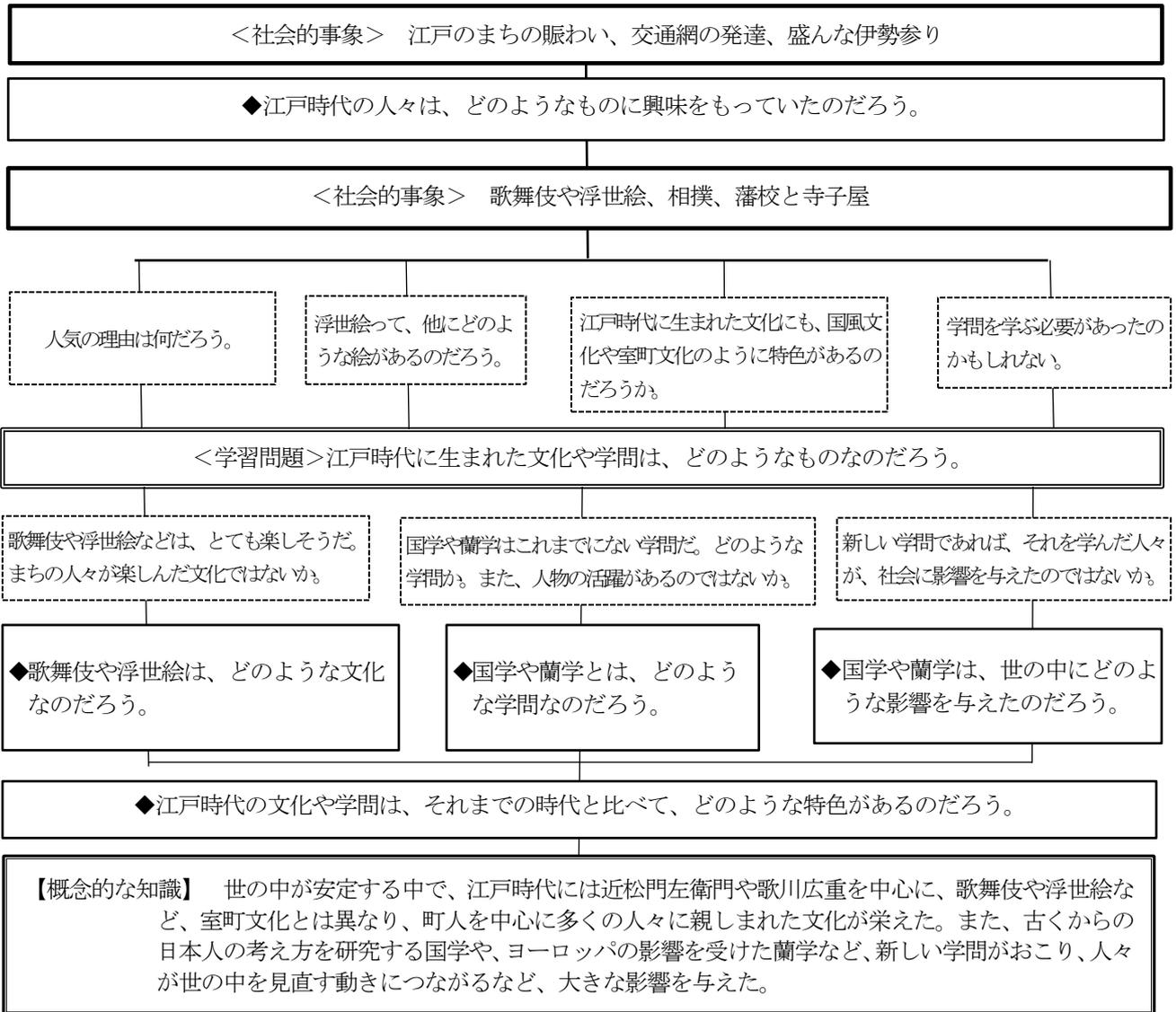
①「つかむ」段階において、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について、江戸のまちの人々や交通網の発達の様子を関連付けて興味・関心を高める。そこから学習問題「江戸時代に生まれた文化や学問は、どのようなものなのだろう。」をつくり、学習計画を立てることにより、子供が見通しをもって、主体的に学習を展開できるようにする。
②「しらべる」段階において、子供の主体的で確かな理解を促すために、課題を明確にした知識構成型ジグソー学習を取り入れる。国学と蘭学について、グループでエキスパート活動を展開する。その後、得た知識と時代の様子を関連付け、学問が当時の世の中に与えた影響を話し合う(ジグソー活動)ことで、それらを広めた人物の業績について対話的に学び合うことができるようにする。



▲デビルマンの浮世絵 (版三浮世絵工房)

③「まとめる」段階において、文化や学問の特徴をキャプションに表す活動を取り入れて、子供同士が自由に交流できる場を設定することで、主体的な学びにつながるようにする。

(4) 問いの構成の工夫

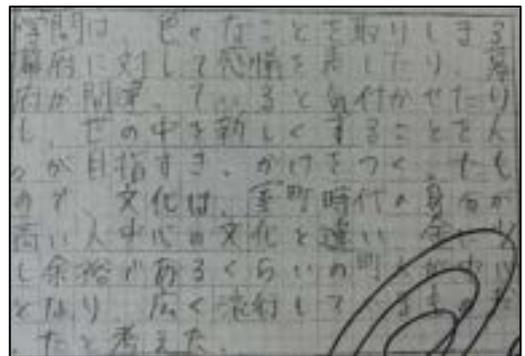


(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第6時では、調べたことを基に、江戸の文化や学問についてキャプションを付ける活動を設定し、その記述や話し合いにおける発言の内容から、「思考・判断・表現」の観点で評価する。子供の思考の様子を的確に捉えるためには、理由や根拠をしっかりと書けることが重要である。その内容から、室町文化と比較したり、文化、学問相互や社会の様子を関連付けたり総合したりして考えているかを捉え、評価する。その際、記述が不十分なときなどは、問い返したり、助言をしたりするなどの働きかけを行い、評価する。

そして、話し合いを基に、学習問題について分かったことや考えたことをまとめる活動において、その記述などの内容から、「知識・技能」の観点で評価する。

例えば、右の記述では、学問が「世の中を新しくすることを人々が目指すきっかけ」となったと記述している。江戸の学問が、これまでの世の中になかった新しいものであることを捉え、その影響を考えていることが分かる。また、江戸の文化については、「町人が中心となり、広く流行」と捉えており、文化の担い手や広がりに着目して、その特色を捉えていることが分かる。調べたことを基に、江戸の学問や文化の特色などについて適切に表現しており、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。



▲児童の記述例

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①江戸時代の人々の様子や当時の文化、学問に関する資料を読み取り、話し合うことを通して学習問題をつくることができるようにする。	<p>○前小単元までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代は武士による政治が安定し、平和な時代だった。 ○当時の江戸のまちの人々や交通網の発達の様子から、気付いたことを話し合う。 江戸だけでなく、全国的にも特産品や伊勢参りなどの旅行が広がっていた。 どのようなものに興味があったのかな。 ◆江戸時代の人々は、どのようなものに興味をもっていたのだろうか。 ○本時の問いについて、予想を出し合う。 歌舞伎はテレビで見たことがある。 相撲も江戸時代に人気があったのではないか。 ○江戸時代に生まれた文化や学問について、資料を基に話し合う。 歌舞伎や浮世絵、相撲などが人気だった。 勉強(学問)も人気があったみたいだ。 ○疑問を出し合い、学習問題をつくる。 人気の理由は何だろう。 江戸時代に生まれた文化にも、国風文化や室町文化のような特色があるのかな。 	<p>□時代背景として徳川家光により、世の中が安定したことを押さえ、全国的な娯楽(文化)の広がりへとつなげるようにする。</p> <p>◎「熙代照覧」(絵図)</p> <p>◎浮世絵「宮川の渡し」(絵図)</p> <p>□様々な身分の人たちでにぎわう様子を捉えられるようにする。</p> <p>◎歌舞伎役者、相撲の浮世絵、藩校や寺子屋の様子(絵図)</p> <p>◎藩校の広がり(分布図)</p> <p>□藩校の広がりをも提示することで、学問の広がりをも空間的に捉えることができるようにする。</p> <p>☆ノート記述や発言内容から「江戸のまちの様子、歌舞伎や浮世絵の作品などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。</p> <p>【思①】</p>
	②簡易年表を基に、学習問題について予想し、学習計画を立てることができるようにする。	<p>◆江戸時代に生まれた文化や学問は、どのようなものなのだろうか。</p> <p>○簡易年表を基に、学習問題について予想したことを話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎や浮世絵は、とても楽しそうだ。まちの人々が楽しんだ文化ではないか。 →歌舞伎や浮世絵は、どのような文化なのだろうか。 国学や蘭学はこれまでにない学問だ。どのような学問か。人物の働きがあるのではないか。 →国学や蘭学とは、どのような学問なのだろうか。 新しい学問なら、学んだ人々や世の中に何か影響があったのではないか。 →国学や蘭学は、世の中にどのような影響を与えたのだろうか。 ○追究する方法やまとめ方を話し合う。 文化は一斉学習 学問は課題別学習による調べ学習 書籍やPC等の活用 ・キャプションに表す ○グループで話し合い、課題別学習の進め方や役割分担を確認する。 国学は本居宣長を中心に調べる。 蘭学は杉田玄白、伊能忠敬を中心に調べる。 	<p>◎学問や文化、社会の様子に関する簡易年表</p> <p>□前時の資料や簡易年表を基に、学習問題について予想し、問いの形で学習計画を立てるようにする。</p> <p>□調べる際の視点や調べ方について、子供の発言を生かしながら学級全体で確認をしていく。</p> <p>□人物の業績や、それが世の中に与えた影響を捉えられるようにするために、人物を中心に調べていくことを確認する。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「江戸時代に生まれた文化や学問について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>

し ら べ	<p>③歌舞伎や浮世絵について調べ、共通点や室町文化との違いを考えることを通して、江戸時代の文化は、町人など多くの人々の間で親しまれていたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆歌舞伎や浮世絵は、どのような文化なのだろう。</p> <p>○歌舞伎や浮世絵に関する資料を基に、それぞれの文化の内容について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎は多くの観客でにぎわい、地方にも様々な形で広がっていった。 ・浮世絵は、役者絵や美人画など歌川広重などによって描かれ、当時人気があった。 ・現代でも歌舞伎は上演され、多くの人たちが鑑賞している。・浮世絵もつくられ、販売されている。 <p>○調べたことを基に、これまで学習した文化と比較しながら、江戸時代に栄えた文化の特色を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の文化は、町人が中心となって栄えた。 	<p>◎人物の肖像画、歌舞伎や浮世絵を楽しむ人々（絵図）、歌舞伎・浮世絵に関する資料、現代浮世絵（写真）</p> <p>□ノートを基に、室町文化の特色と比較して、江戸時代に栄えた文化の特色を捉えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、江戸時代に町人など多くの人々に親しまれた文化が栄えたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
る	<p>④⑤国学や蘭学について調べ、江戸時代には国学や蘭学が生まれたことを捉え、世の中に与えた影響を考えることができるようにする。</p>	<p>◆国学や蘭学とは、どのような学問なのだろう。</p> <p>○国学や蘭学に関する資料を基に、それぞれの学問の内容や考え方について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本居宣長は日本古来の考え方を研究して、「古事記伝」を著した。 ・杉田玄白らが苦勞の末、オランダ語の医学書を翻訳して、「解体新書」を著した。 ・伊能忠敬は西洋の測量術や天文学を学び、日本全国を測量して正確な日本地図をつくった。 <p>◆国学や蘭学は、世の中にどのような影響を与えたのだろう。</p> <p>○調べたことを基に、国学や蘭学が世の中に与えた影響を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国学や蘭学などの新しい学問の発達は、世の中を見直す動きにつながった。 ・新しい学問を学んだ人々が、世の中のあり方に疑問をもつようになった。 	<p>◎人物の肖像画、国学や蘭学の資料</p> <p>□エキスパート活動で調べ学習を行い、グループで情報共有する。</p> <p>☆ノートや記述から「必要な情報を集め、読み取り、江戸時代に本居の活躍により国学が発展し、杉田や伊能らが西洋の学問に学び、蘭学がおこったことを理解しているか」を評価する。【知①】</p> <p>□ジグソー活動で学問が世の中に与えた影響を考えるようにする。</p> <p>◎百姓一揆・打ちこわし（絵図・グラフ）、フェートン号事件（絵図）</p> <p>□調べた内容と当時の社会背景を関連付けて、新しい学問の影響を捉えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言から「江戸時代の学問の内容と世の中の様子を比べたり関連付けたりして、社会への影響を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	<p>⑥調べたことを基に、キャプションを考え、話し合うことを通して、学習問題に対する自分の考えをまとめ、江戸時代には町人の文化が栄え、新しい学問がおこったことを理解できるようにする。</p>	<p>◆江戸時代の文化や学問は、それまでの時代と比べて、どのような特徴があるのだろうか。</p> <p>○江戸時代の文化や学問について調べたことを基に、理由を明確にしてキャプションを考える。</p> <p>[文化] ・町人が中心の文化 ・楽しむ文化 ・今にも受け継がれる文化</p> <p>[学問] ・新しい学問 ・世の中を見直す動きにつながった学問</p> <p>○キャプションを学級全体で交流し、これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <p>【町人中心の文化と人々が世の中を変えるきっかけをつくった学問】 世の中が安定する中で、江戸時代には近松門左衛門や歌川広重を中心に、歌舞伎や浮世絵など、室町文化とは異なり、町人を中心に多くの人々に親しまれた文化が栄えた。また、古くからの日本人の考え方を研究する国学や、ヨーロッパの影響を受けた蘭学など、新しい学問がおこり、人々が世の中を見直す動きにつながるなど、大きな影響を与えた。</p>	<p>□キャプションをカードに書いたり、Jamboardに入力したりして、子供同士の主体的な対話を促す。</p> <p>★キャプションの記述や発言内容から「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を関連付けたり総合したりして、江戸時代に生まれた文化の特色や、新しい学問を生み出した人物の業績を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノート記述の内容から「江戸時代には町人の文化が栄え、新しい学問がおこったことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	明治の国づくりを進めた人々	配当 6時間	内容 (2) アの(ケ)及び(シ)とイの(7)
------	---------------	--------	-------------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、明治政府の諸改革の様子を捉え、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、表現することを通して、我が国が明治維新を機に、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、この頃の政治や社会の仕組み、世の中の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国が明治維新を機に、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。	①幕末から明治の初めの頃の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、この頃の政治の仕組みや世の中の様子について考え、表現している。 ②黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを関連付けたり総合したりして、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。	①黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元では、幕末から明治の初めの頃について、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などの事象を取り上げる。そして、ペリーの率いる米国艦隊の来航をきっかけに我が国が開国したことや、江戸幕府の政権返上に伴い、勝海舟と西郷隆盛の話合いにより江戸城の明け渡しが行われたこと、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允の働きによって明治天皇を中心とした新政府がつけられたこと、明治天皇の名による五箇条の御誓文が發布され新政府の方針が示されたこと、明治政府が行った廃藩置県や四民平等などの諸改革によって近代国家としての政治や社会の新たな仕組みが整ったこと、福沢諭吉が欧米の思想を紹介するなど、欧米の文化が広く取り入れられたことによって人々の生活が大きく変化したことなどを手掛かりにして、我が国が明治維新を機に、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解することができるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

①江戸時代末期の日本橋の様子と明治時代初期の日本橋の様子を取り上げ、その違いなどに注目して、世の中の様子が短い期間に急激に変化していったことを捉え、学習問題づくりへとつなげる。
 ②江戸時代の終わり頃、黒船が来航した背景や欧米諸国がアジアの国々に進出していた状況について、社会的事象の見方・考え方(位置や空間の広がり)を働かせ、世界の動きと日本の歴史上の出来事をつなげて捉えられるようにする。
 ③ペリーの肖像画や黒船来航の絵画などから、江戸幕府や当時の人々への影響を考えるとともに、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允などの人物のエピソードや資料などを基に、明治政府の諸改革について調べるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①「つかむ」段階では、「江戸時代の終わり頃の日本橋の様子」と「明治時代の初め頃の日本橋の様子」の2つの絵図を比較して、約20年間という短期間で劇的に変化している様子を見て、何がどのように変わったのか、どうしてこんなに変わったのかなど、分かったことや疑問に思ったことを出し合い、明治の新しい世の中を、だれがどのようにつくったのかについて学習問題をつくる。そして、年表を活用しながら学習問題に対する予想から学習計画を立てる。それにより、子供が見通しをもって、主体的にその後の学習活動を展開できるようにする。
 ②「しらべる」段階では、黒船来航に対して江戸幕府がどのように対応したのか、開国後の社会の様子はどのように変わったのかを調べ、明治新政府の成立と方針について資料を活用して整理していく。また、明治維新を進めた人物については、関わりのある政策や出来事と関連付けて取り上げる。
 ③「まとめる」段階では、「しらべる」段階で学習してきた、明治の国づくりに携わった人物の働きについて関係図にまとめることによって、人物の業績と主な事象などの関係を適切に整理し、学習問題について文章等にまとめられるようにする。関係図を作成して、一人一人が考えをもった上で、少人数のグループで話し合う活動や、ICT機器やホワイトボードに考えをまとめる活動を取り入れ、対話的に考えを深められるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第6時では、調べたことを基に政治や社会の仕組み、人物の働きなどについて考える活動において、「思考・判断・表現」の観点で表現する。

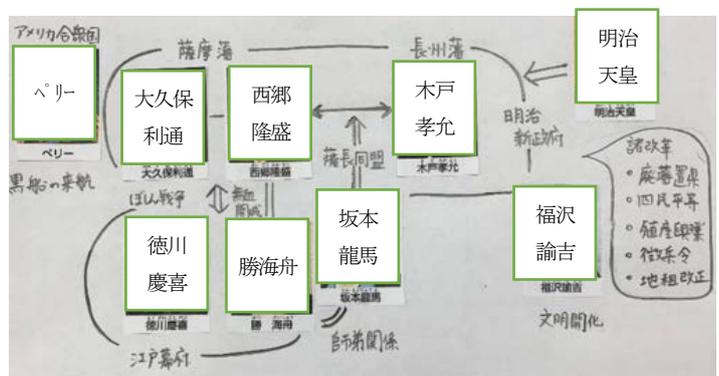
中心となる人物が複数となる本小単元で、世の中の様子を的確に捉えるには、人物の関係を整理する必要がある。そこで、本指導計画においては、人物関係図にまとめる活動を設定する。関係図は、囲みや矢印(⇒や⇔など)を使って、仲間、協力関係、敵対関係等を表現しやすく、人物関係の表現に効果的である。

第6時は、本小単元の学習で取り上げた人物を学級全体で確認することから入るとよい。そして、調べたことを基に、人物と事象の関わり、その業績について、人物同士の関係を整理しながら作成した関係図から、人物が近代化を進める国づくりに果たした役割について考え、表現しているか評価する。具体的には、ペリーと勝海舟、西郷隆盛の関連からは、開国、江戸幕府の政権返上、江戸城の明け渡し、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允と明治天皇からは、廃藩置県や四民平等などの改革を通じた政治の仕組みの確立、福沢諭吉からは文明開化という世の中の様子の変化について、それぞれを関連付けたり総合したりして考え、表現しているか評価する。

人物関係図を基にした話し合いにおける評価の具体例

- ・黒船の来航から我が国は開国したので、ペリーはきっかけをつくった。(明治維新に果たしたペリーの役割を考え、表現している。)
- ・最後の将軍、徳川慶喜が政権を返上した。その後、江戸幕府を倒す動きの中心となった西郷隆盛と幕府の勝海舟との話し合いによって、江戸城が明け渡された。(政権移譲という変化を、人物の業績から考えている。)
- ・西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允らが、新しい政治の仕組みをつくり、福沢諭吉などが中心になり、欧米の文化を取り入れ、明治の新しい世の中をつくった。(政治の仕組みや文明開化と人物を結び付け、世の中の様子の変化を総合的に考えている。)

▼【明治の新しい世の中をつくった人物関係図(例)】



3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①江戸時代末期と明治時代初期の日本橋の様子を比較して、変化について考え、学習問題をつくることができるようにする。	<p>◆江戸時代の終わり頃と明治時代の初め頃の日本橋の様子には、どのような違いがあるのだろうか。</p> <p>○江戸時代の終わり頃と明治時代の初め頃の日本橋の絵図を比較して、様子の変化について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和装が洋服になった。 ・かごが人力車になった。 ・建物がレンガづくりになった。 ・まげがなくなり、今のような髪型になった。 ・ガス灯ができて明るくなった。 ・約20年の間に、まちの様子が大きく変わった。 <p>○疑問を出し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてこんな短い間で変わったのだろうか。 ・何がきっかけで、世の中の様子が変わったのか。 ・だが、明治の新しい世の中にしていったのか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 明治の新しい世の中を、だれがどのようにしてつくっていったのだろうか。 </div> <p>○予想を出し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸から明治へ大きな変化に、多くの人が関わった。 ・新しい政策がいくつも始まった。 ・欧米の文化が入って、生活が変わっていった。 ・たくさんの人物が様々なことを行っている。それぞれ、どのような役割を果たしたのか。 	<p>◎日本橋の絵図(江戸時代末期)</p> <p>◎日本橋の絵図(明治時代初期)</p> <p>◎時代の長さが分かるテープ</p> <p>□江戸時代末期と明治時代初期との比較から、短期間での劇的な変化に気付けるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「幕末と明治の人々やまちの様子の変化に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p> <p>◎幕末から明治初期の年表</p> <p>★発言や記述から「明治の新しい国づくりについて、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
しべらる	②黒船来航により日本が開国し、これをきっかけにして不平等な条約を結び、やがて政権を返上して江戸幕府が滅びたことを理解できるようにする。	<p>◆ペリーの来航は、江戸幕府にどのような影響を与えたのだろうか。</p> <p>○ペリーの来航をきっかけに開国したことや、ペリー来航の頃の世界の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清が英国に負ける戦いがあった。 ・アメリカやロシアが日本の周りに来るようになった。 <p>○開国後の江戸幕府の対応や、政権の返上について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不平等な条約を結び、人々の不満が高まった。 ・薩摩藩と長州藩が、江戸幕府を倒そうとした。 ・徳川慶喜が大政奉還を行い、長く続いた武士の世の中が終わった。 ・天皇を中心とする新政府が立ち上がった。 ・勝海舟と西郷隆盛の話合いにより、江戸城の明け渡しが行われた。 	<p>◎ペリー来航の頃の世界の様子</p> <p>□江戸時代末期のアジアの国々の様子から、我が国が置かれた状況を空間的な広がりの中で捉えられるようにする。</p> <p>◎日米和親条約、日米修好通商条約についての文章資料</p> <p>☆ノートの記述や発言の内容から「開国前後の様子について、必要な情報を集め、読み取り、黒船来航をきっかけとして、江戸幕府が開国し、不平等条約を結び、大政奉還をして滅びたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	③明治政府が、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、近代国家としての政治や社会の仕組みが整ったことを理解できるようにする。	<p>◆明治政府は、どのような国づくりを目指したのだろうか。</p> <p>○明治政府が行った廃藩置県や四民平等などの諸改革について、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允の働きを中心に調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新政府を中心に政治を行うために、藩をなくした。 ・武士の力を弱めるための政策ができた。 ・差別をなくして、不満を減らそうとした。 <p>○諸改革によって、国の仕組みはどのように変わったか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府が国をまとめやすくなった。まとまった国になった。 ・人々が平等な国になった。 ・欧米諸国に学ぶ国になった。 ・武士中心の世の中が終わった。 	<p>◎五箇条の御誓文の一部</p> <p>◎廃藩置県、四民平等、岩倉使節団についての文章資料(教科書、資料集)</p> <p>□廃藩置県や四民平等にすることにより、江戸時代の体制とどんなことが変わってくるのか考えられるようにする。</p> <p>☆ノート等への記述から「必要な情報を集め、読み取り、明治政府の国づくりについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>

し べ る	④明治政府で大久保利通が行った政策について調べ、それにより、富国強兵の国づくりが行われたことを理解できるようにする。	<p>◆大久保利通を中心とする新政府は、どのような政策を行ったのだろうか。</p> <p>○大久保利通などが進めた殖産興業や徴兵令など、富国強兵に向けた取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩倉使節団を欧米に派遣し、欧米の様子を視察した。 ・欧米に負けないように、近代化を目指した。 ・徴兵令を出し、強い国をつくろうとした。 ・官営工場をつくり、国を豊かにしようとした。 ・経済発展と軍事力の強化による近代国家をつくった。 <p>○明治政府がどのような国づくりを目指したか考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かで強い国を目指した。 ・政治や社会の新たな仕組みが整った国を目指した。 ・欧米に負けない近代的な国づくりを目指した。 	<p>◎大久保利通についての映像資料</p> <p>◎岩倉使節団の写真資料</p> <p>◎生糸生産量の推移</p> <p>□殖産興業、徴兵令、地租改正の目的を調べることにより、明治政府が目指す国づくりについて考えることができるようにする。</p> <p>☆ノート等への記述から「必要な情報を集め、読み取り、大久保利通が欧米に学び、官営工場をつくったり兵や税の仕組みをつくったりして、富国強兵の国づくりをすすめたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	⑤福沢諭吉の業績について調べ、欧米の文化が広く取り入れられ、人々の生活が大きく変化したことを考えることができるようにする。	<p>◆福沢諭吉は、なぜ学問の大切さを広めようとしたのだろうか。</p> <p>○福沢諭吉が外国の新たな考えや、学問の大切さを広めたことについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学問のすすめ」を発行し、学問の重要性を説いた。 ・西洋文明を取り入れることが急務であると説いた。 ・大学をつくったり新聞を発行したりした。 <p>○人々の生活の変化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郵便制度や鉄道ができた。 ・太陽暦が始まった。 ・西洋の文化を取り入れて、生活が変わっていった。 <p>○この頃の生活や考え方の変化について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米の文化が広く取り入れられ、考え方も新しくなった。 	<p>◎学校へ通う子供の割合の推移</p> <p>◎福沢諭吉の言葉（「学問のすすめ」から）</p> <p>◎文明開化に関する年表等</p> <p>□新しい考えとともに、欧米の文化も取り入れたことに触れる。</p> <p>☆ノート等への記述から「福沢諭吉の業績や、新しい制度や文明などを結び付け、生活や考え方に欧米の文化が広く取り入れられたことについて考え、適切に表現しているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	⑥調べたことを人物関係図に表し、学習問題について考えることを通して、我が国が明治維新をきっかけに、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解できるようにする。	<p>◆どのような人々が、どのようにして明治の新しい国づくりを進めたのだろうか。</p> <p>○明治の新しい国づくりに関わった人物の働きと政策、取組を整理して、人物関係図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペリー…アメリカから黒船が来航。 ・大久保利通、西郷隆盛・薩摩藩、新政府の中心。勝海舟と江戸城無血開城。薩長同盟。 ・木戸孝允・長州藩、新政府の中心。薩長同盟。 ・福沢諭吉…文明開化。 <p>※諸改革について、人物との関連を図にまとめる。</p> <p>○少人数グループで話し合い、ICT機器やホワイトボードで考えを交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々の働きがあつて、新しい国づくりが進められた。 ・短期間で大きく国の仕組みも生活も変わった。関係図にある人物の大変な努力や協力があつたと思う。 <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p>	<p>□人物関係図では、人物の業績や人物同士の関係を明確に表現できるよう支援する。</p> <p>★人物関係図や話し合いの内容から「人物と出来事、事象を関連付けたり総合したりして、この頃の政治や社会の仕組み、世の中の様子の変化を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述などから「調べたことを年表や文にまとめ、我が国が明治維新をきっかけに、欧米の文化を取り入れつつ、国や社会の新たな仕組みをつくり、近代化を進めたことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
		<p>黒船の来航をきっかけに開国し、江戸幕府は政権を返上した。その後、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、福沢諭吉などの人々は、欧米の文化を取り入れつつ、新しい政治や社会の仕組みをつくったり、産業や文化を発展させたりしながら、明治の新しい国づくりを行い、近代化を進めた。</p>	

小単元名	世界に歩み出した日本	配当 6時間	内容 (2) アの(ウ)及び(イ)とイの(ア)
------	------------	--------	-------------------------

<「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、明治政府が憲法を制定したことや世の中の様子を捉え、明治政府の意図や世の中の様子の変化を考え、表現することを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、明治政府が憲法を制定したことや世の中の様子を理解している。 ②調べたことを年表や図、文などにまとめ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。	①明治中・後期から大正期の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、明治政府が憲法を制定したことや世の中の様子について考え、表現している。 ②大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、明治政府の意図や世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。	①大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、明治中・後期から大正期を取り上げ、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、国会の開設に備えて板垣退助や大隈重信が政党をつくったこと、伊藤博文が憲法制定に重要な役割を果たしたこと、明治政府が発足後20年ほどで大日本帝国憲法を制定したこと、日清・日露の戦争における講和条約の締結や条約改正において、陸奥宗光や小村寿太郎が大きな役割を果たしたこと、日露戦争において東郷平八郎が活躍したこと、野口英世が黄熱病について世界的に注目された研究を行い、科学の発展に尽くしたことなどが分かり、この頃、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解できるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

①日清・日露の戦争での戦場を示す地図やその当時のアジアにおける勢力図、日本の領土の広がりを示す地図など、社会的事象の見方・考え方(位置や空間の広がり)を働かせて、当時の日本が国際的に勢力範囲を広げていったことや、中国や朝鮮、欧米諸国との関係について、視覚的に捉えられるようにする。

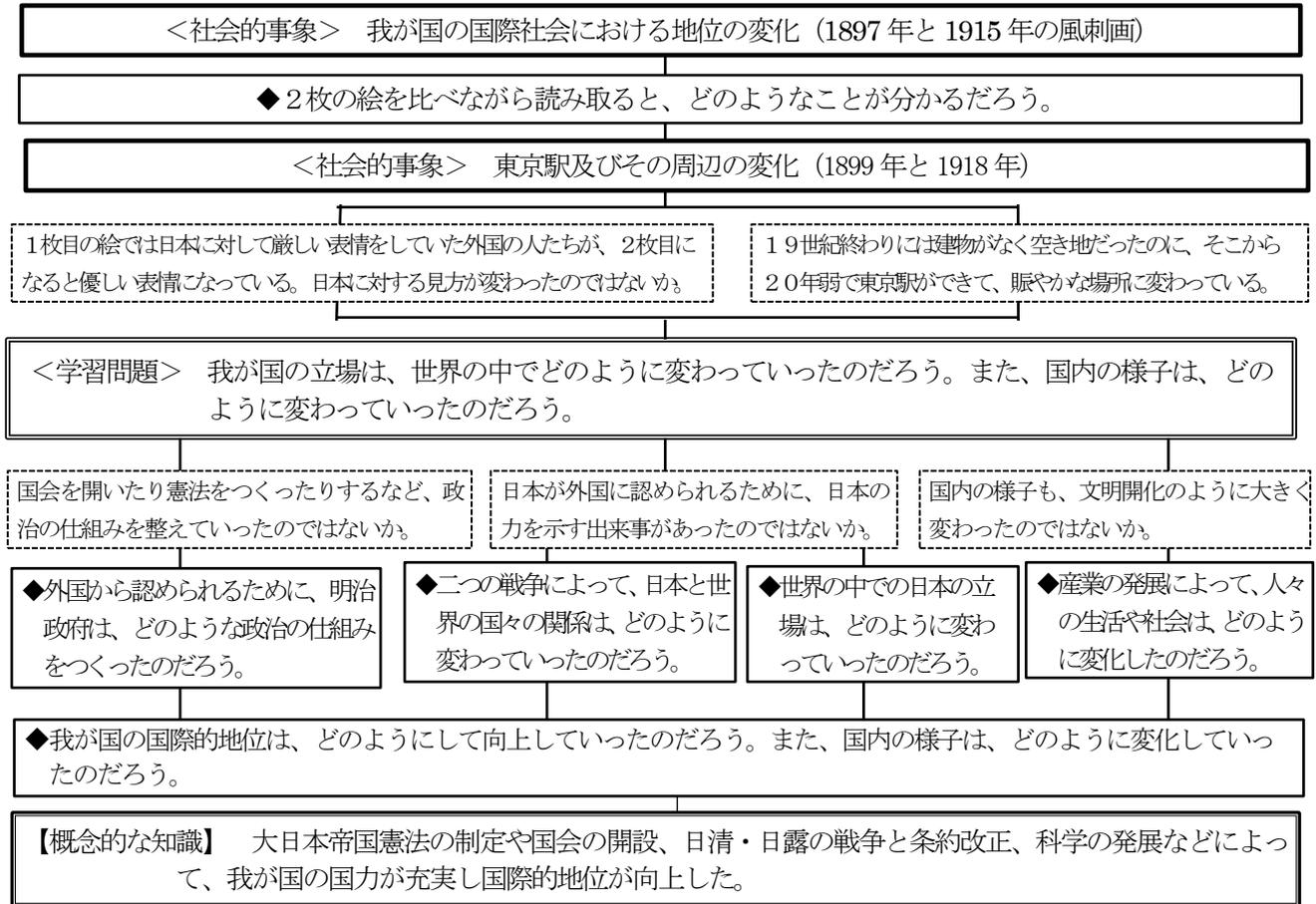
②「しらべる」段階においては、風刺画などを使い、当時の国際情勢を捉えやすくする。また、出来事だけではなく、人物の働きや業績、エピソードにも目を向けることにより、人々の思いや願い、努力にも触れられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①「つかむ」段階において、世界における日本の国際的地位の変化を描いた2枚の風刺画を取り上げ、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせて、欧米諸国から見た日本の立場がどのように変化しているかを予想する。同様に、東京駅開業前後の丸の内の様子を描いた2枚の絵を提示し、短い間に近代化が進み、建物の少ない荒地にレンガづくりの駅舎が建設されたことに気付くようにする。次に、これらは、どちらも19世紀末から20世紀始めのおよそ20年間の変化であることに、驚きや疑問をもてるようにする。そこから、日本の立場が世界の中でどのように変わっていったのか、国内の様子がどのように変化していったのかという学習問題につなげていく。

②本小単元は学習内容が多く、国際情勢の中で日本の様子を捉えていかなければならないため、子供にとっては難しく感じる側面もある。そこで、子供が自分なりの見通しをもって、主体的に追究できるように、学習計画を立てる場面を大切にしたい。日本が国際社会で認められていなかったのは、どこに要因があるのか。前小単元の学習で学んだことを想起して考えるようにする。五箇条の御誓文で、実現していない項目はなかったか(国会開設)、岩倉遣欧使節団で大久保利通らが視察してきた欧米は、どのような状況であったか(進んだ産業、軍事力)、また、帰路に立ち寄ったアジア諸国はどのような状況であったか(軍による支配、植民地化)など、学習問題に対して予想を立てるヒントが、その中に多く見られる。その上で、年表を活用することで、国会、産業、軍事、国際関係に関わる出来事に気付くことができると考える。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第6時において、調べたことを関連付けたり総合したりして考え、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめ、「思考・判断・表現」と「知識・技能」の2つの観点で評価する。まず、調べたことを基に、明治中・後期から大正期の変化について、国内の様子と国際社会それぞれについて、「～によって・・・に変わった。」という文型を提示して、短文にまとめる。そして、その理由や詳しい説明を書き加える。文型を示し、短文にすることにより、考えを短文にまとめることに難しさを感じている子供の抵抗感を和らげ、何をどのように考えればよいのかを具体的に示す。その記述の内容や、それを説明し合う中での発言等から、調べたことを関連付けたり総合したりして、明治政府の政策の意図や世の中の様子の変化について考え、表現することができているか評価する。以下、記述の例である。外交、軍事、科学の発展を総合して、国際的地位の向上を考えたり、産業、生活、政治の発展を総合して、国民生活の向上を考えたりしており、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。

めあて 学習問題に対して調べたことを項目ごとに整理し、文章でまとめ、小見出しを付けよう。

学習問題 我が国の立場は、世界の中でどのように変わっていったのだろう。また、国内の様子はどのように変わっていったのだろう。

項目1「世界の中の日本」 ◎我が国の立場は、世界の中でどのように変わったのか。

風刺画①
1887年

小見出し ◎ 条約改正、2つの戦争、医学の進歩によって、日本の国際的地位が向上した。

明治政府は、世界の中で日本が認められずやしかなかったのだと思う。だから、アジアで初めて憲法をつくり、不平等条約の改正を目指し、陸奥宗光と小村寿太郎の働きで改正された。日清・日露戦争にも勝ち、野口英世の貢献など科学の発展があって、世界も日本の方を認めるようになったのだと思う。

風刺画②
1915年

項目2「日本国内」 ◎国内の様子はどのように変わったのか。

三菱が原の風景
1899年

小見出し ◎ 産業の発展によってくらしの様子が変わり、人々の社会に対する願いが高まる。

この絵のように、たった20年で日本の姿は大きく変わった。それに、重工業がさかんになったり、ラジオ放送、交通の発達など、人々の暮らしが変わったりした。民主主義という考え方も高まり、普通選挙や女性の地位向上を求める動きにつながった。今の世の中のものになるようなことが起こったのだと思う。

東京停車場之図
1918年

そして、この後、学習問題に対する自分の考えをまとめる活動において、その記述内容から大日本帝国憲法の制定や国会の開設、日清・日露の戦争と条約改正、科学の発展などによって、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解することができているか、「知識・技能」の観点で評価する。

3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表わす)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①日本と外国との関係を示した風刺画、東京駅周辺の様子を描いた絵から、日本と外国との関係の変化、国内の変化の様子に関心を持ち、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	<p>◆2枚の絵を比べながら読み取ると、どのようなことが分かるだろう。</p> <p>○2枚の風刺画を比較して、日本と外国との関係について気付いたことを話し合う。</p> <p>・2枚の絵の外国の人たちの表情から、外国の日本に対する見方が変わったのかな。</p> <p>○東京駅周辺の様子を描いた2枚の絵を比較して、気付いたことを話し合う。</p> <p>・19世紀終わりには建物がなく、空き地だったのに、そこから20年弱で東京駅ができて、賑やかな場所になっている。</p> <p>○話し合ったことを基に、学習問題をつくる。</p> <p>我が国の立場は、世界の中でどのように変わっていったのだろうか。また、国内の様子は、どのように変わっていったのだろうか。</p> <p>○学習問題に対する予想を出し合う。</p> <p>・国会を開いたり憲法をつくったりするなど、政治の仕組みを整えていったのではないか。</p> <p>・日本が外国に認められるために、日本の力を示す出来事があったのではないか。</p> <p>・国内の様子も、文明開化のように大きく変わったのではないか。</p> <p>○年表を基に、学習計画を立てる。</p>	<p>◎日本の西洋クラブへの仲間入りを描いた風刺画(1897年)、「ダンスへの誘い」(1915年)</p> <p>□日本人の描かれ方から、当時の欧米各国が日本をどのように見ていたのかを考えるようにする。</p> <p>◎「三菱が原の風景」(1899年)</p> <p>◎「東京停車場之図」(1918年)</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「国際社会における日本の立場や、世の中の様子、人物の働きなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p> <p>◎19世紀末～20世紀始めの年表</p> <p>□既習事項や年表を基に、変化とその理由から予想を出し合う。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「国力の充実、国際的地位の向上について、学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
し ら べ る	②自由民権運動の広がりや憲法制定、国会開設に関係する人々の働きについて調べ、国際的な近代国家を目指して、憲法が制定され、国会が開設されたことを理解できるようにする。	<p>◆外国から認められるために、明治政府は、どのような政治の仕組みをつくったのだろう。</p> <p>○自由民権運動の広がりについて調べる。</p> <p>・板垣退助を中心に、国会を開き憲法をつくることを求める自由民権運動が全国に広がった。</p> <p>○憲法発布、国会開設までの流れと伊藤博文の働きについて調べる。</p> <p>・皇帝の力が強いドイツの憲法を参考に、伊藤博文らが大日本帝国憲法をつくった。</p> <p>・1890年に初めての選挙が行われ、第1回の国会が開かれた。</p> <p>・当時、選挙権をもつ人はわずかであった。</p>	<p>◎自由民権運動の広がりを示した地図</p> <p>◎大日本帝国憲法発布の様子、大日本帝国憲法の主な内容、憲法に基づく国の統治の仕組みを表した関係図</p> <p>□憲法発布、国会開設に関係した、板垣退助、伊藤博文の考えに着目する。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「自由民権運動の広がりや憲法発布、国会開設に関係する人々の働きについて、必要な情報を集め、読み取り、国際的な近代国家を目指して、憲法が発布され国会が開設されたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	③日清・日露の戦争の様子や結果について調べ、日清・日露の戦争に勝利したことにより、日本と世界の国々の関係が変わっていったことを理解できるようにする。	<p>◆二つの戦争によって、日本と世界の国々の関係は、どのように変わっていったのだろう。</p> <p>○二つの戦争の様子や結果について、資料や地図を使って調べる。</p> <p>・日清戦争も日露戦争も、朝鮮半島の支配をめぐる戦いだった。</p> <p>・日清戦争で、日本は清から賠償金を得るとともに、台湾などを植民地にした。</p> <p>・日露戦争では、日清戦争よりもずっと多い戦死者が出た。</p> <p>・戦場となった朝鮮半島や中国に大きな損害を与えた。</p> <p>○二つの戦争による日本と世界の国々の関係の変化について話し合う。</p> <p>・中国やロシアに勝ったことは、欧米諸国に日本の力を認めさせ、欧米の支配に苦しむアジアの国々を勇気付けた。</p>	<p>◎朝鮮をめぐる、日本、ロシア、中国の関係を描いた風刺画</p> <p>◎日清・日露の戦争の戦場を表した地図</p> <p>◎二つの戦争での日本の死者を比べたグラフ</p> <p>□日清戦争と日露戦争を比較することで、それぞれの戦争の様子やその後への影響などを考えられるようにする。</p> <p>□これらの戦争では、戦場となった朝鮮半島及び中国において大きな損害を与えたことに触れるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「日清・日露の戦争の様子や結果について必要な情報を集め、読み取り、二つの戦争に勝利したことにより、日本と世界の国々の関係が変化したことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>

し ら べ る	<p>④日本が条約改正を果たして欧米諸国と対等になったことや、医学などの分野の活躍を調べ、日本の世界への進出と国際的地位の向上について理解できるようにする。</p>	<p>◆世界中での日本の立場は、どのように変わっていったのだろう。</p> <p>○国際社会における日本と欧米諸国との関係の変化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小村寿太郎が条約改正に成功し、関税自主権を回復した。 ・不平等条約を改正し、欧米諸国と対等な関係を築くことができた。 <p>○医学の分野において、世界で活躍した日本人の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野口英世は、黄熱病の研究で世界に注目された。 <p>○日本の国際的地位の変化について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの戦争に勝利したことに加えて、条約改正に成功したり医学などが発展したりしたことも、日本の国際的地位が向上することにつながった。 	<p>◎二つの戦争を通じた日本の領土の広がりを示した地図</p> <p>◎条約改正までの流れをまとめた年表</p> <p>□幕末に欧米諸国と結ばれた不平等条約が改正される経緯を、明治政府の諸改革や二つの戦争に勝利したことなどと結び付けて考えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「条約改正や科学の発展について必要な情報を集め、読み取り、陸奥や小村らの働きにより条約改正に成功し、科学でも世界的に注目される研究を行うなど、外交や科学の面でも日本の国際的地位が向上していることについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤産業の発展によって起こった社会問題や様々な運動について調べ、人々の民主主義への意識が高まったことを理解できるようにする。</p>	<p>◆産業の発展によって、人々の生活や社会は、どのように変化していったのだろう。</p> <p>○産業の発展によって人々の生活がどのように変わってきたのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車やバスなどの交通機関が発達した。 ・製鉄などの重工業が発達した。 ・ラジオ放送が始まった。 <p>○社会問題や様々な運動の広がりについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足尾銅山の鉱毒問題や労働問題、農民運動などが起こった。 <p>○人々の民主主義への意識の高まりについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通選挙を求める運動が広がり、25歳以上の全ての男子が衆議院議員の選挙権をもつようになった。 ・女性の地位向上を目指す運動や、差別をなくす運動が広がった。 	<p>◎産業の発展と人々の生活の変化を示す写真（製鉄所の発展、ラジオ放送、電車やバスの様子）</p> <p>◎田中正造と足尾銅山鉱毒問題</p> <p>◎普通選挙や女性の地位向上を目指す運動を示す写真</p> <p>□産業の発展によって人々の生活が向上した一方で、公害や労働運動などの社会問題や、様々な運動が広がっていったことを関連付けて調べられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「産業の発展によって起こった社会問題や様々な運動について、必要な情報を集め、読み取り、人々の民主主義への意識が高まったことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑥我が国の国際的地位の向上や国民生活の変化について、調べたことを基に短文にまとめ、学習問題について考えることを通して、日本の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解できるようにする。</p>	<p>◆世界中での日本の国際的地位は、どのようにして向上していったのだろう。また、国内の様子は、どのように変化していったのだろう。</p> <p>○調べて分かったことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法発布と国会開設、二つの戦争、条約改正の成功、科学の発展 ・産業の発展と公害、生活の向上、民主主義の高まり <p>○第1時で使った4枚の絵を参考に、約20年の間に、日本の国際的地位や国内の様子がどのように変わっていったのか短文で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの戦争に勝利したことにより、世界中での日本の立場が変わって、条約改正を行うことができ、国際的地位が向上した。 ・産業が発展するとともに、鉄道網が広がり東京駅が建てられた。 <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div data-bbox="443 1832 992 2056" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>不平等条約を結んでいた日本は、大日本帝国憲法をつくり国会を開設した。また、二つの戦争に勝利して条約改正を達成した。さらに、科学の発展により、世界で活躍する科学者が現れた。これらのことによって、日本の国力が充実し、世界における日本の国際的地位が向上した。</p> </div>	<p>◎前時までに学習した人物の写真（板垣退助、伊藤博文、陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎、野口英世）</p> <p>◎第1時で使った4枚の絵</p> <p>□日本と欧米諸国との関係、国内の様子という2つの視点から、変化を表にまとめるようにする。</p> <p>□前時までに学習した人物の働きを入れて、表にまとめる。</p> <p>★文章の内容から「大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の変化の様子を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述内容や発言から「調べたことを文章にまとめ、日本の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	長く続いた戦争と人々の暮らし	配当 6時間	内容 (2) アの(サ)及び(シ)とイの(7)
------	----------------	--------	-------------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、戦争の長期化や戦線の拡大に伴う国民生活への影響、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下の様子を捉え、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦を経て、国民が大きな被害を受けたことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、戦争の長期化に伴う国民生活への影響、各地への空襲、沖縄戦、原子爆弾投下の様子を理解している。 ②調べたことを年表や図表などにまとめ、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦を経て、国民が大きな被害を受けたことを理解している。	①昭和時代の戦争や当時の世の中の様子などに着目して、問いを見だし、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦の様子について考え、表現している。 ②日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦と国民生活などを関連付けたり総合したりして、当時の世の中や生活の様子、戦争について学ぶ意味を考え、適切に表現している。	①日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、我が国と中国との戦いが全面化したことや、我が国が戦時体制に移行したこと、我が国がアジア・太平洋地域において連合国と戦って敗れたこと、国内各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾投下など、国民が大きな被害を受けたことを理解することを意図している。また、これらの戦争において、我が国が多くの国々、とりわけ、アジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたことについても触れることが大切である。

(2) 教材や資料の工夫

本小単元の学習で取り上げる主な教材は、「日清、日露戦争、昭和時代の戦争の戦死者」「アジア・太平洋地域への広がり、第二次世界大戦中の世界の様子」「空襲や沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾投下」「戦争体験者による当時の生活の様子」の4つである。教材の工夫として以下のことを考えた。

①日清、日露戦争、昭和時代の戦争の戦死者

日清戦争、日露戦争、昭和時代の戦争の民間人と軍人の戦死者や戦争を行った期間、戦争の相手国の数などを比較することで、社会的事象の見方・考え方（事象や人々の相互関係）を働かせて、「なぜ、昭和時代の戦争は民間人に多くの被害が出たのか。」「なぜ、昭和時代の戦争は長い間続いたのか。」などの疑問をもてるようにする。このような疑問を出し合い、「長く続いた戦争は、どのような戦争だったのだろうか。」という学習問題をつくる。

②アジア・太平洋地域への広がり、第二次世界大戦中の世界の様子

当時の世界との関わりに目を向け、第二次世界大戦中の世界の大まかな様子について、地図を活用して調べられるようにする。アジア、太平洋地域に戦地が広がっている様子や、ヨーロッパなどでも戦争があったことを取り上げることで、社会的事象の見方・考え方（位置や空間の広がり）を働かせて、当時の日本の状況を理解できるようにする。

③空襲や沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾投下

戦争が進むにつれて、東京や大阪、京都などの大都市圏だけではなく、全国に空襲が広がっていった。特に、東京大空襲では、一晩に多くの犠牲者が出た。また、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾投下によっても多くの犠牲者が出た。写真や地図を活用して、空襲や沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾投下を取り上げることで、国民に大きな被害が出たことを捉えられるようにする。また、自分たちの地域における空襲の被害なども取り上げるとよい。

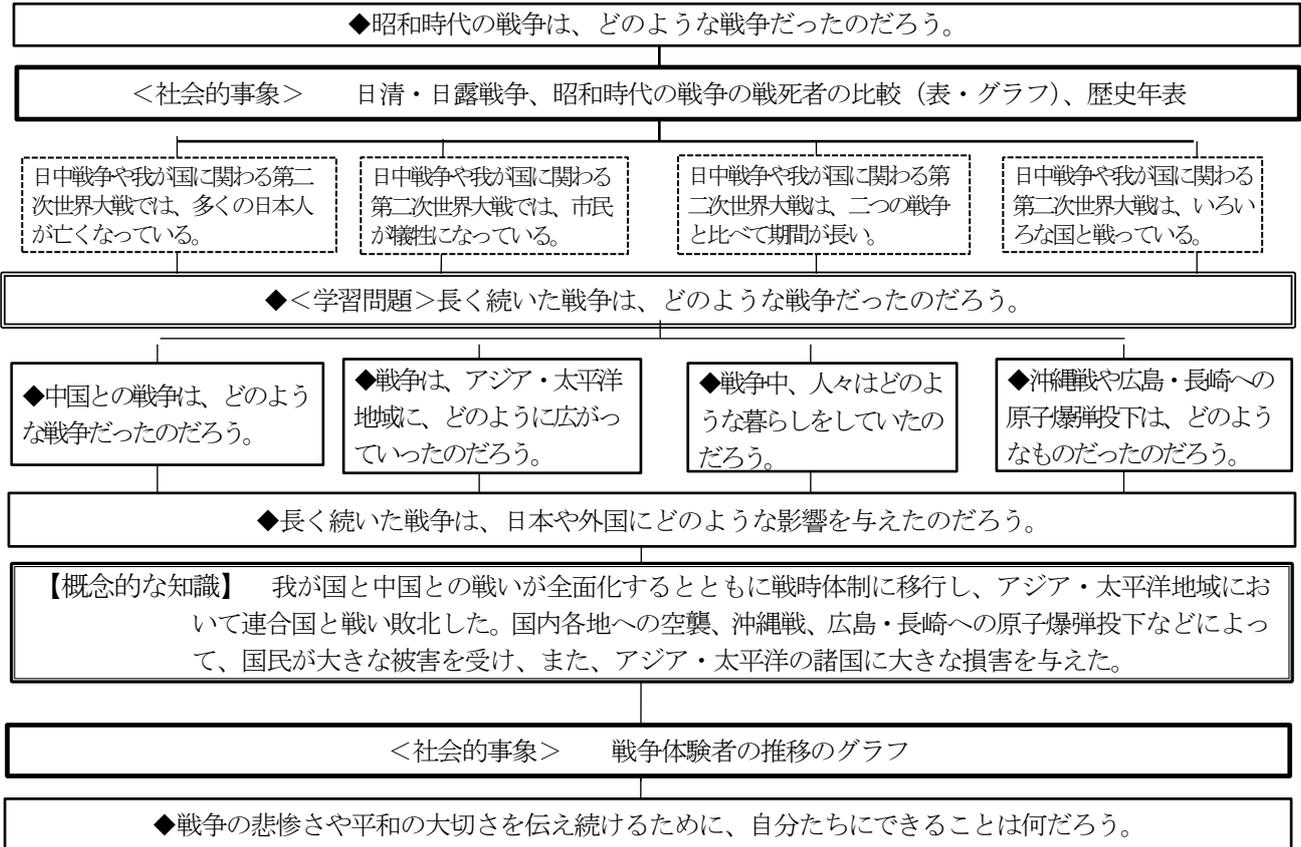
④当時の生活の様子や平和を語り継ぐゲストティーチャーの活用

戦争体験者の方をゲストティーチャーにすることで、当時の生活の様子を、実感をもって理解できるようにする。また、「戦争を語り続ける人の思い」に触れることで、戦争の悲惨さを伝え続けることの大切さや平和の尊さについて考えられるようにする。しかし、戦争体験者の高齢化が進む現状を踏まえ、戦争体験等を語り継ぐ方や、映像による証言なども積極的に活用していきたい。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「しらべる」段階では、戦時中の人々の苦労や経験を理解するために、地域の戦争体験者等をゲストティーチャーとして活用し、対話的に学び、身近な人や多くの人が戦争に関わったことを理解できるようにする。
- ②「まとめる」段階では、戦争を語り継ぐ人が年々減っている社会の課題を捉えることで、戦争について理解だけに終わるのではなく、戦争を学ぶ意味や自分たちにできること考え、より主体的で深い学びを目指す。そのために、学習問題について自分の考えをまとめる前に、「戦争体験者の推移」のグラフを提示して、「将来どのようなことが考えられますか。」と発問することで、戦争を語り継ぐ人がいなくなることの課題を、子供が見いだせるようにして、今後、戦争を二度としないために自分たちに何ができるのか話し合う。その際、ICT機器やホワイトボードを活用して意見を共有し、お互いに考えを深められるようにする。この活動を通して、戦争への思いをもって学習問題に対する自分の考えをまとめることで、主体的で深い学びが展開できるようにする。

(4) 問いの構成の工夫

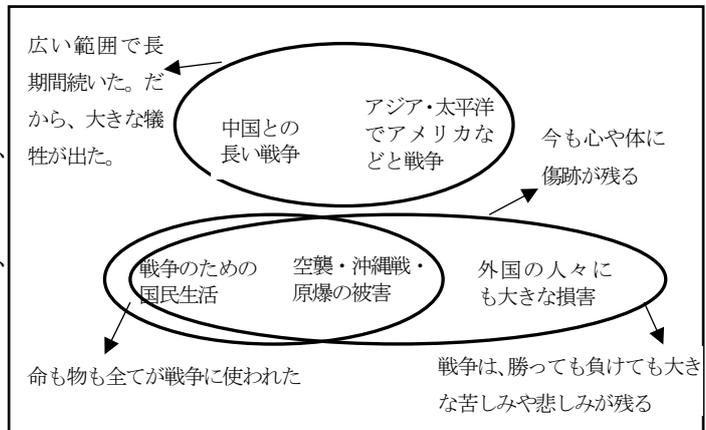


(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第6時では、調べたことを基に、学習問題に対する考えをまとめる場面で、「思考・判断・表現」の観点で評価する。

調べたことを基に、この戦争について、どのようなことを考えたか、右図のようにグループで図に整理した。そして、それを基に考えたことを全体で交流し、ICT機器やホワイトボードにまとめながら、考えを深めていけるようにする。その記述や発言内容から、調べたことを関連付けたり総合したりして、戦争中の世の中や国民生活の様子について考え、表現しているか、「思考・判断・表現」の観点で評価する。

ここで考えたことを、学習問題のまとめである「戦争を短い言葉で表現する活動」へとつなげ、その記述から、「知識・技能」の観点で評価する。その上で、戦争体験者の高齢化の問題を提示し、これからの社会を担う自分たちにできることを話し合い、小単元で学習したことを振り返る。その記述や発言の内容から、戦争を学ぶ意味や自分たちにできることを考え、表現しているか、「思考・判断・表現」の観点で評価する。



3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①昭和の戦争に関する資料から疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	<p>○原爆ドームの原子爆弾投下前と後や、東京大空襲、当時の生活の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京や広島がこんな状態になるなんて、大変なことだ。 ・当時の人の生活は大変そうだな。 <p>◆昭和時代の戦争は、どのような戦争だったのだろう。</p> <p>○三つの戦争の概要を比較し、疑問に思ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和時代の戦争では、多くの日本人が亡くなっている。 ・市民が犠牲になっている。 ・期間が長い。 ・昭和時代の戦争は、いろいろな国と戦っている。 <p>○疑問を出し合い、学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">長く続いた戦争は、どのような戦争だったのだろう。</div> <p>○予想を基に、学習計画を立てる。(予想) → (調べる問い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中戦争で、日本は中国と戦争したのではないか。 →中国との戦争は、どのような戦争だったのだろう。 ・第二次世界大戦では、日本は多くの国々と戦争したのではないか。 →戦争は、アジア・太平洋地域に、どのように広がっていったのだろう。 ・当時の人たちは、どのように生活していたのだろう。 ・戦争や空襲で、どのような影響があったのだろう。 →戦争中、人々はどうのような暮らしをしていたのだろう。 ・沖繩戦は、どのような様子だったのだろう。 ・広島や長崎の原子爆弾投下で、どんな被害があったのだろう。 →沖繩戦や広島・長崎への原子爆弾投下は、どのようなものだったのだろう。 	<p>◎原爆ドームの原爆投下前と後の写真。</p> <p>◎東京大空襲の被害(地図)</p> <p>◎当時の人々の様子(写真)</p> <p>◎日清・日露戦争、昭和時代の戦争の戦死者の推移(表・グラフ)</p> <p>□日清・日露戦争を振り返ってから、昭和時代の戦争の統計に着目する。</p> <p>□昭和時代に市民の死者が多いことや、戦争が長く続いていることに着目する。</p> <p>◎昭和時代の主な出来事(年表)</p> <p>☆発言や記述から「当時の戦争や世の中の様子に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p> <p>□年表を基に、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、空襲、沖繩戦、広島・長崎への原子爆弾投下などに着目して、学習問題について予想し、学習計画を立てるようにする。</p> <p>★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想を基に、学習計画を立てて、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
し ら べ る	②中国との戦争について調べ、戦争がどのように始まり、広がっていったのか理解できるようにする。	<p>◆中国との戦争は、どのような戦争だったのだろう。</p> <p>○満州事変を基に、本時の問いをつかみ予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして、鉄道の線路を爆破したのだろう。 ・なぜ、国際連盟を脱退したのだろう。 <p>○日中戦争、国際連盟脱退について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満州国の独立を認められなかった日本は、国際連盟から脱退した。 <p>○調べたことを基に、日本が戦争を始めた経緯を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界中で不景気になり、日本でも生活に苦しむ人が出てきた。 ・日本の政治家や軍人の中に、世界的な不景気を乗り越えるために満州を手に入れればよいと主張する人がいた。 	<p>◎満州事変(文章資料、映像)</p> <p>□満州事変を基に、中国に進出する様子に着目する。</p> <p>◎日中戦争の様子、戦場の拡大(地図)</p> <p>□調べたことを根拠にして、戦争を始めた理由を話し合うようにする。</p> <p>☆発言や記述から「中国との戦争について、必要な資料を集め、読み取り、日本が戦争を始めた経緯や、戦争が全面化したことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	③戦争が、アジア・太平洋の各地へ広がっていった様子について調べ、理解できるようにする。	<p>◆戦争は、アジア・太平洋地域に、どのように広がっていったのだろう。</p> <p>○日中戦争の広がり様子から、本時の問いをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国だけではなく、東南アジアまで進出している。 <p>○中国との戦争が、アジア・太平洋地域に広がっていった様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパでは、ドイツのポーランド侵攻をきっかけに、第二次世界大戦が始まった。 ・日本は、アメリカやイギリスなどの国々と戦う、太平洋戦争へと突入して、多くの男性が兵士となった。 ・その戦争の中で、多くの東南アジアの人や中国の人が犠牲となった。 ・敗戦とあるから、日本は、この後戦争に負ける。どうして、国民に多くの犠牲者が出たのか、その様子を調べたい。 	<p>◎日中戦争の広がり様子(地図)</p> <p>◎アジア・太平洋地域に広がった経緯(文章資料・映像)</p> <p>◎第二次世界大戦中の世界の様子(文章資料、地図)</p> <p>□日本だけではなく、世界の動きがだまかに分かるように、資料から調べる。</p> <p>□戦争中の人々の生活に着目する。</p> <p>☆発言や記述から「必要な資料を集め、読み取り、中国との戦争がアジア・太平洋地域にまで拡大し、連合国と戦ったことについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>

し ら べ	<p>④戦争中の暮らしについて、ゲストティーチャーの話や資料から調べ、当時の世の中や国民生活の様子を理解できるようにする。</p>	<p>◆戦争中、人々はどうの暮らしをしていたのだろう。 ○ゲストティーチャーの話や資料を基に、当時の小学生の様子について調べる。 ・空襲が激しくなると、地方のお寺に集団疎開した。 ・戦争のための暮らしになり、学校で軍事訓練をしていた。 ○当時の人々の生活の様子について調べる。 ・金属の提出や物の配給制など、苦しい生活をしていた。 ・戦争のために中学生や女性も働いたり、軍事訓練を行っていたりしていた。 ○当時の国民の思いについて考え、話し合う。</p>	<p>◎当時の小学生の様子（写真） □戦時体制に移行し、戦争のための暮らしをしていたことに着目する。 ◎戦争中の人々の生活の様子（文章資料 映像、証言等） □人も物資も、全てが戦争のために動員されていたことに着目する。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、戦争中の国民生活の様子について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
る	<p>⑤沖縄戦や広島・長崎への原子爆弾投下、敗戦に至る経緯を調べ、戦争で人々が受けた被害や、諸外国へ与えた損害の大きさについて考え表現することができるようにする。</p>	<p>◆沖縄戦や広島・長崎への原子爆弾投下は、どのようなものだったのだろう。 ○沖縄戦や広島・長崎への原子爆弾投下について調べる。 ・沖縄戦や広島・長崎への原子爆弾投下で、多くの犠牲者が出た。 ○第二次世界大戦で、我が国がアジアの人々を中心に大きな損害を与えたことについて調べる。 ○原爆ドームやひめゆりの塔が、現在も残っていることについて、考えたことを話し合う。 ・多くの人が犠牲になったことを忘れないようにしている。 ・戦争を知らない人にも、戦争の被害について知ってもらおうとしている。</p>	<p>◎沖縄戦の新聞記事や文章資料 ◎広島・長崎の原子爆弾投下時の様子（文章資料 映像） □アジアの国々でも多くの人が犠牲になっていて、その教訓を忘れないように、遺跡が残っていることに着目できるようにする。 ☆発言や記述から「沖縄戦や広島・長崎への原子爆弾投下の被害を関連付けたり総合したりして、国民が受けた被害や、我が国が諸外国へ与えた損害について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	<p>⑥学習問題について調べたことや考えたことを整理し、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦によって、国民が大きな被害を受け、他国の人たちに多くの損害を与えたことを理解できるようにするとともに、戦争を学ぶ意味について考え、話し合うことができるようにする。</p>	<p>◆長く続いた戦争は、日本や外国にどのような影響を与えたのだろう。 ○調べたことをグループで図に整理し、学習問題について考えたことを話し合う。 ・広範囲で戦い、国内外の人々に大きな被害や損害を与えた。 ・とても悲惨な戦争だった。今も傷跡が残る。 ・物も命も、全てが戦争に動員された。 ○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめ、短い言葉で表すとどのような戦争だったか話し合う。 ・つまり昭和時代の戦争は、_____。 (例1) 国民が戦争のために苦しい生活をしたり、日本人や他国の人たちに多くの死者を出したりした戦争。 (例2) 日本や他国の人たちに多くの犠牲者を出したことや、空襲や原子爆弾投下によって国民に大きな被害が出た戦争。 ○戦争体験者の年齢が高齢化している課題を捉え、戦争体験を語り継ぐ取組について話し合う。 ・戦争について忘れてしまうかもしれない。 ・戦争体験を語ることでできる人がいなくなってしまう。 ・戦争体験を聞いて、それを伝える人たちがいる。 ○自分たちにできることをグループで話し合い、学級全体で交流する。 ・これからも、事実として戦争についてしっかり学習していけば、戦争を伝え続けられる。 ・原爆の日や終戦記念日をしっかりと覚えていて、ニュースなどを見て、戦争を伝え続けられるようにする。 ・家族にも戦争の悲惨さを伝えたい。</p>	<p>□調べた事実と考えたことについて、ICT機器やホワイトボードに整理しながら話し合うことで、事実を関連付けたり総合したりして、考えを深めていけるようにする。 ★記述や発言から「調べたことを文章にまとめ、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦によって、国民が大きな被害を受け、他国の人たちに多くの損害を与えたことを理解しているか」を評価する。【知②】 ◎戦争体験者数の変化、戦争体験を語り継ぐ人々 □自分たちの地域等で、戦争の体験を語り継いだり、平和の実現のために活動したりしている方々団体等があったら取り上げるようにする。 □今すぐにできることではなくても、将来に渡って調べ、考え続けていくことに目を向けられるようにする。 ★ノートの記述や発言から「日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦を関連付けたり総合したりして、当時の世の中や国民生活の様子、戦争を学ぶ意味について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p>

小単元名	新しい日本、平和な日本へ	配当 7時間	内容(2)アの(サ)及び(シ)とイの(ア)
------	--------------	--------	-----------------------

<「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などについて、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、写真や年表などの資料で調べ、戦後の改革、人々の暮らしの変化や世界との関わりを捉え、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習してきたことを基に、過去の出来事と現在の自分たちの生活や社会との関わりや、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど、国家及び社会の発展を考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などについて、写真や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、戦後の改革、国民生活の変化や世界との関わりを理解している。 ②調べたことを年表や図表などにまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。	①戦後の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、戦後の改革、国民生活の変化や世界との関わりについて考え、表現している。 ②日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わってきたことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考え、適切に表現している。	①日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習してきたことを基に、過去の出来事と現在の自分たちの生活や社会との関わりや、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど、国家及び社会の発展を考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元では、戦後、平和で民主的な憲法が制定され、我が国は民主的な国家として出発したことや我が国が国際社会に復帰し、工業が発展し電化製品が普及したことなどにより国民生活が向上したこと、スポーツの祭典としてアジアで初めて東京でオリンピック大会が開催され、その後も我が国でオリンピック・パラリンピックの大会が開催されたことなどを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにする。

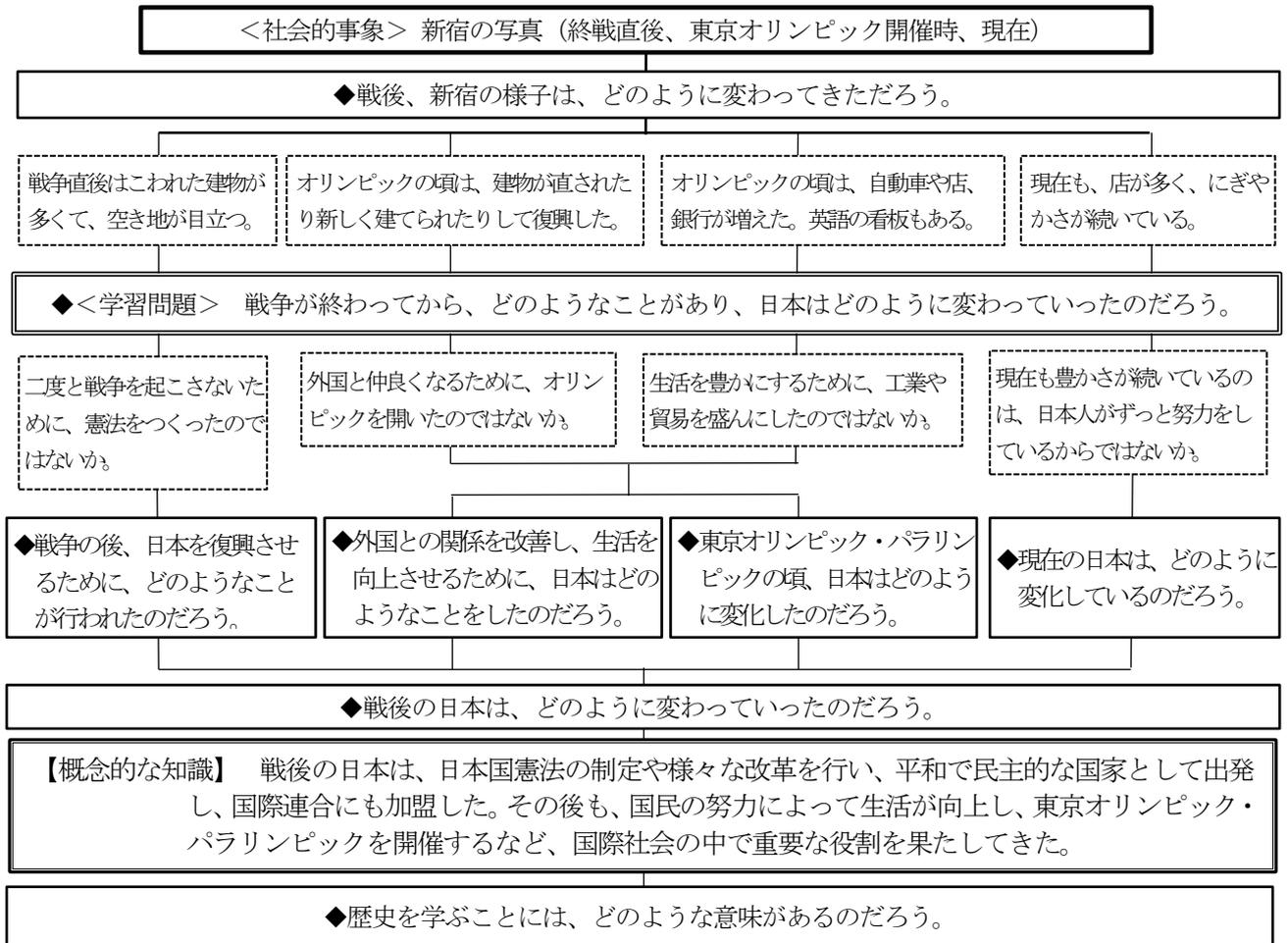
(2) 教材や資料の工夫

①新宿の様子（終戦直後、東京オリンピック開催時、現在）について、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせて、戦争直後から世の中の様子が短い期間に急激に変化していったことを捉えられるようにして、疑問を集約し学習問題づくりへとつなげられるようにする。
 ②戦後の改革と国民生活への影響、国際連合への加盟と国際社会への復帰、高度経済成長の中の東京オリンピック・パラリンピックの開催などについて、諸資料から適切に読み取り、調べたことを整理してまとめられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①新宿の様子（終戦直後・東京オリンピック開催時・現在）の写真を比較して、世の中の様子が劇的に変化していることから、子供が学習への関心を高め、学習問題をつくった後、年表を活用し学習計画を立て、見通しをもって、主体的にその後の学習活動を展開できるようにする。さらに、「しらべる」段階では、日本国憲法の制定や東京オリンピック・パラリンピックの開催などについて調べ、我が国が国際社会に復帰し、国民生活が向上したことや、世界との関わりについて考える問いを、毎時間設定する。
 ②戦後の復興の様子を高齢者から聞き取ったり、博物館や資料館で調べたり、現在の問題を新聞やインターネットなどを利用して調べたりする活動を取り入れ、子供が自ら資料を活用したり調査したりする学習を展開する。
 ③学習問題に対する考えをまとめる活動を行う際に、互いの考えを少人数グループで伝え合い、ICT機器やホワイトボードを活用してよりよい考えを練り上げていく活動を取り入れ、どの子供も的確に表現できるようにする。
 ④「つなぐ」段階を設定して、これまでの歴史学習を振り返り、歴史を学ぶ意味を考えて意見文にまとめる活動を取り入れ、学習したことを現在や未来の生き方に生かしていこうとする態度を育てるようにする。

(4) 問いの構成の工夫

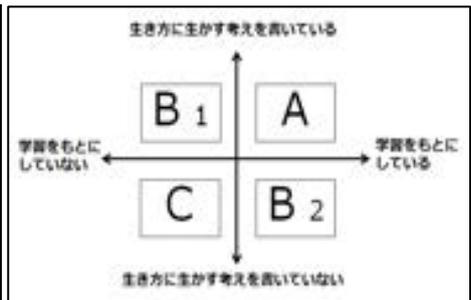


(5) 評価の工夫

「つなぐ」段階の第7時では、学習したことを基に、歴史の学習で学んだことをどのように生かしていくか考え、表現する場で、「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価する。

歴史を学ぶ意味について考え、意見文を書く場面で、年表とともにこれまで学習してきたことを振り返り、これからのように生かしていったらよいか、自分の考えを書くよう指導する。それにより、子供にとっても何を考えて書けばよいか明確になる。その際、次のような基準を教師の中で設定すると、評価がしやすい。

- A……学習したことを基にして、現在や未来の生き方に生かす考えを書いている。
- B 1…生き方に生かす考えを書いているが、学習を基に書かれてはいない。
- B 2…学習したことを基に書いているが、生き方に生かす考えが書かれていない。
- C……学習を基にしていないで、生き方に生かす考えも書かれていない。



この基準は右図のようなマトリックスにして、意見文を書いた後に提示すると、子供はどのようなことを書いていたのか、自己評価できる。さらに、B評価やC評価の子供には、「そう考えた理由を、これまでに学習したことから見付けるとよい。」「これからの生き方につながる考えを書くとよい。」などの助言をして、改めて考えられるようにする。

いつの時代にも外国との関係や国内の争いなど様々な問題があり、政治の中心にいる人たちはよりよい社会をつくるために、様々なことに取り組み、問題を解決してきた。現在も新型コロナウイルスやSDGsなど、多くの課題が世界中にある。わたしは、世の中の人たちが自分勝手な行動をしているうちは、これらの課題は解決しないと思う。わたしはこのような課題に関心を持ち、周りの人と協力し合い、明るい未来をつくることは誰かがやってくれることだとは思わないで、自分でできることをやっていきたい。

この文章は、学習したことを基にして、これからの生き方に生かす考えが書かれているので、「十分満足できる状況」と捉えることができる。

3 小単元の指導計画 (7時間扱い)

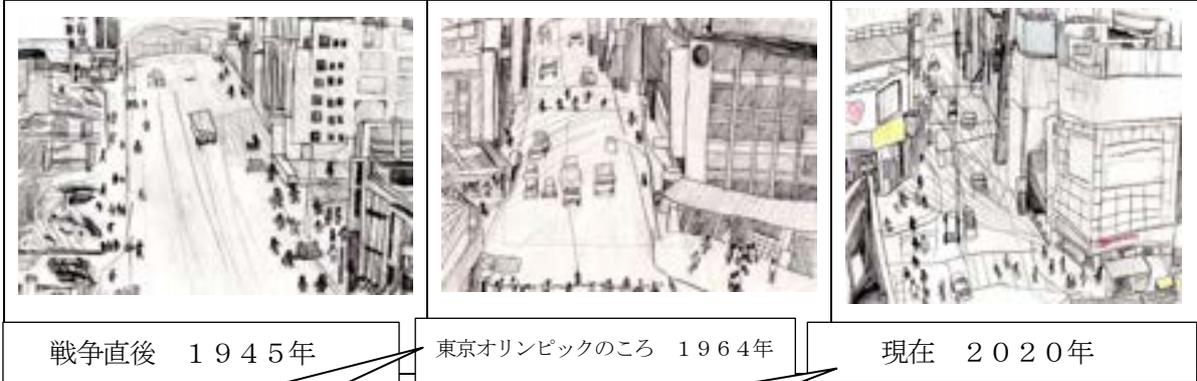
過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆) 主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①3枚の新宿の様子 の写真を比較して、戦後の日本 の変化に関心をもち、学習問題 をつくり、学習計画を立てる ことができるようにする。	◆戦後、新宿の様子は、どのように変わってきただろう。 ○3枚の新宿の様子 の写真を比較する。 ・戦争直後はこわれた建物が多くて空き地が目立つが、東京オリンピック・パラリンピックの頃は、建物が直されたり新しく建てられたりして復興している。 ・東京オリンピック・パラリンピックの頃は、多くの車が走っていて、店や銀行が多い。英語の看板もある。 ・現在も、店や人通りが多く、にぎやかさが続いている。 ○疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・戦争が終わった後、どうやって復興したのだろう。 ・たくさんの店があるけれど、生活が豊かになったのか。 ・車が多いけれど、日本でつくったのか。 ・英語や外来語を使っているが、外国と仲良くなったのか。	◎新宿の様子 の写真(終戦直後、東京オリンピック開催時、現在) □3枚の写真を比較することにより、戦後の新宿の様子 の短期間での劇的な変化に気付くようにする。 □全体的な様子だけでなく、どんな建物や看板があるか といった細部にまで注目することで、生活の豊かさや外国との関係にも目を向けられるようにする。 □変化したことだけでなく、変わらないことにも注目する。 □写真以外のことについても、疑問を出すよう促す。 ☆発言などから「戦後のまちの様子の変化に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
し	②戦後の改革を進めたことを調べ、平和で民主的な国家として出発したことを理解できるようにする。	◆戦争の後、日本を復興させるために、どのようなことが行われたのだろう。 ○戦後の改革や日本国憲法の制定について調べ、年表にまとめる。 ・女性の参政権や、教育を受ける権利が認められた。 ・日本国憲法がつくられた。 ○戦後の改革によって、どのような国づくりが目指されたのか考える。 ・国民一人一人の権利を認め、平和で民主的な国づくりが目指された。	◎憲法公布の記念祝賀会の写真 □政治単位において日本国憲法の学習で学んだことと関連付ける。 ◎戦後の改革や日本国憲法に関する資料 □戦後の改革を調べて、まとめるだけでなく、それらの改革が行われた目的を考えるようにする。 ☆ノート等の記述から「必要な情報を集め、読み取り、戦後の日本が平和で民主的な国づくりを行ったことについて理解しているか」を評価する。【知①】
らべ	③国際連合への加盟や工業の発展、電化製品の普及などについて調べ、国民生活が向上したことを理解できるようにする。	◆外国との関係を改善し、生活を向上させるために、日本はどのようなことをしたのだろう。 ○サンフランシスコ平和条約の調印や、国際連合への加盟について調べる。 ・世界の48か国と平和条約を結び、独立を回復した。 ・1956年に国際連合に加入し、国際社会に復帰した。 ○工業の発展や電化製品の普及について調べる。 ・産業が発展し、テレビなどの電化製品が広まった。 ○国民生活がどのように向上したのか考える。 ・日本は主権を回復して国際連合に加盟するとともに、国内の産業を発展させて、国民の生活を豊かにしていった。	◎サンフランシスコ平和条約や国際連合に加盟した写真や資料 ◎テレビの普及(グラフ) □各自が調べた後で、少人数グループで話し合うようにする。 □祖父母や地域の高齢者に話を聞ける子供は、当時の様子を取材する。 ☆ノート等の記述から「必要な情報を集め、読み取り、日本が国際社会に復帰し、国民生活が向上したことについて理解しているか」を評価する。【知①】
る	④東京オリンピック・パラリンピックの開催について調べ、産業がさらに発展したことを理解で	◆東京オリンピック・パラリンピックの頃、日本は、どのように変化したのだろう。 ○東京オリンピック・パラリンピックの開催や、当時の日本の様子を調べる。 ・1964年にアジア初のオリンピック・パラリンピックが東京で開かれ、高速道路や新幹線がつくられた。	◎東京オリンピック・パラリンピックの様子、新幹線等の開通の写真等 □交通網の整備や重化学工業の発達など、現在の生活につながる変化が起こったことに気付くようにする。 □国内の変化だけでなく、世界との関係に

	<p>きるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業を急速に発展させ、国民総生産額が世界2位になったが、公害などの環境問題も生まれた。 ○東京オリンピック・パラリンピック開催前後の国民生活の変化について考え、まとめる。 ・東京オリンピック・パラリンピックを開催して、世界平和の実現に貢献できるようになり、経済も成長していった。 	<p>も目を向ける。</p> <p>☆ノート等の記述から「必要な情報を集め、読み取り、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、我が国が国際社会で重要な役割を果たすようになってきたこと、その頃、日本が急激に産業を発展させたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑤現在の日本が抱える課題を調べ、今後、果たすべき役割について考え表現することができるようにする。</p>	<p>◆現在の日本は、どのように変化しているのだろうか。</p> <p>○現在の日本が抱える課題について、新聞やインターネット、年表等を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本周辺の国々との間に、領土に関わる問題がある。 ・沖縄には、たくさんの米軍基地が残されている。 ・不景気が長く続き、少子高齢化が進んでいる。 ・自然災害が次々に発生し、広い範囲に大きな被害をもたらしている。 ・新型コロナウイルスが世界的な問題になっている。 ・世界全体がSDGsの実現に向けて取り組んでいる。 <p>○日本は今後、どのような国を目指していくべきかについて考え、グループで話し合う。</p>	<p>◎日本が抱える課題の新聞記事やインターネット、年表等の資料</p> <p>□教科書だけでなく、タブレットを活用して情報を集めるようにする。</p> <p>□日本は、世界の国々と協力して、国際的な問題の解決に果たす役割があることに目を向けるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言から「戦後の発展の様子と、現在の日本が抱える課題を関連付けて、今後、日本の果たすべき役割や、よりよい国づくりについて考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p>
<p>ま と め る</p>	<p>⑥戦後の改革や国民生活の変化、国際社会における日本の役割などについて考え、国民生活が向上し、国際社会において重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆戦後の日本は、どのように変わっていったのだろうか。</p> <p>○学習問題について調べたことを年表に整理して、様々な出来事に対して「一言コメント」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法がつくられて、国民一人一人の権利を認め、平和で民主的な国づくりが目指された。 ・1956年に国際連合に加入し、国際社会に復帰した。 ・国内の産業を発展させて、国民の生活を豊かにしていった。 ・1964年にアジア初のオリンピック・パラリンピックが東京で開かれ、高速道路や新幹線がつくられた。 <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>戦後の日本は、日本国憲法の制定や様々な改革を行い、平和で民主的な国家として出発し、国際連合にも加盟した。その後も、国民の努力によって生活が向上し、東京オリンピック・パラリンピックを開催するなど、国際社会の中で重要な役割を果たしてきた。</p> </div>	<p>□一言コメントに、事象の説明だけでなく、国民生活や国際社会に与えた影響も考えて、事象の意味や価値を表現できるようにする。</p> <p>★一言コメントから「日本国憲法の制定や東京オリンピック・パラリンピックの開催などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わってきたことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>□ICT機器やホワイトボードを活用して、少人数グループで話し合い、学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>★記述から「調べたことを基に、文章にまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
<p>つ な ぐ</p>	<p>⑦これまで学習してきた歴史学習を振り返り、「歴史を学ぶ意味」について考え表現することができるようにする。</p>	<p>◆歴史を学ぶことには、どのような意味があるのだろうか。</p> <p>○年表を使って、歴史学習全体を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史はたくさんの人物がつくってきた。 ・政治のやり方や中心地が変わってきた。 ・人々の生活や文化が変化し、様々な文化遺産がつけられてきた。 ・外国との関係で時代が変化する時もあった。 ・多くの時代に、激しい戦いが起こっている。 <p>○歴史を学ぶ意味について考え、意見文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題を解決し、よりよい社会をつくるために、多くの人たちが生きてきた。現代のわたしたちも様々な問題を解決しながら、よりよい世界をつくっていききたい。 ・現在のわたしたちの生活は、海外から伝わった文化や過去につくられた文化が基になっている。現在の日本の伝統や文化も、未来に伝えていくような素晴らしいものにしていきたい。 	<p>◎歴史年表</p> <p>□歴史学習を振り返る際に、「政治の中心地」「歴史上の人物の働き」「伝統や文化」の視点を、現在とのつながりで振り返るようにする。</p> <p>□意見文の書き方を指導してから記述する。まず、歴史学習を通して強く心に残った出来事や人物を振り返り、続けて、その出来事や人物に対する自分の考えや、歴史から学んだことをこれからどのように生かしていったらよいか考えて書く。自分の力で書き進めることが難しい子供には、文例を示し、書き方の見通しをもてるようにする。</p> <p>★意見文の記述から「歴史の学習で学んだことを基に、国家及び社会の発展を考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

第 1 時の資料 (つかむ)

資料 3 枚の新宿の様子の写真 (東京書籍「新しい社会 6 年上」)

◆ 3 枚の新宿の様子の写真には、どのような違いがあるのだろう。



戦争直後 1945年

東京オリンピックのころ 1964年

現在 2020年

空襲で焼け野原になっていた場所が、20年ほどで、かなり復興している

現在の様子になるまでに、日本でどのようなことがあったのかな？

【指導上の留意点】
比較するときには、建物や道路の様子などに着目できるようにする。

社会的事象の見方・考え方を働かせて、同一地点における変化やその原因に着目する。

【学習問題】

戦争が終わってから、どのようなことがあり、日本はどのようにかわっていったのだろう。

【補足資料】戦後の日本の主な出来事の年表 (年) (出来事)

- 1945 日本が降伏し、戦争が終わる
- 1946 戦後初の総選挙が行われる
日本国憲法が公布される
- 1947 教育基本法が公布される
- 1949 湯川秀樹が日本人で初めてノーベル賞を受賞する
- 1951 サンフランシスコ平和条約を結ぶ
日米安全保障条約を結ぶ
- 1956 ソ連と国交を回復する
国際連合の加盟が認められる
- 1964 東京オリンピックが開かれる
- 1972 沖縄が日本に復帰する
中国と国交を回復する
札幌オリンピックが開かれる
- 1978 日中平和友好条約を結ぶ



資料 日本国憲法公布
記念祝賀会の様子
(出典：読売新聞社)

資料 サンフランシスコ
平和条約調印の様子
(出典：Wikipedia)



資料 東京オリンピック
開会式の様子
(出典：読売新聞社)

【指導上の留意点】「しらべる」段階で提示する資料を年表に入れることで、児童が見通しをもって学習を進められるようにする。

第5時の資料（調べる）

◆これから日本は、どのような国を目指していったらよいのだろう。



東日本大震災のボランティア（出典：札幌大学 HP）



沖縄アメリカ軍基地（出典：Wikipedia）



北朝鮮から帰国した拉致被害者（出典：読売新聞社）



（出典：読売新聞社）

【指導上の留意点】 次の①、②、③に留意できるようにする。

①現在、何が課題になっているのかを調べる。②今までの歴史の学習で学んだことを基にして、自分なりの解決策を考える。③同じ課題を選択した友達とグループをつくり、意見交流をする。

第6時の資料（まとめる）

時間的な変化と国際社会における日本の協調的な関係づくりに着目する。

◆戦後、日本はどのように発展していったのだろう。

(年)	(出来事)
1946	新しい日本国憲法が公布される
1947	教育の制度が変わる
1952	占領が終わり、主権を回復する
1956	国際連合に加盟する
1958	東京タワーが建てられる
1964	東京オリンピック・パラリンピックが開かれる
1972	沖縄が日本に復帰する
1985	男女雇用機会均等法が公布される
1989	元号が昭和から平成に変わる
1995	阪神・淡路大震災が起こる
2002	日本と韓国でサッカーワールドカップが開かれる
2011	東日本大震災が起こる
2012	東京スカイツリーが建てられる

現在の日本のしくみが作られた。70年以上たって、改正するかどうか議論になっている。

オリンピックが開かれることで、経済が成長した。この後、何度もオリンピックを開くことのできる国になった。

これからも、近くの国と協力していくことが大切だと思う。

戦後の日本は、日本国憲法の制定や様々な改革を行い、平和で民主的な国家として出発した。その後も、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、東京オリンピック・パラリンピックを開催するなど、国際社会の中で重要な役割を果たしてきた。

第7時の資料（いかす）

【児童のワークシートへのまとめ例】

○現在の日本になるまでに政治の中心地や社会の主な仕組みはどのように変わってきたのだろうか。
○歴史人物の働きや、伝統や文化は、現在の日本とどのようにつながっているだろうか。

時期	政治の中心地	社会の主な仕組み・歴史人物の働き	当時の伝統や文化・歴史人物の働き
縄文		狩りや採集をしていた	縄文土器 三内丸山遺跡 土偶
弥生		米づくりが広がった	弥生土器 吉野ヶ里遺跡 登呂遺跡 金印（尊称号）
古墳		「くに」がつくられる 大和朝廷	古墳 はにわ 大仙古墳 福寿山古墳
奈良・奈良	奈良	天皇中心の政治（聖徳太子・聖武天皇）	法隆寺 東大寺の大仏 国分寺 遣唐使 遣唐使
平安	京都	貴族が中心（藤原摂政）	かな文字 源朝造 枕草子 源氏物語
鎌倉	鎌倉川（鎌倉）	幕府と御家人「御恩と奉公」の関係（源頼朝、北条時宗）	鶴岡八幡宮 鎌倉大仏 外国から学び発展
室町	京都（室町）	室町幕府 応仁の乱	能や狂言 水滸伝 生花 書院造（足利義政）
戦国	滋賀（安土）・京都（桃山）・大阪	下剋上の世の中（織田信長・豊臣秀吉）	小田原城 キリスト教（ザビエル） 鉄砲
江戸	東京（江戸）	武家政治（徳川家康・家光） 幕府により幕府が大きな力をもつ	歌舞伎 浮世絵 俳句 蘭学 国学 政治や戦争での失敗から改革をして、今のよい日本になった。
明治	東京	天皇中心の政治 大日本帝国憲法（大文保利通ら） 自由民権運動	富岡製糸場 学問のすすめ 西洋化
大正	東京	国会での政治 選挙権が与えられる	西洋化 近代化
昭和	東京	戦争中心の政治（国家総動員法） 日本国憲法制定	もんぺ 東京オリンピック 三種の神器 3C
平成	東京	国民の願いに応じた政治（国民主権） 平和で友好的	インターネット

政治の中心地は近畿から関東へ、天皇→貴族→武士→国民と政治をする人が変わった。人々の関係が平等になってきた。

今も米を食べ、機械を使うのが当たり前。

外国から学び発展

書院造は、今の和室に取り入れられている。

政治や戦争での失敗から改革をして、今のよい日本になった。

国民の地位が向上

現在の日本

【学習の展開例】

（1）政治の中心地や社会の主な仕組みを振り返る。

①問い「現在の日本になるまでに政治の中心地や社会の主な仕組みはどのように変わってきたのだろうか。」についてワークシートに記入する。

※地図帳や教科書を使ったり、ノートを見たりして記入させる。

②政治の中心地や社会の主な仕組みの変化・歴史人物の働きについて話し合う。

- ・政治の中心地は近畿地方から東京に移ってきている。
- ・社会の仕組みは、一部の地位の人から国民などの多くの人が政治をするように変わってきている。

（2）歴史人物の働き、伝統や文化と現在とのつながりを考える。

①問い「歴史人物の働き、伝統や文化は、現在の日本とどのようにつながっているだろうか。」についてワークシートに記入する。

※教科書を使ったり、ノートを見たりして記入させる。

②歴史人物の働きや、伝統や文化と現在の日本とのつながりについて話し合う。

- ・外国から学んだから日本は現在のような発展をした。
- ・歴史人物の働きが、現在の社会の仕組みにつながっている。

（3）歴史学習を通して考えたことを書く。

視点：「歴史学習はどのようなことに生かせるか」「歴史を学ぶ意味はどのようなことだと思ったか」

【指導のポイント】

政治の中心地については、朝廷や幕府、政府が置かれた場所を記入するようにさせる。社会の主な仕組みについては、政治の中心人物やその身分、政治を進めるための制度などを記入するようにさせる。

歴史人物の働き、伝統や文化については、当時の人々の思いや願い、意図や目的を考えながら記入するようにさせる。現在とのつながりについては（1）の活動も踏まえながら、現在も残っているもの、現在の社会の仕組みとのつながりを考えるようにさせる。

現在の日本が抱える課題などを基にしながらかくようにさせる。

現在の日本

○現在の日本になるまでに政治の中心地や社会の主な仕組みはどのように変わってきたのだろうか。
 ○歴史人物の働きや、伝統や文化は、現在の日本とどのようになっているのだろうか。

時期	政治の中心地	社会の主な仕組み・歴史人物の働き	当時の伝統や文化・歴史人物の働き
縄文			
弥生			
古墳			
飛鳥・奈良			
平安			
鎌倉			
室町			
戦国			
江戸			
明治			
大正			
昭和			
平成			

小単元名	日本とつながりの深い国々	配当 8時間	内容 (3) アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	--------------	--------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国とつながりの深い国の人々の生活について、外国の人々の生活の様子などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現することを通して、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることや、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に、社会の一員として、異なる文化や習慣をもつ世界の人々と共に生きるために大切なことについて、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①外国の人々の生活の様子などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、日本の文化や習慣との違いを理解している。</p> <p>②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることや、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。</p>	<p>①外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見だし、日本の文化や習慣との違いについて考え、表現している。</p> <p>②世界の国々の文化や習慣は多様であることと、スポーツや文化などを通して他国と交流することに関連付けて、国際交流の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、世界の人々と共に生きるために大切なことについて考えたりして、適切に表現している。</p>	<p>①外国の人々の生活の様子などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②異なる文化や習慣を尊重し合うために大切なことについて、自分たちにできることを考えようとしている。</p>

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元では、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解した上で、オリンピック・パラリンピックをはじめとした国際的なスポーツ交流や、様々な文化を通じた国際交流が行われていることを捉え、異なる文化や習慣を尊重し合うことの大切さについて理解できるようにする。
- ②我が国と経済や文化の面でつながりが深い国から、教師が3か国程度を取り上げ、その中から子供一人一人が自らの興味・関心や問題意識に基づいて、1か国を選択して主体的に調べることができるようになる。その際、取り上げる国が特定の地域に偏らないように配慮し、国によって調べる資料の量などに大きな違いが生じないように配慮する。
- ③内容の取扱い(3)エにおいて、「世界の人々と共に生きていくために大切なことや、(略)多角的に考えたり、選択・判断したりできるように配慮すること」と示されており、これに対応する活動を「つなぐ」段階に位置付けた。

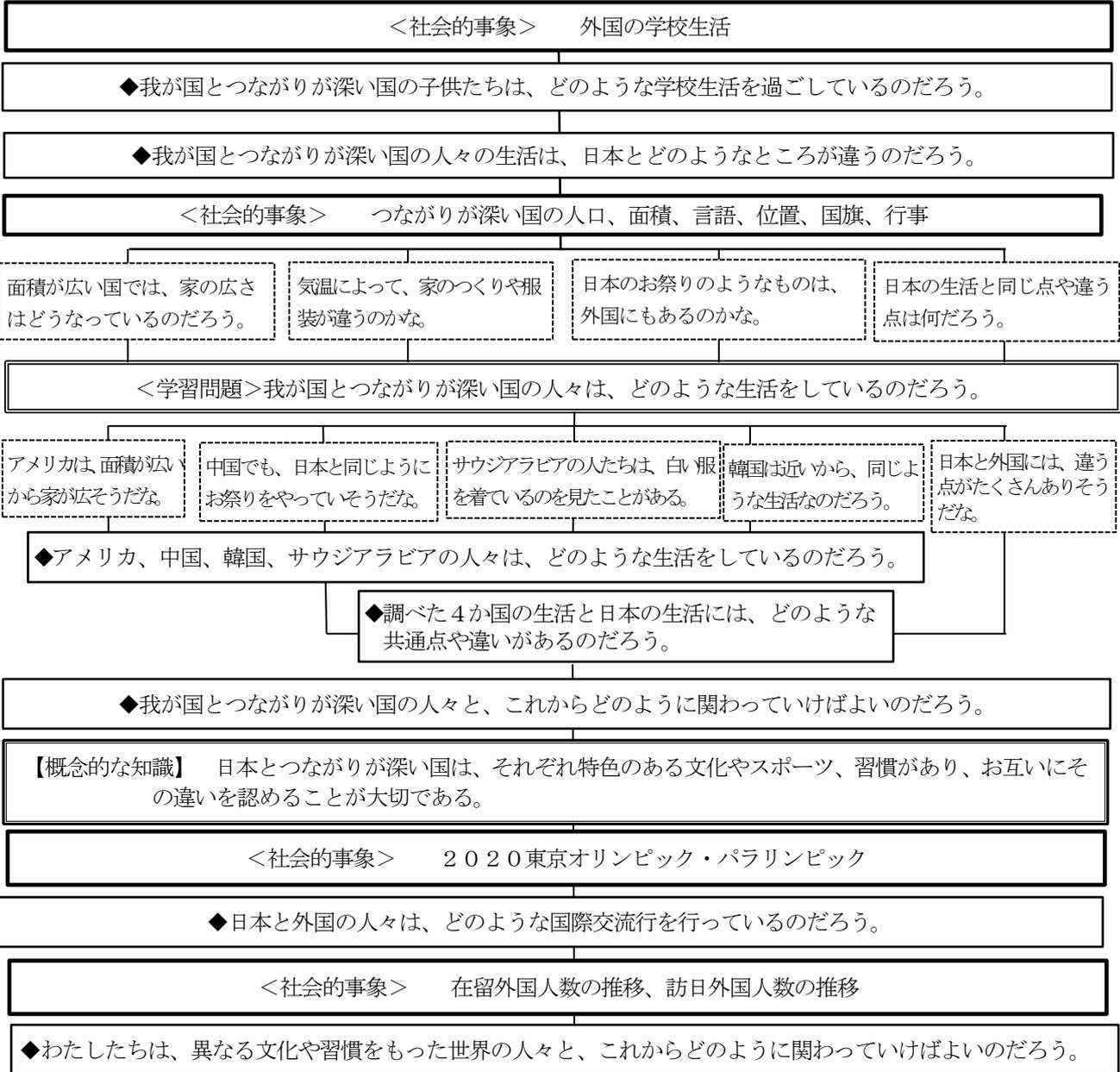
(2) 教材や資料の工夫

- ①我が国と経済や文化の面でつながりが深い国々の人々の衣服や料理、食事の習慣、住居、挨拶の仕方やマナー、子供たちの遊びや学校生活、気候や地形の特色に合わせてくらしの様子、娯楽、国民に親しまれている行事などの生活の様子について、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせ、我が国との違いや共通点を見だし、世界の人々と共に生きていくために大切なことについて多角的に考え、自分の考えをまとめられるようにする。
- ②地図帳や地球儀を用いて、取り上げる国や地域の名称と位置などを調べたり、学校図書館や公共図書館、ICT機器などの活用、留学生や地域に住む外国人、国際交流活動に参加した人などへの聞き取り調査などにより、外国の人々の生活の様子を調べたりして、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり)を働かせ、考えたことや分かったことを適切にまとめるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①子供が選択をして主体的に追究できるよう、「しらべる」段階では複線的に展開していく。その際、情報交換の場とともに、自分の追究を振り返る場面を意図的に設定し、自らの学びを振り返り、調整する力を育む。
- ②調べた国の人々の生活の様子について発表し合う場面を設定し、それぞれの国の人々の生活の違いなどから、文化や習慣には多様性が見られることについて、具体的に考え、理解し、尊重することにつながるようにする。また、調べたことを手掛かりに、日本の文化や習慣との違いについて考えることができるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「つなぐ」段階の第8時において、学習したことを基に、自分たちにできることを考える場面で、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価する。

異なる文化や習慣をもつ世界の人々について学習しても、遠くの出来事と感じている子供もいる。そこで、自分たちの市区町村等の在留外国人や訪日外国人の人数を調べる活動を取り入れることで、自分たちもすでに共生している日常を実感し、自分事として考えることができるようにする。

その上で、多様な文化や背景をもつ世界の人々と共に生きていくために、大切なことをできる限り考え、学級全体で共有する。その際、なぜ、それが大切なのか、理由や根拠を明確にして記述・発言を行うようにする。その記述や発言の内容から、「思考・判断・表現」の観点で評価する。学習したことを根拠にして考えることができれば、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。

そして、その後に、世界の人々と共に生きていくために、自分の考えを意見文にまとめ、その内容から、「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価する。評価の具体例を以下に示す。

意見文 世界の人々と共に生きていくためには、お互いの文化の違いを理解し、尊重し合うことが大切だと思う。(i) だから、自分の考えが当たり前だと思わずに、相手の国の人のことを考える必要がある。これからは、それぞれの国の文化を教え合って、協力しながら生きていくことが大切だ。(ii)

(i)の部分から、「異なる文化や習慣を尊重し合う大切さ」を捉えていることを評価することができる。それに加えて、(ii)の部分では、外国の人々と共に生きる上で大切であることを具体的に考えているので、「十分満足できる」状況と捉えることができる。

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料☆★評価【観点】)
つ か む	①日本と外国の学校生活の様子を調べて、比較し、諸外国の生活の様子を理解できるようにする。	◆我が国とつながりが深い国の子供たちは、どのような学校生活を過ごしているのだろう。 ○外国の学校生活について、資料を活用して調べ、日本の学校生活との共通点や相違点を考える。 ・日本と同じように、パソコンを使って学習をしている。 ・男子と女子で学ぶ教科が違うのは、日本とは違っているな。 ・日本と同じように、給食を食べている。	◎外国の写真、地図帳 ◎アメリカ、中国、韓国、サウジアラビアの学校生活についての資料 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、学校生活における日本と外国との共通点や相違点について理解しているか」を評価する。【知①】
	②我が国とつながりが深い国の人々の生活について関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	◆我が国とつながりが深い国の人々の生活は、日本とどのように違うのだろう。 ○我が国とつながりが深い4か国の基本情報(人口、面積、言語、位置、国旗、行事)などについて調べる。 ・アメリカや中国は、日本よりも人口が多くて面積も広い。 ○疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・アメリカや中国の家は、広いのかな。 ・サウジアラビアは砂漠が多くて暑そうだけど、どんな服を着ているのかな。 ・日本のお祭りのような行事は、外国にもあるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">我が国とつながりが深い国の人々は、どのような生活をしているのだろう。</div> ○予想したことを出し合い、学習計画を立てる。 ・外国の食事は、気候が違うので、日本とは違うものを食べているのではないかな。 ・日本と同じように、どの国もスポーツが盛んなのではないかな。 ・それぞれの国によって、習慣やマナーに違いがあるのではないかな。	◎アメリカ、中国、韓国、サウジアラビアの基本情報(人口、面積、言語、位置、国旗)と行事の写真 □輸出入などのデータを基にして、つながりが深い国を決める。 ☆発言や記述から「外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 ★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想を基に、学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	③④我が国とつながりが深い国の生活の様子について、資料を活用して調べ、ワークシートにまとめる活動を通して、その国の文化や習慣の特色を理解できるようにする。	◆アメリカ、中国、韓国、サウジアラビアの人々は、どのような生活をしているのだろう。 ○自分の選択した国について、調べる視点(学校生活、衣食住、文化、習慣やマナーなど)を明確にして調べる。 ○自分の選択した国について調べたことを、ワークシートに整理してまとめる。 ・アメリカでは、ハロウィンの時に仮装し、お菓子をもっている。 ・中国には50もの民族がいて、それぞれ生活様式が違っている。 ・韓国の小学校では、日本と同じように運動会や遠足などの行事が行われ、給食を食べている。 ・サウジアラビアの食べ物や食べ方には、特色がある。 ○自分の選択した国と、日本の人々の生活との共通点や相違点をまとめる。	□4人組をつくり、4か国から一人ずつ調べる国を選択する。 ◎教科書、資料集、図書資料 ◎子供が収集した資料 □国ごとに資料の量に差が出ないよう配慮し、学習の様子に応じて、個に応じた支援を行う。 □同じ国を調べている子供同士が情報交換する時間を、随時設定する。 □第3時の終わりに、自分の追究を振り返り、次時の計画を見直す活動を行う。 ★振り返りの記述などから「自分の追究を振り返り、次時の計画を見直そうとしているか」を評価する。【態①】 ☆ワークシートの記述や行動観察から「必要な情報を集め、読み取り、外国の人々の生活の様子と、日本の文化や習慣には違いがあることを理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑤ 調べた国の人々の生活の様子について、グループで話し合い、世界の人々の生活の多様性について考え表現できるようにする。</p>	<p>◆調べた4か国の生活と日本の生活には、どのような共通点や違いがあるのだろうか。</p> <p>○4人組で、調べた国の人々の生活の様子について話し合い、日本の人々の生活との共通点や相違点について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロサンゼルスには日系人が多く住んでいて、日系人の祭りがある。 ・韓国は、日本と同じように箸やスプーンを使うが、食器の使い方が違う。 ・中国には、日本の正月と同じような春節という行事がある。 	<p>◎子供が作成したワークシート</p> <p>□4人組で、調べた4か国の生活について、分かったことを発表し合う時間を十分にとる。</p> <p>☆発言や記述内容から「日本や他の国の文化や習慣を比べ、違いや共通点について考え、適切に表現しているか」を評価する。 【思②】</p>
まとめ	<p>⑥学習問題について考えをまとめ、つながりが深い国の人々の生活は、多様であり、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解できるようにする。</p>	<p>◆我が国とつながりが深い国の人々と、これからどのように関わっていけばよいのだろうか。</p> <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・日本とつながりが深い国の人々の生活には、国によってそれぞれ違う文化や習慣が見られる。お互いの文化や習慣の違いを尊重し合うことが大切だ。</p> </div>	<p>□ICT機器やホワイトボードを活用して、考えを深められるようにする。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「調べたことを文にまとめ、つながりが深い国の人々の生活は、多様であることや、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解しているか」を評価する。 【知②】</p>
	<p>⑦スポーツや文化を通じた交流について調べ、異なる文化を理解するために果たしている国際交流の役割について考え表現することができるようにする。</p>	<p>◆日本と外国の人々は、どのような国際交流を行っているのだろうか。</p> <p>○スポーツや文化などを通じた国際交流の事例について、資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020東京オリンピックには、205の国や地域から参加した。 <p>○国際交流の果たす役割について考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックは、スポーツを通して、心と体を鍛え、世界の国々が交流して平和な世界をつくることを大切にしている。 ・日本の「歌舞伎」は多くの国で公演されていて、日本の伝統文化が世界に広まっている。 ・多様性を認め 	<p>◎スポーツを通じた国際交流の事例（2020東京オリンピック・パラリンピックなど）についての文章資料</p> <p>◎文化を通じた国際交流の事例についての文章資料</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「世界の国々の文化や習慣は多様であることと、スポーツや文化などを通して他国と交流することを関連付けて、国際交流の果たす役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。 【思②】</p>
つなぐ	<p>⑧学習したことを基に、諸外国の人々と共生するために大切なことを考え、意見文にまとめることができるようにする。</p>	<p>◆わたしたちは、異なる文化や習慣をもった世界の人々と、これからどのように関わっていけばよいのだろうか。</p> <p>○在留外国人や訪日外国人の人数について調べる。</p> <p>○世界の人々と共に生きていくために大切なことを議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の国の文化や習慣を尊重する。 ・自分のことを伝えることも大切だ。 ・外国やその国の人々のくらしには、それぞれ良さがある。 <p>○本時の問いについて考えたことを意見文にまとめ、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々と共に生きていくためには、すすんで交流し、お互いの文化の違いを理解し、尊重し合うことが大切だと思う。だから、自分の考えが当たり前だと思わずに、相手の国の人のことを考える必要がある。これからは、それぞれの国の文化を教え合って、協力しながら生きていくことが大切だ。 	<p>◎地域の在留外国人数の推移</p> <p>◎地域の訪日外国人数の推移</p> <p>□今後、外国の人々と共に生活する機会が増える可能性が高いことを示し、どう関わったらよいか考えられるようにする。</p> <p>□学習したことを基にして考え、根拠や理由を示して議論できるようにする。</p> <p>★記述や発言の内容から「学習したことを基に、世界の人々と共に生きるために大切なことについて考え、適切に表現しているか」を評価する。 【思②】</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「異なる文化や習慣を尊重し合うために大切なことについて、自分たちにできることを考えようとしているか」を評価する。 【態②】</p>

第 1 時の資料 (つかむ)

資料 世界の学校を見てみよう！

(出典: キッズ外務省 HP)

◆我が国とつながりの深い国々の子供たちは、どのような学校生活を過ごしているのだろう。

【指導上の留意点】日本と比較させることでその国の特徴に気付かせる。

学校にバスで通っているんだね。



アメリカ
スクールバス

1クラス 20 人ぐらい

校庭はどこにあるのかな。

どんな教科があるんだろう。



学校の校舎



男女別れて学習

男女別々に勉強しているんだね。

小人数で学習しているんだね。

【指導上の留意点】上記の国以外に韓国や中国などについても同様に資料を用意する。

サウジアラビア

第 2 時の資料 (つかむ)

資料 4カ国の基本情報

◆日本とつながりの深い国は、日本とどのような違いがあるのだろう。

四カ国の基本情報 (国旗、人口、言語、面積、位置)

国名	アメリカ	中国	韓国	サウジアラビア
国旗				
人口	約3億1600万人	約13億5400万人	約4900万人	約2900万人
言語	英語	中国語	韓国語	アラビア語
面積	962.8万平方km (日本の約25倍)	約960万平方km (日本の約26倍)	約10万平方km (日本の約3分の1)	215万平方km (日本の約5.7倍)
国の位置	北アメリカ大陸	ユーラシア大陸の東	ユーラシア大陸の東	ユーラシア大陸の西

【指導上の留意点】紙面の都合上日本を載せていないが、日本の人口や言語なども提示し、比較して調べ学習を行う。

日本と外国の人々の生活の相違点に着目できるようにする。

日本よりも面積も大きく人口も多い。

日本よりも面積は大きいのに人口は少ない。

【指導上の留意点】4か国の基本情報を知った後、どのような生活をしているのか予想を立て、それを分類して調べる視点をつくるようにする。

【学習問題】

日本とつながりが深い国の人々は、どのような生活をしているのだろう。

第3・4・5時の資料（調べる）

◆アメリカ、中国、韓国、サウジアラビアの人々はどのような生活を送っているのだろう。

【学校生活や教育】

- ・小学校は6年間、3年生から英語の授業が行われ、韓国と日本は似ている。
- ・授業では英語とコンピュータを重視している。

【スポーツや遊び 行事】

- ・日本とは映画や音楽などの文化交流が盛ん。
- ・テコンドーは韓国の国技としてとても盛んである。

資料 子供の作品の一部



【衣食住・気候】

- ・日本と同じように皿からとって食べる。
- ・冬になるとキムチ作りが始まる。
- ・食事のマナーに違いがある。

【産業・政治・経済】

- ・造船業が盛んである。半導体や電子部品などを輸出している。
- ・80年代に高度経済成長をなし遂げた。

日本の文化や習慣との相違点に着目できるようにする。

第7時の資料（いかす）

資料 長野市のオリンピック・パラリンピック教育 PDF

◆日本と外国の人々は、どのような国際交流を行っているのだろう。



ボスニア出身の方にお茶をたてて、飲んでもらって交流をしたよ。



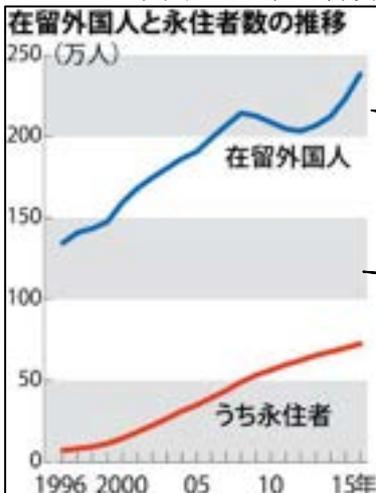
トルコの民族舞踏団の踊りを見てトルコの伝統的な文化を感じたよ。

【指導上の留意点】 一国一校運動は、オリンピック開催地の学校が応援する国や地域を決め、当該国・地域の文化や言語を学習したり、選手と子供たちが交流したりして異文化理解を深めようとする活動であり、長野オリンピックから始まったことを押さえるようにする。

日本と外国の人々との友好関係に着目する。

第8時の資料（いかす）

◆私たちは、異なる文化や習慣をもった世界の人々と、どのように関わっていけばよいのだろう。



【指導上の留意点】 左のグラフから分かることや問題となることを指摘し、学習課題につなげられるようにする。

一次的にも永久的にも日本に住む外国人が多くなってきている。

【指導上の留意点】

在留⇒一時的に住むこと
永住⇒末永く住むこと } を押さえる。

日本と外国では生活習慣が異なるから問題点なども出てくるのではないかな。

異なる文化の相互理解の大切さに着目できるようにする。

資料 在留外国人と永住者数の推移

(出典：毎日新聞社)

小単元名	世界の未来と日本の役割	配当 8時間	内容(3)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-------------	--------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

国際連合の働きや我が国の国際協力について、地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現することを通して、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割、義務や責任について多角的に考えたり、選択・判断したりして、世界の平和に向けた自分の考えをまとめようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。	①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、問いを見だし、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を考え、表現している。 ②地球規模で発生している課題の解決策と我が国の国際協力の様子を関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考え、選択・判断したりして、適切に表現している。	①国際連合の働きや我が国の国際協力について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、世界の人々と共に生きるために大切なことや、今後、我が国が国際社会で果たすべき役割などを考え、世界平和に向けた自分の考えをまとめようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元では、我が国がグローバル化する国際社会の中で重要な役割を果たしていることを取り上げる。具体的には、国際連合は、平和な国際社会の実現のための大きな役割を果たしていることや、我が国は、国際連合の一員としてユニセフやユネスコの活動に協力していることなど、平和な国際社会の実現のために大きな役割を果たしていることや、我が国が教育や医学、農業などの分野で諸外国の発展のために貢献していること、今後も国際社会の平和と発展のために果たさなければならない責任と義務があることなどを基に、グローバル化する国際社会における我が国の役割について理解することを意図している。
- ②国旗と国歌の指導については、国際社会においては、国旗と国歌が重んじられていることに気付かせるとともに、我が国の国旗と国歌の意義を理解させ、これを尊重する態度を養うことが大切である。また、諸外国の国旗と国歌についても同様にこれを尊重する態度を養い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を育成する。
- ③内容の取扱い(3)エにおいて、「(略) 今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること」と示されており、これに対応する活動を「つなぐ」段階に位置付けた。

(2) 教材や資料の工夫

- ①「国際連合の働き」について、ユニセフやユネスコの身近な活動を取り上げるようにする。ユニセフでは、国ごとの5歳未満児死亡率と年齢ごとの子供の死亡数の推移の2つのグラフを活用することで、世界の子供たちの置かれている現状を理解しやすくする。「国際協力」については、日本人が教育、医療、農業などの分野で世界に貢献している事例の中から選択して取り上げるようにする。実際に、青年海外協力隊などで活動していた方に来ていただいて話を聞くこともできる。
- ②地球規模で発生している紛争、環境破壊、飢餓、貧困、自然災害、人権など国境を越えた課題について、困難な状況が現在進行形で起こっていることを理解するために、できるだけ現在に近い時期の写真資料を用いるとともに、期間や被害の様子などを数字で示すようにする。また、飢餓について、視覚的に世界の状況を理解するために、国際連合世界食糧計画(WFP)発行のハンガーマップを用いる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、世界には様々な課題が起こっていることを共通理解してから、年代の異なるハンガーマップを比較することで問題意識を高めて疑問を見だし、学習問題づくりに結び付けられるようにする。そこから、国連本部や世界で活躍する人々の様子を基に、学習計画を立てる。

- ②「しらべる」段階では、国際連合という大きな組織からユニセフ、日本政府、NGO等の取組へ、より細かく具体的な活動について調べて、理解できるようにする。また、毎時間の学習活動を同じ流れにすることで、子供が安心して学習に取り組み、考え話し合う時間を十分確保できるようにする。
- ③「まとめる」段階では、学習してきたことを国際連合とその組織、日本政府、NGOや各国の取組など相互の協力関係に着目し総合して考え、学習問題について議論するなどして、自分の考えを深められるようにする。
- ④「つなぐ」段階では、「SDG s 世界を変えるための17の目標」について調べ、どんなことができそうか話し合うことにより、一人で考えるのではなく、皆で考えて多様な意見を出し合うようにする。また、日本の様々な団体が既に取り組んでいる事例を取り上げることで、より考えやすくする。出されたたくさんの意見や考えを基に、達成できそうな目標を選び、それについて意見文にまとめる。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「つなぐ」段階の第8時において、小単元で学習したことを基に、平和でより良い世界をつくるために、自分たちにできることを考える場面で、「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価する。

本小単元は、小学校社会科の最終単元であることを踏まえ、地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力について、自分事として捉え、今後、日本が世界の中で果たすべき役割や、これから自分たちが生きていく社会について、SDG sの目標と学習してきたことを関連付けて、考えをまとめようとしているか評価する。

意見文（例）「食べ残しを減らして世界へ」



わたしは、「2 飢餓をゼロに」を選びました。世界では、わたしたちのように食べることができず、生きられない子供たちがいます。日本では、たくさんの食べ物が毎日捨てられていると、ニュースで見たことがあります。わたしたち一人一人が、自分に合った量の料理を食べることで、捨てられてしまう食べ物を減らすことができると 생각합니다。日本や世界で食べ物を捨てることなく、食べ物に困っている国へ送ることで、「飢餓ゼロ」を達成したいです。

実際においては、意見文の題名に学習したことをキーワードとして入れていること、SDG s 17の目標から一つを選び、自分たちにできることを文章に表していること、意見文の内容が学習してきた世界の課題を解決するための取組と結び付いていることの3点に着目して評価する。上記意見文例は、この3点について学習をしたことを基に表現されており、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①世界で発生している様々な課題について、資料から疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	◆世界では、どのような課題が発生しているのだろうか。 ○世界で起こっている課題について、その様子を調べる。 ・世界では、まだ戦争が続いている地域がある。 ・環境破壊で、まちが砂漠になってしまっている。 ・自然災害は、日本だけでなく世界中で起こっている。 ・世界には、食べ物を食べることができない人たちがいる。 ・第二次世界大戦が終わった後から続いている課題もある。 ○年代が異なるハンガーマップを比較して、気付いたことを話し合う。 ・アフリカ大陸に、栄養不足の人口の割合が高い国が多い。 ・中国も栄養不足の人口の割合が、やや高くなっている。 ・日本やアメリカ、ヨーロッパなどの国は、ほとんど食料に困っていない。 ・約5年経っても変わらない国が多い。 ○疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・日本や世界の国々は、課題を解決するために、どのようなことをしているのだろうか。 ・世界の国々が協力して課題を解決しているのではないかと。 世界の平和や環境を守るために、世界や日本の人々はどのような活動をしているのだろうか。	◎紛争、環境破壊、飢餓、自然災害等の様子(写真、地図) ◎第二次世界大戦後の、主な地球規模で発生している課題(年表) ◎2015年と2019年のハンガーマップ(地図) □世界全体での割合、地域や国ごとでの変化に着目する。 □栄養不足の人口の割合が改善している国に着目し、解決に取り組む人々がいることに気付くようにする。 ☆発言や記述から「地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
し ら べ る	②国際連合の取組や、それに関わる我が国の取組について調べ、国際連合の働きや、その中で、我が国が重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。	◆国際連合は、世界の平和を守るために、どのような活動をしているのだろうか。 ○国際連合の取組について調べる。 ・世界の193か国が参加している。 ・加盟した国の代表が話し合っている。 ・ユニセフやユネスコも国際連合の組織の一つ。 ・安全保障理事会は、紛争や国同士の争いを解決して、国際平和を守ることを目的としている。 ○国際連合での日本の取組について調べる。 ・たくさんの日本人が、国際連合の様々な組織で活躍している。 ・ユネスコで働く人は、その国の教育をより良くするために活動している。 ・日本は、国際連合の活動のために、たくさんの資金を出している。 ○国際連合が、世界の平和を守るために、どのような役割を果たしているか考え、話し合う。 ・国際連合は、国と国との争いを平和的な方法で解決する。 ・全ての国を平等に扱って、国と国の友好関係を発展させている。 ・世界の様々な課題を解決するために、国と国が協力し合えるようにする中で、日本は大切な役割を果たしている。	◎国際連合の組織図 □国連の組織の中にあるユニセフやユネスコに着目して、自分たちにも関わりがあることに気付くようにする。 ◎国際連合で働く日本人(写真・文章) □国際連合の職員として働く人、主にユネスコで活動する人の取組を取り上げる。 ◎国際連合の活動費の分担割合図 ◎国際連合憲章(文章抜粋) ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや、その中で、我が国が重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	③ユニセフの活動について調べ、ユニセフが、世界中の子供たちの健康や安全を守る大切な役割を果たしていることを理解できるようにする。	◆国際連合の機関であるユニセフは、どのようにして世界の課題を解決しようとしているのだろうか。 ○ユニセフが行っている様々な取組について調べる。 ・子供たちが必要な栄養をとれるようにしている。 ・子供たちが安全な水を飲めるようにしている。 ・子供たちが学校へ通えるようにしている。 ・災害や戦争・紛争に巻きこまれた子供たちを守っている。 ・最も支援の届きにくい子供たちを最優先に活動している。 ○ユニセフは、どのようにして課題を解決しているのか調べ、話し合う。 ・世界では5歳未満で死んでしまう子供が520万人いる。 ・5歳未満で死んでしまう子供を救うために、予防接種を行ったり、より良い環境で生活したりできるように活動している。 ・紛争や飢餓、環境破壊などの犠牲にならないように、世界中の全ての子供たちの命と権利を守っている。	◎貧困にあえぐ子供(写真) ◎「教えて！ユニセフ」HP ◎ユニセフが活動している地域(地図) □活動一つ一つが、世界中の子供たちのために行われていることを理解する。 ◎国ごとの5歳未満児死亡率(グラフ) ◎年齢ごとの子供の死亡数の推移(グラフ) ◎子どもの権利条約(文章抜粋) ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、ユニセフなど国際連合の機関が、地球規模で発生している課題を解決する働きをしていることについて理解しているか」を評価する。 【知①】

し ら	<p>④世界の課題を解決するために、日本政府が行っている取組について調べ、その役割を理解できるようにする。</p>	<p>◆日本政府は、世界の課題を解決するために、どのような取組をしているのだろうか。</p> <p>○日本政府が行っている取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の手助けをしている。 ・学校の先生が現地に行ったり、学習に必要な道具を届けたりしている。 ・進んだ農業技術を伝えたり、稲作を盛んにしたりして、食料を増やそうとしている。 ・発展途上国から、留学生や研修員が学びに来られるようにしている。 <p>○日本政府の取組が、世界の平和や環境を守るために、どのような役割を果たしているのか考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本政府は、優れた人や技術を生かして発展途上国の人々と協力し援助することで、世界中の人々がより良く生きられるようにしている。 	<p>◎国際機関で働く日本人（外務省HP）</p> <p>◎青年海外協力隊の活動の様子（写真）</p> <p>□日本人々が活躍している教育、医療、農業などの中から選択して取り上げるようにする。</p> <p>□発展途上国の多くが貧困や紛争などの課題を抱えており、それが原因で病気が広がったり、教育を受けられなかったりしていることを理解できるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、世界の課題を解決するために、日本政府が行っている取組について理解しているか」を評価する。</p> <p>【知①】</p>
べ る	<p>⑤世界の課題を解決するために、非政府組織が行っている取組について調べ、その役割を理解できるようにする。</p>	<p>◆日本政府以外の日本人々は、世界の課題を解決するために、どのような取組をしているのだろうか。</p> <p>○「国境なき医師団」が行っている取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紛争や自然災害、貧困などで十分な医療を受けられない人々に対して、医療援助を行っている。 ・伝染病を治すために、様々な地域で活動している。 <p>○日本政府以外の日本人々の取組が、世界の課題を解決するためにどのような役割を果たしているのか考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NGOの人たちは、世界で困っている人々を、政府とは違った立場で援助している。 ・「国境なき医師団」のように、どこの国のどこの場所でも、人々の命を救うために自分の意志で活動している。 	<p>◎「国境なき医師団」の取組（写真・文章）</p> <p>□NGO（非政府組織）という言葉と意味、活動について押さえる。</p> <p>□その他の団体の活動についても、資料から調べるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、非政府組織の人々が世界の課題を解決するために、政府とは違った立場で世界各地で活動していることについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑥世界の課題を解決するために、日本が行っている取組について調べ、国際社会の中でお互いを尊重し、協力することが大切であることを考え表現できるようにする。</p>	<p>◆世界の課題を解決するために、それぞれの国がどのように協力していくことが大切なのだろう。</p> <p>○日本が海外において取り組んでいる活動を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊は、紛争地域で国連施設の整備や道路補修などを行った。 ・日本赤十字社と赤十字国際委員会は、中立の立場で紛争などで被害にあった人々を助けている。 ・セーブ・ザ・チルドレンは、日本や海外で、政府や地域社会と協力して、自然災害や紛争の被害にあった子供たちを助けている。 ・WWFは、地球温暖化防止など、人と自然が調和して生きられるような世界を目指して活動している。 <p>○世界の課題を解決するために、どのように協力することが大切か考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界の人々が、同じ目的のために協力すること。 ・それぞれの国が、お互いの良さを認め合って協力すること。 ・世界の人々がもつ知識や技術を生かして協力すること。 	<p>◎医療や環境、平和など、専門性を生かして活動する団体の様子（写真・文章）</p> <p>◎医療や環境、平和などの活動に世界の人々が協力して取り組んでいる様子（写真）</p> <p>□世界各地で活躍する日本人の様子や、日本に拠点のある団体の活動の様子などを取り上げるようにする。</p> <p>☆記述や発言から「地球規模で発生している課題の解決に向けた国際社会の連携・協力の様子に着目して、我が国の国際協力の様子を考え、表現しているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	<p>⑦学習問題について考えをまとめ、我が国は平和な世界の実現のために、国際連合や、諸外国への援助・協力などで、重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆世界や日本人はどのような働きをしているのだろうか。</p> <p>○世界の平和や環境を守るために、世界や日本人が行っている活動を、関係図に整理し、我が国の役割について議論する。</p> <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>世界の国々や日本は国際連合という組織の中で、世界の平和や環境を守るために、連携・協力して重要な役割を果たしている。また、日本では、政府や非政府組織（NGO）が協力して世界のために貢献している。</p> </div>	<p>□根拠や理由を明確にして議論し合えるようにする。</p> <p>★図や発言から「地球規模で発生する課題とその解決のための連携・協力の様子に関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現しているか」を評価する。</p> <p>【思②】</p> <p>★☆記述や発言から「我が国は平和な世界の実現のために、国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑧平和な世界を実現するために大切なことや、自分たちにできることを考え表現することができるようにする。</p>	<p>◆平和でより良い世界をつくるために、わたしたちにできるのはどんなことだろう。</p> <p>○国際連合が決めた「SDG s 世界を変えるための17の目標」について調べ、どんなことができそうか話し合う。</p> <p>○目標から一つ選び、それについて自分たちにできることを考え、意見文にまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「食べ残しを減らして世界へ」（「2 飢餓をゼロに」） わたしたち一人一人が、自分に合った量の料理を食べることで、捨てられてしまう食べ物を減らすことができる。日本や世界で食べ物を捨てることなく、食べ物に困っている国へ送ることで、「飢餓ゼロ」を達成したい。</p> </div>	<p>◎「SDG s 世界を変えるための17の目標」</p> <p>□日本における持続可能な開発に向けた取組を例示する。</p> <p>★発言や記述から「学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり選択・判断したりして、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★発言や記述から「学習したことを基に、世界の人々と共に生きるために大切なことや、今後、我が国が国際社会で果たすべき役割などを考え、平和な世界の実現に向けた自分の考えをまとめようとしているか」を評価する。【態②】</p>

東京都小学校社会科研究会

社会科指導計画（第一次 平成30年2月発行）

作成委員名簿

会 長	月岡 正明（世田谷区立等々力小学校長）
委員長	吉村 潔（世田谷区立烏山北小学校長）
副委員長	吉藤 玲子（台東区立忍岡小学校長）
副会長	駒野真理子（葛飾区立柴又小学校長） 不破 純一（小金井市立東小学校長）

● 3年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	佐藤 民男	中野区立美鳩小学校
校長	柿崎 洋一	日の出町立平井小学校
校長	奥澤 弘子	江戸川区立大杉第二小学校
指導教諭	田辺留美子	葛飾区立上小松小学校
主幹教諭	和知奈穂子	世田谷区立三軒茶屋小学校
主任教諭	池田 豊一	多摩市立多摩第二小学校
主任教諭	梅木真由美	中野区立中野本郷小学校
主任教諭	大野 拓哉	武蔵村山市立第九小学校
主任教諭	川崎 義人	中央区立明石小学校
主任教諭	三木田 誠	杉並区立沓掛小学校
主任教諭	渡辺 智史	板橋区立志村第一小学校

● 4年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	和田 幹夫	豊島区立池袋第三小学校
校長	杉渕 尚	中野区立新井小学校
校長	佐藤 門太	清瀬市立清瀬第八学校
副校長	神尾 健彦	日の出町立平井小学校
副校長	吉野 元也	大田区立糞谷小学校
主幹教諭	桑畑 大樹	品川区立城南小学校
主幹教諭	射水 博子	大田区立洗足池小学校
主任教諭	木本 武志	板橋区立板橋第十小学校
教諭	内藤 俊介	小金井市立小金井第一小学校
教諭	長久保良太	江東区立南陽小学校

● 5年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	石井 正広	町田市立大蔵小学校
校長	斎藤幸之介	港区立芝小学校
校長	加藤 雅弘	足立区立中川小学校
校長	村松 良臣	北区立豊川小学校
校長	小澤 伸生	杉並区立井荻小学校
指導教諭	横田 富信	世田谷区立経堂小学校
主任教諭	岩森 一弥	北区立王子第三小学校
主任教諭	三浦 哲	杉並区立新泉和泉小学校
主任教諭	笠原 駿	中野区立江古田小学校
主任教諭	佐藤 智彦	世田谷区立経堂小学校
主任教諭	草薨堅太郎	世田谷区立瀬田小学校
教諭	寺本 大一	文京区立本郷小学校

● 6年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	浅野 正道	あきる野市立草花小学校
校長	星崎 誠	足立区立亀田小学校
校長	三好 浩一	町田市立藤の台小学校
主幹教諭	田内 利美	世田谷区立北沢小学校
主幹教諭	川嶋 美武	千代田区立和泉小学校
主幹教諭	野間啓二郎	江東区立豊洲北小学校
主任教諭	櫻井 正義	東久留米市立本村小学校
主任教諭	小甲 圭悟	世田谷区立等々力小学校
主任教諭	大滝 淳子	中野区立桃園小学校
主任教諭	山家 哲雄	世田谷区立三宿小学校
教諭	桑島 孝博	板橋区立下赤塚小学校

（※ 所属や職名等は、発行当時のものです。）

東京都小学校社会科研究会

社会科指導計画（第二次 平成31年2月発行）

作成委員名簿

会 長	吉村 潔（世田谷区立烏山北小学校長）
委員長	吉藤 玲子（台東区立忍岡小学校長）
副委員長	和田 幹夫（豊島区立池袋第三小学校長）
副会長	不破 淳一（小金井市立東小学校長）
	和田 敏郎（江戸川区立本一色小学校長）

● 3年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	佐藤 民男	中野区立美鳩小学校
校長	柿崎 洋一	日の出町立平井小学校
主幹教諭	和知奈穂子	中野区立新井小学校
主任教諭	梅木真由美	中野区立中野本郷小学校

● 4年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	矢部 洋一	品川区立小山台小学校
主幹教諭	栗原由紀子	小平市立小平第六小学校
主幹教諭	田内 利美	世田谷区立等々力小学校
主幹教諭	桑畑 大樹	世田谷区立瀬田小学校
主任教諭	木本 武志	板橋区立板橋第十小学校
主任教諭	山家 哲雄	世田谷区立三宿小学校
主任教諭	桑島 孝博	板橋区立下赤塚小学校
教諭	岡本 祥歩	杉並区立荻窪小学校

● 5年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	石井 正広	新宿区立四谷小学校
校長	村松 良臣	北区立豊川小学校
主任教諭	三浦 哲	杉並区立新泉和泉小学校
主任教諭	寺本 大一	文京区立本郷小学校

● 6年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	浅野 正道	あきる野市立草花小学校
校長	中嶋 太	青梅市立第五小学校
主幹教諭	川嶋 美武	千代田区立和泉小学校
主任教諭	小甲 圭悟	世田谷区立等々力小学校

（※ 所属や職名等は、発行当時のものです。）

東京都小学校社会科研究会

社会科指導計画（第三次 令和2年2月発行）

作成委員名簿

会 長	吉村 潔（世田谷区立烏山北小学校長）
委員長	吉藤 玲子（台東区立忍岡小学校長）
副委員長	和田 幹夫（板橋区立高島第六小学校長）
副会長	和田 敏郎（江戸川区立本一色小学校長）
	森 清隆（青梅市立霞台小学校長）

● 3年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	佐藤 民男	中野区立美鳩小学校
校長	柿崎 洋一	日の出町立平井小学校
主幹教諭	和知奈穂子	中野区立新井小学校
主任教諭	梅木真由美	中野区立中野本郷小学校

● 4年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	相原 雄三	文京区立関口台町小学校
校長	新貝 朗	江東区立第二辰巳小学校
校長	増田 亮	小金井市立小金井第三小学校
校長	内井 利樹	府中市立府中第十小学校
主幹教諭	栗原由紀子	小平市立小平第六小学校
主任教諭	木本 武志	中野区立新井小学校
主任教諭	山家 哲雄	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	名取 慶	世田谷区立烏山北小学校
主幹教諭	桑畑 大樹	世田谷区立瀬田小学校
主任教諭	遠藤 拓朗	中野区立塔山小学校

● 5年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	石井 正広	新宿区立四谷小学校
校長	村松 良臣	北区立豊川小学校
指導教諭	寺本 大一	文京区立本郷小学校
主任教諭	三浦 哲	杉並区立新泉和泉小学校

● 6年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	中嶋 太	青梅市立第五小学校
校長	小須田哲史	東大和市立第九小学校
指導教諭	横田 富信	世田谷区立経堂小学校
主任教諭	小甲 圭悟	世田谷区立等々力小学校

（※ 所属や職名等は、発行当時のものです。）

東京都小学校社会科研究会
社会科指導計画（第四次 令和4年2月発行）
作成委員名簿

会 長 吉藤 玲子（台東区立忍岡小学校長）
 委員長 和田 幹夫（板橋区立上板橋第四小学校長）
 副委員長 浅野 正道（小金井市立小金井第一小学校長） 石井 正広（新宿区立四谷小学校長）
 副会長 西脇 裕高（杉並区立荻窪小学校長）
 役 員 森 清隆（府中市立府中第三小学校長） 奥澤 弘子（江戸川区立大杉第二小学校長）
 亀山 桂子（三鷹市立羽沢小学校長） 不破 淳一（小金井市立本町小学校長）
 赤尾 眞司（練馬区立石神井東小学校長） 和田 敏郎（江戸川区立本一色小学校長）
 加藤 雅弘（足立区立皿沼小学校長） 佐藤 民男（中野区立美鳩小学校長）
 寺本 喜和（調布市立上ノ原小学校長）

● 3年部会 ●

職層	名 前	所属校
校 長	向井 一郎	墨田区立立花吾孺の森小学校
校 長	木下健太郎	町田市立南成瀬小学校
主幹教諭	田辺留美子	葛飾区立上小松小学校
主幹教諭	大野 拓哉	武蔵村山市立第九小学校
主任教諭	近藤 直大	荒川区立ひぐらし小学校
主任教諭	北形 好子	清瀬市立清瀬第三小学校
教 諭	小場 俊夫	目黒区立八雲小学校
教 諭	長坂光一郎	世田谷区立烏山小学校
教 諭	清田 昌弘	中野区立美鳩小学校
教 諭	山野邊雅人	東久留米市立第九小学校

● 4年部会 ●

職層	名 前	所属校
校 長	新貝 朗	江東区立第二辰巳小学校
校 長	児玉 大祐	中央区立日本橋小学校
校 長	神尾 健彦	青梅市立今井小学校
主幹教諭	楠 暁	台東区立忍岡小学校
主幹教諭	桑島 孝博	板橋区立下赤塚小学校
主幹教諭	高橋 陵	足立区立栗原小学校
主任教諭	小松 里美	新宿区立四谷小学校
主任教諭	柿沼 志保	江東区立第二辰巳小学校
主任教諭	吉岡 泰志	世田谷区立経堂小学校
主任教諭	名取 慶	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	渡辺 大介	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	樋口のぞみ	北区立王子小学校
主任教諭	笠原 駿	小金井市立小金井第一小学校
主任教諭	荒井 秀人	小金井市立小金井第一小学校
教 諭	福島 翔太	品川区立中延小学校
教 諭	塚田 祥歩	杉並区立荻窪小学校

● 5年部会 ●

職層	名 前	所属校
校 長	内井 利樹	府中市立府中第十小学校
校 長	栗林 大輔	世田谷区立明正小学校
主幹教諭	沢畑 慶介	江東区立越中島小学校
主幹教諭	草薨堅太郎	世田谷区立瀬田小学校
指導教諭	寺本 大一	文京区立本郷小学校
主任教諭	杉本 季穂	大田区立赤松小学校
主任教諭	小田 克哉	世田谷区立赤堤小学校
主任教諭	渡辺 大介	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	後藤 亮	渋谷区立代々木山谷小学校
主任教諭	三浦 哲	杉並区立桃井第四小学校
主任教諭	染谷 恭平	調布市立杉森小学校
教 諭	平岡秀太郎	大田区立雪谷小学校

● 6年部会 ●

職層	名 前	所属校
校 長	中嶋 太	西東京市立碧山小学校
校 長	島川 浩一	練馬区立大泉第二小学校
校 長	芝田 智昭	荒川区立尾久西小学校
主幹教諭	高橋 宏和	足立区立西伊興小学校
指導教諭	嵐 元秀	練馬区立大泉第二小学校
主任教諭	山口 孝	千代田区立番町小学校
主任教諭	内藤 良英	太田区立西六郷小学校
主任教諭	山家 哲雄	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	下楠菌達也	杉並区立荻窪小学校
主任教諭	小甲 圭吾	北区立王子小学校
主任教諭	鈴木 雄士	練馬区立石神井東小学校
主任教諭	仲 純平	西東京市立東伏見小学校
教 諭	鈴木 芳実	世田谷区立多聞小学校
教 諭	西村 悠樹	練馬区立大泉小学校

（※ 所属や職名等は、発行当時のものです。）

東京都小学校社会科研究会
社会科指導計画（第五次 令和5年11月発行）

改訂委員名簿

会 長	和田 幹夫（板橋区立上板橋第四小学校長）
委員長	浅野 正道（小金井市立小金井第一小学校長）
委 員	木下健太郎（町田市立南成瀬小学校長 ※令和4年度）
	神尾 健彦（青梅市立今井小学校長）
	内井 利樹（府中市立小柳小学校長）
	島川 浩一（練馬区立大泉第二小学校長）